

講義概要

— 2021 —



Yamaguchi College of Arts

山口芸術短期大学

目 次

1. 教養教育科目·····	1
2. 芸術表現学科専門教育科目·····	16
3. 保育学科専門教育科目·····	101
4. 専攻科芸術表現専攻授業科目·····	165

シラバスの見方

山口芸術短期大学

シラバス（講義概要）：シラバスとは、授業に関する詳細な計画書のことです。シラバスには、教科・科目をはじめとする様々な教育活動について、目標と内容、使用教材、指導計画、指導方法、評価方法等を記載しています。

科目名	①	②	③	コース	④	年期	担当者	⑤																									
ナンバリングコード	⑥																																
卒業要件	⑦	免許・資格との関係	保育士		⑧	幼稚園教諭		⑧																									
科目	⑨																																
各科目に含めることが必要な事項	⑨																																
教科目	⑨																																
系 列	⑨																																
授業のテーマ	⑩																																
授業の概要	⑪																																
達成目標	⑫	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">科目DP：</th> </tr> <tr> <th>DP記号</th> <th>a</th> <th>b</th> <th>c</th> <th>d</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							科目DP：					DP記号	a	b	c	d	1.					2.					3.				
	科目DP：																																
	DP記号	a	b	c	d																												
	1.																																
2.																																	
3.																																	
履修条件・注意事項	⑬																																
授業計画	⑭																																
アクティブ・ラーニング	⑮																																
成績評価基準	⑯	評価の方法： 評価の基準：																															
フィードバックの方法	⑰																																
時間外の学習について	⑱	予習： 復習：																															
教材にかかわる情報	⑲	テキスト： 参考書： 参考資料：																															
担当者からのメッセージ等 実務経験について	⑳																																

- ①授業科目名と単位数を記載しています。
- ②授業形態を記載しています。講義・演習・実技・実習等。
- ③学科・コース名を記載しています。
- ④開講期間と履修年次を記載しています。
- ⑤担当教員名を記載しています。
- ⑥科目ナンバリングコードを記載しています。詳細は「ナンバリングシステムについて」で確認してください。
- ⑦卒業資格を得るために必要な科目として必修・選択を記載しています。
- ⑧免許・資格（受験資格）を得るために必要な科目として必修・選択を記載しています。
- ⑨免許・資格（受験資格）を得るために必要な科目について必要事項・科目区分を記載しています。
- ⑩授業のねらいやテーマについて記載しています。
- ⑪授業のあらましを記載しています。
- ⑫達成目標について記載しています。達成目標とディプロマ・ポリシーの関りについて記載しています。
- ⑬履修する科目の順番や条件等注意事項を記載しています。授業の実施方法を記載しています。①面接授業のみ ②面接授業と遠隔授業等の併用 ③遠隔授業等のみ
- ⑭授業スケジュール（各回で扱う内容等）を記載しています。
- ⑮主体的な学びを促進するために取り入れるアクティブ・ラーニングの、授業時間内で該当する学習形態について記載しています。
- ⑯成績の評価の方法と評価の基準を記載しています。
- ⑰課題等（試験、レポート等）に対するフィードバックの方法について記載しています。
- ⑱担当教員より、この授業科目の予習・復習についてのアドバイスを示しています。
- ⑲教科書及び補助教材について記載しています。
- ⑳担当教員より学生に伝えたいメッセージ等を記載しています。
実務経験をいかした教育内容について記載しています。

教育課程ナンバリング・システムについて

山口芸術短期大学で開講されている全ての授業科目（教養教育科目、専門教育科目、専攻科開講科目）に対し、授業内容やレベル、更に免許・資格との関連性等に応じて特定の記号や数字を付与し、教育課程表やシラバスに記載することにより、体系的な教育プログラムの実現を目指すものです。

① AB	-	② C	③ 1	23	-	④ 456
学科等領域コード		科目区分識別コード	科目水準コード	科目識別コード		免許・資格コード

【科目ナンバリングコード 表示例】

教養教育科目「郷土史」	JA-L101-000
-------------	-------------

- 【学科等領域コード】 (表①参照) 科目を提供する学科やコース等を2文字の英文字で表しています。
 JA：芸術表現学科および専攻科
 JC：保育学科幼児教育コース
 JN：保育学科介護福祉コース
- 【科目区分識別コード】 (表②参照) 教育課程の科目区分を1文字の英文字で表しています。
- 【科目水準コード】 (表③参照) 授業レベルを1桁の数字で表しています。
- 【科目識別コード】 (表④参照) 各科目を2桁の数字で表しています。
- 【免許・資格コード】 (表⑤参照) どの免許・資格に関する科目であるかを3桁の数字で表しています。

芸術表現学科および専攻科

① (学科等領域コード)	JA	芸術表現学科および専攻科	
② (科目区分識別コード)	L	教養教育科目	
	S	専門教育科目	
	F	付加科目	
③ (科目水準コード)	1	1年次開講相当科目	
	2	2年次開講相当科目	
	3	専攻科開講相当科目	
④ (科目識別コード)	教養教育科目	01～09	教養系科目
		11～19	英語
		21～29	体育
	専門教育科目	01～09	キャリア形成科目
		11～19	芸術表現科目
		21～39	デザインフィールド科目
		41～59	音楽フィールド科目
		61～79	情報・ビジネスフィールド科目
		81～99	総合研究科目
⑤免許・資格コード	000	該当なし	

保育学科幼児教育コース

① (学科等領域コード)	JC	保育学科幼児教育コース	
② (科目区分識別コード)	L	教養教育科目	
	S	専門教育科目	
	F	付加科目	
③ (科目水準コード)	1	1年次開講相当科目	
	2	2年次開講相当科目	
④ (科目識別コード)	教養教育科目	01～09	教養系科目
		11～19	英語
		21～29	体育
	専門教育科目	01～09	保育・教職の意義・目的、基礎・本質関連科目
		11～19	教育・保育の対象理解と理論関連科目
		21～49	保育内容・保育方法・保育技術関連科目
		51～59	実習関連科目
		61～69	総合科目
	⑤ 免許・資格コード	100	幼稚園免許
		010	保育士資格
110		幼稚園教諭・保育士両方	
011		保育士・リトミック両方	
001		リトミック	
000		該当なし	

教 養 教 育 科 目

教養教育科目

郷土史	1
体育	2
現代社会考察	3
文学	4
知的財産法入門	5
くらしと法	6
自然科学	7
英語コミュニケーションⅠ	8
英語コミュニケーションⅡ	9
日本国憲法	10
情報処理	11
文書表現基礎	12
進路研究	13
英語コミュニケーション	14
体育（講義）	15
体育（実技）	16

科 目 名	郷 土 史 (2単位)	講義	芸術表現学科	1年 前期	担 当 者	原 田 剛 (単独)
ナンバリングコード	JA-L101-000					
卒 業 要 件	必修	免許・資格との関係	保育士		幼稚園教諭	
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授 業 の テ ー マ	本学の建学の精神「[至誠]について理解し、ふるさとの歴史や文化、自然、産業などへの理解を深め、地域社会の一員としての使命感を持ち、意欲的に地域社会に貢献しようとする態度と実践力を育成する。					
授 業 の 概 要	山口県の歴史や文化、自然、産業などについて学び、各自「ふるさと探訪」のテーマを設定し、調査・研究を行い発表する。					
達 成 目 標	学修成果：教養、社会人基礎力					科目DP：b
		DP記号	a	b	c	d
	1. 建学の精神「至誠」について理解し、大学での学びや生き方について考える。		○	◎		
	2. 山口県の歴史や文化を学び、日本史の中で果たした役割について理解する。			◎		
	3. 調査、研究の手法を学び、調査結果を伝えることができるコミュニケーション力を身につける。			◎		○
4. 地域の活性化に取り組む意欲と態度を身につける。		◎		○	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授 業 計 画	1. 建学の理念と学び（目標1） 2. 知っていますか山口県（目標2） 3. ふるさとの歴史・文化①古代（目標2） 4. ふるさとの歴史と文化②中世（目標2） 5. ふるさとの歴史と文化③近世（目標2） 6. ふるさとの歴史と文化④近代（目標2） 7. ふるさとの歴史と文化⑤現代（目標2） 8. ふるさとの自然①（地形・気候）（目標2） 9. ふるさとの自然②（地質・ジオパーク）（目標2） 10. ふるさとの産業①（農林水産業、製造業）（目標2） 11. ふるさとの産業②（サービス業・伝統工芸）（目標2） 12. ふるさと探訪①（テーマ設定、調査・研究）（目標2,3,4） 13. ふるさと探訪②（調査・研究）（目標2,3,4） 14. ふるさと探訪③（発表）（目標2,3） 15. ふるさと探訪④、授業のまとめ（発表）（目標1,2,3,4）					
アクティブ・ラーニング	実習・フィールドワーク、プレゼンテーション					
成 績 評 価 基 準	①宿題・授業外レポート（20%）：知識・理解の測定 ②授業態度・授業への参加度（20%）：関心・意欲の測定 ③調査研究・発表（30%）：思考・判断および表現力の測定 ④課題レポート（30%）：思考・判断および表現力の測定					
フィードバックの方法	宿題・授業外レポートは授業で解説し、知識の定着を図る。授業中の発表・発言については、適宜適切なアドバイスをします。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：「ふるさと探訪」の調査・研究、山口県の歴史や文化などについて、事前に調べまとめておく。 各回90分程度 復習：宿題・授業外レポート 各回90分					
教材にかかわる 情 報	テキスト：プリント配布 参 考 書：山口県の歴史散歩（山川出版社）、山口県の歴史（ぎょうせい）、やまぐち本（山口商工会議所） 参考資料：これでいいのか山口県（岡島慎二編）、山口県謎解き散歩（古川薫編著 新人物文庫）					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	ふるさとの魅力を発信し、活力あるまちづくりに少しでも取り組んでみてください。					

科 目 名	体 育 (1単位)	実技	芸術表現学科	1年 後期	担 当 者	吉野 信朗 石川 美佳 (実務経験) (複数)
ナンバリングコード	JA-L121-000					
卒 業 要 件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授 業 の テ ー マ	スポーツや表現活動を通じて、協調性やコミュニケーション能力を身に付ける					
授 業 の 概 要	本講義は、ダンス、球技、を中心に運動する。 ダンスではストレッチやピラティスで体幹作りをしながら、美しい体のライン・踊る楽しさを学ぶ。 球技では、基礎技能とコミュニケーション活動を中心に、ゲームを円滑に進められるように学習する。 表現運動では、身体を通じた自己表現することや空間を活かした表現をする。また互いに鑑賞し、 他者評価し相互理解を行う。					
達 成 目 標	学修成果：教養、社会人基礎力					科目DP：b
						DP記号
	1. 基本的なスポーツマナーとコミュニケーションを理解する (挨拶や基本的な社会性)					a b c d ○ ◎ ○ ○
	2. ダンスの作品を通して仲間とコミュニケーションをとる					◎ ○ ○ ○
	3. 苦手なことでも最後まで諦めずに努力する					○ ○ ○ ◎
	4. ダンスの基本的な姿勢・技術を学び、音楽に合わせて、身体全体で表現する楽しさを知る					◎ ○ ○ ○
	5. 卓球の特性の理解と技能					◎ ○ ○ ○
6. バドミントンの特性の理解と技能					◎ ○ ○ ○	
履修条件・注意事項	運動のできる服装で参加すること。ダンスは伸縮性のある動きやすい恰好で参加すること。 授業の実施方法：①面接授業のみ					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツをする上での身なりと基本的なスポーツマナー とコミュニケーション (目標 1) (担当：吉野) 2. 基礎体力と筋力upと体幹作り(ピラティス)若者の姿勢改善政策*運動不足の生徒は筋力低下、体の左右バランスの改善 (目標 3) (担当：石川) 3. 柔軟性の向上 (音楽に合わせたバレエストレッチなどのストレッチ) (目標 3,4) (担当：石川) 4. クラシックバレエやコンテンポラリーダンスなどの基本姿勢や動作を学ぶ&美しい体作りとステップの練習 (目標 3,4) (担当：石川) 5. ステップを組み合わせてコンビネーション 1 (目標 2,4) (担当：石川) 6. ステップを組み合わせてコンビネーション 2 (目標 2,4) (担当：石川) 7. ステップを組み合わせてコンビネーション 3 (目標 2,4) (担当：石川) 8. 作品完成 (目標 2,3,4) (担当：石川) 9. 卓球の基礎技能 (目標 5) (担当：吉野) 10. 卓球のゲーム1 (目標 5) (担当：吉野) 11. 卓球のゲーム2 (目標 5) (担当：吉野) 12. バドミントンの基礎技能 1 (目標 6) (担当：吉野) 13. バドミントンのゲーム 1 (目標 6) (担当：吉野) 14. バドミントンのゲーム 2 (目標 6) (担当：吉野) 15. レクリエーション・ラジオ体操 (目標 1) (担当：吉野) 					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・グループワーク・ロールプレイ					
成 績 評 価 基 準	各 (吉野：50点) (石川：50点) ①授業への参加 (20%)：スポーツへの取り組みを重視する。 ②授業中の課題(20%)：グループ学習や授業中の課題解決への取り組み及びその到達度を評価する。 ③レポート (10%)：テーマに対する論述から授業内容の理解度を評価する					
フィードバックの方法	授業中に前回学んだ技能を復習する時間を確保する。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：ルール学習 (各回15分程度) 復習：観る・する・調べるスポーツを楽しむ (各回45分程度)					
教材にかかわる 情 報	必要に応じて適宜配布する					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	人数や気候によっては、一部内容を変更することがある。(吉野) ストレッチやピラティスで基礎体力UP。ダンスを通して体を使って表現する楽しさを養って欲しい。(石川) コンテンポラリーダンス教室の講師：実務経験をもとにピラティス、コンテンポラリーダンスについて授業をします。(石川)					

科 目 名	現代社会考察 (2単位)	講義	芸術表現学科	2年 前期	担 当 者	原 田 剛 (単独)
ナンバリングコード	JA-L201-000					
卒 業 要 件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授 業 の テ ー マ	我が国が直面している諸課題について、国際社会が抱える課題SDGs(持続可能な開発目標)との関連も考えながら分析・考察し、一つテーマを選んで自分の問題として解決に向け取り組む。					
授 業 の 概 要	メディアから発信される情報を正確に読み解き、現代社会が抱える諸課題について把握する。その課題解決に向けて、新聞等から情報を収集し具体的な取り組みについて検討する。様々な課題の中から、関心のあるもの一つを選び、スクラップブック等にまとめ発表する。					
達 成 目 標	学修成果：教養、社会人基礎力	科目DP：b				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 情報を正しく読み解く情報リテラシーを身につける。			◎		
	2. 現代社会の諸課題について理解する。		◎	○		
	3. 課題解決のための方策について考え、提案できる。		○			◎
	4. 主体的に課題解決に向け取り組むことができる。			◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授 業 計 画	1. 新聞の読み方、インターネットの使い方 (目標 1) 2. ネット社会の功罪 (目標 1,2) 3. 格差社会とは (目標 1,2) 4. 少子高齢化の課題 (目標 1,2) 5. 男女共同参画社会の実現 (目標 1,2) 6. どうなる社会保障制度 (目標 1,2) 7. 貿易と経済連携協定 (目標 1,2) 8. 気候変動への対応 (目標 1,2) 9. 憲法を考える (目標 1,2) 10. 地球温暖化とエネルギー (目標 1,2) 11. グローバ人材とは (目標 1,2) 12. SDGsにどう取り組むか (目標 1,2,3,4) 13. 各自の設定テーマについてまとめ (目標 3,4) 14. 各自の設定テーマについて発表 (目標 3,4) 15. 各自の設定テーマについて発表、授業のまとめ (目標 1,2,3,4) 定期試験					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション					
成 績 評 価 基 準	①定期試験 (50%)：知識・理解の測定 ②宿題・授業外レポート (20%)：知識・理解及び関心・意欲の測定 ③各自のテーマ発表 (20%)：思考・判断及び表現の測定 ④授業態度・授業への参加度 (10%)：関心・意欲及び態度の測定					
フィードバックの方法	毎回の授業で課題について解説します。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：毎回の授業内容について情報を収集、参考文献の講読 各回90分程度 復習：宿題・授業外レポートの作成 各回90分程度					
教材にかかわる 情 報	テキスト：プリント配布 参 考 書：ニュース検定2021 (朝日新聞社)、テーマに関する書籍を紹介 参考資料：関連する新聞記事を配布					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	現代社会の様々な課題について、グローバルに考え、ローカルに行動できる力を身につけてください。					

科目名	文学 (2単位)	講義	芸術表現学科	2年 後期	担当者	久保田 京子 (単独)
ナンバリングコード	JA-L202-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	日本文学の概論、山口県ゆかりの文学者とその作品の知識、豊かな感性・心情の育成、文学的表現の理解					
授業の概要	日本文学史を通して、古典から近・現代の文学作品及び山口県ゆかりの文学者の作品を鑑賞するとともに、郷土の文学館等を活用した調査研究をし、レポート作成、プレゼンテーションなどの演習を行う。					
達成目標	学修成果：教養、社会人基礎力	科目DP：b				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 日本文学の大きな流れと人口に膾炙した作品について学び、教養と知識を身につける。			◎		
	2. 主要な文学作品の鑑賞を通して、作品に込められた日本人の美意識や暮らし、創造的な表現等を学び、学習した内容をまとめることができる。	○	◎			
	3. 上代から現代にいたる、山口県に関連のある文学作品及び文学者の業績等について理解を深めることができる。				○	◎
4. ふるさとの文学館・図書館等の文学資源を活用し、自らの課題を探究することができる。	○				◎	
5. 課題研究の成果を効果的かつ創造的に発表・紹介することができる。			◎		○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ（状況により、遠隔授業を併用することもある）					
授業計画	1 日本文学史の概略・オリエンテーション (目標 1.2) 2 「古事記」が生まれた時代と「古事記」にみる山口県 (目標 1.2,3) 3 「万葉集」の歌人たちと「万葉集」に詠まれた故郷 (目標 1.2,3) 4 「古今和歌集」と日本の四季 (目標 1.2) 5 「枕草子」に描かれた美意識 (目標 1.2,3) 6 説話集に見られる日常の暮らし (目標 1.2) 7 「松尾芭蕉」・「与謝蕪村」・「小林一茶」の俳諧のおもしろさ (目標 1.2) 8 浄瑠璃と歌舞伎にみる伝統 (目標 1.2) 9 ふるさとの文学者 ① 小説（宇野千代、嘉村磯多） (目標 1.3) 10 ふるさとの文学者 ② 詩（中原中也） (目標 1.3) 11 ふるさとの文学者 ③ 俳句（種田山頭火） (目標 1.3) 12 ふるさとの文学者 ④ 動揺（金子みすゞ、まどみちお） (目標 1.3) 13 山口県の文学者に関する課題研究と資料作成の基礎 (目標 3.4,5) 14 文学レポートのプレゼンテーション① (目標 3.4,5) 15 文学レポートのプレゼンテーション② (目標 3.4,5) ※毎回、講義のはじめに、「紹介したい文学作品(文学者)」を取り上げ、レポートした内容を発表する。 ※「ふるさとの文学者」の冊子をつくる。					
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク、ロールプレイ					
成績評価基準	①課題やふるさとの文学への取組姿勢（50％）：学習への関心・意欲 意欲的な学習活動ができる。 ②文化館レポートの内容・発表（50％）：毎回提出している。 「日本文学」の基礎的知識があり、理解できている。 発表の内容、方法、地域の文化発展に寄与できるレポートをわかりやすく発表できる。					
フィードバックの方法	個々の提出課題ごとについて、添削指導し、各自の課題研究とレポートに活用するように伝える。					
時間外の学習について	予習：各回の課題について事前の「調べ学習」（含テキストの読解）、文学館・図書館を活用した情報収集・研究（各回90分程度） 復習：授業後の配布プリントのまとめ、代表作品の朗読、課題研究等（各回90分程度）					
教材にかかわる情報	テキスト：「日本文学史」小西甚一著 講談社学術文庫 参考書： 参考資料：毎時、授業プリント配布					
担当者からのメッセージ等実務経験について	日本文学やふるさとの文学の素晴らしさを体験し、暮らしの中に芸術表現を感得できる感性を磨きましよう。授業プリントはポートフォリオとして振り返りに使いましよう。					

科 目 名	知的財産法入門 (2単位)	講義	芸術表現学科	1年 後期	担 当 者	長田 和美 李 銕璟
ナンバリングコード	JA-L102-000					
卒 業 要 件	必修	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授 業 の テ ー マ	自己の作品の創作や他人の作品を利用する際には、自己の権利の把握と他者の権利を尊重することが求められます。本科目では、社会人として知っておくべき、意識しておくべき教養として「知的財産」の基礎について学びます。					
授 業 の 概 要	事例等を通して知的財産の全体像を理解すると共に、知的財産の創作や利用の際に必要な基礎的な知的財産権の知識と初歩的対応能力の形成を図ります。					
達 成 目 標	学修成果：教養、社会人基礎力					科目DP：
		DP記号	a	b	c	d
	1. 知的財産の全体像、特に芸術に関連する知的財産権について理解する			◎		
	2. 芸術を含めた社会活動全般における知的財産の価値を理解する			◎		
	3. 創作者側と利用者側の両方の立場において知的財産権を意識し行動することができる			◎		○
	4. 芸術に関連するビジネスと知的財産権の関係性を理解する			◎	○	
	5. 産業財産権を主とした知財情報へのアクセスができる			◎		○
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授 業 計 画	1. 知的財産の全体像 2. 著作権の基礎知識 3. 著作権法に定められている権利 4. 二次的著作物とパロディ表現 5. 著作権の個別権利制限規定 (1) 6. 著作権の個別権利制限規定 (2) 7. 産業財産権の基礎知識－特許制度－ (1) 8. 産業財産権の基礎知識－特許制度－ (2) 9. 物品デザインの保護－意匠制度－ (1) 10. 物品デザインの保護－意匠制度－ (2) 11. 識別機能を有するマーク等の保護－商標制度－ (1) 12. 識別機能を有するマーク等の保護－商標制度－ (2) ◎中間試験 (著作権と産業財産権の基礎) 13. 特許情報へのアクセス～優れたデザインには優れた機能性が備わる～ 14. 意匠 (物品デザイン) 情報、商標 (識別マーク等) 情報へのアクセス 15. 課題 (総合的な知財の観点、知財情報検索)					<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ※テキスト (教科書) は、必ず第1回講義時から持参下さい。 ※第13～15回講義は、パソコン演習室で行います。 </div>
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション					
成 績 評 価 基 準	①試験・課題 (50%)：知識・理解を測定 ・教科書や講義で取り扱った知識項目に関する問題や例題レベルの問題に回答できる。 ②演習・レポート等 (50%)：思考・判断、関心・意欲を測定 ・判断理由・根拠を明確にし、自説を述べる。(ワークシート) ・(小レポート) 講義 (予習復習を含む) を通じて理解・実感したことを整理し、まとめる。 ・(宿題レポート) 知識項目の定着化。 ・グループワークなどの演習に積極的に参加・発言する。					
フィードバックの方法	宿題レポート (一部のワークシートを含む) については次の講義開始時に解答例を示し解説する (回収したワークシートと宿題レポートはスキャン後に返却する)。小レポート等で質問があった際には次講義時に回答する。中間試験の結果については受験者にフィードバックする (平均点、正答率が低かった問の解説等)。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：インターネットやテレビ、新聞等において知的財産に関するニュースや話題にアンテナを立ててください。(各回90分程度) 復習：宿題レポートを課します。また講義で学んだことを自分の環境に照らしあわせて考えてみてください。(各回90分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：「これからの知財入門 第3版」(ISBN 978-4-296-10630-1)、日経BP社、1500円 (税別) 参考書：特になし 参考資料等：特になし					
担当者からのメッセージ等実務経験について						

科 目 名	くらしと法 (2単位)	講義	芸術表現学科	2年 後期	担当者	原田 剛 (単独)
ナンバリングコード	JA-L203-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授 業 の テ ー マ	憲法をはじめとする法律全般についての基礎を学び、市民社会の一員として様々な問題に法律に基づいた適切な対応できる実践力を身につける。					
授 業 の 概 要	主に六法（憲法、刑法、民法、商法（会社法）、刑事訴訟法、民事訴訟法）について学び、社会生活で起こりうる具体的な問題例を取り上げ考察する。					
達 成 目 標	学修成果：教養、社会人基礎力					科目DP：b
						DP記号
	1. 法律の基礎知識を身に付ける。					a b c d
	2. 社会生活上の諸問題に対してリーガルマインドを持って対応できる。					◎ ○ ○ ○
	3. 人権を尊重し社会人として責任ある行動がとれる。					◎ ○ ○ ◎
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授 業 計 画	1. 社会生活と社会規範（目標 1,2,3） 2. 社会規範としての法（目標 1） 3. くらしと憲法①（憲法の特徴と構造）（目標 1,2） 4. くらしと憲法②（憲法上の人権の性質と種類）（目標 1,3） 5. くらしと憲法③（統治の基本制度）（目標 1） 6. くらしと民法①（民法の基本と大原則）（目標 1,2） 7. くらしと民法②（民法のエッセンス）（目標 1,2） 8. くらしと民法③（民法の実際・民事訴訟法の特徴）（目標 2,3） 9. くらしと会社法①（株式会社のしくみ）（目標 1） 10. くらしと会社法②（コンプライアンス）（目標 2,3） 11. くらしと刑法①（刑法の機能と犯罪の成立要件）（目標 1） 12. くらしと刑法②（窃盗罪の保護法益）（目標 2,3） 13. くらしと刑法③（刑事訴訟法の目的と役割）（目標 1,2） 14. くらしと知的財産（知的財産権）（目標 1,2） 15. くらしと行政法（目標 1,2,3） ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション					
成 績 評 価 基 準	①定期試験（50%）：知識・理解の測定 ②宿題・授業外レポート（30%）：関心・意欲及び知識・理解の測定 ③授業態度・授業への参加度（20%）：関心・意欲及び態度の測定					
フィードバックの方法	宿題・授業外レポートについては、毎回授業の最初に解説します。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：事前にテキストを読んで要点をまとめ、疑問点を書き出しておく。 各回90品程度 復習：授業内容についてレポートを作成し、提出する。 各回90分程度					
教材にかかわる 情 報	テキスト：『日本一やさしい法律の教科書』品川皓亮【著】佐久間毅【監修】（日本実業出版社） 参 考 書：『もしも世界に法律がなかったら』本山泰嗣（日本実業出版社）など 参考資料：適宜新聞記事など配布					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	社会は法律によって動いています。リーガルマインドを鍛え、法律問題に適切な対処ができる力を身につけてください。					

科 目 名	自然科学 (2単位)	講義	芸術表現学科	2年 前期	担当者	三池 秀敏 山本 正信 (複数)
ナンバリングコード	JA-L204-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授 業 の テ ー マ	自然の理解、自然科学の基本的な法則や現象の理解、自然科学的な視点を養う					
授 業 の 概 要	人間は長い歴史の中で自然を知るために努力してきた。それは数学、物理学、化学、生物学、地学と広い分野に及ぶが、授業では、事象の数学モデルや自然界の物理法則から始めて、数的処理や物理現象及び生命現象の基本を学ぶ。					
達 成 目 標	学修成果：教養、社会人基礎力					科目DP：b
						DP記号
						a
						b
1. 人と関わり合いを持つ自然現象を対象にして、自然科学の本質、科学的発想、科学の成果などの知識を身につける。						○
2. 科学的な視点と基本的な法則や概念を理解する。						○
3. 自然科学の知識を習得すると共に、科学的な見方・考え方が身に付くことを目標にする。						○
履修条件・注意事項	授業の実施方法：②面接授業と遠隔授業等の併用					
授 業 計 画	1. 序論：自然科学とは（目標 1） 2. コンピュータによる計算の仕組み（目標 2） 3. 確率・統計の基礎（目標 2） 4. 物質の成り立ち（目標 3） 5. 固体・液体・気体と密度と比重（目標 3） 6. 様々な力とその働き（目標 2） 7. 電気と磁気の働き（目標 3） 8. 熱と温度およびエネルギー（目標 3） 9. 音波と音声（目標 3） 10. 光と電磁波（目標 3） 11. 細胞の構造・体の仕組みと働き（目標 1） 12. 代謝・呼吸・循環（目標 1） 13. 微生物（目標 1） 14. 免疫と遺伝（目標 1） 15. 新しい科学：生きたシステムの科学（目標 1） ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング	授業の中で毎回「調査課題」を課し、インターネットや図書館を利用したレポートを作成し印刷して提出させる。次回の講義の最初に何人かセレクトして発表させ、意見交換を行う。					
成績評価基準	①採点・評価（50%）：毎回の調査課題のレポートをA,B,C,Dの4段階で採点・評価 調査レポートの量（字数）と質（課題への回答的的確性） ②定期試験（50%）：期末試験の点数（100点満点）					
フィードバックの方法	毎回の課題に対するレポートの評価をA,B,C,Dの4段階で評価し、コメントを付けて返す。課題レポートの発表者に対するコメント。					
時間外の学習について	予習：参考書や参考となるインターネット上のテキスト（北海道大学オープンコースウェア等）の閲覧（90分） 復習：返却されたレポートをブラッシュアップし、改訂版を提出させる。（90分） 改訂版で最終的に評価する。					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：「自然科学の基礎知識を知る」草間朋子他著（東京化学同人、2017） 参考資料等： https://ocw.hokudai.ac.jp/lecture/scienceliteracy1-2009 （北海道大学オープンコースウェア：ゼロから始める科学力）					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	大学は自ら疑問を持ち、自ら調査し、自分なりの理解を得る学びの場です。新図書館やインターネットを活用して、調査しレポートを作成するコツを身に付けましょう。また、自分なりの自然科学の研究課題を設定し「研究」して下さい。					

科 目 名	英語コミュニケーションI (2単位)	講義	芸術表現学科	1年 前期	担当者	ダグラス・パーキン (単独)
ナンバリングコード	JA-L111-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授業のテーマ	英語 コミュニケーション					
授業の概要	基本的な英語コミュニケーションスキルを学び、海外に自信を持って旅行する					
達成目標	学修成果：教養、コミュニケーション能力、社会人基礎力	科目DP：b				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 生徒個々の英語力を高め、英語を使う自信をつける			◎	○	
	2. 海外旅行に必要な英語の表現を学ぶ			◎	○	
	3. 効果的に他の人と英語でコミュニケーションする方法を学ぶ			◎	○	
4. 外国文化の理解を深める			◎		○	
履修条件・注意事項	<p>気持ちを楽に持って、英語を学ぶことを楽しんでほしい 授業の実施方法：②面接授業と遠隔授業（同時双方向）の併用</p>					
授業計画	<p>1. Course Introduction + Teacher Introductions + Student Introductions (目標 1,2,3,4) 2. Tell Me More Language Software Introduction + Classroom and Natural English + (目標 1,2,3,4) 3. Immigration and Customs (目標 1,2,3,4) 4. Taking an Airplane (目標 1,2,3,4) 5. Going to a Hotel (目標 1,2,3,4) 6. Taking a Taxi (目標 1,2,3,4) 7. Ordering at a Restaurant (目標 1,2,3,4) 8. Going to a Doctor (目標 1,2,3,4) 9. Ordering Pizza by Phone (目標 1,2,3,4) 10. Ordering Tickets by Phone (目標 1,2,3,4) 11. Social Phone Conversation (目標 1,2,3,4) 12. Holidays / Special Days (目標 1,2,3,4) 13. Group Performance Tests Week 1 (目標 1,2,3,4) 14. Group Performance Tests Week 2 (目標 1,2,3,4) 15. Final Class - Review Course (目標 1,2,3,4) (コース全体で使用されるICTとアクティブラーニング)</p>					
アクティブ・ラーニング	グループパフォーマンス					
成績評価基準	<p>①授業への参加度 (Attitude and Performance) (10%)：意欲・態度を測定 ②PCソフト活用 (Tell Me More) (10%)：知識・理解度を測定 ③演習活動 (Question Crazy Cards) (10%)：コミュニケーション能力を測定 ④クラス共同ワーク (In Class Group Work) (10%)：協働性を測定 ⑤学期末レポート (Reflections) (5%)：思考・判断・表現力を測定 ⑥グループパフォーマンス試験 (Reflections) (55%)：知識・理解、技能・表現力を測定</p>					
フィードバックの方法						
時間外の学習について	<p>予習：特になし。前回の授業の復習をしっかりとる。ノートと辞書は必ず授業に持参すること。 (各回90分) 復習：語彙、レッスンの要点 (各回90分)</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト：None needed - Materials Provided by instructor 参考書：None needed. 参考資料：Questions Crazy Cards, and Tell Me More Log Sheets</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について	<p>It is recommended that all students regardless of their English backgrounds should come with an open mind and learn to enjoy English. 面接授業を基本とするが、状況によって同時双方向型の遠隔授業を実施する場合がある。遠隔授業になっても対応できるようにネットワーク環境を整えておくことが望ましい。</p>					

科目名	英語コミュニケーションⅡ (2単位)	講義	芸術表現学科	1年 後期	担当者	檜垣 英夫 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-L112-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系 列						
授業のテーマ	英語コミュニケーション力を、日常生活で用いる英語表現の骨格となる文法を整理・理解した上で身に付けていく。					
授業の概要	自分自身や身の回りのことについて基本的な英語で表現することができるようにする。					
達成目標	学修成果：教養、コミュニケーション能力、社会人基礎力					科目DP：
						DP記号
						a
						b
1. 身近な話題について英語で表現できるよう必要な語彙・表現や文法を身に付ける。					c	d
2. 対話を通して、英語で積極的に話したり聞いたりする態度を身に付けることができる。					○	○
3. 外国の人々と英語をツールとして身近なことについてコミュニケーションを図ることができる。					○	○
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> This is my classmate [be動詞の現在形] (目標 1,2,3) I was sleepy [be動詞の過去形] (目標 1,2,3) I work part-time on weekends [一般動詞の現在形] (目標 1,2,3) I bought a new shirt [一般動詞の過去形] (目標 1,2,3) Are you going to study abroad? [未来時制] (目標 1,2,3) Is he running? [進行形] (目標 1,2,3) It's yours [代名詞] (目標 1,2,3) It's on your desk [場所を表す前置詞] Where are you going? [疑問詞] (目標 1,2,3) Have you ever played the piano? [現在完了] (目標 1,2,3) Shall we go? [助動詞] (目標 1,2,3) Three cups of coffee, please [名詞の数え方] (目標 1,2,3) Who is the tallest? [比較] (目標 1,2,3) The door was closed [受動態] (目標 1,2,3) I like cats and dogs [接続詞] (目標 1,2,3) 					
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション等					
成績評価基準	①小テスト・課題テスト等 (60%)：知識・理解・思考・表現 ②授業の参加度等 (レポート、発表、授業における積極性等) (40%)：態度					
フィードバックの方法	小テスト時等において個別還元指導					
時間外の学習について	予習：指定されたLessonについて、事前に内容を確認しておく。各回90分程度 復習：既習のLessonの目標表現が円滑に使用できるように、文法を含めて反復的に学習をする。 各回90分程度					
教材にかかわる情報	テキスト：『English Illustrated Fun grammar with images』金星堂 参考書：適宜紹介 参考資料等：随時プリント配布					
担当者からのメッセージ等実務経験について	グローバルな社会においては、英語で自分自身を表現できることは必要不可欠です。今からの時代、英語が公用語となる企業等も増えつつあります。日本に在住の外国人、或いは、海外に出向いて行った際に会おう外国人と、円滑なコミュニケーションを図る第一歩としての英語表現とその根幹をなす文法を身に付けます。反復学習を通して是非とも自分のものにしてほしいと思います。「継続は力なり。」					

科 目 名	日本国憲法 (2単位)	講義	保育学科 幼児教育コース	2年 前期	担 当 者	香川 智弘 (単独)		
ナンバリングコード	JC-L208-110							
卒 業 要 件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択	幼稚園教諭	必修		
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目(幼稚園)							
各科目に含めることが必要な事項								
教 科 目	教養科目(保育士)							
系 列	教養科目							
授 業 の テ ー マ	広い見識 主体性 問題解決能力 社会人としての教養							
授 業 の 概 要	平和国家・民主国家を目指す日本国憲法の基本理念・国民中心主義、それを具体化する国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の基本原則を学ぶ。その上で人権規定を中心に憲法の諸規定を学ぶ。さらに新しい人権についても学び、今日の社会の動向を知る。							
達 成 目 標							科目DP : b	
							DP記号	a b c d
	1. 市民としての法感覚を養う。						○	
	2. 憲法の基本理念を知る。							○
	3. 人権感覚を養う。							○
4. 憲法的視点から今日の社会を理解する。						○		
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ							
授 業 計 画	1. 日本国民の要件 国籍法 (目標 1.3,4) 2. 日本国憲法の目的、基本理念、基本原則①国民主権 (目標 1.2) 3. 日本国憲法の基本原則②平和主義、基本的人権の尊重 (目標 1.2,3) 4. 日本国憲法の人権規定①法の下の平等 平等とは、少年法、男女雇用機会均等法 (目標 1.3,4) 5. 日本国憲法の人権規定①法の下の平等 尊属殺重罰事件、 (目標 1.3,4) 6. 日本国憲法の人権規定②精神的自由権 内心の自由、信教の自由、学問の自由 (目標 1.3,4) 7. 日本国憲法の人権規定②精神的自由権 表現の自由 (目標 1.3,4) 8. 日本国憲法の人権規定③身体的自由権 (目標 1.3,4) 9. 日本国憲法の人権規定④経済的自由権 (目標 1.3,4) 10. 日本国憲法の人権規定⑤参政権 (目標 1.3,4) 11. 日本国憲法の人権規定⑥生存権 (目標 1.3,4) 12. 新しい人権①生命に対する権利 (目標 1.3,4) 13. 新しい人権②プライバシーの権利 (目標 1.3,4) 14. 国民主権と統治機構①立法権、行政権 (目標 1.2,4) 15. 国民主権と統治機構②司法権、地方自治 (目標 1.2,4) 定期試験							
アクティブ・ラーニング								
成 績 評 価 基 準	評価の方法：試験を80%と授業態度20% 評価の基準：筆記試験において、知識理解の定着度を測定する。授業態度については、関心意欲を測定する。							
フィードバックの方法	理解度を確認するため小テストを行い、採点して返却する。							
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：テキストを読む。45分程度 復習：学習内容をノートにまとめる。45分程度							
教材にかかわる 情 報	テキスト：香川智弘「憲法講義」 参考書： 参考資料：プリントを配布する。							
担当者からのメッセージ等 実務経験について	平素からニュースを確認し、社会の動きに興味・関心をもって下さい。							

科 目 名	情報処理 (2単位)	講義	保育学科 幼児教育コース	1年 後期	担当者	三池 山本 為末	秀敏 瑞恵 隆弘	
ナンバリングコード	JC-L102-110							
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	選択	幼稚園教諭	必修		
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目(幼稚園)							
各科目に含めることが必要な事項								
教 科 目	教養科目(保育士)							
系 列	教養科目							
授 業 の テ ー マ	情報化社会で必要となる情報リテラシー、倫理、セキュリティについて習得する。							
授 業 の 概 要	電子メールの送受信、インターネットを利用した情報検索、基本的なアプリケーションを使った文書作成、表計算、プレゼンテーションなどの演習を行う。							
達 成 目 標							科目DP : b	
							DP記号	a b c d
	1. 情報機器やネットワークに関する基本的事項を説明できる							○
	2. パソコンで情報を取り扱うための情報リテラシーが身に付く						◎	◎
	3. 文章作成、表計算、プレゼンテーション、インターネットおよび電子メールを理解し、活用できる							◎ ○
4. 情報を取り扱う際の倫理やセキュリティを十分に理解し、ネットワークを活用できる						◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法：②面接授業と遠隔授業等の併用							
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 機器の取り扱い、Windowsの基本操作・基礎知識 (目標 1) 2. コンピュータの基礎、電子メールの活用とマナー (目標 1,2) 3. ネットワークとセキュリティ、情報の検索・活用と情報倫理 (目標 1,4) 4. 文章作成 (Wordの基本操作) (目標 3) 5. 文章作成 (書式、図・表の挿入) (目標 3) 6. 文章作成 (実用文章作成) Word宿題 (目標 3) 7. 表計算 (Excelの基本操作) (目標 3) 8. 表計算 (ワークシート、参照) (目標 3) 9. 表計算 (式と関数) (目標 3) 10. 表計算 (グラフ作成) Excel宿題 (目標 3) 11. プレゼンテーション (PowerPointの基本操作) (目標 3) 12. プレゼンテーション (スライド作成、アニメーション効果) (目標 3) 13. プレゼンテーション (実用プレゼンテーション資料作成) Power Pointによる発表 (目標 3) 14. プレゼンテーション (発表) (目標 3) 15. 情報倫理とセキュリティまとめ (目標 1,4) 							
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーションと質疑応答(学生主体)を行う							
成績評価基準	評価の方法：宿題レポート及びプレゼンテーションをA,B,C,Dの4段階で採点・評価 評価の基準：宿題レポートの量(字数)と質(課題への回答的確性)(80点)、及び授業でのプレゼンテーション(20点)							
フィードバックの方法	プレゼンテーションは全員が行う。各発表者に対しコメントを加える。							
時間外の学習について	予習：次の授業範囲を確認し、テキストおよび授業資料に目を通しておく。(30分) 復習：演習課題結果の評価を通して授業内容の復習を行う。(60分)							
教材にかかわる情報	テキスト：保育者のためのパソコン講座 windows10/8.1/7 Office2010/2013/2016対応版 阿部正平・阿部和子・二宮祐子 萌文書林 参考書：適宜授業内で紹介する。 参考資料：その他適宜授業内で紹介・配布する。							
担当者からのメッセージ等 実務経験について	4GB以上のUSBメモリを用意し、授業に毎回持ってくること。							

科 目 名	文書表現基礎 (2単位)	講義	保育学科 幼児教育コース	1年 前期	担 当 者	久保田 京子 (単独)					
ナンバリングコード	JC-L103-010										
卒 業 要 件	必修	免許・資格との関係	保育士	選択	幼稚園教諭						
科 目											
各科目に含めることが必要な事項											
教 科 目	教養科目(保育士)										
系 列	教養科目										
授 業 の テ ー マ	大学生活・社会生活及び、実習や就職活動で必要な文書作成の基礎、保育現場の業務に直結する文書表現・作成の基礎(教養)										
授 業 の 概 要	レポートや保育現場で必要となる文書表現全般の基本知識やルール、マナーなどについて、演習を通して実践的に基礎を身につける。										
達 成 目 標							科目DP : b				
							DP記号	a	b	c	d
	1. 用字・用語、慣用的表現、敬語など文章表現の基礎知識と教養を身につけることができる。						○	◎			
	2. 依頼状や礼状、電子メール、レポート等の作成など、大学生活で必要な文書作成の基礎を身につけることができる。						◎	◎			
	3. 通知文・案内文・照会文、復命書等職業生活に必要な文書作成の基礎を身につけることができる。							◎	◎		
	4. 自己紹介文・エントリーシート作成の基本など、就職活動に必要な表現の基礎を身につけることができる。							◎			◎
5. 保育実習や保育業務に関する文書作成の基礎を習得する。								◎		○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ(状況により遠隔授業を併用することもある)										
授 業 計 画	1 文の構成、文体、仮名づかい、記号や符号、送り仮名、慣用句等 (目標1) 2 助詞の使い方、文のねじれとわかりやすい文、事実と意見・感想と考察の区別、5Wと1H、要約 (目標1) 3 敬語の基本ルールと使い方 (目標1) 4 挨拶文や礼状の書き方と、社交文書に用いる敬語の基礎 (目標2) 5 電子メールのルールとマナー (目標2) 6 レポートや論文の書き方の基本 (目標2) 7 文書の書き方(1)文書の種類と基本書式、通知文、案内文の作成 (目標3) 8 文書の書き方(2)照会文、断り状、詫び状 (目標3) 9 文書の書き方(3)電話メモ、会議録、復命書 (目標3) 10 履歴書 自己紹介文、エントリーシート等の書き方の基本 (目標4) 11 保育実習や業務に係る文書の書き方の基本(1)書類の送付状や礼状の実践練習 (目標5) 12 保育実習や業務に係る文書の書き方の基本(2)記録の役割と適切な書き方 (目標5) 13 保育実習や業務に係る文書の書き方の基本(3)わかりやすい記録や報告 (目標5) 14 保育実習や業務に係る文書の書き方の基本(4)保育等の記録の留意点 (目標5) 15 文書表現基礎の総まとめ (目標1,2,3,4,5) ※毎回、講義のはじめに、子ども達や保護者に「紹介したい絵本」を取り上げ、わかりやすく紹介する文章を書き、発表する。全講義終了時に発表作品集をつくる。										
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、ロールプレイ										
成 績 評 価 基 準	評価の方法：レポート・提出物(30%) 復習テスト(30%) 授業態度・授業への参加度(30%) 発表(10%) 評価の基準：(レポート・提出物、復習テスト)文書作成の基礎知識が身につく、授業で扱った知識の活用ができる。 (授業態度・授業への参加度)学習活動・演習やグループワーク等に主体的に参加する。 (発表)準備をし、わかりやすく発表することができる。										
フィードバックの方法	個々の課題について、良さや課題を添削し、卒業後も活用するよう伝える。										
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：テキスト練習問題や配付プリントの事前学習(各回60分程度) 復習：授業後の配布プリント演習の実施。(各回60分程度)配布プリントはファイルに整理し、授業時には必携のこと。										
教材にかかわる 情 報	テキスト：「ビジネス文書実務 改訂版」石井典子・三村善美著 早稲田教育出版 参考書： 参考資料等：毎時、授業プリント配布。										
担当者からのメッセージ等 実務経験について	保育に携わる職業人の第一歩として、文章表現によるコミュニケーション力を磨き、様々な文書作成の基礎を身につけましょう。授業プリントはポートフォリオとして振り返りに使いましょう。										

科 目 名	進路研究 (2単位)	講義	保育学科 幼児教育コース	2年 前期	担 当 者	永田 他				
ナンバリングコード	JC-L207-010									
卒 業 要 件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択	幼稚園教諭					
科 目										
各科目に含めることが必要な事項										
教 科 目	教養科目 (保育士)									
系 列	教養科目									
授 業 の テ ー マ	自らの人生や進路について考え、自己実現に向けて主体的に取り組む									
授 業 の 概 要	進路決定に至るまでに、自らが求める職業について考え研究する。また、社会人として必要なマナーや事柄について理解し、就職のために必要な事柄について段階を踏みながら演習を繰り返し、実践力をつけていく。									
達 成 目 標						科目DP : b				
						DP記号	a	b	c	d
	1. 自己を見つめ正しく認識する。						◎	○		
	2. 自分自身の生き方を考え、進路について主体的に考える力を身につける。						◎	○		
	3. 保育者の職務内容について理解する。							◎	◎	
4. 履歴書作成、就職支援講座を通して実践的な進路開拓の力を身につける。							◎		○	
5. 社会人として必要な教養やマナー、コミュニケーション力を身につける。						○			◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ									
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 働くと言うことを考える (ライフプランニング) (目標 1,2) 社会が求める資質・能力、本学のディプロマ・ポリシーについて考える (目標 1,2,3,5) 進路希望種別の情報を収集する (公立・幼稚園・保育所・認定子ども園・施設・一般) (目標 2,3,4) 特別講義① (求められる人材について) (目標 1,2,3) 求人票の見方、および自己分析、自己理解の上での自己PR、履歴書の作成 (目標 1,2,3,4) 社会人として必要な手紙やメールの書き方について (目標 4,5) 就職支援講座① (マナーについて) (目標 4,5) 話し方講座 (面接や人前での言葉遣い、話し方についての講義、および実践) (目標 4,5) 就職支援講座② (電話の応対、模擬面接) (目標 4,5) 一般職の現状と求める人材について理解する (目標 2,4,5) 社会人として必要な、一般教養や時事問題についての知識を身につける (目標 4,5) 特別講義② (保育職に関する講義) (目標 1,2,3,4) 進路決定アドバイス (目標 1,2,3,5) 自己評価、自己分析を行い進路希望の明確化を図る (目標 1,2,3) まとめ (自己理解と志望の明確化) (目標 1,2,3,4) 									
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ロールプレイ									
成 績 評 価 基 準	授業への取り組み (20%) 特別講義等レポート (30%) 小テスト (漢字、用語、時事問題、一般教養等) (30%) 履歴書、添え状、メールの書き方等 (20%) ○小テスト・履歴書作成・手紙の書き方等 * 知識・理解の定着度 * 社会人として必要な一般常識や教養などの問題に回答できる * 履歴書の書き方や社会人として必要なメールや手紙を書くことができる ○授業への取り組み * 関心・意欲、態度、思考・判断の測定 * 積極的にグループワークを行うことができる * ロールプレイで適切な対応ができる ○レポート * 思考・判断、技能表現の測定 * 特別講義等を聴いて、自分の将来について真摯に向き合い主体的に考え書くことができる									
フィードバックの方法	レポートの添削や小テストを返却し、コメントの記入や個人指導を行う									
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：ドリルブックを行う (各回45分程度) 復習：小テストの復習および、学んだこと体験したことを整理し、実践できるようにする。 (各回45分程度)									
教材にかかわる 情 報	テキスト：就職ガイドブック 一般常識問題ドリルブック 参考書：幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定子ども園教育・保育要領									
担当者からのメッセージ等 実務経験について	自分の将来について真剣に考え主体的に取り組ましよう									

科 目 名	英語コミュニケーション (2単位)	演習	保育学科 幼児教育コース		1年 後期	担 当 者	ダグラス・パーキン (単独)				
ナンバリングコード	JC-L111-110										
卒 業 要 件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修					
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目(幼稚園)										
各科目に含めることが必要な事項											
教 科 目	教養科目(保育士)										
系 列	教養科目										
授 業 の テ ー マ	英語 コミュニケーション 保育士に必要な英語に重点を置いて学ぶ										
授 業 の 概 要	将来英語を教えるのに必要な技術を学ぶと共に個々の英語能力も高める										
達 成 目 標							科目DP: b				
							DP記号	a	b	c	d
	1. 学生個々の英語力を高め、自信をもって英語を使う力を向上させる。							◎		○	
	2. 異なる西洋の歌を用いて、外国の文化をよりよく理解し、テーマに沿って英語で表現する力を向上させる。							◎		○	
	3. 英語を使用して他者の前で話すスキルを向上させる。							◎		○	
4. 外国音楽の鑑賞を通して、自らが感じたことを英語で表現する力を向上させる。							◎		○		
履修条件・注意事項	<p>気持ちを楽に持って、英語を学ぶことを楽しんでほしい</p> <p>授業の実施方法: ②面接授業と遠隔授業(同時双方向)の併用</p>										
授 業 計 画	<p>1. Course Introduction + Student/Teacher Introductions + Example Introduction Lesson (目標 1,2,3)</p> <p>2. Tell Me More Language Software + Review Introduction Lesson + Student Introduction Lessons (目標 1,2,3,4)</p> <p>3. Classroom English + Student Lessons (目標 1,2,3,4)</p> <p>4. ABCs + Student Lessons (目標 1,2,3,4)</p> <p>5. Body Parts + Student Lessons (目標 1,2,3,4)</p> <p>6. Animals + Student Lessons (目標 1,2,3,4)</p> <p>7. Emotions + Student Lessons (目標 1,2,3,4)</p> <p>8. Numbers + Student Lessons (目標 1,2,3,4)</p> <p>9. Colours + Student Lessons (目標 1,2,3,4)</p> <p>10. Fruits + Student Lessons (目標 1,2,3,4)</p> <p>11. Body Parts + Student Lessons (目標 1,2,3,4)</p> <p>12. Holidays /Special Days + Student Lessons (目標 1,2,3,4)</p> <p>13. Pair(Team) Student Teaching Tests Week 1 (目標 4)</p> <p>14. Pair(Team) Student Teaching Tests Week 2 (目標 4)</p> <p>15. Final Class - Review Course (目標 1)</p>										
アクティブ・ラーニング	Students are active throughout the course by using Question Crazy Cards to talk to faculty members in English, using English learning software to practice at their own pace, participating in and teaching mini lessons, teaching a final team teaching 25 minute lesson to the class, and also writing reflections at the end of the course in English. グループワーク										
成 績 評 価 基 準	<p>評価の方法: 10% 態度、やる気 (Attitude and Performance), 10% Tell Me More (PCソフト), 10% Question Crazy Cards, 10% 各授業終わりの模擬授業 (In Class Teaching), 5% 学期末に配られるReflections, 55% 最終試験</p> <p>評価の基準: コースを通して学んだ活動や技術の理解度を測る</p>										
フィードバックの方法	発表に対して、学生相互に気づきを共有し、さらに教員から学生個々に対する指導・助言を行う。Tell Me Moreに対する指導・評価は、学生個々の進度に応じて適宜行う。										
時 間 外 の 学 習 に つ い て	<p>予習: 特になし。前回の授業の復習をしっかりとる。ノートと辞書は必ず授業に持参すること。</p> <p>復習: 配られたレッスン計画を利用して授業を復習。その日習った単語を全て調べ覚える。(90分)</p>										
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト: None needed - Materials Provided by instructor</p> <p>参考書: None needed.</p> <p>参考資料: Questions Crazy Cards, and Tell Me More Log Sheets</p>										
担当者からのメッセージ等 実務経験について	It is recommended that all students regardless of their English backgrounds should come with an open mind and learn to enjoy English so they may pass the same enjoyment to their students in the future.										

科 目 名	体育（講義） （1単位）	講義	保育学科 幼児教育コース	2年 後期	担 当 者	吉野 信朗 （単独）					
ナンバリングコード	JC-L221-110										
卒 業 要 件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修					
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目（幼稚園）										
各科目に含めることが必要な事項											
教 科 目	教養科目（保育士）										
系 列	教養科目										
授 業 の テ ー マ	スポーツの基本的知識と学生が健康的に過ごすための基礎知識を獲得する。また保育者として、ケガや熱中症、救急法を学習し、幼児期の運動の重要性を理解する										
授 業 の 概 要	現代社会には、様々な健康問題が存在している。こうした問題に対して、自己解決するための手段を知ることは重要である。本授業では、受講生が今後QOLの充実を実現するための基礎的な健康と運動に関する知識を学ぶことを目的とする。										
達 成 目 標	1. スポーツの理解 2. 現代の病気・けがの理解 3. 救急法の理解 4. 生活習慣の問題の理解 5. 幼児期の運動習慣						科目DP： b				
							DP記号	a	b	c	d
								○	◎		
								○	◎	○	○
								○	◎	○	○
								○	◎	◎	○
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ										
授 業 計 画	1. スポーツの歴史（目標1） 2. スポーツに関する基礎知識（目標1） 3. スポーツのルールと解説（目標1） 4. 現代の病気の解説（目標2） 5. 現代のけがの解説（目標2） 6. 救急法（事故者の見方）（目標3） 7. 救急法（止血法・事故者の体位）（目標3） 8. 救急法（蘇生法）（目標3） 9. 現代の健康問題（喫煙）（目標4） 10. 現代の健康問題（飲酒）（目標4） 11. 現代の健康問題（肥満）（目標4） 12. 現代の健康問題（エイズ等）（目標4） 13. 現代の健康問題（大麻・覚せい剤）（目標4） 14. 幼児期の運動理解（目標5） 15. 子どもの日常生活からみる運動習慣（目標5） 筆記試験										
アクティブ・ラーニング	ディスカッション										
成 績 評 価 基 準	評価の方法：①授業への参加（10%） ②授業に対する意欲（10%） ③テスト（80%） 評価の基準：①授業への意欲：参加・発言によって授業内容の理解度を評価する。 ②テスト：筆記試験を通じて授業の理解度を評価する。										
フィードバックの方法	授業中に前回学んだ知識を復習する時間を確保する。										
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：適宜指示する（45分） 復習：授業の課題を实践する（45分）										
教材にかかわる 情 報	必要に応じて適宜配布する										
担当者からのメッセージ等 実務経験について	スポーツが好きになり、健康・安全に興味を持ち、得た知識を保育の現場に生かしてほしい。										

科 目 名	体育(実技) (1単位)	実技	保育学科 幼児教育コース		1年 後期	担 当 者	吉野 信朗 (単独)				
ナンバリングコード	JC-L121-110										
卒 業 要 件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修					
科 目	免許法施行規則第66条の6に定める科目(幼稚園)										
各科目に含めることが必要な事項											
教 科 目	教養科目(保育士)										
系 列	教養科目										
授 業 の テ ー マ	スポーツや表現活動を通じて、協調性やコミュニケーション能力を身に付ける										
授 業 の 概 要	球技では、基礎技能とコミュニケーション活動を中心に、ゲームを円滑に進められるように学習する。表現運動では、身体を通じた自己表現することや空間を活かした表現をする。また互いに鑑賞し、他者評価し相互理解を行う。ボウリングは国体にも採用されており、生涯スポーツとしても人気のスポーツである。総じて様々なスポーツの経験を得ることを目標とする。										
達 成 目 標							科目DP: b				
							DP記号	a	b	c	d
	1. 基礎的なスポーツマナーを理解する							○	◎	○	○
	2. バレーボールの理解と技術の習得							○	○		○
	3. 卓球の理解と技術の習得							○	○		○
	4. バドミントンの理解と技術の習得							○	○		○
5. ダンス・体操の理解と技術の習得							○	◎	◎	◎	
履修条件・注意事項	運動のできる服装で参加すること 授業の実施方法: ①面接授業のみ										
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツをする上での身なりと基礎的なスポーツマナー(目標1) 2. バレーボールの基礎技能(パス・サーブ)(目標2) 3. バレーボールの応用技能(フォーメーション)(目標2) 4. バレーボールのゲーム1 基礎(目標2) 5. バレーボールのゲーム2 試合(目標2) 6. 卓球の基礎技能(サーブ・ラリー)(目標3) 7. 卓球のゲーム1 基礎(目標3) 8. 卓球のゲーム2 試合(目標3) 9. バドミントンの基礎技能(サーブ・ラリー)(目標4) 10. バドミントンのゲーム1 基礎(目標4) 11. バドミントンのゲーム2 試合(目標4) 12. 体操・身体表現者としてのダンス(目標5) 13. 創作ダンス(ダンス作成)(目標5) 14. 創作ダンス(ダンス練習)(目標5) 15. 創作ダンス(発表)(目標5) 										
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・グループワーク・ロールプレイ										
成 績 評 価 基 準	評価の方法: ①授業への参加(20%) ②授業中の課題(60%) ③レポート(20%) 評価の基準: ①授業への参加: スポーツへの取り組みを重視する。 ②授業中の課題: グループ学習や授業中の課題解決への取り組み及びその到達度を評価する。 ③レポート: テーマに対する論述から授業内容の理解度を評価する。										
フィードバックの方法	授業中に前回学んだ技能を復習する時間を確保する。										
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習: ルール学習(各回15分程度) 復習: 観る・する・調べるスポーツを楽しむ(各回45分程度)										
教材にかかわる 情 報	必要に応じて適宜配布する										
担当者からのメッセージ等 実務経験について	人数や気候によっては、一部内容を変更することがあります。										

芸術表現学科専門教育科目

芸術表現学科専門教育科目

芸術文化と表現Ⅰ（絵画）	17	3Dモデリング入門	59
芸術文化と表現Ⅱ（版画）	18	映像制作	60
生活文化と造形Ⅰ（陶芸）	19	CGアニメーション	61
生活文化と造形Ⅱ（染織）	20	Webデザイン入門	62
生活文化と造形Ⅲ（彫金）	21	WebデザインⅠ	63
生活文化と造形Ⅳ（ガラス工芸）	22	WebデザインⅡ	64
芸術表現入門	23	服飾デザイン	65
社会人基礎	24	ファッションコーディネート	66
キャリアデザイン	25	プロダクトデザイン	67
キャリア実践演習	26	空間デザイン	68
日本語の文章表現	27	ポートフォリオ制作	69
日本語の音声表現	28	ピアノⅠ	70
ビジネス文書	29	ピアノⅡ	71
情報処理	30	ピアノⅢ	72
情報処理演習Ⅰ	31	ピアノⅣ	73
情報処理演習Ⅱ	32	電子オルガンⅠ	74
情報基礎	33	電子オルガンⅡ	75
プログラミング入門	34	電子オルガンⅢ	76
プログラミング演習	35	電子オルガンⅣ	77
簿記基礎理論	36	吹奏楽Ⅰ	78
簿記演習	37	吹奏楽Ⅱ	79
流通と組織	38	吹奏楽Ⅲ	80
マーケティング	39	吹奏楽Ⅳ	81
インターンシップⅠ	40	合唱Ⅰ	82
インターンシップⅡ	41	合唱Ⅱ	83
地域課題解決演習Ⅰ（PBL）	42	合唱Ⅲ	84
地域課題解決演習Ⅱ（PBL）	43	合唱Ⅳ	85
基礎描写Ⅰ	44	ソルフェージュⅠ	86
基礎描写Ⅱ	45	ソルフェージュⅡ	87
基礎デザインⅠ（色彩構成）	46	音楽基礎	88
基礎デザインⅡ（平面構成）	47	和声学	89
基礎デザインⅢ（平面構成）	48	音楽形式論	90
基礎デザインⅣ（立体構成）	49	音楽鑑賞論	91
色彩論	50	即興演奏法Ⅰ	92
画像編集	51	即興演奏法Ⅱ	93
DTP各論	52	デスクトップミュージックⅠ	94
DTP演習	53	デスクトップミュージックⅡ	95
グラフィック	54	舞台芸術	96
広告デザインⅠ	55	メディアアート演習	97
広告デザインⅡ	56	特別講義	98
マンガ・イラストⅠ	57	卒業研究	99
マンガ・イラストⅡ	58		

学修成果（8つの力）

①勤労観	働く意義を理解し、社会に貢献する姿勢をもっている。
②社会貢献	
③教養	社会人としてふさわしい教養やコミュニケーション能力を身につけている。
④コミュニケーション能力	
⑤専門分野の基礎的知識	デザイン・ビジネス・音楽フィールドにおける基礎的知識と技能を身につけている。
⑥専門分野の基礎的技能	
⑦社会人基礎力	課題発見力、創造力、実行力などの社会人基礎力や協働性を身につけている。
⑧協働性	

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

以下に示す目標とする学修成果（学士力）を身につけ、所定の在学期間を満たし、基準となる単位を修得した者に対して、卒業を認定し、「短期大学士」の学位を授与します。

【芸術表現学科】のディプロマ・ポリシー

- (a) 働く意義を理解し、社会に貢献する姿勢をもっている。
- (b) 社会人としてふさわしい教養やコミュニケーション能力を身につけている。
- (c) デザイン・ビジネス・音楽フィールドにおける基礎的知識と技能を身につけている。
- (d) 課題発見力、創造力、実行力などの社会人基礎力や協働性を身につけている。

科目名	芸術文化と表現 I (絵画) (1単位)	演習	芸術表現学科	1年前期	担当者	水野 邦子 (単独)
ナンバリングコード	JA-S111-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士		幼稚園教諭	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	芸術文化と表現の例として、絵画の知識と技術を習得し、社会人として相応しい教養を身につけ、更にはものづくりに対して主体的に行動できる基礎を身につける。					
授業の概要	油彩画やアクリル画、水彩画、色々なツールを使い洞察力や表現力を習得する。特に、個性を重視した表現力を習得する。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：b				
	1. 多様な作品鑑賞とそれぞれのツールの使い方を習得する。	DP記号	a	b	c	d
	2. 静物画等を画面構成して描くことができる。			◎	○	
	3. 人物や動物の特徴を捉えて描くことができる。			◎	○	
	4. 風景や抽象画を画面構成して描くことができる。			◎	○	
	5. 作品の鑑賞やコメントを発表することができる。		◎	○		
履修条件・注意事項	課題が時間内未完成の場合、完成して提出するのが望ましい。 授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 創作の概要説明とツールの使用方法 (目標 1) 2. 静物画の画面構成と遠近法 (目標 1,2) 3. 静物画の陰影と色彩 (目標 1,2) 4. 静物画の立体的な表現方法 (目標 1,2,5) 5. 人物又は動物の特徴と表現 (目標 1,3) 6. 動きのある人物や動物等の瞬間的な捉え方 (目標 1,3) 7. 個性のある作品作りを思考した描き方 (目標 1,3) 8. 動的な雰囲気が感じられる描き方 (目標 1,3,5) 9. 風景や抽象的な画面作り (目標 1,4) 10. 色による遠近法や投映法 (目標 1,4) 11. 光線による遠近法や色彩の違い (目標 1,4) 12. 全体的な色と形の調和の確認 (目標 1,4) 13. 自画像を鉛筆又はパステルで描く (目標 1,4) 14. 自分の特徴を掴む (目標 1,4,5) 15. 個々の人間性の表現 (目標 1,4,5) ※1～3は木炭で描く ※4～8は油彩又はアクリルで描く ※9～12は水彩又はアクリルで描く ※13～15は色鉛筆又はパステルで描く					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション (モニター・プロジェクターを使って)					
成績評価基準	①作品への取り組み (30%)：作品への取り組み・計画性を持ち個性的な作品制作ができる。 ②授業態度 (10%)：授業態度・各種描画技法を積極的に研究する。 ③提出作品4点 (15%×4)：提出作品・各種描画技法が習得できている。					
フィードバックの方法	努力して描いたそれぞれの作品は、それぞれコメントを書いて返却し、必ず持ち帰って大事に扱うことを徹底する。					
時間外の学習について	予習：クロッキー帳やスケッチブックにエスキースを行う。(各回90分程度) 復習：皆と比べ完成度が足りないとき空きコマ等を利用して加筆しておくこと。					
教材にかかわる情報	テキスト：油彩画の教科書。 参考書：その他のツールについてはその都度、作品例を紹介し使い方を説明。 参考資料：プリントなど。					
担当者からのメッセージ等実務経験について	少ない時間内で完成度を上げるためには、寸暇を惜しんで制作すること。					

科 目 名	芸術文化と表現Ⅱ (版画) (1単位)	演習	芸術表現学科	2年 前期	担当者	檜垣 良之 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S211-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士		幼稚園教諭	
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授 業 の テ ー マ	版画制作における一連の作業を学ぶ。					
授 業 の 概 要	版画の歴史と制作工程を学び、日本伝統芸術、木版画の知識や技術を身につける。					
達 成 目 標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP：b
		DP記号	a	b	c	d
	1. 木版画とは何かを理解する。			◎		
	2. 彫りの技術を身につける。			◎	○	
	3. 摺りの技術を身につける。			◎	○	
4. 裏打ちの技術を身につける。			◎	○		
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 木版画について (目標 1) 2. 下絵制作 1 (目標 1) 3. 下絵制作 2 (目標 1) 4. 色割を決めて版木の枚数を決める 1 (目標 1) 5. 色割を決めて版木の枚数を決める 2 (目標 1) 6. 描いた下絵を板に写す 1 (目標 1) 7. 描いた下絵を板に写す 2 (目標 1) 8. 彫刻を行う 1 (目標 2) 9. 彫刻を行う 2 (目標 2) 10. 彫刻を行う 3 (目標 2) 11. 摺り 1 (目標 3) 12. 摺り 2 (目標 3) 13. 摺り 3 (目標 3) 14. 裏打ち作業 (目標 4) 15. 作品仕上げ (目標 1,3,4) 					
アクティブ・ラーニング						
成 績 評 価 基 準	<ol style="list-style-type: none"> ①授業態度 (30%)：授業態度・制作活動に積極的である。 ②授業中の制作 (30%)：授業中の制作・学んだ技法が再現できる。 ③提出作品 (40%)：提出作品・学んだ技術を反映している。 					
フィードバックの方法	提出作品にコメントを付けて返却する。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：作品集などを読む (各回30分程度) 復習：学習したことを活かして作品制作をする (各回60分程度)					
教材にかかわる 情 報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：特になし					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	興味のある方は是非受講してください。					

科 目 名	生活文化と造形 I (陶芸) (1単位)	演習	芸術表現学科	1年 後期	担当者	上田 敦之 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S112-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	幼稚園教諭		
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授 業 の テ ー マ	生活文化や造形の例として、陶芸の知識と技術を習得し、社会人として相応しい教養を身につけ、更にはものづくりに対して主体的に行動できる基礎を身につける。					
授 業 の 概 要	陶芸の歴史、種類、産地などの概略を理解するとともに、制作工程や種々の技法などについて習得する。玉作り、紐作り、板作りなどの技法を用いて日常的に使用する器を制作し、粘土の持つ特性を知ると同時に陶芸の魅力を見つける。窯作業の一連の流れを身につける。					
達 成 目 標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP： a
		DP記号	a	b	c	d
	1. 焼物の簡単な歴史、種類、代表的な産地を理解する。			◎	○	
	2. 基本的な技法（土練り、玉作り、板作り、紐作り）を習得する。			◎	○	
	3. 粘土の持つ特性を理解する。			◎	○	
	4. 窯作業の一連の流れを理解する。			○		◎
履修条件・注意事項	土を扱うという性格上、常に汚れても良い服装で臨むこと。作品が乾きすぎると作業がしづらくなるので、毎回授業に参加すること。 授業の実施方法：①面接授業のみ					
授 業 計 画	1. 焼き物の基本的概略の説明 (目標 1) 2. 土練り、基礎的な技法の実演・説明 (目標 2,3) 3. 作品制作1：玉作りによる作品の制作（茶わん） (目標 2,3) 4. 作品の仕上げ (目標 2,3) 5. 作品制作2：玉作りによる作品の制作（鉢） (目標 2,3) 6. 作品の仕上げ (目標 2,3) 7. 作品制作3：紐作りによる作品の制作（花入） (目標 2,3) 8. 作品の仕上げと加飾 (目標 2,3) 9. 作品制作4：板作りによる作品の制作（皿） (目標 2,3) 10. 皿の仕上げと加飾 (目標 2,3) 11. 作品制作5：板作りによる作品の制作（カップ） (目標 2,3) 12. カップの仕上げと加飾 (目標 2,3) 13. 窯作業：窯詰め・素焼き・釉薬かけ・本焼き (目標 4) 14. 窯出し、作品提出、講評 (目標 3,4) 15. ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション					
成績評価基準	①授業態度・授業への参加度（30%）：授業態度・授業への参加度・授業中の作品制作に集中できている。積極的に作品案を考えている。 ②提出作品10個程度（70%）：提出作品・教えた技術が再現できる。作品の完成度、創造性。					
フィードバックの方法	作品制作時に問題点を個々に実技を交えながらコメントし、次回以降の制作に活かす。					
時間外の学習について	予習：陶芸技法書などを次回授業までに読んでおくこと（各回45分程度） 復習：制作に必要な技法、道具の再確認をしておくこと（各回45分程度）					
教材にかかわる情報	テキスト：陶芸道場 手びねり&装飾の巻 杉山佳隆著 参考書：特になし 参考資料：特になし					
担当者からのメッセージ等実務経験について	物作りの楽しさを感じてみてください。 窯元・作家活動経験：作品作りの考え方や、さまざまな技法について話をします。					

科 目 名	生活文化と造形Ⅱ (染織) (1単位)	演習	芸術表現学科	1年 後期	担当者	大道 竜士 (実務経験) 大道 ともみ (実務経験) (複数)
ナンバリングコード	JA-S113-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授 業 の テ ー マ	天然染料を使った古来の染色技法でモノづくりの楽しさを発見する。					
授 業 の 概 要	天然染料を使用した染色の歴史や技法について学ぶ。染色作品を制作して基本的な染色技術を身につけ、天然染料の魅力を発見する。					
達 成 目 標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP：b
		DP記号	a	b	c	d
	1. 染色の知識を身につける			◎		
	2. 基本的な染色技法を身につける			◎	○	
	3. モノづくりの楽しさを知る			◎	○	
4. 染色作品を制作する				○	◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 染色について（染色技法、歴史など）（目標 1） 2. 型染について（型紙の図案を考える）（目標 1,2,3,4） 3. 型紙作成（デザインを決める、下絵を写す）（目標 1,2,3,4） 4. 型紙作成（型紙を彫る）（目標 1,2,3,4） 5. 型染糊置き（目標 1,2,3,4） 6. 柿渋による染色（目標 1,2,3,4） 7. 絞り染について（絞り染めの技法、種類、歴史について）（目標 1） 8. 図案作成（図案を考える）（目標 1,2,3,4） 9. 図案作成（下絵を写す）（目標 1,2,3,4） 10. 絞り作業（道具の使い方について）（目標 1,2,3,4） 11. 絞り作業（目標 1,2,3,4） 12. 絞り作業（目標 1,2,3,4） 13. 染色作業（精練）（目標 1,2,3,4） 14. 染色作業（染色、仕上げ）（目標 1,2,3,4） 15. 作品の仕上げ、講評（目標 1,2,3,4） ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション					
成績評価基準	①授業態度・授業への参加度（30%）：作品制作に集中できている。積極的に作品案を考えている。 ②提出作品（70%）：教えた技術の再現ができる。作品の完成度、創造性。					
フィードバックの方法	各回での技術の習得度合をコメントし、次回以降の作品制作に活かす。					
時間外の学習について	予習：授業時の教材の準備（各回45分程度） 復習：制作の目標の確認（各回45分程度）					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：技法書など随時配布する。					
担当者からのメッセージ等実務経験について	上手い下手ではなく楽しめるモノづくりをしてください。					

科目名	生活文化と造形Ⅲ (彫金) (1単位)	演習	芸術表現学科	2年 後期	担当者	佐伯 和章 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S212-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	幼稚園教諭		
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	彫金の基礎技術を習得し、主体性を持って取り組み、造形表現出来る力を身につけ、社会生活の中で求められる創造性を養う。					
授業の概要	真鍮を主素材とした装飾品や立体造形作品の作成。「ギフト」誰かの為のアクセサリーを創る事で、目的意識を明確にした作品制作に取り組む。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：b				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 素材の特性を理解する。			◎	○	
	2. 制作目的に合わせた道具の使い方を習得する。			○	◎	
	3. 創作の意義を理解し、作品制作を主体的に実行する。		◎			
	4. 与えられた制限の中で、独自の表現を生み出す。				○	
5. 作品を魅せる為の演出を思考し発表する。			◎			
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ジュエリー(アクセサリー)の役割について,道具、機材の解説,真鍮のバングル制作前半、ハンマワーク (目標 1,2,3) 真鍮バングル制作後半、形成研磨 (目標 1,2,3) 真鍮線を素材としたリングの制作前半、バーナーワーク (目標 1,2,3) 真鍮線を素材としたリングの制作後半、形成研磨 (目標 1,2,3) 真鍮板でペンダント制作1、デザイン考察 糸ノコワーク (目標 1,2,3,4) 真鍮板でペンダント制作2、糸ノコワーク 形成研磨 (目標 1,2,3,4) 真鍮板でペンダント制作3、形成研磨 (目標 1,2,3,4) 規定の真鍮板、真鍮線を素材としたアクセサリー自由制作1 デザイン考察 パーツ取り (目標 1,2,3,4) 規定の真鍮板、真鍮線を素材としたアクセサリー自由制作2 形成研磨 (目標 1,2,3,4) 規定の真鍮板、真鍮線を素材としたアクセサリー自由制作3 仕上げ (目標 1,2,3,4) 規定の真鍮板、真鍮線を素材としたアクセサリー自由制作4 課題作品発表 (目標 1,2,3,4,5) 「ギフト」誰かのために創るアクセサリー制作1 デザイン考察 (目標 1,2,3,4) 「ギフト」誰かのために創るアクセサリー制作2 形成 (目標 1,2,3,4) 「ギフト」誰かのために創るアクセサリー制作3 研磨、仕上げ (目標 1,2,3,4) 完成作品の発表 (目標 5) 					
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション (作品解説) フィールドワーク (学外展示見学)					
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> ①授業態度 (30%)：制作に対する姿勢を測定 ②制作レポート (10%)：素材の性質と道具、機材についての理解度を測定 ③課題作品の完成度 (55%)：課題作品に対する目標の理解と完成に向けてのプロセスの度合いを測定 ④学外展示見学 (5%)：フィールドワークでの活動報告状況を測定 					
フィードバックの方法	各課題でのレポート提出。課題作品とレポートに対してコメント等で返し、次回の制作に活かす。					
時間外の学習について	<p>予習：各課題に対して達成出来るように、事前準備を行う。各自創作意欲を深めるためのフィールドワークを行う。(各回45分以上)</p> <p>復習：技術の理解が深まっているうちに作業を続け、各目標を達成出来るように課題制作を進める。(各回45分以上)</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト：特になし</p> <p>参考書：ジュエリー制作の技法辞典</p> <p>参考資料：行程に合わせたテキストの配布</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について	<p>彫金による表現を通して、自身の持つ創造性を育み、社会生活に活かして欲しいと思います。</p> <p>彫金作家経験：人に喜んでもらえるための想像から創造へのプロセスを話し、創作意欲を引き出したいと思います。</p>					

科 目 名	生活文化と造形Ⅳ (ガラス工芸) (1単位)	演習	芸術表現学科	2年 後期	担当者	小山 祐和 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S213-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授業のテーマ	生活文化や造形の例として、ガラス工芸の知識と技術を習得し、社会人として相応しい教養を身に付け、更には物作りに対して主体的に行動できる基礎を身に付ける。					
授業の概要	ガラスの魅力を知るため、サンドブラスト・キルンワーク・バーナーワークの基礎知識と技術を習得する。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP：b
		DP記号	a	b	c	d
	1. ガラスの基礎知識の習得			◎	○	
	2. ガラス工芸の基礎技術を学び、オリジナル作品を作る。			◎	○	
履修条件・注意事項	汚れても良い服装で履修・エプロンは各自必須 授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガラス工芸概論、サンドブラスト概論 (目標 1) 2. サンドブラスト実習 1：機器の取り扱い。マスキングの手カット実習 (目標 1,2) 3. サンドブラスト実習 2：平彫りの実習 (目標 1,2) 4. サンドブラスト実習 3：2段彫りの理論解説と2段彫り用マスキング製作実習 (目標 1,2) 5. サンドブラスト実習 4：2段彫り実習 (目標 1,2) 6. サンドブラスト実習 5：多段彫りの理論解説と多段彫り用マスキング製作実習 (目標 1,2) 7. サンドブラスト実習 6：多段彫り実習 (目標 1,2) 8. サンドブラスト実習 7：カッティングマシンを使ったマスキング製作実習 (目標 1,2) 9. サンドブラスト実習 8：露光フィルムを使ったマスキング製作実習 (目標 1,2) 10. ガラスフュージング実習 1：ガラスフュージング基礎理論説明 (目標 1) 11. ガラスフュージング実習 2：機器、工具の使い方。フルフューズによるアクセサリ製作実習 (目標 1,2) 12. バーナーワーク実習 1：機器の取り扱い、工具の取り扱い。単色でのトンボ玉製作。(目標 1,2) 13. バーナーワーク実習 2：多色でのトンボ玉製作 (目標 1,2) 14. オリジナル作品の製作 1 (目標 2) 15. オリジナル作品の製作 2 (目標 2) 					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション					
成績評価基準	①授業への取り組み姿勢 (50%)：授業への取り組み姿勢・製作への積極的な取り組み ②作品提出 (50%)：作品提出 授業での技術を習得出来ている。					
フィードバックの方法	提出された作品にコメント等を返し次回以降の製作に活かす。					
時間外の学習について	予習：授業内容に沿ってその都度指示 (45分程度) 復習：授業内容に沿ってその都度指示 (45分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：授業内容に沿ったテキストを随時配布					
担当者からのメッセージ等実務経験について	ガラス工芸の基礎知識を身に付けて欲しい					

科目名	芸術表現入門 (2単位)	講義	芸術表現学科	1年前期	担当者	小野 隆洋 長田 和美 尾崎 敬子 (複数)
ナンバリングコード	JA-S161-000					
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	大学生生活を有意義に送るためのスキルと意欲を培う					
授業の概要	芸術表現学科の学びの特長を理解し、大学生生活を有意義に送るためのスキルと意欲を培う。大学で求められる主体的な学びを身につけるため、レポートの書き方や資料の収集方法、プレゼンテーションの仕方を修得する。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 大学での学びを理解し、主体的な学習態度を身につける				◎	○
	2. 大学生生活を有意義に送るためのスキルを身につける			◎		○
	3. 情報の収集と活用能力を身につける				◎	○
4. 大学で学ぶ意義を理解し、地域社会の発展に寄与しようとする意欲を高める	◎					
履修条件・注意事項	授業の実施方法：②面接授業と遠隔授業等の併用					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 建学の精神、教育理念、教育目的・目標、ポリシー (目標 1) 2. 芸術表現学科の学びの特長 (目標 1) 3. 大学での過ごし方①：検定や課題への取り組み方 (目標 2) 4. 大学での過ごし方②：施設利用・事務手続き等 (目標 2) 5. カリキュラムの理解①：デザインフィールド (目標 1,2) 6. カリキュラムの理解②：音楽フィールド (目標 1,2) 7. カリキュラムの理解③：ビジネスフィールド (目標 1,2) 8. 情報の活用①：図書館、パソコン室 (目標 3) 9. レポートの書き方 (目標 3) 10. デザイン・ビジネス・音楽に関わる調査 (目標 3) 課題研究 11. 良いプレゼンテーションとは (目標 3) 12. 伝わる話し方 (目標 3) 13. プレゼンテーション資料の作成 (目標 3) 14. 大学の学びを仕事に繋げる (調査) (目標 1,4) 課題研究 15. 大学の学びを仕事に繋げる (発表) (目標 1,4) 					
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション					
成績評価基準	①授業内レポート、グループ内での発言 (50%)：関心・意欲を測定 ②課題レポート (50%)：思考・判断、技能・表現を測定					
フィードバックの方法	講義中での発言やレポート等に適宜コメントを行う。					
時間外の学習について	予習：配布資料の理解 (90分) 復習：課題レポート (90分)					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：必要な資料を随時配布					
担当者からのメッセージ等実務経験について	芸術表現学科での学びを仕事に繋げるイメージを育み、主体的に学んでいきましょう					

科目名	社会人基礎 (2単位)	講義	芸術表現学科	1年前期	担当者	原田 剛 尾崎 敬子
ナンバリングコード	JA-S162-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	働く意義を理解し、社会人として求められる基本的な知識やマナーを身につける。					
授業の概要	人生100年時代のキャリアデザインについて考え、ビジネスの現場で必要とされる基本的な知識やマナーを学び、実践できる力を身につける。					
達成目標	学修成果：社会人基礎力、社会貢献、専門分野の基礎的知識、専門分野の基礎的技能	科目DP：a				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 働く意義を理解し、就職活動に意欲的に取り組む。		◎	○		
	2. 社会人としての基本的な知識やマナーを身につける。			◎		◎
3. グローバルな視野で様々な課題について考え、社会の一員として課題解決に向け取り組む。		○			◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. キャリアデザインとは（目標1） 2. 100年時代の人生戦略（目標1） 3. ビジネス社会の常識①（働く意義）（目標1） 4. ビジネス社会の常識②（ビジネス社会での人間関係）（目標1,2） 5. 仕事をするための基礎知識①（基本的な知識）（目標1,2） 6. 仕事をするための基礎知識②（仕事の進め方）（目標1,2） 7. ビジネスマナーの基本①（コミュニケーション）（目標1,2） 8. ビジネスマナーの基本②（敬語）（目標1,2） 9. ビジネスマナーの基本③（禅話、接客）（目標1,2） 10. ビジネスマナーの基本④（冠婚葬祭）（目標1,2） 11. ビジネス文書の基本①（ビジネス文書とは）（目標1,2） 12. ビジネス文書の基本②（ビジネス文書の作成）（目標1,2） 13. ビジネスとリーダーシップ（目標1,2） 14. SDGsとビジネス（目標3） 15. まとめ、（目標1,2,3） ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、課題解決学習					
成績評価基準	①定期試験（50%）：定期考査 知識・理解の測定 ②宿題・授業外レポート（30%）：関心・意欲及び知識・理解の測定 ③授業態度・授業への参加度（20%）：関心・意欲及び態度の測定					
フィードバックの方法	宿題・授業外レポートについては、毎回授業の最初に解説します。					
時間外の学習について	予習：事前にテキストを読んで要点をまとめ、疑問点を書き出しておく。 各回90分程度 復習：授業内容についてレポートを作成し、提出する。基本的なマナーを繰り返し練習する。 各回90分程度予習					
教材にかかわる情報	テキスト：『ビジネスマナー』青木テル著（早稲田教育出版） 参考書：『LIFE SHIFT』リンダ・グラットン、アンドリュース・スロット著（東洋経済新報社） 参考資料：新聞記事等関連する資料を配布					
担当者からのメッセージ等実務経験について	ビジネスの基本的な知識、マナーがいつでも、どこでもすぐ実践できるように、反復練習し自分のものとしてしっかり身につけてください。事上磨練が大切です。					

科目名	キャリアデザイン (2単位)	講義	芸術表現学科	1年 後期	担当者	赤瀬 洋司
ナンバリングコード	JA-S163-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	<p>いろんな角度から自己分析をして自らの適正を知る。 多様な働き方を理解し、適切な勤労観・職業観をもって、将来こうありたいという自分(目標)を描く。 そして、その目標達成までのキャリアステップを考える。</p>					
授業の概要	<p>自己分析にもとづいて、自分のよさを生かす生き方を考える。 「働く」ことについて多角的に学び、自分に相応しい職業を選択する力を身に付ける。 自分らしい生き方を追求し、自らのキャリアデザインを作成する。 社会人としての基礎的なマナーやコミュニケーション能力を身に付ける。</p>					
達成目標	学修成果：コミュニケーション能力、専門分野の基礎的技能、社会人基礎力					科目DP：a
		DP記号	a	b	c	d
	1. 自己理解を深め、自らの適性を生かした働き方を考える。		◎			○
	2. 「働く」ことについて多角的に考え、就職活動へのモチベーションを高める。		◎			
	3. 企業や業界に関する情報を収集・分析して、自らの進路選択に生かす。		◎		○	
4. 豊かな人生を送るために必要な情報を収集し、キャリアデザインを描く。		◎	○			
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> キャリアデザインとは (目標 1,4) 自分探し～自分史の作成 (目標 1) 自己分析Ⅰ～自分の才能を見つける「ジョハリの窓」 (目標 1) 自己分析Ⅱ～グループディスカッション (目標 1,2) 自己分析Ⅲ～適正調査「ホルランドの理論」 (目標 1,2) 仕事の選び方～職業適性を知る (目標 2,3) 「働く」ということ (目標 2) 地元で働く～山口県で働く魅力 (目標 2,3) 業界・企業研究～情報の収集と分析 (目標 2,3) 企業が求める人材とはⅠ (目標 2,3) 企業が求める人材とはⅡ (目標 2,3) キャリアデザイン作成 (目標 1,2,3,4) 就職活動に向けて～社会人マナー、エントリーシートや履歴書の書き方 (目標 1,2,3,4) 面接での自己アピールのポイント (目標 1,2,3,4) まとめ (目標 1,2,3,4) 					
アクティブ・ラーニング	課題解決学習、ディスカッション、グループワーク					
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> ①演習 (20%)：知識・理解、関心・意欲 ②授業態度 (20%)：関心・意欲、思考・判断 ③授業内レポート (20%)：思考・判断、技能表現 ④課題 (宿題) レポート (40%)：思考・判断、技能表現 					
フィードバックの方法	<p>授業での発言やグループワーク等に対して、適宜アドバイスを行う。 課題レポートにコメントをつけて返却する。 授業アンケートをもとに適宜改善に努める。</p>					
時間外の学習について	<p>予習：授業テーマに関して、書籍やインターネットで情報収集を行う。(各回90分程度) 復習：宿題の課題レポートを作成する。(各回90分程度)</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト：就職ガイドブック、プリント配付 参考書：特に指定しないが、図書館や就職支援室に配架の関連書籍を活用 参考資料：プリント配付</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について	<p>明るい未来に向けて、自分を見つめ直し、「人生の方向」をデザインしましょう。</p>					

科目名	キャリア実践演習 (1単位)	演習	芸術表現学科	2年前期	担当者	原田 剛 (単独)
ナンバリングコード	JA-S261-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	社会人・職業人として必要な知識や技術について学び、実践できる力を習得する。人生100年時代について考え、自己のキャリア形成を図る。					
授業の概要	変化する労働環境について考察し、その中で求められる知識や技術を学ぶ。また、人生100年時代の生き方・働き方について考察する。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的知識、専門分野の基礎的技能、社会人基礎力	科目DP：a				
		DP記号	a	b	c	d
	1. グローバル化やテレワークなど変化する労働環境について理解する。		○	○		○
	2. 職場で求められる知識や技術、実践力を身につける。			◎		◎
	3. 100年時代のライフプランが描ける。		◎			
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. グローバル企業とローカル企業（目標1） 2. SDGsと企業（目標1） 3. 論理的思考力（目標2） 4. コミュニケーション力（目標2） 5. 仮説構築力（目標2） 6. 情報収集力（目標2） 7. データ・情報分析力（目標2） 8. 次のうち手を考える力（目標2） 9. プレゼンテーション力（目標2） 10. 周囲を巻き込む力（目標2） 11. チームを作る力（目標2） 12. 志を育てる力（目標2） 13. 自分を知る（目標3） 14. 人生100年時代の生き方（目標1, 2, 3） 15. 私のライフプラン（目標1, 2, 3）					
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション					
成績評価基準	①課題レポート（50%）：知識・理解の測定 ②宿題・授業外レポート（30%）：関心・意欲及び知識・理解の測定 ③授業態度・演習（20%）：関心・意欲及び態度の測定					
フィードバックの方法	宿題・授業外レポートは、毎回返却し解説します。					
時間外の学習について	予習：演習内容について事前にテキストを読んでおくこと 各回45分程度 復習：宿題・授業外レポートを提出すること 各回45分程度					
教材にかかわる情報	テキスト：『クロービス流ビジネス基礎力10』 田久保善彦/荒木博行/鈴木健一/村上佳子（東洋経済新報社） 参考書：特になし 参考資料：『なぜローカル経済から日本は甦るのか』 富山和彦（PHP新書）					
担当者からのメッセージ等実務経験について	人生100年の生き方・働き方について考え、これからの人生を主体的に切り拓いていくことができ力を身につけてください。					

科目名	日本語の文章表現 (1単位)	演習	芸術表現学科	1年前期	担当者	久保田 京子 (単独)
ナンバリングコード	JA-S164-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	社会生活におけるより良いコミュニケーション(「読む」「聞く」「書く」「話す」)、日本語の正しい表現力・語彙力の習得					
授業の概要	コミュニケーション力の基礎となる「言語表現力」を養い、演習や発表を通して、「正しく魅力的な日本語表現の基礎力」を身につける。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、コミュニケーション能力、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：b				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 基礎的な語彙力を身につけ、文章を正しく読解し、また書くことによる表現ができる。			◎		
	2. 事実や自分の意見を文章や口頭で正しく表現し、伝えることができる。			◎		○
	3. 他者の会話を正しく聞き取り、理解し、整理することができる。		○	◎		
4. 日常生活において、他者に敬意を表することの意味を考慮し、適正な言語表現ができる。			◎	○		
5. 文書検定等に対応する基礎力を身につける。		○		◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ(状況により、遠隔授業を併用することもある)					
授業計画	1 日本語を取り巻く様々なコミュニケーション	(目標 1,2,3,4)				
	2 自己紹介Ⅰ・四字熟語・ことわざ・慣用句Ⅰ	(目標 1,2,3)				
	3 自己紹介Ⅱ・四字熟語・ことわざ・慣用句Ⅱ	(目標 1,2,3)				
	4 漢字の使い分けや表記、難解漢字の読み方	(目標 1,2)				
	5 「書く」ために必要な知識 ①アカデミックワードと日常語	(目標 1,2)				
	6 「書く」ために必要な知識 ②語彙を増やす、表記法	(目標 1,2)				
	7 「書く」ために必要な知識 ③目的に応じた文章の書き方	(目標 1,2)				
	8 「書く」ために必要な知識 ④目的に応じた表現の実践・演習	(目標 1,2)				
	9 「わかりやすく正しい」日本語表現の実践 ①実際の文章の修正(演習)	(目標 1,2,3)				
	10 「わかりやすく正しい」日本語表現の実践 ②文章構成の問題点(演習)	(目標 1,2,3)				
	11 他已紹介Ⅰ・敬語の基本ルール	(目標 1,2,3,4)				
	12 他已紹介Ⅱ・敬語の基礎・演習	(目標 1,2,3,4)				
	13 「レポート」を書く ①形式と表現、作成の準備、②情報の活用(演習)	(目標 1,2,3,5)				
	14 文書検定等への基礎演習	(目標 1,2,3,4,5)				
	15 日本語表現の総まとめ	(目標 1,2,3,4,5)				
	※毎回、講義のはじめに「季節を味わう短歌・俳句・詩」というテーマで事前提出したレポートを発表する。 ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイ					
成績評価基準	①定期試験(50%)：テキストの練習問題が解ける。 ②小テスト・宿題(20%)：出典を明らかにしたレポートが書ける。 ③授業態度・参加度(20%)：主体的な学習活動ができる。 ④演習(10%)：面接試験に対応できる自己紹介等ができる。					
フィードバックの方法	毎時、配布プリントの添削をし、個々の課題や良さを伝え、検定等へのチャレンジにつなげる。					
時間外の学習について	予習：テキストの課題について、事前調べ学習(各回60分程度) 復習：授業後の配布プリントをまとめる。(各回50分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：「大学生のための日本語表現実践ノート」米田明美・蔵中さやか・山上登志日著 風間書房 参考書：特になし 参考資料：毎時、授業プリント配布(ポートフォリオとして、振り返りに活用)					
担当者からのメッセージ等実務経験について	「書く」「話す」実践を積み重ねながら、語彙力の向上と自分の考えを明確に伝える方法を身につけましょう。また「読む」「聞く」経験も重ね、他者に思いやりと敬意を伝える表現力も習得しましょう。					

科 目 名	日本語の音声表現 (1単位)	演習	芸術表現学科	1年 後期	担当者	小林 洋子 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S165-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授業のテーマ	言葉は自分を映す鏡である。正しく美しい日本語を話すための基本を学び、社会人として相応しいコミュニケーション能力を高める。また、自分の考えや思いを相手にわかりやすくプレゼンテーションできるようにする。					
授業の概要	言葉は目的を伝えると同時に、人格や個性を通して伝わる。相手に伝えるために重要な音声表現について学ぶ。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、コミュニケーション能力、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP：b
						DP記号
	1. 音声としての日本語を理解する。					a
	2. 言語と非言語における表現を理解する。					b
	3. 対人コミュニケーションにおける適切な表現を身につける。					c
	4. わかりやすく伝えるために、話を構成する力を身につける。					d
	5. 自分の言葉で自己表現ができる力を身につける。					
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 「あいさつ」と第一印象の重要性（ビジネス実務マナー検定対応）（目標 1,2,3） 音声をつくる母音と子音を理解する（目標 1） 日本語「書きことば」文字のことば、「話しことば」音のことばの特性（目標 1,2） 敬語の使い方（ビジネス実務マナー検定対応）（目標 3） 電話応対時の話し方（ビジネス実務マナー検定対応）（目標 3） わかりやすく話す（目標 3,4） 話し言葉の基は発声、音声、滑舌が関わっている（目標 1） ナレーションに学ぶ表現力（目標 1,2,5） プレゼンターを研究する（目標 2,4） 人前で話す 基本（目標 4,5） 人前で話す 実践（目標 4,5） 総合演習①（目標 4,5） 総合演習②（目標 4,5） プレゼンテーション①（目標 4,5） プレゼンテーション②（目標 4,5） 					
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション					
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> ①授業態度（40%）：授業態度により関心、意欲を測定 ②レポート（30%）：授業内レポートにより思考・理解を測定 ③プレゼンテーション（30%）：プレゼンテーションによる技能・表現を測定 					
フィードバックの方法	寸評は実技直後、採点後（記述、レポート）は返却します。					
時間外の学習について	<p>予習：コミュニケーションやプレゼンテーションに活かすために日常のできごとに関心を持ち、考察する。（各回45分）</p> <p>復習：作成したテキストを基に授業を振り返り、練習する。（各回45分）</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト：プリント配布</p> <p>参考書：特になし</p> <p>参考資料：特になし</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について	実践を通して、基本であり重要なスキルである表現力を身につけましょう。					

科目名	ビジネス文書 (2単位)	講義	芸術表現学科	1年 後期	担当者	久保田 京子 (単独)
ナンバリングコード	JA-S166-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	ビジネス文書の基礎、ビジネス文書作成の知識と技術、ビジネス文書作成の実践、文書検定演習					
授業の概要	ビジネス文書の表現や形式の基礎を身につけ、電子メールや社交文書、社内文書など様々な文書の定型の習得を通し、文書検定等に対応する力を身につけ、社会人としてのスキルアップを図る。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的知識、コミュニケーション能力、 専門分野の基礎的技能、社会人基礎力					科目DP：c
		DP記号	a	b	c	d
	1. ビジネス文書に必要な用語、慣用的表現、敬語などの基礎知識が身についている。		○	◎		
	2. 手紙文、電子メール、メモなどの一般文書の作成ができる。			◎	○	
	3. ビジネス文書の種類や専門用語について学び、社内文書を作成することができる。				◎	
4. 通知・案内文、依頼文、社交文書等の社外文書の定型を演習を通して習得する。				◎		
5. 文書検定等に対応する力をつけ、めざす級の検定にチャレンジできる。		◎			○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ（状況により、遠隔授業を併用することもある）					
授業計画	1. ビジネス文書の基礎 (1) 文の構成、仮名遣い、慣用句等 (目標 1)					
	2. ビジネス文書の基礎 (2) わかりやすい文、要約、レポート (目標 1)					
	3. ビジネス文書に用いる敬語 (目標 1)					
	4. 就職活動に必要な手紙の形式と書き方 (目標 1,2)					
	5. 就職活動に必要な礼状、送付状 (目標 1,2)					
	6. 電子メールのルール、メモの取り方 (目標 2)					
	7. 社内文書の基本と社外文書 (目標 3)					
	8. 社交文書の基本 (目標 2,3,4)					
	9. ビジネス文書の書き方 (1) 通知文、案内文 (目標 3,4)					
	10. ビジネス文書の書き方 (2) 依頼文、照会文、回答文 (目標 3,4)					
	11. ビジネス文書の書き方 (3) 復命書、報告書 (目標 3,4)					
	12. 文書作成のまとめ (目標 1,2,3,4)					
	13. 文書作成演習 (1) (目標 1,2,3,4,5)					
	14. 文書作成演習 (2) (目標 1,2,3,4,5)					
	15. ビジネス用語とマナー (目標 1,2,5)					
※毎回、講義のはじめに、「大切にしている日本語」というテーマで事前提出したレポートを発表する。						
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション					
成績評価基準	①提出物・課題 (30%)：毎時間の演習課題が解ける。 ②復習テスト (30%)：授業で学んだ知識の活用をし、ビジネス文書の作成ができる。 ③発表・演習 (20%)：レポートの発表や検定問題等の演習が積極的に行われる。 ④授業態度・参加度 (20%)：学習活動や演習に積極的かつ主体的に取り組むことができる。					
フィードバックの方法	毎時、配布プリントの添削をし、個々の課題や良さを伝え、検定や就職活動に生かすように伝える。					
時間外の学習について	予習：テキスト課題について、事前調べ学習 (90分) 復習：授業のまとめと演習プリント実施 (90分)					
教材にかかわる情報	テキスト：「ビジネス文書実務 改訂版」石井典子・三村善美 著 早稲田教育出版 「ビジネス文書検定 実問題集 3級」実務技能検定協会 早稲田教育出版 参考書：特になし 参考資料等：毎時、授業プリント配布					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	前期に学習した「日本語の文章表現」を発展させ、ビジネス現場に必要な各種文書の表現と形式を身につけ、検定を受検する力を養いましょう。授業プリントはポートフォリオとして振り返りに活用しましょう。					

科 目 名	情報処理 (2単位)	講義	芸術表現学科	1年 前期	担当者	長田 和美 澄重 成記 (複数)
ナンバリングコード	JA-S167-000					
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授業のテーマ	社会人に必要なパソコンスキルや情報技術に関する知識を修得し、質の高いビジネス文書やプレゼンテーション資料を作成する力を身につける。					
授業の概要	情報技術等に関する基礎的な知識、レポートや発表資料の作成に関わるパソコンスキルを習得する。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的知識、専門分野の基礎的技能、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. コンピュータの仕組みや基本操作、Society5.0時代に求められる情報活用能力について理解する				◎	
	2. Office365の使い方を修得する				◎	
	3. インターネット・メールに関する基礎知識とマナーを修得する				◎	
	4. MS PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成ができる				◎	○
5. MS Wordによるビジネス文書の作成ができる				◎	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. 「情報処理」を学ぶ意義 (目標 1) 2. コンピュータの仕組み、Windowsの基本操作 (目標 1) 3. Office365の使い方 (1) (目標 2) 4. Office365の使い方 (2) (目標 2) 5. インターネットとメール (目標 3) 6. MS PowerPointによるプレゼンテーション資料作成の基礎 (1) (目標 4) 7. MS PowerPointによるプレゼンテーション資料作成の基礎 (2) (目標 4) 8. MS PowerPointによるプレゼンテーション資料作成の基礎 (3) (目標 4) 9. MS PowerPointによるプレゼンテーション資料作成の基礎 (4) (目標 4) 10. プレゼンテーション (グループワーク) (目標 4) 11. MS Wordによるビジネス文書作成の基礎 (1) (目標 5) 12. MS Wordによるビジネス文書作成の基礎 (2) (目標 5) 13. MS Wordによるビジネス文書作成の基礎 (3) (目標 5) 14. MS Wordによるビジネス文書作成の基礎 (4) (目標 5) 15. Society5.0時代に求められる情報活用 (目標 1) ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング						
成績評価基準	①授業内レポート (20%)：態度・意欲を測定 ②制作課題 (30%)：態度・意欲、知識の習得度、理解度を測定 ③小テスト (25%)：知識の習得度、理解度を測定 ④定期試験 (25%)：知識の習得度、理解度を測定					
フィードバックの方法	レポートや小テストの返却時にコメントをフィードバックする。					
時間外の学習について	予習：テキストの該当箇所を読んでおく。各回90分程度 復習：授業内容に即した課題 (宿題) を課す。各回90分程度					
教材にかかわる情報	テキスト：よくわかるマスター日商PC検定試験 文書作成 3級 公式テキスト&問題集Word 2019/2016対応 参考書：特になし 参考資料：適宜配布する					
担当者からのメッセージ等実務経験について						

科目名	情報処理演習 I (1単位)	演習	芸術表現学科	1年 後期	担当者	長田 和美 澄重 成記 (複数)-
ナンバリングコード	JA-S168-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	社会人に必要なパソコンスキルや情報技術に関する知識を修得し、質の高いビジネス文書やプレゼンテーション資料を作成する力を身につける。					
授業の概要	情報技術等に関する基礎的な知識、ビジネス文書やデータ整理・分析に関わるパソコンスキルを習得する。					
達成目標	学習成果：専門分野の基礎的知識、専門分野の基礎的技能、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. MS Excelの活用方法や、Society5.0時代に求められる情報活用能力について理解する				◎	○
	2. 分かりやすいビジネス文書について理解する			◎		
	3. MS Excelによる基本的な計算処理、データ管理について理解する			◎		
	4. MS Excelによる表作成ができる			◎	○	
	5. MS Excelによるデータ集計、グラフ作成ができる			◎	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. 「情報処理演習 I」を学ぶ意義 (目標 1) 2. わかりやすいビジネス文書とは？(1) (目標 2) 3. わかりやすいビジネス文書とは？(2) (目標 2) 4. MS Excelによる基本的な計算処理 (1) (目標 3) 5. MS Excelによる基本的な計算処理 (2) (目標 3) 6. MS Excelによるデータ管理 (目標 3) 7. MS Excelによる表作成 (1) (目標 4) 8. MS Excelによる表作成 (2) (目標 4) 9. MS Excelによるデータ集計 (1) (目標 5) 10. MS Excelによるデータ集計 (2) (目標 5) 11. MS Excelによるデータ集計 (3) (目標 5) 12. MS Excelによるグラフ作成 (1) (目標 5) 13. MS Excelによるグラフ作成 (2) (目標 5) 14. 応用課題 (目標 5) 15. Society5.0時代に求められる情報活用 (目標 1) ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング						
成績評価基準	①授業内レポート (20%)：態度・意欲を測定 ②制作課題 (30%)：態度・意欲、知識の習得度、理解度を測定 ③小テスト (25%)：知識の習得度、理解度を測定 ④定期試験 (25%)：知識の習得度、理解度を測定					
フィードバックの方法	レポートや小テストの返却時にコメントをフィードバックする。					
時間外の学習について	予習：テキストの該当箇所を読んでおく。各回45分程度 復習：授業内容に即した課題 (宿題) を課す。各回45分程度					
教材にかかわる情報	テキスト：よくわかるマスター日商PC検定試験 データ活用 3級 公式テキスト&問題集Excel 2019/2016対応 参考書：特になし 参考資料：適宜配布する					
担当者からのメッセージ等実務経験について						

科目名	情報処理演習Ⅱ (1単位)	演習	芸術表現学科	2年前期	担当者	長田 和美 澄重 成記 (複数)
ナンバリングコード	JA-S262-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系 列						
授業のテーマ	社会人に必要なパソコンスキルや情報技術に関する知識を修得し、質の高いビジネス文書やプレゼンテーション資料を作成する力を身につける。					
授業の概要	情報技術等に関する基礎的な知識、ビジネス文書やデータ整理・分析、プレゼンテーション関わるパソコンスキルを習得する。					
達成目標	学習成果：専門分野の基礎的知識、専門分野の基礎的技能、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. MS PowerPointの活用方法や、Society5.0時代に求められる情報活用能力について理解する				◎	○
	2. 伝わるデザインについて理解する				◎	
	3. MS PowerPointによるフライヤー・ポスター作成ができる				◎	○
	4. MS PowerPointによる発表資料の作成				◎	○
	5. 効果的なプレゼンテーションができる				◎	○
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. 「情報処理演習Ⅱ」を学ぶ意義 (目標1) 2. 伝わるデザインとは？(1) (目標2) 3. 伝わるデザインとは？(2) (目標2) 4. MS PowerPointによるフライヤー作成 (1) (目標3) 5. MS PowerPointによるフライヤー作成 (2) (目標3) 6. MS PowerPointによるフライヤー作成 (3) (目標3) 7. MS PowerPointによるポスター作成 (1) (目標3) 8. MS PowerPointによるポスター作成 (2) (目標3) 9. MS PowerPointによるポスター作成 (3) (目標3) 10. ポスターを活用したプレゼンテーション (目標5) 11. MS PowerPointによる発表資料の作成 (1) (目標4) 12. MS PowerPointによる発表資料の作成 (2) (目標4) 13. MS PowerPointによる発表資料の作成 (3) (目標4) 14. プレゼンテーション (目標5) 15. Society5.0時代に求められる情報活用 (目標1) ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング						
成績評価基準	①授業内レポート (20%)：態度・意欲を測定 ②制作課題 (30%)：態度・意欲、知識の習得度、理解度を測定 ②小テスト (25%)：知識の習得度、理解度を測定 ③定期試験 (25%)：知識の習得度、理解度を測定					
フィードバックの方法	レポートや小テストの返却時にコメントをフィードバックする。					
時間外の学習について	予習：テキストの該当箇所を読んでおく。各45分程度 復習：授業内容に即した課題(宿題)を課す。各回45分程度					
教材にかかわる情報	テキスト：日商PC検定試験 プレゼン資料作成 3級 公式テキスト&問題集PowerPoint 2013対応 参考書：特になし 参考資料：特になし					
担当者からのメッセージ等実務経験について						

科目名	情報基礎 (2単位)	講義	芸術表現学科	1年後期	担当者	天満誠也 (単独)
ナンバリングコード	JA-S169-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	コンピュータの基礎を理解する。					
授業の概要	デジタル技術の歴史を通して、時代の変化と技術革新の流れや製品事例を知り、時代の変化に適応した新しい製品やサービスを発案する力につなげる。コンピュータやネットワークの仕組みを理解し、情報活用能力を高める。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的知識、専門分野の基礎的技能、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. コンピュータやデジタルメディアの歴史を通して、時代の変化と技術革新の流れを理解する				◎	
	2. コンピュータの動作原理や仕組みを理解する				◎	
	3. コンピュータの数値表現や言語を理解する				◎	
	4. ネットワークの仕組みを理解する				◎	
5. コンピュータに求められる機能性を理解する				◎	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. ガイダンス (目標 1) 2. コンピュータ・デジタルメディアの歴史 (目標 1) 3. コンピュータの動作原理 (目標 2) 4. コンピュータの基礎：ハードウェア (1) (目標 2) 5. コンピュータの基礎：ハードウェア (2) (目標 2) 6. コンピュータの基礎：OSとソフトウェア (目標 2) 7. マルチメディアと標準形式 (目標 2) 8. 情報の表現と論理演算 (1) (目標 3) 9. 情報の表現と論理演算 (2) (目標 3) 10. プログラミング言語 (目標 3) 11. ネットワークの仕組み (目標 4) 12. インターネットと通信サービス (目標 4) 13. ネットワークセキュリティ (目標 4) 14. ヒューマンインターフェース、信頼性 (目標 5) 15. コンピュータの操作性 (目標 5) ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング	ペアワーク					
成績評価基準	①小レポート (20%)：態度・意欲を測定 ②小テスト (30%)：知識の習得度、理解度を測定 ③定期試験 (50%)：知識の習得度、理解度を測定					
フィードバックの方法	小テストや小レポートに関するコメント返却、やり直しを通して、理解度の向上を図る。					
時間外の学習について	予習：次回講義内容について調べる。各回90分程度 復習：授業内容に即した課題を課す。各回90分程度					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：適宜配布する					
担当者からのメッセージ等実務経験について						

科目名	プログラミング入門 (1単位)	演習	芸術表現学科	2年 前期	担当者	澄重 成記 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S263-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	幼稚園教諭		
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	プログラミングを学ぶことにより、論理的思考力を身につける。					
授業の概要	グラフィカルプログラム言語・Scratchを用いてゲームや音楽を制作します。作品制作やプレゼンテーションを通して、論理的思考力を身につけます。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP：c
		DP記号	a	b	c	d
	1. プログラミングの考え方を習得する。				◎	
	2. ゲーム制作手法を習得する。				◎	○
	3. 音楽制作手法を習得する。				◎	○
4. 作品コンセプトなど各自の言葉で紹介できる。				○	◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. グラフィカルプログラム言語・Scratchの紹介 (目標1) 2. 座標の概念 (目標1) 3. キャラクターを動かす (目標1,2) 4. キャラクターを作る (目標1,2) 5. 背景について (目標1,2) 6. 音の出し方 (目標1,3) 7. 音のつなげ方 (目標1,3) 8. 音楽を作る (目標1,3) 9. ゲームのストーリー制作 (目標1,2,3) 10. ゲーム制作1 (目標1,2,3) 11. ゲームストーリーの再考 (目標1,2,3) 12. ゲーム制作2 (目標1,2,3) 13. ゲーム制作3 (目標1,2,3) 14. プレゼンテーション1 (目標3) 15. プレゼンテーション2 (目標3)					
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション					
成績評価基準	①小レポート(20%)：態度・意欲を測定 ②小テスト(30%)：知識の習得度、理解度を測定 ③定期試験(50%)：知識の習得度、理解度を測定					
フィードバックの方法	課題内容について個別に評価し、習熟度などを教員・受講生で共有する。					
時間外の学習について	予習：次回講義内容について調べる。各回45分程度 復習：授業内容に即した課題を課す。各回45分程度					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：適宜配布する					
担当者からのメッセージ等実務経験について	作品作りを通して、論理的思考力を身につけましょう。					

科目名	プログラミング演習 (1単位)	演習	芸術表現学科	2年 後期	担当者	澄重 成記 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S264-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	プログラミングを学ぶことにより、論理的思考力を身につける。					
授業の概要	C言語を用いて、アルゴリズムとデータ構造の考え方を習得します。それらを通して論理的思考力を身につけます。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. プログラミングの考え方を習得する。			◎		
	2. アルゴリズムの考え方を習得する。			◎	○	
3. プログラミングを通して論理的思考力を身につける。			◎	○		
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. C言語について (目標 1) 2. C言語1：入出力 (目標 1) 3. C言語2：繰り返し操作 (目標 1) 4. C言語3：条件判定 (目標 1) 5. C言語4：配列とポインタ (目標 1) 6. アルゴリズムとデータ構造の関係 (目標 1,2,3) 7. アルゴリズムの表現方法 (目標 1,2,3) 8. プログラム流れ図の基本構造 (目標 1,2,3) 9. 配列とは (目標 1,2,3) 10. 探索アルゴリズム (目標 1,2,3) 11. 整列アルゴリズム1：基本選択法 (目標 1,2,3)) 12. 整列アルゴリズム2：基本交換法 (目標 1,2,3) 13. 整列アルゴリズム3：バブルソート (目標 1,2,3) 14. 文字列操作1：文字列の探索 (目標 1,2,3) 15. 文字列操作2：文字列の置換 (目標 1,2,3) ◎定期試験					
	アクティブ・ラーニング					
成績評価基準	①小レポート (20%)：態度・意欲を測定 ②小テスト (30%)：知識の習得度、理解度を測定 ③定期試験 (50%)：知識の習得度、理解度を測定					
フィードバックの方法	課題内容について個別に評価し、習熟度などを教員・受講生で共有する。					
時間外の学習について	予習：次回講義内容について調べる。各回45分程度 復習：授業内容に即した課題を課す。各回45分程度					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：適宜配布する					
担当者からのメッセージ等実務経験について	プログラミングを通して、論理的思考力を身につけましょう。					

科目名	簿記基礎理論 (2単位)	講義	芸術表現学科	1年前期	担当者	山本 貴司 (単独)		
ナンバリングコード	JA-S170-000							
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭		
科目								
各科目に含めることが必要な事項								
教科目								
系列								
授業のテーマ	ビジネス現場で発生した取引を正確に帳簿に記録・計算・整理し報告するためのツールとして欠かせない簿記。その歴史やしくみを理解し、簿記の基礎的技術の確実な修得を図る。また、特殊な取引における会計処理技法の修得を目指す。ビジネス現場に即戦力として意欲的・主体的に参加し積極的に貢献できる能力を身につける。							
授業の概要	簿記の歴史と基本的なしくみについて学ぶ。 ビジネス現場で日常的に発生する取引を、簿記のしくみを使って帳簿に記録・計算・整理する技法を身につける。特殊な取引を記録・計算・整理する技法を身につける。							
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的知識、専門分野の基礎的技術、社会人基礎力						科目DP：c	
		DP記号	a	b	c	d		
	1. 簿記が発達した歴史的経緯やそのしくみから、簿記の意義や役割を理解できる。		◎		○			
	2. 簿記上の取引を記録する方法が理解でき、その技法が身につく。				◎			
	3. 簿記上の取引を計算する方法が理解でき、その技法が身につく。				◎	○		
4. 特殊な取引事例を記録・計算する方法が理解でき、その技法が身につく。				◎	○			
履修条件・注意事項	後期開講の「簿記演習」と継続して履修することが望ましい。 授業の実施方法：①面接授業のみ							
授業計画	I 簿記 1. 企業の目的と簿記の歴史、意義・役割について (目標 1) 2. 単式簿記と複式簿記及びそのしくみについて (目標 1) 3. 企業取引と簿記上の取引 (目標 1,2) II 商品売買 4. 三分法と分記法 (目標 2) 5. 掛け取引の処理 (目標 2) 6. 商品売買の処理 (目標 2) 7. 現金、当座預金、小口現金の処理 (目標 2,3) III 手形取引 8. 約束手形の処理 (目標 2,3) 9. 為替手形の処理 (目標 2,3) 10. 手形の裏書きと割引の処理 (目標 2,3) IV 有価証券・固定資産取引 11. 有価証券の処理 (目標 2,3) 12. 固定資産の処理 (目標 2,3) V その他、特殊取引 13. 特殊取引の処理 (目標 4) 14. 特殊取引の処理 (目標 4) 15. 取引の帳簿への記録・計算について (目標 2,3,4) ◎定期試験							
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク							
成績評価基準	①定期試験 (60%)：資格試験レベルの基礎的な問題に回答できる ②小テスト (10%)：単元ごとの基礎的な問題に回答できる ③宿題 (20%)：本時限に扱った内容を宿題とし、次時に提出する ④授業態度・授業への参加度 (10%)：積極的な質疑、例題・課題等への意欲的な取組姿勢を測定							
フィードバックの方法	毎時間、小テストや宿題への解答を示し、併せて習熟度や気づきをコメントする。							
時間外の学習について	予習：市販の簿記教科書・問題集の予習。(90分程度) 復習：授業内容の復習、宿題 (90分程度)							
教材にかかわる情報	テキスト：超スピード合格！日商簿記3級 テキスト&問題集 第5版 参考書：日本商工会議所主催の簿記検定問題集、電卓 (授業で指示) 参考資料：なし							
担当者からのメッセージ等 実務経験について	基礎からのスタートとなります、問題集等により発展的な自学が可能。積極的に日本商工会議所主催の「簿記」検定試験に挑戦してくれることを期待します。できれば後期開講の「簿記演習」を継続して学び日商簿記検定3級に合格しましょう。							

科目名	簿記演習 (1単位)	演習	芸術表現学科	1年 後期	担当者	山本 貴司 (単独)					
ナンバリングコード	JA-S171-000										
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭					
科目											
各科目に含めることが必要な事項											
教科目											
系 列											
授業のテーマ	簿記上の取引を各種帳簿に記入する要領及び伝票会計の処理について理解し、その技法を身につける。また、決算手続きから財務諸表作成までの一連の流れを演習を通して体系的に学ぶ。簿記実務能力の確かな修得を図り、ビジネス分野に即戦力として意欲的・主体的に参加し積極的に貢献できる能力を身につける。										
授業の概要	各種帳簿、そのしくみと役割及び記入方法について学ぶ。 伝票会計のしくみと処理の方法について学ぶ。 決算手続きとその意味、財務諸表作成について学ぶ。										
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的知識、専門分野の基礎的技能、社会人基礎力						科目DP：c				
							DP記号	a	b	c	d
	1. 企業での各種帳簿の意義と役割及び記入方法が理解でき、その技法が身につく。							○		◎	
	2. 伝票起票の処理について理解でき、その技法が身につく。									◎	
	3. 企業における決算の意味及び決算手続きについて理解でき、その技法が身につく。									◎	○
4. 財務諸表が作成でき、各種帳簿を締め切ることができる。									◎	○	
履修条件・注意事項	前期開講の「簿記基礎理論」に継続した内容となる。 授業の実施方法：①面接授業のみ										
授業計画	I 帳簿組織 1. 取引、仕訳、元帳、帳簿組織の意義・役割について (目標 1) 2. 現金出納帳、当座預金出納帳への記帳・演習 (目標 1) 3. 仕入帳、売上帳、手形記入帳への記帳・演習 (目標 1) 4. 元帳、商品有高帳 (先入先出法) への記帳・演習 (目標 1) 5. 商品有高帳 (移動平均法) への記帳・演習 (目標 1) II 伝票会計 6. 伝票会計 (3伝票・5伝票) のしくみと起票と処理・演習 (目標 2) III 試算表 7. 合計試算表の作成 (目標 3) 8. 合計残高試算表の作成と決算整理 (目標 3) 9. 決算整理 (目標 3) IV 決算 10. 決算手続き (目標 3) 11. 精算表の作成要領 (目標 3,4) 12. 精算表の作成・演習 (目標 3,4) 13. 財務諸表の作成 (貸借対照表) (目標 3,4) 14. 財務諸表の作成 (損益計算書) (目標 3,4) 15. 各種帳簿・勘定の締め切り (目標 1,3,4) ◎定期試験										
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク										
成績評価基準	①定期試験 (60%)：資格試験レベルの基礎的な問題に回答できる ②小テスト (10%)：単元ごとの基礎的な問題に回答できる ③宿題 (20%)：本時限に扱った内容を宿題とし、次時提出する ④授業態度・授業への参加度 (10%)：積極的な質疑、例題・課題等への意欲的な取組姿勢を測定										
フィードバックの方法	毎時間、小テストや宿題への解答を示し、併せて習熟度や気づきをコメントする。										
時間外の学習について	予習：市販の簿記教科書・問題集の予習。(30分程度) 復習：授業内容の復習。(60分程度)										
教材にかかわる情報	テキスト：超スピード合格！日商簿記3級 テキスト&問題集 第5版 参考書：日本商工会議所主催の簿記検定問題集、電卓 (授業で指示) 参考資料：なし										
担当者からのメッセージ等実務経験について	問題集等により早めの検定対策を行い、積極的に日本商工会議所主催の「簿記」検定試験に挑戦してくれることを期待します。 楽しく学び日商簿記検定3級に合格しましょう。										

科 目 名	流通と組織 (2単位)	講義	芸術表現学科	2年 前期	担 当 者	山本 貴司 (単独)
ナンバリングコード	JA-S265-000					
卒 業 要 件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授 業 の テ ー マ	現代の発展した複雑なビジネスの基礎的知識と技能について理解を図り、働くことの意義を理解するとともに社会に貢献する姿勢を身につける。中でも小売業や流通、企業組織についての理解を深め、併せてビジネス現場で適切に対応できるマナーや接遇のあり方を確実に身につける。ビジネス社会で求められる社会人基礎力の他、チャレンジ精神、主体性など即戦力としての資質を身につける。					
授 業 の 概 要	ビジネス社会で展開される諸活動について学ぶ。 小売業のマーケティングに関する知識・技能について学ぶ。 ビジネス現場で求められる基礎的マナーやサービス接遇について学ぶ。					
達 成 目 標	学修成果：専門分野の基礎的知識、専門分野の基礎的技能、社会人基礎力					科目DP：c
		DP記号	a	b	c	d
	1. ビジネス社会における心構えを身につけ、基礎的実務について理解できる。		◎	○	○	
	2. 小売業における流通の意義と役割及びその形態と組織について理解できる。			○	◎	○
	3. 小売業のマーケティングやマネジメントについて理解できる。			○	◎	
4. ビジネス場面におけるマナーや接客の基本が身につく。			○	○	◎	
履修条件・注意事項	後期開講の「マーケティング」と継続して履修することが望ましい。 授業の実施方法：①面接授業のみ					
授 業 計 画	<p>I ビジネス社会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、ビジネス実務の内容とその担当者（目標1） 2. ビジネスの発展と課題（目標1） 3. 売買取引と代金決済（目標1） 4. 雇用形態と人事管理（目標1） 5. 企業形態と組織（目標1,2） <p>II リテールマーケティング</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 小売業ビジネスと流通（目標2） 7. 小売業の種類・形態と組織化（目標2） 8. マーチャンダイジング（目標3） 9. 商品計画（目標3） 10. 価格政策（目標3） <p>III ビジネスマナー、サービス接遇</p> <ol style="list-style-type: none"> 11. オフィス実務（目標4） 12. ビジネスマナーの基本（目標4） 13. ビジネスマナーの応用（目標4） 14. サービス接遇の基本（目標4） 15. サービス接遇の応用（目標4） <p>◎定期試験</p>					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ					
成 績 評 価 基 準	<p>①定期試験（60%）：資格試験レベルの基礎的な知識・理解の定着度を測定</p> <p>②小テスト（10%）：単元ごとの知識・理解度の定着度を測定</p> <p>③受講者の発表（20%）：課題発表、グループワークやロールプレイの積極性・意欲を測定</p> <p>④授業態度・授業への参加度（10%）：積極的な質疑、意欲的な態度・姿勢を測定</p>					
フィードバックの方法	質疑や課題、発表に対して適宜助言・コメントをする。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	<p>予習：授業計画を把握し、配布資料に目を通す。（90分程度）</p> <p>復習：授業内容のノート記録の整理、振り返り。（90分程度）</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：特になし。（必要に応じてレジメ等を配布する）</p> <p>参考書：なし</p> <p>参考資料：なし</p>					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	本科目と2年後期開講の「マーケティング」に自主学習を加えることで、流通業界の公的資格である「販売士」試験への挑戦が可能です。積極的に挑戦してくれることを期待します。					

科目名	マーケティング (2単位)	講義	芸術表現学科	2年 後期	担当者	山本 貴司 (単独)
ナンバリングコード	JA-S266-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系 列						
授業のテーマ	経済活動の一主体である企業は、存続のために社会変化へのためめ対応が求められている。時代への対応・変革への行動の原動力として重要な位置づけをもっているのがマーケティング。本講座では、まず小売業の基本知識について理解を深め、続いてマーケティングの意義・役割、そのプロセスとともに戦略について理解を深める。また企業の販売・経営管理について理解を深める。ビジネス社会で意欲的にチャレンジ精神をもって主体的に行動でき、確かな職業観・勤労観をもって社会貢献できる姿勢を身につける。					
授業の概要	ビジネス活動における人間行動の特性・特徴及び職業適性について心理学的アプローチを試みる。マーケティングの意義・役割及びプロセスについて具体的事例に基づきながら学ぶ。企業損益の発生及び基礎的な計算手法について学ぶ。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的知識、専門分野の基礎的技能、社会人基礎力					科目DP：c
		DP記号	a	b	c	d
	1. 小売業の定義や流通段階における小売業の役割が理解できる。			○	◎	
	2. マーケティングの意義・役割とそのプロセスが理解できる。			○	◎	
	3. プロセスに基づいたマーケティング戦略が理解できる。			○	◎	
4. リテールマーケティング3級レベルの知識を習得する。			○	◎		
履修条件・注意事項	前期開講の「流通と組織」に継続して履修することが望ましい。 授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. 小売業の種類と特徴、インターネット社会と小売業 2. 小売業の基本知識、商店街の現状と特徴 3. 商品計画の基本知識、在庫管理の基本知識 4. 小売業のマーケティングの基本知識、4P理論の小売業への適用 5. 顧客満足経営の基本知識、顧客維持政策の基本知識 6. F S Pの基本知識、商圏の基本知識 7. 立地条件の基本知識、出店の基本知識 8. リージョナルプロモーションの体系と概要 9. インバウンド、売場づくりの基本知識 10. 店舗照明の基本知識、ディスプレイ効果を高める色彩の活用 11. 接客マナー、小売業に関する主な法規 12. 環境問題と消費生活、店舗管理の基本 13. 計数管理、利益の構造 14. ストアオペレーション 15. ストアオペレーション ◎定期試験					(目標 1,4) (目標 1,4) (目標 1,4) (目標 2,4) (目標 2,4) (目標 2,4) (目標 3,4) (目標 3,4) (目標 3,4) (目標 3,4) (目標 3,4) (目標 3,4) (目標 3,4) (目標 3,4)
アクティブ・ラーニング	ディスカッション グループワーク					
成績評価基準	①定期試験 (60%)：資格試験レベルの基礎的な問題に回答できる ②小テスト (20%)：単元ごとの基礎的な問題に回答できる ③演習 (10%)：ディスカッションやグループワークへの参加度・意欲を測定 ④授業態度・授業への参加度 (10%)：積極的な質疑、課題等への意欲的な取組姿勢を測定					
フィードバックの方法	質疑や課題に対して適宜助言・コメントをする。					
時間外の学習について	予習：授業計画を把握し、配布資料に目を通す。(90分程度) 復習：授業内容の記録の整理、振り返り。(90分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：販売士(リテールマーケティング)検定試験3級 テキスト&問題集 参考書：なし 参考資料：なし					
担当者からのメッセージ等実務経験について	流通業界で唯一の公的資格である「販売士」検定試験合格を視野に入れた学習が可能です。					

科目名	インターンシップ I (2単位)	実習	芸術表現学科	1年前後期	担当者	赤瀬 洋司 (単独)
ナンバリングコード	JA-S172-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系 列						
授業のテーマ	インターンシップ(就業体験)を通じて、社会に出て働く意味を理解し、社会常識、マナーはもとより職場で求められる実践的能力、コミュニケーション能力を習得する。 多くの企業や団体の協力のもとで成り立つプログラムなので、山口芸術短期大学の学生代表として参加しているという自覚が必要である。					
授業の概要	まず、社会人としての基礎を学ぶ。加えて夏季休業中には職場体験実習・実践等を体験する。事前の研修および職場体験実習・実践、事後の報告書作成、プレゼンテーション等の一連の演習・実習を通して、社会の一員としての心構えやマナー、勤労観・職業観を育てる。					
達成目標	学修成果：コミュニケーション能力・社会人基礎力					科目DP：a
						DP記号 a b c d
	1. 社会人としての基礎的な心構えやマナー、勤労観・職業観を身に付ける。		◎	○		
	2. 就業体験の希望先を選択し進路目標を明確化する。		◎	○		
	3. 就業体験を通じて自分自身の適正を再確認し将来の方向性を導き出す。				○	◎
4. 報告書の作成とプレゼンテーションにより必要な表現力を身に付ける。		◎			○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<p>【インターンシップの一年を通した流れ】 ※夏季休業中の実習実施を含む30回分を実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 4月中旬 インターンシップとは？ (目標 1) 5月上旬インターンシップ申込説明会：「受入事業所リスト」の公表(受入条件・企業概要等を参考に希望事業所を探す。「山口県インターンシップ推進協議会HP」参照)(目標 1,2) 5月中旬履修申込み：所定の「履修申込書」を所属学科の教務係へ提出する。(目標 1,2) 6月上旬受入先の調整・決定：「合同事前面接」の実施。(希望者が多い時は面接及び申込書等を参考に選考する。)(目標 1,2) 7月上旬：「インターンシップ事前指導」マナー講習 (目標 1,2) 7月下旬事前打ち合わせ：実習生は必ず「事前打ち合わせ」を受入事業所と行う。(目標 1,2) 8月上旬～9月夏休み期間中、1週間程度のインターンシップの実施：担当指導教員への報告～連絡・相談。終了後実習先への「礼状」作成・送付。(目標 1,2) 同上 10月上旬事後指導：個人別の事後指導、レポートの作成など。(目標 1,2,3,4) 「実習報告書」を作成し提出。さらに「体験報告会」原稿作成。(目標 1,2,3,4) 体験報告会 プレゼンテーション (目標 3,4) 体験報告会及び講評 プレゼンテーション (目標 3,4) <p>その他 「山口県経営者協会」主催のインターンシップ「体験報告会」に参加する。(目標 1,3,4)</p>					
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、プレゼンテーション					
成績評価基準	<p>①事前準備(20%)：関心・意欲、態度を判定 ・実習先の業務内容を調べ必要とされる能力を理解しておく。 ・ビジネスマナーを身に付ける</p> <p>②実習成績(50%)：意欲、理解度、技能、態度を判定・受け入れ先からの評価(40%)・実習日誌(10%)</p> <p>③事後の報告等(30%)：思考・判断力、表現力を判定 ・実習の成果を把握し、報告書(15%)に的確にまとめ、しっかりプレゼン(15%)できる。</p>					
フィードバックの方法	体験報告会では、受講生からの質問及び担当教員から適宜講評を行う。					
時間外の学習について	<p>予習：インターネットで産業や職業、会社について調べる(60分程度)</p> <p>復習：報告書、日誌の作成(各回30分程度)</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト：特になし</p> <p>参考書：特になし</p> <p>参考資料：必要なものについては適宜配布する。</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について	成功は人の表面を飾り、失敗は心を豊かにする。 可能性は無限大です。失敗を恐れずチャレンジしましょう。					

科目名	インターンシップⅡ (2単位)	実習	芸術表現学科	1年後期 2年前期	担当者	赤瀬 洋司 (単独)
ナンバリングコード	JA-S267-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	幼稚園教諭		
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	インターンシップ(就業体験)を通じて、社会に出て働く意味を理解し、社会常識、マナーはもとより職場で求められる実践的能力、コミュニケーション能力を習得する。 就職活動に向けた、より実践的な取り組みとして課題解決能力、文書作成能力、表現力を磨く。					
授業の概要	まず、社会人としての基礎を身に付ける。次に夏季休業中に職場体験実習・実践等を体験する。 事前の研修および職場体験実習・実践、事後の報告書作成、プレゼンテーション等の一連の演習・実習を通して、社会の一員として求められるスキルを身に付ける。					
達成目標	学修成果：コミュニケーション能力、社会人基礎力 1. 適切な勤労観・職業観を身につける。 2. ビジネスマナーを身につけ、社会人としてふさわしい行動ができる。 3. 文書作成及びプレゼンテーション能力を高める。 4. 働くことへの意欲を高め、主体的に職業を選択する姿勢を身につける。 5. 課題発見力や計画力などの社会人基礎力を高める。					科目DP：a DP記号 a b c d <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>
履修条件・注意事項	1年生でインターンシップⅠを履修しておくことが望ましい。受入れ先は大学を通して決定し、春季休業中を中心に1週間程度の体験実習を行う。					
授業計画	1. 事前指導～インターンシップとは？(目標1,2) 2. インターンシップ申し込み(目標1,2,4) 3. 事前打ち合わせ(受入れ先で実施)(目標2,5) 4～26. インターンシップ実施(目標1,2,4,5) 実習生は、実習日誌を毎日作成し、担当教員に適宜、連絡・相談・報告を行う。 担当教員は、実習期間中に受入れ先を訪問し、責任者や担当者との意見交換を行う。 受け入れ側の評価や気付きを踏まえながら、常に改善を図っていく。 27. 実習日誌のまとめおよび礼状作成(目標2,3) 28. 報告書作成(目標3,5) 29. プレゼン資料作成(目標3,5) 30. 報告発表会(目標3,4)					
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、プレゼンテーション					
成績評価基準	①事前の準備(20%)：関心・意欲 ②受入れ先の評価(40%)：意欲・態度・知識・理解 ③実習日誌(10%)：意欲・理解 ④報告書(15%)：知識・理解・文書作成能力 ⑤発表(15%)：知識・理解・表現力					
フィードバックの方法	毎日実習日誌を作成することで、改善につなげる。 担当教員が実習中に受入れ先を訪問して担当者や責任者と意見交換し、学生にその内容や評価を伝えて随時改善を図る。					
時間外の学習について	予習：ビジネスマナーを身に付ける。(電話応対、敬語、話し方、文書作成)60分程度 実習先の業務内容を調べ、そこで必要とされる能力について理解しておく。60分程度 復習：実習中は毎日実習日誌をつける。毎日30分程度					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：山口県インターンシップ推進協議会発行「インターンシップ体験レポート」、「やまぐちインターンシップ実例レポート」 参考資料：株式会社kirara Marketing「やまぐちインターンシップガイドブック」					
担当者からのメッセージ等実務経験について	社会に出てからが人生の本番です。そのための準備として心を整えましょう。					

科目名	地域課題解決演習 I (PBL) (2単位)	演習	芸術表現学科	2年前期	担当者	長田 和美 (実務経験) 澄重 成記 (実務経験) (複数)
ナンバリングコード	JA-S268-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系 列						
授業のテーマ	地域企業が抱える課題に対してグループで解決策を提案し、解決に向けて実践する。					
授業の概要	課題の本質を捉え、課題に対する解決策をグループで発案し、トライアルを行う。 課題発見力、課題解決力、合意形成力を養う。					
達成目標	学修成果：協働性、社会人基礎力、社会貢献、専門分野の基礎的知識、専門分野の基礎的技能				科目DP：d	
		DP記号	a	b	c	d
	1. 企業が抱える課題を正しく把握することができる					◎
	2. 課題解決に向けたアイデアを発案できる					◎
	3. アイディアを具体化し、行動計画を立案できる					◎
	4. 予備実験・調査によりアイデアの妥当性を確認できる					◎
5. 他者の意見を理解して、合意形成ができる					◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. PBLの意義 2. 課題理解①現状理解 3. 課題理解②課題理解 4. 課題理解③情報分析 5. 目的・目標の定義 6. 解決策の検討①アイデア発案 (発散) 7. 解決策の検討②アイデア整理 (収束) 8. アイディアの具体化 9. 計画立案 10. 実施準備 11. 予備実験・調査 12. 予備実験・調査のデータ分析 13. 予備実験・調査のまとめ 14. プレゼンテーション準備 15. プレゼンテーション					
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション					
成績評価基準	①授業内レポート (40%)：意欲・関心を測定 ②レポート課題 (30%)：知識・理解、思考・判断を測定 ③プレゼンテーション (30%)：知識・理解、思考・判断、技能・表現を測定					
フィードバックの方法	課題を返却					
時間外の学習について	予習：課題に関連する文献、時事ニュースを調査 (各回45分) 復習：授業後に各自の活動を振り返り、次回のアクションプランを策定する (各回45分)					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：特になし					
担当者からのメッセージ等実務経験について	企業経験を活かして、社会人感覚と実践力を育成する授業を行います。					

科目名	地域課題解決演習Ⅱ (PBL) (2単位)	演習	芸術表現学科	2年 後期	担当者	長田 和美 (実務経験) 澄重 成記 (実務経験) (複数)
ナンバリングコード	JA-S269-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	幼稚園教諭		
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	地域企業が抱える課題に対してグループで解決策を提案し、解決に向けて実践する。					
授業の概要	前期に実施した予備実験・調査の結果に基づき、課題と目標を再定義し、解決に向けて実践する。課題発見力、課題解決力、合意形成力を養う。					
達成目標	学修成果：協働性、社会人基礎力、社会貢献、専門分野の基礎的知識、専門分野の基礎的技能				科目DP：d	
		DP記号	a	b	c	d
	1. 予備実験・調査に基づいて、課題と目標を再定義できる					◎
	2. アイディアを具体化し、行動計画を立案できる					◎
	3. 解決策を実行できる					◎
	4. 課題解決プロセスを整理し、プレゼンテーションできる					◎
5. 他者の意見を理解して、合意形成ができる					◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. 課題と目標の再定義 (目標 1.5) 2. 解決策の検討①アイディア発案 (発散) (目標 2.5) 3. 解決策の検討②アイディア整理 (収束) (目標 2.5) 4. アイディアの具体化 (目標 2.5) 5. 計画立案 (目標 2.5) 6. 実施準備 (目標 3.5) 7. 実施準備 (目標 3.5) 8. 実施準備 (目標 3.5) 9. 実施準備 (目標 3.5) 10. 実験・調査等の実施 (目標 3.5) 11. 実験・調査等のデータ分析 (目標 3.5) 12. 実験・調査等のまとめ (目標 3.5) 13. 課題解決プロセスの整理 (目標 4.5) 14. 最終プレゼンテーション準備 (目標 4.5) 15. 最終プレゼンテーション (目標 4.5)					
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション					
成績評価基準	①授業内レポート (40%)：意欲・関心を測定 ②レポート課題 (30%)：知識・理解、思考・判断を測定 ③プレゼンテーション (30%)：知識・理解、思考・判断、技能・表現を測定					
フィードバックの方法	課題を返却					
時間外の学習について	予習：課題に関連する文献、時事ニュースを調査 (各回45分) 復習：授業後に各自の活動を振り返り、次回のアクションプランを策定する (各回45分)					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：特になし					
担当者からのメッセージ等実務経験について	企業経験を活かして、社会人感覚と実践力を育成する授業を行います。					

科 目 名	基礎描写 I (1単位)	演習	芸術表現学科	1年 前期	担当者	渡山 賢二 (単独)
ナンバリングコード	JA-S121-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授 業 の テ ー マ	造形・デザインの基礎となる観察力、描写力を獲得し、専門分野の知識・技術を身につける。					
授 業 の 概 要	最初にスキルチェックを目的とした鉛筆デッサンを行なう。以降、日常にある様々な静物材料をモチーフとして画用紙に鉛筆を使ってデッサンを描く。最終回には初回に描いたものと同じモチーフで、描写力上達の度合いを確認する。					
達 成 目 標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 画材の扱い方の習熟				◎	
	2. デッサンに対する姿勢の理解				◎	○
	3. デザインとデッサンの関係性の理解		○		◎	
	4. 観察力・描写力を支える技術・方法の習得			○	◎	
5. 観察・描写・確認が何故必要性の理解			○	◎	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ デッサン用具持参（鉛筆（2H～4B）、練り消し他、スケッチブック（必須）、メモ用紙）					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要の説明、道具の使用方法の説明、観察と描写力についての説明（目標 1,2,3） 2. スキルチェックを目的とした鉛筆デッサン（目標 1,2,3） 3. スキルチェックを目的とした鉛筆デッサン（続き）後半デッサン（対象の観察と理解）の説明 後半30分講評会（目標 1,2,3,5） 4. 基礎形態モチーフ描写①（目標 1,2,4） 5. 基礎形態モチーフ描写① 後半30分講評会（目標 1,2,4） 6. モチーフ描写①（応用）（目標 1,2,4） 7. モチーフ描写①（応用）（続き）後半30分程度講評会（目標 1,2,4） 8. 基礎形態モチーフ描写②（目標 1,2,4） 9. 基礎形態モチーフ描写② 後半30分講評会（目標 1,2,4） 10. モチーフ描写②（応用）（目標 1,2,4） 11. モチーフ描写②（応用）（続き）後半30分程度講評会（目標 1,2,4） 12. 手のデッサン①（目標 1,2,4） 13. 手のデッサン②（目標 1,2,4,5） 14. モチーフ描写③（応用）（目標 1,2,4） 15. モチーフ描写③（応用）（続き）後半30分程度講評会（目標 1,2,4,5） 					
アクティブ・ラーニング	学生にデッサン課題を課し、作品制作の進捗状況に応じて質問を受けてコメントを与え、学生との議論・意見交換を行う中で、デッサンという観察力・描写力の理解を深め、作品のブラッシュアップを促している。					
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> ①授業中でのデッサン課題作品（50%）：観察力・描写力を測定 ②上達度（20%）：制作課題の完成度 ③授業への取り組みと理解（30%）：制作課題への取組と完成度 					
フィードバックの方法	個別指導・作品の講評・プリント資料配布					
時間外の学習について	予習：特になし 復習：講評や授業中での技術など指摘箇所の反復実践（各回90分程度）					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料等：適宜資料配布（教室F40に参考デッサン資料雑誌「アトリエ」等あり）					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	観察力と描写力はデザイン力と大きく関わっています。その観察力と描写力を身につける方法としてデッサンがあります。そのデッサンの習得方法のはじまりと、自分自身で伸ばす方法など実践を行いながら理解できるように教えていきます。					

科目名	基礎描写Ⅱ (1単位)	演習	芸術表現学科	1年 後期	担当者	渡山 賢二 (単独)
ナンバリングコード	JA-S122-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系 列						
授業のテーマ	造形・デザインの基礎となる観察力、描写力を獲得し、専門分野の知識・技術を身につける。					
授業の概要	最初にスキルチェックを目的とした鉛筆デッサンを行なう。以降、日常にある様々な静物材料をモチーフとして画用紙に鉛筆を使ってデッサンを描く。最終回には初回に描いたものと同じモチーフで、描写力上達の度合いを確認する。 (基礎描写Ⅰを履修した学生には別モチーフによるデッサン指導します。)					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 画材の扱い方の習熟			◎		
	2. デッサンに対する姿勢の理解			◎	○	
	3. デザインとデッサンの関係性の理解	○		◎		
4. 観察力・描写力を支える技術・方法の習得			○	◎		
5. 観察・描写・確認が何故必要性の理解			○	◎	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ デッサン用具持参（鉛筆（2H～4B）、練り消し他、スケッチブック（必須）、メモ用紙）					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要の説明、道具の使用方法の説明、観察と描写力についての説明（目標 1,2,3） 2. スキルチェックを目的とした鉛筆デッサン（目標 1,2,3） 3. スキルチェックを目的とした鉛筆デッサン（続き）後半デッサン（対象の観察と理解）の説明 後半30分講評会（目標 1,2,3,5） 4. 基礎形態モチーフ描写①（目標 1,2,4） 5. 基礎形態モチーフ描写① 後半30分講評会（目標 1,2,4） 6. モチーフ描写①（応用）（目標 1,2,4） 7. モチーフ描写①（応用）（続き）後半30分程度講評会（目標 1,2,4） 8. 基礎形態モチーフ描写②（目標 1,2,4） 9. 基礎形態モチーフ描写② 後半30分講評会（目標 1,2,4） 10. モチーフ描写②（応用）（目標 1,2,4） 11. モチーフ描写②（応用）（続き）後半30分程度講評会（目標 1,2,4） 12. 手のデッサン①（目標 1,2,4） 13. 手のデッサン②（目標 1,2,4,5） 14. モチーフ描写③（応用）（目標 1,2,4） 15. モチーフ描写③（応用）（続き）後半30分程度講評会（目標 1,2,4,5） 					
アクティブ・ラーニング	学生にデッサン課題を課し、作品制作の進捗状況に応じて質問を受けてコメントを与え、学生との議論・意見交換を行う中で、デッサンという観察力・描写力の理解を深め、作品のブラッシュアップを促している。					
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> ①授業中でのデッサン課題作品（50%）：観察力・描写力を測定 ②上達度（20%）：制作課題の完成度 ③授業への取り組みと理解（30%）：制作課題への取組と完成度 					
フィードバックの方法	個別指導・作品の講評・プリント資料配布					
時間外の学習について	予習：特になし 復習：講評や授業中での技術など指摘箇所の反復実践（各回90分程度）					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料等：適宜資料配布（教室F40に参考デッサン資料雑誌「アトリエ」等あり）					
担当者からのメッセージ等実務経験について	観察力と描写力はデザイン力と大きく関わっています。その観察力と描写力を身につける方法としてデッサンがあります。そのデッサンの習得方法のはじまりと、自分自身で伸ばす方法など実践を行いながら理解できるように教えていきます。 (基礎描写Ⅰを履修した学生には別モチーフによるデッサン指導します。)					

科 目 名	基礎デザインⅠ (色彩構成) (1単位)	演習	芸術表現学科	1年 前期	担当者	長田 和美 (単独)
ナンバリングコード	JA-S123-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授業のテーマ	造形要素の「色彩」について理解し、「色彩」をコントロールする力を身につける。					
授業の概要	実習（色彩構成）を通して、デザインの基礎となる色の弁別能力、配色技法を修得する。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP：c
						DP記号 a b c d
	1. アートとデザインの違いを理解する。					
	2. 課題を通して、色の弁別能力を高め、配色技法に対する理解を深める。					
	3. 自分の制作物を客観的に評価することができる。					
4. 条件を厳守し、制限時間内に課題を制作する。						
履修条件・注意事項	「色彩論」を同時履修することが望ましい 授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. 基礎デザインを学ぶ意義 (目標 1) 2. デザインとアートの違いとは？ (目標 1) 3. デザイナーズカラーによる彩色方法 (目標 2) 4. 色彩構成<課題1> 課題の理解、下書き (目標 2,3,4) 5. 〃 彩色① (目標 2,3,4) 6. 〃 彩色② (目標 2,3,4) 7. 〃 振り返り (目標 2,3,4) 8. 色彩構成<課題2> 課題の理解、下書き (目標 2,3,4) 9. 〃 彩色① (目標 2,3,4) 10. 〃 彩色② (目標 2,3,4) 11. 〃 振り返り (目標 2,3,4) 12. 色彩構成<課題3> 課題の理解、下書き (目標 2,3,4) 13. 〃 彩色① (目標 2,3,4) 14. 〃 彩色② (目標 2,3,4) 15. 〃 振り返り (目標 2,3,4)					
アクティブ・ラーニング						
成績評価基準	①授業内レポート（30%）：関心・意欲を測定 ②課題（70%）：課題の完成度より技能・表現を測定					
フィードバックの方法	課題の評価を口頭でフィードバック。課題毎に振り返りを実施。					
時間外の学習について	予習：作業計画の立案（配色計画、作業の時間配分） 各回45分程度 復習：課題の振り返り（良かった点と反省点を整理し、対策を考案） 各回45分程度					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：デザインの色彩、中田 満雄（著） 参考資料：なし					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	デザイン力の習得には、スポーツや音楽と同様、訓練を継続することが大切です。					

科目名	基礎デザインⅡ (平面構成) (1単位)	演習	芸術表現学科	1年 後期	担当者	長田 和美 (単独)
ナンバリングコード	JA-S124-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	造形要素の「色彩」と「形態」について理解し、「色彩」と「形態」をコントロールする力を身につける。					
授業の概要	デザイン実習（幾何学形態を用いた平面構成）を通して、デザイナーに必要な美的感性（センス）と発想力を養う。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP：c
		DP記号	a	b	c	d
	1. コンポジション・ルールを理解する。				◎	
	2. コンポジション・ルールに従って、平面構成（幾何学形態）ができる。				◎	
	3. 自分の制作物を客観的に評価することができる。				◎	
4. 条件を厳守し、制限時間内に課題を制作する。				◎	○	
履修条件・注意事項	「色彩論」、「基礎デザインⅠ」を履修すること 授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. 平面構成を学ぶ意義					(目標 1)
	2. 平面構成<課題1>	課題の理解、下書き				(目標 1,2,3,4)
	3. 〃	彩色①				(目標 1,2,3,4)
	4. 〃	彩色②				(目標 1,2,3,4)
	5. 〃	振り返り				(目標 1,2,3,4)
	6. 平面構成<課題2>	課題の理解、下書き				(目標 1,2,3,4)
	7. 〃	彩色①				(目標 1,2,3,4)
	8. 〃	彩色②				(目標 1,2,3,4)
	9. 〃	振り返り				(目標 1,2,3,4)
	10. 平面構成<課題3>	課題の理解、下書き				(目標 1,2,3,4)
	11. 〃	彩色①				(目標 1,2,3,4)
	12. 〃	彩色②				(目標 1,2,3,4)
	13. 〃	振り返り				(目標 1,2,3,4)
	14. 応用課題<ロゴデザイン>	コンセプト立案				(目標 1,2,3,4)
	15. 〃	デザイン提案、発表				(目標 1,2,3,4)
アクティブ・ラーニング						
成績評価基準	①授業内レポート（30%）：関心・意欲を測定 ②課題（70%）：技能・表現を測定					
フィードバックの方法	課題の評価を口頭でフィードバック。課題毎に振り返りを実施。					
時間外の学習について	予習：作業計画の立案（配色計画、作業の時間配分） 各回45分程度 復習：課題の振り返り（良かった点と反省点を整理し、対策を考案） 各回45分程度					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：デザインの色彩、中田 満雄（著） 参考資料：適宜配布					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	デザイン力の習得には、スポーツや音楽と同様、訓練を継続することが大切です。					

科目名	基礎デザインⅢ (平面構成) (1単位)	演習	芸術表現学科	2年前期	担当者	長田 和美 (単独)
ナンバリングコード	JA-S221-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士		幼稚園教諭	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	造形要素の「色彩」と「形態」について理解し、「色彩」と「形態」をコントロールする力を身につける。					
授業の概要	デザイン実習（オーガニック形態を用いた平面構成）を通して、デザイナーに必要な美的感性（センス）と発想力を養う。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP：c
						DP記号 a b c d
	1. コンポジション・ルールを理解する。					◎
	2. コンポジション・ルールに従って、平面構成（オーガニック形態）ができる。					◎
	3. 自分の制作物を客観的に評価することができる。					◎
4. 条件を厳守し、制限時間内に課題を制作する。					◎ ○	
履修条件・注意事項	「色彩論」、「基礎デザインⅠ（色彩構成）」「基礎デザインⅡ（平面構成）」を履修すること 授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. 平面構成を学ぶ意義					(目標 1)
	2. 平面構成<課題1>	課題の理解、下書き				(目標 1,2,3,4)
	3. 〃	彩色①				(目標 1,2,3,4)
	4. 〃	彩色②				(目標 1,2,3,4)
	5. 〃	振り返り				(目標 1,2,3,4)
	6. 平面構成<課題2>	課題の理解、下書き				(目標 1,2,3,4)
	7. 〃	彩色①				(目標 1,2,3,4)
	8. 〃	彩色②				(目標 1,2,3,4)
	9. 〃	振り返り				(目標 1,2,3,4)
	10. 平面構成<課題3>	課題の理解、下書き				(目標 1,2,3,4)
	11. 〃	彩色①				(目標 1,2,3,4)
	12. 〃	彩色②				(目標 1,2,3,4)
	13. 〃	振り返り				(目標 1,2,3,4)
	14. 応用課題<フライヤー制作>	コンセプト立案				(目標 1,2,3,4)
	15. 〃	デザイン提案、発表				(目標 1,2,3,4)
アクティブ・ラーニング						
成績評価基準	①授業内レポート（30%）：関心・意欲を測定 ②課題（70%）：技能・表現を測定					
フィードバックの方法	課題の評価を口頭でフィードバック。課題毎に振り返りを実施。					
時間外の学習について	予習：作業計画の立案（配色計画、作業の時間配分） 各回45分程度 復習：課題の振り返り（良かった点と反省点を整理し、対策を考案） 各回45分程度					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：デザインの色彩、中田 満雄（著） 参考資料：適宜配布					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	デザイン力の習得には、スポーツや音楽と同様、訓練を継続することが大切です。					

科目名	基礎デザインⅣ (立体構成) (1単位)	演習	芸術表現学科	2年 後期	担当者	渡山 賢二 (単独)	
ナンバリングコード	JA-S222-000						
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	幼稚園教諭			
科目							
各科目に含めることが必要な事項							
教科目							
系列							
授業のテーマ	造形・デザインの基礎となる観察力、描写力を獲得し、専門分野の知識・技術を身につける。						
授業の概要	最初に紙の扱い方や道具の扱い方の説明を行います。前半では基本形体の立体作成を行い、後半では自由課題の立体作品を作成します。またエスキースから作品までのプロセスの説明を最後の課題で各自プレゼンを行います。						
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP：c	
		DP記号	a	b	c	d	
	1. 素材の扱い方、道具の扱い方				◎		
	2. 立体制作に対する姿勢の理解				◎	○	
	3. 立体構成（空間構成）の理解		○		◎		
4. 観察力・表現力を支える技術・方法の習得			○	◎			
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ 持参：鉛筆、消しゴム、カッター、定規（30cm以上）、スチールのり（またはボンド）コンパス、スケッチブック（必須）、メモ用紙						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要の説明、道具の使用方法の説明、観察と描写力についての説明（目標1） 2. 立体制作①（基礎形体）（目標1,2,4） 3. 立体制作①（基礎形体）（続き）後半講評会（目標1,2,3,5） 4. 立体制作②（基礎形体）（目標1,2,4） 5. 立体制作②（応用形体）（続き）後半講評会（目標1,2,3,5） 6. 立体制作③（基礎形体）（目標1,2,4） 7. 立体制作③（応用形体）（続き）後半講評会（目標1,2,3,5） 8. 立体制作④（応用形体）（目標1,2,4） 9. 立体制作④（応用形体）（続き）後半講評会（目標1,2,3,5） 10. 自由課題制作①（目標1,2,4） 11. 自由課題制作②（目標1,2,4） 12. 自由課題制作③（目標1,2,4） 13. 自由課題制作④（目標1,2,4） 14. プレゼンテーションと講評①（目標2,3） 15. プレゼンテーションと講評②（目標2,3） 						
アクティブ・ラーニング							
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> ①授業中での課題作品（50%）：観察力・描写力を測定 ②上達度（20%）：制作課題の完成度 ③授業への取り組みと理解（30%）：制作課題への取組と完成度 						
フィードバックの方法	個別指導・作品の講評・プリント資料配布						
時間外の学習について	予習：特になし 復習：講評や授業中での技術など指摘箇所の反復実践（各回90分程度）						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料等：適宜資料配布						
担当者からのメッセージ等実務経験について	立体構成を紙という簡単に加工できる身近な素材を通して学んでください。						

科目名	色彩論 (2単位)	講義	芸術表現学科	1年前期	担当者	長田 和美 (単独)
ナンバリングコード	JA-S125-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	色彩に関する知識や技能を修得し、日常生活やデザインに活用する。					
授業の概要	色彩について体系的に学び、色彩の基礎、色の心理効果、色彩文化を理解する。また、配色技法を理解・修得し、ファッションやインテリア、グラフィック等のデザインに応用する力を養う。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的知識、専門分野の基礎的技能、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 色の表示・分類方法を理解する。				◎	
	2. 配色技法を理解し、活用できる。				◎	
	3. 照明や環境に応じた色の見え方、色の心理効果、色のユニバーサルデザインについて理解する。				◎	
	4. 色とデザインの関係、色彩に関する歴史や文化を理解する。				◎	
5. カラーカード課題を通して、計画力を身につける。				◎	○	
履修条件・注意事項	基礎デザインⅠ（色彩構成）を同時履修することが望ましい 授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. 色の三属性（色相・明度・彩度）（目標 1） 2. 表色系（目標 1） 3. PCCS色相環とトーン（目標 1,5） 4. 配色技法①（目標 2） 5. 配色技法②（目標 2） 6. 配色技法③（目標 2） 7. 眼のしくみ（目標 3） 8. 照明と色の見え方（目標 3） 9. 混色（目標 3） 10. 色の心理的効果（目標 3） 11. 色に関する文化（日本と世界）（目標 3） 12. パーソナルカラー（目標 4） 13. ビジュアルデザインと色彩（目標 4） 14. ファッションと色彩（目標 4） 15. インテリアと色彩（目標 4） 16. 色覚異常とユニバーサルデザイン（目標 4） ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング	グループワーク					
成績評価基準	①授業内レポート（10%）関心・意欲を測定 ②カラーカード課題（20%）技能・表現を測定 ③小テスト（40%）知識・理解を測定 ④定期試験（30%）知識・理解、思考・判断を測定					
フィードバックの方法	授業内レポート、小テストを返却					
時間外の学習について	予習：テキストを熟読し、疑問点を明らかにする。（各回45分程度） 復習：小テストを活用して振り返りを行う。（各回45分程度）					
教材にかかわる情報	テキスト：AFT色彩検定 公式テキスト3級編、PCCSハーモニックカード201ポケットケース入り 参考書：AFT色彩検定 公式テキスト2級編、1級編、UC級 参考資料：特になし					
担当者からのメッセージ等実務経験について	なし					

科 目 名	画像編集 (1単位)	演習	芸術表現学科	1年 前期	担当者	前田 和也 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S126-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授業のテーマ	デジタル画像は、ラスタ画像とベクタ画像に分けられるが、授業ではラスタ画像の処理方法の基本を学び、デジタル画像処理の基礎的知識と技術を身につける。					
授業の概要	画像処理の最も代表的なソフトウェアであるAdobe Photoshopは、DTP、CAD、Webデザインなどにおいても必須のソフトウェアである。授業では、Adobe Photoshopの基礎を学習する。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP：c
						DP記号
						a
						b
1. デジタル画像における画像の理解					c	d
2. 画像処理のソフトウェアAdobe Photoshopの操作方法の習得					○	○
3. 画像処理手法の習得					○	○
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. ガイダンス、コンピュータの使い方、画像処理ソフトウェアを用いた画像の入出力 (目標 1) 2. Photoshopのファイルの作成、保存、画面の基本操作 (目標 2) 3. 選択範囲 (目標 2,3) 4. 色の設定と描画の操作 (目標 2,3) 5. レイヤーの操作 (目標 2,3) 6. 文字とパス、シェイプ (目標 2,3) 7. グラデーションとパターン (目標 2,3) 8. マスクと切り抜き (目標 2,3) 9. フィルター (目標 1,2,3) 10. さまざまな組み合わせで表現する (目標 1,2,3) 11. 画像の色を補正 (目標 1,2,3) 12. 画像の修正・加工 (目標 1,2,3) 13. 画像の合成 (目標 2,3) 14. 課題制作 ① (目標 3) 15. 課題制作 ② (目標 3)					
アクティブ・ラーニング						
成績評価基準	①授業で制作する課題 (75%)：思考・判断・表現技術を測定 ②授業中の取組姿勢 (25%)：関心・意欲の測定					
フィードバックの方法	課題内容について個別に評価し、習熟度などを教員・受講生で共有する。					
時間外の学習について	予習：テキストを読んで大まかな流れを把握しておくこと (30分程度) 復習：授業で進めたところは次回授業までに進めておくこと (60分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：世界一わかりやすいPhotoshop 操作とデザインの教科書 / 技術評論社 参考書：特になし 参考資料：特になし					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	課題についての質問や報告はメールにて。E-Mail：maek4s@gmail.com デザイナー経験：業務では欠かせないPhotoshopの実践的な使い方のテクニックやデータの作成方法のコツを交えて話をします					

科目名	DTP各論 (2単位)	講義	芸術表現学科	2年前期	担当者	前田 和也 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S223-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	DTP検定に対応した印刷、デザインに関する専門知識を習得し、印刷に関わる仕事に従事した際に適切な対応ができることを目標とする。					
授業の概要	ポスターやパンフレット等の印刷物の制作は、現在ではデザインから印刷までをトータルにコンピューター技術を活用する DTP(DesktopPublishing) により制作されている。授業では DTPを支えている広範囲の技術について学ぶ。印刷物の企画、紙と色、画像入力と出力、インキ、製本、ページネーション、編集、DTPのハードウェアとソフトウェア、著作権、印刷データの入稿と管理などを学習する。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的知識、専門分野の基礎的技能、社会人基礎力					科目DP：c
		1. 印刷技術についての知識習得				DP記号 a b c d
		2. コンピューター環境についての知識習得				
		3. DTPで必要な素材の制作技術の習得				
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. DTPとは (目標 1,2) 2. 身の回りの印刷物について (目標 1,3) 3. 印刷物作成のワークフロー (目標 1,2) 4. DTPのシステム構成・制作環境について (目標 2) 5. 企画と編集作業 (目標 1,2) 6. 色と紙の基本知識 (目標 1,2) 7. スケジュール管理、進行 (目標 1,2) 8. 著作権など法律関係 (目標 1) 9. 編集デザイン (目標 1,2) 10. 画像と写真編集 (目標 1,2,3) 11. 紙面レイアウト (目標 2) 12. 校正 (目標 1,3) 13. 入稿と印刷 (目標 1,2) 14. クロスメディアへの展開 (目標 2) 15. 模擬試験問題 (目標 1,2) ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング						
成績評価基準	①定期試験 (60%)：教科書に載っている知識を扱った問題に回答できる ②授業中の課題 (30%)：授業時の演習課題：思考・判断・表現技術を測定 ③授業中の取組姿勢 (10%)：関心・意欲の測定					
フィードバックの方法	演習課題については、授業内でフィードバックをおこなう。試験については、希望するものについて回答用紙の返却や回答の配布を行う。					
時間外の学習について	予習：身の回りの印刷物に関心をもち、気になったものは収集してスクラップするなどが望ましい (120分程度) 復習：授業で進めたテキストの部分を再度読んでおく。演習課題については、提出期限までに完成させること (60分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：印刷メディアディレクション [改訂版] / ワークスコーポレーション 参考書：特になし 参考資料：DTP検定ディレクション問題集 2017年改訂問題対応					
担当者からのメッセージ等実務経験について	課題についての質問や報告はメールにて。E-Mail：maek4s@gmail.com デザイナー経験：実務でおこる事故のエピソードなど具体的な実例を交えテキストを進めます。					

科目名	DTP演習 (1単位)	演習	芸術表現学科	2年 後期	担当者	前田 和也 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S224-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	DTPソフトウェアを使ったデータ作成技術の習得し、設定から入稿までの一連の工程を実践することで、デザインの現場のみならず、ビジネスの現場においても適切な対応ができることを目標とする。					
授業の概要	DTP(DeskTopPublishing)技術は、印刷分野では必修の技術となっており、従ってグラフィックデザイン、エディトリアルデザインを学ぶ上でも重要な技能である。授業では実際にパソコンとDTPソフトウェア(AdobeIllustrator、Photoshop、inDesign)を使用しながらDTP技能を学ぶ。DTP各論で学習した印刷の基本ルール(段組みや版面、文字組、図版の扱い方)に従い、さらにデザイン要素を加え、見やすい、美しい印刷物を実現していくかを実践的に学習する。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP：c
						DP記号 a b c d
	1. 印刷物データ制作におけるルールの理解					○ ◎
	2. 印刷物データ作成技術の習得					○ ◎
	3. ソフトウェア操作技術の習得					○ ◎
4. グラフィックデザインの表現力、技術の習得					◎ ○	
履修条件・注意事項	DTP各論履修が望ましい。 授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 1色印刷 (1) (カードの制作) 解説～データ制作 (目標 1,2) 2. 1色印刷 (2) (カードの制作) データ制作 (目標 3,4) 3. 1色印刷 (3) (カードの制作) 入稿 (目標 2,3) 4. 2色印刷 (1) (ポストカードの制作) 解説～チュートリアル (目標 1,2) 5. 2色印刷 (2) (ポストカードの制作) データ制作 (目標 3,4) 6. 2色印刷 (3) (ポストカードの制作) データ制作～完成 (目標 3,4) 7. 2色印刷 (4) (ポストカードの制作) 入稿 (目標 1,2,3) 8. パッケージの制作 (1) 解説～データ制作 (目標 1,2) 9. パッケージの制作 (2) データ制作 (目標 3,4) 10. パッケージの制作 (3) 入稿 (目標 1,2,3) 11. 4色印刷 (1) (書籍の計画) 解説～企画 (目標 1) 12. 4色印刷 (2) (書籍の計画) 企画～設計 (目標 1,2) 13. 4色印刷 (3) (書籍の計画) マスターページの作成 (目標 2,3) 14. 4色印刷 (4) (書籍の計画) ページ制作 (目標 3,4) 15. 4色印刷 (5) (書籍の計画) ページ制作～完成(出力) (目標 3,4) 					
アクティブ・ラーニング						
成績評価基準	①授業中の課題(80%)：授業時の演習課題：思考・判断・表現技術を測定 ②授業中の取組姿勢(20%)：意欲の測定					
フィードバックの方法	課題が提出されたのち、授業にて受講者と作品を共有しながらフィードバックする					
時間外の学習について	予習：身の回りの印刷物に関心をもち、気になったものは収集してスクラップするなどが望ましい(30分程度) 復習：制作課題は提出期限までに完成させること(60分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：印刷メディアディレクション [改訂版]／ワークスコーポレーション 参考書：入稿データのつくりかた CMYK4色印刷・特色2色印刷・名刺・ハガキ・同人誌・グッズ類／エムディエヌコーポレーション 参考資料：特になし					
担当者からのメッセージ等実務経験について	課題についての質問や報告はメールにて。 E-Mail：maek4s@gmail.com					

科目名	グラフィック (1単位)	演習	芸術表現学科	1年前期	担当者	前田 和也 (単独)
ナンバリングコード	JA-S127-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	グラフィックデザイン制作の基本ソフトウェアであるAdobe Illustratorの基礎を学び、グラフィックデザインの基礎知識を身につける。					
授業の概要	クリエイターやデザイナーになるために必要なソフトウェアについて理解し、基本的な操作方法を習得する。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP：c
		DP記号	a	b	c	d
	1. ベクターデータ編集ソフトウェアIllustratorの基本操作技術の習得			○	◎	
	2. グラフィックデザインに必要な基礎知識を習得する			○	◎	
	3. ベクタ画像とラスタ画像処理の連携手法の習得			○	◎	
4. グラフィックデザインの表現力、技術の習得				◎	○	
履修条件・注意事項	画像編集Ⅰを同時履修することが望ましい。 授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> Illustratorの基本 (目標 1) 図形や線を描く1 (目標 1,2) 図形や線を描く2 (目標 1,2) オブジェクトの選択と基本的な変形 (目標 1,2) 色と透明度の設定 (目標 1,2) オブジェクトの編集と合成1 (目標 1,2) 線と文字の設定1 (目標 1,2) 線と文字の設定2 (目標 1,2) クリッピングマスク・効果メニュー (目標 1,2) パスとアウトライン (目標 1,2) 3D効果とエンベロープ (目標 1,2) IllustratorとPhotoshopの連携 (目標 1,2,3) 課題制作1 (目標 1,3,4) 課題制作2 (目標 1,3,4) 課題制作3 (目標 1,3,4) 					
アクティブ・ラーニング						
成績評価基準	①授業中の課題 (80%)：思考・判断・表現技術を測定 ②授業中の取組姿勢 (20%)：関心・意欲の測定					
フィードバックの方法	課題が提出されたのち、授業にて受講者と作品を共有しながらフィードバックする					
時間外の学習について	予習：身の回りの印刷物に関心をもち、気になったものは収集してスクラップするなどが望ましい (30分程度) 復習：制作課題は提出期限までに完成させること (60分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：印刷メディアディレクション [改訂版]／ワークスコーポレーション 参考書：入稿データのつくりかた CMYK4色印刷・特色2色印刷・名刺・ハガキ・同人誌・グッズ類／エムディエヌコーポレーション 参考資料：特になし					
担当者からのメッセージ等実務経験について	課題についての質問や報告はメールにて。E-Mail：maek4s@gmail.com					

科 目 名	広告デザインⅠ (1単位)	演習	芸術表現学科	1年 後期	担当者	山下 明仁 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S128-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授業のテーマ	「伝わる表現・伝わるデザイン」にするための技術を身につける。					
授業の概要	<p>広告はもちろん、社会で必要とされる表現にはクリアしなければならない「基準」が存在します。その基準を意識化することなく制作しても伝わる表現にはなりません。まずは基準を把握する。それだけで制作物のクオリティが上がり、自分だけのオリジナルな作品が作れるようになります。そのことを実際にポスターを制作しながら学んでいきます。</p>					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 表現における評価基準。			◎		
	2. どうやって基準をクリアしていくか。			◎		
	3. アイデアの切り口と、差別化。			◎		
	4. 伝えるべき本質をどのように可視化するか。			◎		
5. 自分だけのオリジナルな作品を作れるようになる。			◎	○		
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 「表現」とは何か。(あらゆる表現の基本となるもの) (目標 1) 「好きなものを作る」では伝わらない、作れない、続かない。(目標 1) 評価されるポスターとは。(実際の広告で確認しよう) (目標 1,2) 評価基準。(たった3つしかない) (目標 1,2) アイデアの出し方。(最初はベタでもいい) (目標 1,2,3) 切り口の見つけ方。(オリジナルな作品とは) (目標 1,2,3) オリジナルな、自分だけの作品にするために。(目標 1,2,3) 切り口の見つけ方02 (さらにオリジナルに) (目標 1,2,3,4) メッセージの「本質」とは。(目標 1,2,3,4) メッセージが届かない理由。(目標 1,2,3,4) 切り口の見つけ方03 (さらにオリジナルに) (目標 1,2,3,4,5) じっさいにポスターを制作しましょう。(目標 1,2,3,4,5) 制作物のプロセスを知ろう。(目標 1,2,3,4,5) 制作物の講評。(目標 1,2,3,4,5) 制作物の仕上げ。広告賞にエントリーしよう (目標 1,2,3,4,5) 					
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション					
成績評価基準	<p>評価の方法：課題制作 (70%)：課題の完成度により技能・表現を測定。理論の理解 (30%) 評価の基準：実際の制作物によって測定。</p>					
フィードバックの方法	講義でそれぞれの制作課題の講評により行う。					
時間外の学習について	<p>予習：好きなグラフィック広告、看板など、面白いと感じたものを自分なりに分析してみる。 復習：評価基準を意識しながら課題を制作しているか、確認。</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト：プリント配布 参考書：体的事例、グラフィック・映像など。 参考資料等：プリント配布</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について	<p>現役のCMプランナー・広告デザイナーです (ACC賞、山口県広告大賞など受賞歴あり)。現在、仕事で使っている方法、「実戦」で使える技術を伝授します。 コンテンツ制作会社を設立：広告はもちろんコンテンツの制作において重要となるアイデアの生み出し方。そのアイデアを効果的にアウトプットするまでの方法論を実務経験を交えながらお伝えします。</p>					

科 目 名	広告デザインⅡ (1単位)	演習	芸術表現学科	2年 後期	担当者	前田 和也 (単独)
ナンバリングコード	JA-S225-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授 業 の テ ー マ	広告の種類や手法を理解し、広告制作のプランニングからデザインにいたるまでのプロセスを学び、広告デザインの基礎的知識と技術を身につける。					
授 業 の 概 要	広告制作は、広告対象の設定や目標の明確化などのコンセプト（基本プラン）ワークから広告表現のデザインコンセプトの立案、デザインコンセプトに基づく具体的なラフ制作による広告デザインのプランニングを経て、DTPツールによるデータ制作というプロセスを経る。授業では県内地域を中心とする実際の案件をテーマにして広告制作に取り組みます。					
達 成 目 標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：d				
	1. 広告及び広告制作のプロセスを理解する。	DP記号	a	b	c	d
	2. 広告のプランニングについて理解する。				○	◎
	3. DTPによる広告制作技術の習熟。				◎	○
	4. デザイン制作でのコミュニケーションとプレゼンテーション技術の習得。		○			◎
履修条件・注意事項	画像編集Ⅰ、グラフィックを履修することが望ましい。 授業の実施方法：①面接授業のみ					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広告の種類（目標1） 2. 身近な広告（1）収集・調査（目標2） 3. 身近な広告（2）集計・分析（目標2） 4. 広告企画（1）リサーチ（目標1,2） 5. 広告企画（2）企画・コンセプトづくり（目標2） 6. 広告企画（3）ラフデザイン案作成（目標2） 7. 広告企画（4）ラフデザイン案作成（目標2） 8. 広告企画（5）プレゼンテーション（目標4） 9. ツール1制作（1）デザイン制作（目標3） 10. ツール1制作（2）デザイン制作（目標3） 11. ツール1制作（2）デザイン制作（目標3） 12. ツール2の制作（1）デザイン制作（目標3） 13. ツール2の制作（2）デザイン制作（目標3） 14. ツール2の制作（3）デザイン制作（目標3） 15. プレゼンテーション（目標4） 					
アクティブ・ラーニング						
成績評価基準	①授業中の課題（75%）：思考・判断・表現技術を測定 ②授業中の取組姿勢（25%）：関心・意欲の測定					
フィードバックの方法	課題が提出されたのち、授業にて受講者と作品を共有しながらフィードバックする					
時間外の学習について	予習：身の回りの広告物に関心をもち、気になったものは収集してスクラップするなどが望ましい（各回45分程度） 復習：制作課題は提出期限までに完成させること					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：授業時に配布します					
担当者からのメッセージ等実務経験について	課題についての質問や報告はメールにて。E-Mail：maek4s@gmail.com					

科目名	マンガ・イラスト I (1単位)	演習	芸術表現学科	1年前期	担当者	わだ かづよ (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S129-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系 列						
授業のテーマ	4コママンガ・ストーリーマンガの制作を通して、専門分野の技術を身につける。					
授業の概要	4コマ漫画、ストーリー漫画の制作を通して、マンガ・アニメーションの基礎を学ぶ。キャラクターのデザイン方法、ストーリー構成、ペン入れ等、作画方法を実習し、作品を完成させる。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP：c
						DP記号
	1. 4コママンガ・ストーリーマンガの作成における基礎知識の習得					a b c d
	2. 作画における基礎技術の習得					
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャラクター設定 (目標 1,2) 2. キャラクター表の作成、提出 (目標 1,2) 3. プロット作成、提出 (目標 2) 4. 描き方、画材説明 (目標 1) 5. ネーム作成 (目標 2) 6. ネーム作成、提出 (目標 2) 7. ネーム直し (目標 2) 8. ネーム直し、提出 (目標 2) 9. 下絵 (目標 2) 10. 下絵直し、提出 (目標 2) 11. ペン入れ、描き方説明 (目標 2) 12. トーン、ベタ (目標 2) 13. 仕上げ (目標 2) 14. 最終チェック (目標 2) 15. 作品提出、講評 (目標 2) 					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション					
成績評価基準	①授業中の取り組み (50%)：意欲、関心を測定、製作に集中できている。 ②提出作品 (50%)：技能、表現を測定、授業で学んだ技法を理解し、再現できている。作品の完成度。					
フィードバックの方法	提出作品の返却時に、評価、改善点等のコメントを添付します。					
時間外の学習について	復習：次回までに作品制作を進める。(各回45分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：授業の中でプリント等配布します。 参考書・参考資料：講義内容に応じてその都度紹介します (用意する必要はありません)。					
担当者からのメッセージ等実務経験について	マンガ・アニメーションに関する事であれば、上記以外の作品でも制作可。ただし要相談。 提出作品については、指定のサイズの原稿用紙。画材等は各自用意して下さい。 漫画家、雑誌「なかよし」に連載経験：マンガ、イラスト経験をもとに作品の作り方、実践的な技術について話をします。					

科目名	マンガ・イラストⅡ (1単位)	演習	芸術表現学科	1年後期	担当者	わだ かづよ (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S130-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系 列						
授業のテーマ	マンガ・アニメーションの制作を通して、専門分野の技術を身につける。					
授業の概要	「マンガ・アニメーションⅠ」をもとに、前期作品の続き、アニメ絵コンテ、マンガイラスト等から選択し、作品を完成させる。より個性を伸ばすよう、様々な画材を使い、カラー作品に取り組む。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP：c
						DP記号
	1. マンガ・アニメーションの作成における基礎知識の習得					a
	2. カラー用画材の使用と作画における基礎技術の習得					b
						c
						d
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作品選択、キャラクター設定 (目標 1,2) 2. キャラクター表の作成、提出 (目標 1,2) 3. プロット、企画書作成、提出 (目標 2) 4. 描き方説明 (目標 1) 5. レイアウト作成、提出 (目標 2) 6. レイアウト直し、提出 (目標 2) 7. 画材と紙の関係 (目標 1) 8. トレース等、作画方法説明 (目標 1,2) 9. 下絵作成 (目標 2) 10. カラー見本作成 (目標 2) 11. カラー着色① (目標 1) 12. カラー着色② (目標 2) 13. カラー仕上げ (目標 2) 14. プロット仕上げ (目標 2) 15. 最終チェック、作品提出 (目標 2) 					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション					
成績評価基準	①授業中の取り組み (50%)：意欲、関心を測定、製作に集中できている。 ②提出作品 (50%)：技能、表現を測定、授業で学んだ技法を理解し、再現できている。作品の完成度。					
フィードバックの方法	提出作品の返却時に、評価、改善点等のコメントを添付します。					
時間外の学習について	復習：次回までに作品制作を進める。(各回45分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：授業の中でプリント等配布します。 参考書・参考資料：講義内容に応じてその都度紹介します (用意する必要はありません)。					
担当者からのメッセージ等実務経験について	マンガ・アニメーションに関する事であれば、上記以外の作品でも制作可。ただし要相談。 提出作品については、画材等、各自用意して下さい。 漫画家、雑誌「なかよし」に連載経験：マンガ、イラスト経験をもとに作品の作り方、実践的な技術について話をします。					

科目名	3Dモデリング入門 (1単位)	演習	芸術表現学科	1年前後期	担当者	澄重 成記 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S131-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	オープンソースの統合型3DCGソフトウェアの一つである「Blender」を用いて、3Dモデリングに関する基礎技術を身に付ける。					
授業の概要	3DCGソフトBlenderを使って、3Dモデリングに関する操作方法を習得し、授業内の課題を通して、3Dモデリングの基礎技術や用語について学ぶ。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 3DCGの基礎知識の習得			◎	○	
	2. 3DCGソフトを用いて、モデリングができる			○	◎	
	3. 3DCGソフトを用いて、静止画が作成できる			○	◎	
	4. 3DCGソフトを用いて、アニメーションが作成できる			○	◎	
5. 作品についてプレゼンテーションが出来る			◎		○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. 3DCG技術、用語の説明					(目標 1)
	2. Blender操作方法 (基本操作、画面説明)					(目標 1)
	3. Blender操作方法 (モデリング1)					(目標 2)
	4. Blender操作方法 (モデリング2)					(目標 2)
	5. Blender操作方法 (モデリング3)					(目標 2)
	6. Blender操作方法 (マテリアル設定)					(目標 3)
	7. Blender操作方法 (テクスチャ設定)					(目標 3)
	8. Blender操作方法 (カメラ、照明設定)					(目標 3)
	9. Blender操作方法 (レンダリング)					(目標 3,4)
	10. Blender操作方法 (アニメーション)					(目標 4)
	11. 作品制作1					(目標 3,4)
	12. 作品制作2					(目標 3,4)
	13. 作品制作3					(目標 3,4)
	14. 作品制作4					(目標 3,4)
	15. 作品のプレゼンテーション					(目標 5)
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション					
成績評価基準	①授業中の課題 (40%)：思考、判断を測定 ②作品制作 (40%)：技能、表現の測定 ③授業態度 (20%)：関心、意欲の測定					
フィードバックの方法	課題、作品毎に口頭でフィードバックを行う。					
時間外の学習について	予習：特になし 復習：授業内容について復習を行い、理解を深める。(各回45分)					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料等：特になし					
担当者からのメッセージ等実務経験について	3Dモデリングに必要な基本操作が身に付くよう、実演しながら授業を進めていきます。					

科 目 名	映像制作 (1単位)	演習	芸術表現学科	2年 前期	担当者	山下 明仁 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S233-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	幼稚園教諭		
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授業のテーマ	基礎から映像まで、CMプランナーによる「実戦で使える表現技術」を身につける。					
授業の概要	映像・グラフィック・ウェブ…情報媒体は時代とともに進化する。それぞれの媒体について知ることは大切だが、何より重要なのは「あらゆる情報媒体で通用する表現」を身につけること。情報媒体がどれほど変化しようと、情報の受け手は「人間」である。その「人」の心に届く表現の技術を習得する。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP：c
		DP記号	a	b	c	d
	1. 表現とは何かを理解する。				◎	○
	2. 表現の基本的な技術を知る。				◎	
	3. 基本技術を文章（コピー）で使えるようになる。				◎	
	4. 基本技術を平面（グラフィック）で使えるようになる。				◎	
5. 基本技術を映像（動画）で使えるようになる。				◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 「表現」とは。（あらゆる仕事に必要とされるもの）（目標 1,2） 「広告」における表現。（さまざまな媒体と表現。表現の未来について）（目標 1,2） 全ての表現に共通するテクニック「圧縮」と「変更」。（目標 1,2） アイデアの出し方（基本篇）。（目標 1,2） 広告は変化を描く。広告の未来。（目標 1,2,3） 課題（広告コピー）の講評。（目標 1,2,3） 技術から見る「二次元」の表現。（目標 1,2,3,4） 技術から見る「映像」の表現。（目標 1,2,3,4,5） 課題（グラフィック）の講評（目標 1,2,3,4） その広告を「自分ごと」にする方法。（目標 1,2,3,4,5） 映像と編集（情報と感情を操作する）（目標 1,2,3,5） 演出（伝わるように伝える）（目標 1,2,3,5） CMをつくる。（目標 1,2,3,5） 自作CMをプレゼンテーションしよう。（目標 1,2,3,5） インターネットと、これからの表現について。（目標 1,2,3,4,5） 					
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション					
成績評価基準	①課題制作（70%）：課題の完成度により技能・表現を測定、 ②理論の理解（30%）：課題による表現の実習により、理論の理解度を測定。					
フィードバックの方法	講義でそれぞれの制作課題の講評により行う。					
時間外の学習について	予習：好きなCM、映画、グラフィック広告、看板など、面白いと感じたものを自己分析してみる。（各回45分） 復習：制作した課題をブラッシュアップする。（各回45分）					
教材にかかわる情報	テキスト：プリント配布 参考書：具体的事例、グラフィック・映像（動画や映画など）。 参考資料：プリント配布					
担当者からのメッセージ等実務経験について	現役のCMプランナー・広告デザイナーです（ACC賞、山口県広告大賞など受賞歴あり）。現在、仕事で使っている方法、「実戦」で使える技術を伝授します。 コンテンツ制作会社を設立：広告はもちろんコンテンツの制作において重要となるアイデアの生み出し方。そのアイデアを効果的にアウトプットするまでの方法論を実務経験を交えながらお伝えします。					

科目名	CGアニメーション (1単位)	演習	芸術表現学科	2年 前後期	担当者	澄重 成記 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S227-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	オープンソースの統合型3DCGソフトウェアの一つである「Blender」を用いて、CGアニメーションを作る技術を身に付ける。					
授業の概要	3DCGソフトBlenderを使って、CGアニメーションの作り方について学ぶ。また授業内の課題を通して、CGアニメーションを作る上で必要な素材を理解し、著作権、肖像権を守って利用することができる。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP：c
		1. 3DCGの基礎知識の習得				DP記号 a b c d
		2. 3DCGソフトを用いて、無機物を動かすアニメーションが作成できる				
		3. 3DCGソフトを用いて、動物を動かすアニメーションが作成できる				
		4. 必要な素材を、著作権、肖像権を理解して収集できる				
		5. 作品についてプレゼンテーションが出来る				
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. CGについて（作品やCGソフト等の説明）（目標 1） 2. Blender基本操作の復習（目標 1） 3. ボールを動かすアニメーション作成 1（目標 2） 4. ボールを動かすアニメーション作成 2（目標 2） 5. 車を動かすアニメーション作成 1（目標 2） 6. 車を動かすアニメーション作成 2（目標 2） 7. 動物を動かすアニメーション作成 1（目標 3） 8. 動物を動かすアニメーション作成 2（目標 3） 9. 素材の集め方、著作権、肖像権について（目標 4） 10. カメラを動かすアニメーションの作成（目標 2,3） 11. 作品制作 1（目標 2,3） 12. 作品制作 2（目標 2,3） 13. 作品制作 3（目標 2,3） 14. 作品制作 4（目標 2,3） 15. 作品のプレゼンテーション（目標 5）					
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション					
成績評価基準	①授業中の課題（40%）：思考、判断を測定。 ②作品制作（40%）：技能、表現の測定 ③授業態度（20%）：関心、意欲の測定					
フィードバックの方法	課題、作品毎に口頭でフィードバックを行う。					
時間外の学習について	予習：特になし 復習：授業内容について復習を行い、理解を深める。（各回90分）					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料等：特になし					
担当者からのメッセージ等実務経験について	オリジナルのCGアニメーションが作れる技術が身に付くよう、実演しながら授業を進めていきます。					

科目名	Webデザイン入門 (2単位)	演習	芸術表現学科	1年 後期	担当者	澄重 成記 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S132-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系 列						
授業のテーマ	Webサイトを制作するための基本的な技術を習得し、Webサイトの制作現場において適切なコミュニケーションが取れる力を身に付ける。					
授業の概要	Webサイト制作に必要な基本技術を学ぶ。またケーススタディを行い、クライアントとのヒアリングから、提案書を作成し、Webサイトを制作するといった一連の仕事の流れを体験する。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. インターネットやWebの技術についての基礎知識の習得			◎	○	
	2. HTML、CSSの書式、文法の理解			○	◎	
	3. Webサイトの各部分の役割の理解とデザインの制作ができる			○	◎	
	4. Webデザインの制作の流れを理解できる			○	◎	
5. 制作物についてプレゼンテーションが出来る			◎		○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. インターネットやWebの歴史と技術 (目標 1) 2. Webデザインに必要な制作環境 (目標 1) 3. Webサイトの分類と調査 (目標 1,3) 4. 調査レポートの作成 (目標 1,3) 5. HTML、CSSの基礎 (目標 2) 6. HTML、CSSの基礎 (目標 2) 7. HTML5でできること (目標 2,3) 8. 提案書の作成 (クライアントとの打合せ) (目標 3,4) 9. 提案書の作成 (Illustratorを用いたWebサイトデザイン制作) (目標 3,4) 10. 提案書の作成 (Illustratorを用いたWebサイトデザイン制作) (目標 3,4) 11. 提案書のプレゼンテーション (目標 4,5) 12. Webサイトのトップページ制作 (目標 3,4) 13. Webサイトのトップページ制作 (目標 3,4) 14. Webサイトのトップページ制作 (目標 3,4) 15. Webサイトのトップページのプレゼンテーション (目標 4,5) 					
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション					
成績評価基準	①授業中の課題 (80%)：思考、判断、表現技術を測定 ②授業態度 (80%)：関心、意欲の測定					
フィードバックの方法	課題毎に口頭でフィードバックを行う。					
時間外の学習について	予習：Webサイトを閲覧し、Webデザインについて考える。(各回90分) 復習：授業内容について復習を行い、理解を深める。(各回90分)					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：HTML&CSSとWebデザインが1冊できちんと身につく本、服部雄樹 (著)、技術評論社 参考資料等：特になし					
担当者からのメッセージ等実務経験について	ケーススタディを行い、実際の仕事の流れを模擬体験してもらいます。					

科目名	WebデザインI (1単位)	演習	芸術表現学科	2年前期	担当者	澄重 成記 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S228-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系 列						
授業のテーマ	Webサイトを制作するためのHTML、CSS文法の理解を深め、Webサイトの制作現場において、制作者の一員として、働ける力を身に付ける。またWebクリエイター能力認定試験スタンダードが合格できることを目指す。					
授業の概要	「Webデザイン入門」で学んだことについて、さらに理解を深め、実務に応用できる技術を身に付ける。またWebサイト制作ソフトのDreamweaverを使って、Webサイトが制作できる技術を習得し、Webサイト構築から、Webサーバにアップロードを行い、Webサイト公開までの流れを実習する。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP：c
		DP記号	a	b	c	d
	1. Webについての基礎知識の習得			◎	○	
	2. HTML文章の書式、文法の理解			○	◎	
	3. CSS書式、文法の理解			○	◎	
4. Dreamweaver操作技術の習得			○	◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Webサイト・制作の基礎知識、Dreamweaverの使い方 (目標 1) 2. HTMLの基礎 (目標 2) 3. CSSの基礎 (目標 3) 4. 各ページの作成 (共通部分HTML) (目標 1,3) 5. 各ページの作成 (共通部分CSS) (目標 2) 6. 各ページの作成 (目標 2,3,4) 7. 各ページの作成 (目標 2,3,4) 8. テーブルとそのスタイル (HTML) (目標 2,4) 9. テーブルとそのスタイル (CSS) (目標 3,4) 10. フォーム (HTML) (目標 2,4) 11. フォーム (CSS) (目標3,4) 12. Webページの公開 (FTPの設定とアップロード) (目標 2,3,4) 13. 練習課題 (Webクリエイター能力認定試験例題) (目標 2,3) 14. 練習課題 (Webクリエイター能力認定試験例題) (目標 2,3) 15. 練習課題 (Webクリエイター能力認定試験例題) (目標 2,3) 					
アクティブ・ラーニング						
成績評価基準	①授業中の課題 (80%)：思考、判断、表現技術を測定 ②授業態度 (20%)：関心、意欲の測定					
フィードバックの方法	課題毎に口頭でフィードバックを行う。					
時間外の学習について	予習：テキストを読んで大まかな流れを把握しておくこと。(各回45分) 復習：授業内容について復習を行い、理解を深める。(各回45分)					
教材にかかわる情報	テキスト：Webクリエイター能力認定試験スタンダード公式テキスト/FOM出版 参考書：特になし 参考資料等：Webクリエイター能力認定試験 (HTML5対応版) スタンダード問題集					
担当者からのメッセージ等実務経験について	Webクリエイター能力認定試験スタンダードが合格できる能力を身に付けるため、テキストに沿って授業を進めます。					

科目名	WebデザインⅡ (1単位)	演習	芸術表現学科	2年 後期	担当者	澄重 成記 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S229-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系 列						
授業のテーマ	「WebデザインⅠ」より専門的な知識を学習する。現在Webサイト制作の現場では、HTML、CSSだけでなく、Javascript、jQueryなどの技術を組み合わせて、制作されることが多い。そういった技術を学び、実習することで、Webの専門分野に関わる現場において、適切な行動がとれるようになることを目指す。					
授業の概要	授業では、HTML、CSSのの復習の後に、javascript、jQueryについて学ぶ。さらにCMS(コンテンツ管理システム)を使ったウェブサイトの構築方法についても学習する。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：c				
	1. HTML、CSSなどの基礎知識の習得	DP記号	a	b	c	d
	2. jQueryライブラリやプラグインをウェブページに組み込むことができる			○	◎	
	3. WordPressのインストール、構築ができる			○	◎	
4. ウェブサイトの運用、分析についての方法の習得			○	◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> Webサイトに関わる技術 (目標 1) WebサイトにjQueryプラグインを組み込む1 (目標 2) WebサイトにjQueryプラグインを組み込む2 (目標 2) WebサイトにjQueryプラグインを組み込む3 (目標 2) CMS(WordPress)について (目標 3) WordPressのインストール・設定 (目標 3) WordPress：ウェブサイト構築1(投稿の作成) (目標 1,3) WordPress：ウェブサイト構築2(ページの作成) (目標 1,3) WordPress：ウェブサイト構築3(テーマファイルの編集) (目標 1,3) WordPress：ウェブサイト構築4(プラグインの導入：Contact Form 7) (目標 2,3) WordPress：ウェブサイト構築5(プラグインの導入：Meta Slider) (目標 2,3) WordPress：ウェブサイト構築6(スマートフォン対応について) (目標 1,2,3) WordPress：ウェブサイト構築7(まとめ) (目標 3) Webサイトの運用・分析(アクセス解析) (目標 4) Webサイトの運用・分析(SNSとの連携) (目標 4) 					
アクティブ・ラーニング						
成績評価基準	①授業中の課題(80%)：思考、判断、表現技術を測定。 ②授業態度(20%)：関心、意欲の測定					
フィードバックの方法	課題毎に口頭でフィードバックを行う。					
時間外の学習について	予習：なし 復習：授業内容について復習を行い、理解を深める。(各回90分)					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料等：特になし					
担当者からのメッセージ等実務経験について	「Webデザイン入門」「WebデザインⅠ」で学習したことは、別の技術を学ぶため、難易度は高いと思います。復習は必ず行い、不明点は解決して、次の授業に臨んでください。					

科 目 名	服飾デザイン (1単位)	演習	芸術表現学科	1年 前期	担当者	片山 涼子 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S133-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授業のテーマ	ファッションデザイン画の描き方や、被服の構成部位の名称などを学ぶことで、ファッション分野の知識と技術を身につけ、主体的に行動できるようになる。 また、コンセプトに基づいたデザイン画の製作及び被服製作を通して、創造力を養う。					
授業の概要	コンセプトに基づいたファッションデザインを自身で考え、実際に製作実習を行い、服がどのように出来ていくのかを把握するとともに、パターン製作、裁断、縫製のプロセスを経ることで、製作技術を習得する					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP：
		DP記号	a	b	c	d
	1. 被服に関する総合的な知識を習得する			○	◎	
	2. ファッションデザイン画の描き方を習得し、伝達する能力を身につける			○	◎	
	3. コンセプトを元にデザインを考えることで創造力を養う				○	◎
4. 被服製作の技術を一部習得する		○		◎		
5. プレゼンテーション能力を身につける		○	◎			
履修条件・注意事項	実習に必要な道具・材料等は、基本的に各自で用意をお願いします。 授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要について デザイン画の描き方。(目標 1.2) 2. コンセプトに基づいたデザイン画の作成及びデザイン画を元にしたパターン製作 (目標 2,3,4) 3. パターン製作の続き (目標 4) 4. 裁断：縫製手順の考察及び行程分析。(目標 4) 5. 縫製 (1) 各自製作するアイテムに応じた手順で進める。(目標 4) 6. 縫製 (2) 前回の続き (目標 4) 7. 縫製 (3) 前回の続き (目標 4) 8. 縫製 (4) 前回の続き (目標 4) 9. 縫製 (5) 前回の続き (目標 4) 10. 縫製 (6) 前回の続き (目標 4) 11. 縫製 (7) 前回の続き (目標 4) 12. 縫製 (8) 前回の続き (目標 4) 13. 縫製 (9) 前回の続き (目標 4) 14. 縫製 (10) 前回の続きプレゼンテーションの準備 (目標 4.5) 15. プレゼンテーション (目標 5) 					
アクティブ・ラーニング	製作実習、プレゼンテーション					
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> ①授業態度 (40%)：思考・判断、関心・意欲を測定 (デザイン検討及び製作実習への向き合い方が積極的である。) ②製作作品 (40%)：技能習得を測定 (教えた技法を習得し再現できる。) ③プレゼンテーション (20%)：知識・理解、表現を測定 (根拠のある自身の考えを伝達する能力が養えている。) 					
フィードバックの方法	デザイン画に対し、より良くなる描き方を教える。コンセプトに対するデザイン検討においてアドバイスする。					
時間外の学習について	予習・復習：材料準備 (45分程度) 被服製作で遅れがある場合のフォロー (各回45分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：適宜配布					
担当者からのメッセージ等実務経験について	着物リメイク服を中心とするオーダーメイドのアトリエ経営を10年以上行っています。 デザインの伝え方や服づくりの技法など、プロのやり方を教えます。 服飾デザイナー及びクリエイター：自社のアトリエ兼ショップ経営の経験をもとにファッションを通しての表現について実技を交えて話をします。					

科 目 名	ファッションコーディネート (1単位)	演習	芸術表現学科	1年 後期	担 当 者	片山 涼子 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S134-000					
卒 業 要 件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授 業 の テ ー マ	ファッションデザイン画の描き方や、被服の構成部位の名称などを学ぶことで、ファッション分野の知識と技術を身につけ、主体的に行動できるようになる。 また、コンセプトに基づいたファッションコーディネートを考察し、表現することにより、コミュニケーション能力を養う。					
授 業 の 概 要	コンセプトに基づいたファッションコーディネートを自身で考え、選び、プレゼンテーションする。実際に製作実習を行い、服がどのように出来ていくのかを把握するとともに、パターン製作、裁断、縫製のプロセスを経ることで、製作技術を習得する。					
達 成 目 標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 被服に関する総合的な知識を習得する。			○	◎	
	2. ファッションデザイン画の描き方を習得し、伝達する能力を身につける。			○	◎	
	3. グループ協議での協調性やリーダーシップを身につける。			◎		○
	4. 被服製作の技術を一部習得する。		○		◎	
	5. プレゼンテーション能力を身につける。		○	◎		
6. ファッションコーディネートが社会に及ぼす影響について考察し、その実態を理解するとともに、自らコーディネートを考える能力を身につける。				○	◎	
履修条件・注意事項	実習に必要な道具・材料等は、基本的に各自が用意すること。 授業の実施方法：①面接授業のみ					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要について。デザイン画の描き方 (目標 1,2) 2. コンセプトに基づいたコーディネートの検討、グループ協議 (目標 2,3) 3. コーディネートのプレゼンテーション (目標 3,5) 4. シャツ・ブラウスの製作 パターン製作 (目標 4) 5. 裁断、縫製手順の考察及び行程分析 (目標 4) 6. 縫製 (1) 前身頃の見返しまたは前立てを縫う。前身頃の肩を縫い合わせる。(目標 4) 7. 縫製 (2) 袖を縫い付ける。衿のサンプルを作成し仮止めし、脇を仮縫いし試着。(目標 4) 8. 縫製 (3) 衿を作成し縫い付ける。(目標 4) 9. 縫製 (4) 脇を本縫いし、裾上げをする。(目標 4) 10. 縫製 (5) 袖端を縫い上げる、またはカフスを作成し縫い付ける。(目標 4) 11. 縫製 (6) ボタンホールを開け、ボタンを縫い付け完成させる。(目標 4) 12. 完成したブラウスを用いたコーディネートの考察及びプレゼンテーション。(目標 5) 13. 商品CMの衣装を想定したコーディネートの考察 (1) (目標 6) 14. 商品CMの衣装を想定したコーディネートの考察 (2) (目標 6) 15. プレゼンテーション (目標 5) 					
アクティブ・ラーニング	グループワーク、製作実習、プレゼンテーション					
成 績 評 価 基 準	<ol style="list-style-type: none"> ①授業態度 (40%)：思考・判断、関心・意欲を測定 (検討する際に積極的に発言する) ②プレゼンテーション (30%)：知識・理解、表現を測定 (根拠のある自身の考えを伝達する能力が養えている) ③製作作品 (30%)：技能習得を測定 (教えた技法を習得し再現できる) 					
フィードバックの方法	デザイン画に対し、より良くなる描き方を教える。 プレゼンテーションに対し、他学生も一緒にどう感じたか感想を述べ評価する。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習・復習：プレゼンテーションに必要な被服の選択 (15分程度) 材料準備 (45分程度) 被服製作で遅れがある場合のフォロー (各回45分程度) 商品CMに関心を持って視聴する (のべ25分程度)					
教材にかかわる 情 報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：適宜配布					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	着物リメイク服を中心とするオーダーメイドのアトリエ経営を10年以上行っています。 デザインの伝え方や服づくりの技法など、プロのやり方を教えます。 服飾デザイナー及びクリエイター：自社のアトリエ兼ショップ経営の経験をもとにファッションを通しての表現について実技を交えて話をします。					

科目名	プロダクトデザイン (1単位)	演習	芸術表現学科	2年前期	担当者	平川 和明 (単独)
ナンバリングコード	JA-S230-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	プロダクトデザインの一連の流れを理解し、多面的な視点から生活と環境を踏まえた新たなデザインを発想する力を養う。					
授業の概要	課題制作を通してプロダクトデザインのプロセスを体験し理解を深める。調査、企画、デザイン展開、試作という工程を得て作品を制作し、一つの商品としてまとめ上げ、その成果を発表する。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. プロダクトデザインの発想、考え方を理解する。				◎	○
	2. どのように思考、判断して個々の作品制作に至ったかを説明できる。			◎	○	
	3. 日常生活でデザインに問題意識を持ち、作品制作に活かすことができる。				○	◎
	4. プロダクトデザインのプロセスを理解し、主体的に制作活動に取り組むことができる。	◎				○
5. 多面的な視点から発想ができる。				○	◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. ガイダンス (目標 1) 2. プロダクトデザインとは (目標 1) 3. チームビルディング (目標 2,5) 4. デザインの発想法 (目標 1,3,5) 5. 市場調査 (目標 1,4) 6. プランニング コンセプト設定 (目標 1,2,3,5) 7. デザイン展開 (目標 2,3,5) 8. 設計、模型制作 (目標 2,4,5) 9. 課題制作① 材料加工 a (目標 4) 10. 課題制作② 材料加工 b (目標 4) 11. 課題制作③ 組み上げ (目標 4) 12. 課題制作④ 仕上げ (目標 4) 14. 課題制作⑤ 塗装 (目標 4) 15. プレゼンテーション、講評 (目標 1,2,3,4,5) ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、グループワーク					
成績評価基準	①授業態度 (30%)：授業に取り組む意欲を授業態度から測定 ②課題作品 (60%)：アイデア発想力や技能を作品の完成度により測定 ③発表 (10%)：プレゼンテーションの内容でプロダクトデザインの理解度を測定。					
フィードバックの方法	作品の講評、プリント資料の配布					
時間外の学習について	予習：授業内容に沿ってその都度指示。各回45分程度 復習：授業内容に沿ってその都度指示。各回45分程度					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：「プロダクトデザインの基礎」 日本インダストリアルデザイナー協会編 発行・発売：ワークスコーポレーション 参考資料：適宜配布					
担当者からのメッセージ等実務経験について	家具デザイン・開発に携わってきた実務経験を通してプロダクトデザインの特に家具分野の造形と機能性について講義をおこない、その実践的な技術を伝えたいと思います。					

科目名	空間デザイン (1単位)	演習	芸術表現学科	2年 後期	担当者	池田 聖 長田 和美 (複数)
ナンバリングコード	JA-S231-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系 列						
授業のテーマ	空間デザインの考え方やプロセスを理解し、デザイナーとしての視野を広げる。					
授業の概要	建築・設備に関する視察・調査などを通して建築物の役割を理解するとともに、一連の設計プロセスを通して空間デザインの基礎を理解し、広告デザインや展示会等のレイアウト検討等に应用する。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP：
						DP記号 a b c d
	1. 空間デザインを学ぶ意義を理解する					◎
	2. 自然と人の関わり、建築・設備の役割を理解する					◎
	3. 建築設計において大切なことや、設計プロセスを理解する					◎ ○
4. 自身のデザインについてプレゼンテーションできる					◎ ○	
5. 空間デザインの基礎を理解し、広告デザインや展示会等のレイアウト検討に応用できる。					◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. 空デザインを学ぶ意義	(担当：長田) (目標 1)				
	2. 建築に関する文献調査 (1)	(担当：長田) (目標 1)				
	3. 建築に関する文献調査 (2)	(担当：長田) (目標 1)				
	4. 建築・設備に関する視察 (1)	(担当：池田) (目標 2)				
	5. 建築・設備に関する視察 (2)	(担当：池田) (目標 2)				
	6. 良い家とは	(担当：池田) (目標 2)				
	7. 自然環境と住宅	(担当：池田) (目標 2)				
	8. 在宅の間取り検討	(担当：池田) (目標 3)				
	9. 空間デザインの表現方法 (1)	(担当：池田) (目標 3)				
	10. 空間デザインの表現方法 (2)	(担当：池田) (目標 3)				
	11. 制作課題 (1)	(担当：池田、長田) (目標 4)				
	12. 制作課題 (2)	(担当：池田) (目標 4)				
	13. 制作課題 (3)	(担当：長田) (目標 4)				
	14. プレゼンテーション (1)	(担当：長田) (目標 5)				
	15. プレゼンテーション (1)	(担当：池田、長田) (目標 5)				
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、プレゼンテーション					
成績評価基準	①授業内レポート (50%)：授業への関心・意欲を測定 ②制作課題 (50%)：技能・表現を測定					
フィードバックの方法	授業内レポートや課題の返却により実施する					
時間外の学習について	予習：配布した資料を読んでおくこと (毎回45分程度) 復習：授業で学んだ知識・技術について復習しておくこと (各回45分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：適宜配布					
担当者からのメッセージ等実務経験について						

科目名	ポートフォリオ制作 (1単位)	演習	芸術表現学科	1年 後期	担当者	前田 和也 (単独)
ナンバリングコード	JA-S135-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	ポートフォリオ(作品集)制作と効果的なプレゼンテーション					
授業の概要	ポートフォリオ制作を通して、自身のスキルを客観的に捉える力や、自己PRの方法を習得する。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、勤労観、社会貢献、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. ポートフォリオの目的・役割を理解する		◎			
	2. 作品の制作意図を説明できる				◎	
	3. ポートフォリオの制作プロセスを理解する				◎	
	4. ポートフォリオを活用したプレゼンテーションができる		◎	○		
5. スケジュール管理ができる					◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. ポートフォリオの意義 (目標 1) 2. 事例調査 (目標 1,2) 3. 事例調査 (目標 1,2) 4. 事例調査・まとめ (目標 1,2,5) 5. 自己分析 (1) プロフィール作成 (目標 2,3) 6. 自己分析 (2) 客観的意見、主観的意見調査 (目標 2,3) 7. 自己分析 (3) まとめ (目標 2,5) 8. プレゼンテーション (目標 2,4) 9. ポートフォリオ制作 (1) コンセプト立案 (目標 3,5) 10. ポートフォリオ制作 (2) 構成・レイアウト制作 (目標 3,5) 11. ポートフォリオ制作 (3) 作業スケジュール立案 (目標 3,5) 12. ポートフォリオ制作 (4) デザイン制作 (目標 3,5) 13. ポートフォリオ制作 (5) デザイン制作 (目標 3,5) 14. ポートフォリオ制作 (6) デザイン制作 (目標 3,5) 15. プレゼンテーション (目標 2,4)					
アクティブ・ラーニング	ロールプレイ、プレゼンテーション					
成績評価基準	①授業内レポート (20%)：関心・意欲を測定 ②授業中の課題制作 (40%)：技能・表現を測定 ③プレゼンテーション (20%)：思考・判断、技能・表現を測定 ④授業中の取組姿勢 (20%)：関心・意欲の測定					
フィードバックの方法	課題が提出されたのち、授業にて受講者と作品を共有しながらフィードバックする					
時間外の学習について	予習：身の回りのデザインに関心を持ち、気になったものは収集してスクラップするなどが望ましい (30分程度) 復習：制作課題は提出期限までに完成させること (60分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：授業時に配布します					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	課題についての質問や報告はメールにて。E-Mail：maek4s@gmail.com					

科 目 名	ピアノ I (1単位)	実技	芸術表現学科	1年 前期	担当者	脇淵 陽子 (単独)
ナンバリングコード	JA-S141-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授 業 の テ ー マ	各楽器の基本的な演奏技術と音楽表現力を身につける。					
授 業 の 概 要	ピアノ奏法の基礎的なテクニックの習得、身体的機能、運指の基本技術を習得する。楽譜を読み解く力を身につけるとともに、一人ひとりの進度に合わせて練習課題に取り組み、各自の課題に対しディスカッションを行う。授業形態は全員対象・個人指導を行う。					
達 成 目 標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 基本的な姿勢と身体的機能の修得			○	◎	
	2. 基礎的な音楽知識の理解			○	◎	
	3. 練習計画の実践と演奏技術の向上				◎	○
	4. 楽曲理解と音楽表現法				◎	○
5. 演奏実技の発表				○	◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授 業 計 画	<p>第1回：1年次の演奏曲目計画、ピアノ奏法の基礎的なテクニックの習得①について（目標 1）</p> <p>第2回：ピアノ奏法の基礎的な運動②肩、腕の弛緩について（目標 1）</p> <p>第3回：ピアノ奏法の基礎的な運動③腕、手首、肘の落下について。初見視奏の取り組み。 (目標 1,2)</p> <p>第4回：ピアノ奏法の基礎技術①曲想に合わせたタッチの練習（目標 1,2）</p> <p>第5回：ピアノ奏法の基礎技術②指の独立について。音階と分散和音（目標 2,3）</p> <p>第6回：バッハ作品を主としたバロック時代作品（目標 3,4）</p> <p>第7回：バッハ作品を主としたバロック時代作品（目標 3,4）</p> <p>第8回：作品に対するディスカッション（目標 4,5）</p> <p>第9回：試験曲への取り組み①基礎的な内容を習得する（目標 3,4）</p> <p>第10回：試験曲への取り組み②楽譜を正しく読む（目標 3,4,5）</p> <p>第11回：試験曲への取り組み③楽譜の分析と背景（目標 3,4,5）</p> <p>第12回：試験曲の演奏法と演奏解釈①（目標 4,5）</p> <p>第13回：試験曲の演奏法と演奏解釈②（目標 4,5）</p> <p>第14回：試験曲発表とディスカッション①（目標 5）</p> <p>第15回：試験曲発表とディスカッション②（目標 5）</p> <p>◎定期試験</p> <p>以上のような基礎的な演奏技術の向上を目標に、個人の進度や学びたい演奏分野の作品等、相談しながら授業を進める。</p>					
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション					
成績評価基準	<p>①定期試験（50%）：学んだ技術を再現できる。</p> <p>②授業態度・授業への参加度（25%）：積極的に質問する。</p> <p>③宿題（25%）：課題に意欲的に取り組む。</p>					
フィードバックの方法	各回のレッスンの際に課題を設定して、個別に助言を行う。					
時間外の学習について	<p>予習：課題を各自練習してレッスンに備える。（各回90分程度）</p> <p>復習：レッスンで指摘された助言について練習する。（各回90分程度）</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト：ハノン教則本、各作曲家の練習曲、バッハ作品（インヴェンションとシンフォニア、平均律クラヴィーア曲集等）、各作曲家によるソナタ全集他</p> <p>参考書、参考資料：特になし</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について	進度は異なりますが、ピアノ演奏に基礎技術の習得は欠かせません。練習方法を考えて集中力を高め、作品と真摯に向き合ってください。					

科目名	ピアノⅡ (1単位)	実技	芸術表現学科	1年後期	担当者	脇淵 陽子 (単独)
ナンバリングコード	JA-S142-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	幼稚園教諭		
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	「ピアノⅠ」で学んだ基礎的な知識や演奏技術、音楽表現力を高める。					
授業の概要	古典派やロマン派の作品を通して音楽の感性を磨きつつ、「自己表現力」を習得する。演奏能力の充実と向上のため授業形態は個人レッスンと全員対象を併用しながら進める。学生一人ひとりの興味や進度にあわせて選曲し指導にあたる。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 基本的な姿勢と身体的機能の修得				◎	○
	2. 基礎的な音楽知識の理解				◎	○
	3. 練習計画の実践と演奏技術の向上				◎	○
	4. 楽曲理解と音楽表現法				◎	○
5. 演奏実技の発表				○	◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 前期のふり返りと後期の計画、練習曲を用いてのテクニックの習得①（目標1） 練習曲を用いてのテクニックの習得②（目標1） ピアノ奏法の基礎技術、古典派のソナタ（目標2,3） 練習曲、ソナタ形式を学ぶ（目標2,3） 練習曲、ソナタ形式と作品（目標2,3） ハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンのピアノ・ソナタ他（目標3,4） ウィーン古典派のピアノ・ソナタ（目標3,4） ウィーン古典派のピアノ・ソナタについてディスカッション（目標3,4） 後期試験曲に取り組む（目標4,5） 試験曲の練習法、演奏技法について①レガート奏法（目標4,5） 試験曲の練習法、演奏技法について②フレージングについて（目標4,5） 試験曲の練習法、演奏技法について③豊かな音色を追求する（目標4,5） 試験曲の練習法、演奏技法について④楽譜を深く読む（目標4,5） 演奏発表とディスカッション①（目標1,2,3,4,5） 演奏発表とディスカッション②（目標1,2,3,4,5） ◎定期試験 <p>以上のような視点を常にもちながら、個人の進度に応じた作品を選曲し、全体指導を行う。</p>					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション					
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> ①定期試験（50%）：学んだ技術を再現できる。 ②授業態度・授業への参加度（25%）：積極的に質問する。 ③宿題（25%）：課題に意欲的に取り組む。 					
フィードバックの方法	各回のレッスンの際に課題を設定して、個別に助言を行う。					
時間外の学習について	予習：課題を各自練習してレッスンに備える。（各回90分程度） 復習：レッスンで指摘された助言について練習する。（各回90分程度）					
教材にかかわる情報	テキスト：ハノン教則本、各作曲家の練習曲、バッハ（インヴェンションとシンフォニア、平均律クラヴィーア曲集等）、ソナタ全集他 参考書、参考資料：特になし					
担当者からのメッセージ等実務経験について	クラシックやポピュラー作品など、練習方法を考え技術の向上、表現方法を高める。多くのレパートリー曲に励む。					

科 目 名	ピアノⅢ (1単位)	実技	芸術表現学科	2年 前期	担当者	脇淵 陽子 (単独)
ナンバリングコード	JA-S241-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授 業 の テ ー マ	「ピアノⅠ・Ⅱ」で学んだ演奏技術をさらに深め、音楽表現力の発展を図る。					
授 業 の 概 要	高度な演奏法を引き続き学びながら「ポリフォニー音楽の演奏法とその基礎的な表現力」を習得する。さらに古典派やロマン派のピアノ作品を通して音楽的感性を磨きつつ、「自己表現力」を習得する。演奏能力の充実と向上のため授業形態は個人指導と全員対象を併せて進める。					
達 成 目 標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 幅広い音楽分野の作品研究			◎	○	
	2. 専門的な音楽知識の修得				◎	○
	3. 練習方法の分析と演奏技術の向上				○	◎
	4. 楽曲の様式と演奏解釈				◎	○
5. 演奏実技の発表				○	◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授 業 計 画	<p>1. 1年次のふり返りと、ロマン派ピアノ作品について、及び演奏曲目の計画</p> <p>2. ロマン派のピアノ小品について①（目標2）</p> <p>3. ロマン派のピアノ小品について②（目標2）</p> <p>4. ロマン派のピアノ作品の分析と演奏法①（目標2）</p> <p>5. ロマン派のピアノ作品の分析と演奏法②（目標2,3）</p> <p>6. 個人の能力に沿った試験曲の選曲</p> <p>10. 試験曲（ロマン派の作品）他①（目標3,4）</p> <p>11. 試験曲（ロマン派の作品）他②（目標3,4）</p> <p>12. 試験曲（ロマン派の作品）他③（目標3,4）</p> <p>13. 試験曲（ロマン派の作品）他④（目標3,4）</p> <p>14. 試験曲の発表と演奏解釈（目標4,5）</p> <p>①レガート奏法 ②豊かな音色を追求する</p> <p>③フレージングについて ④楽譜を深く読む</p> <p>⑤作品の全体構成 ⑥表現方法について</p> <p>15. 前期試験曲の発表（目標5）</p> <p>◎定期試験</p> <p>以上のような視点を常にもちながら、個人指導と全体指導を行う。</p>					
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション					
成 績 評 価 基 準	<p>①定期試験（50%）：学んだ技術を再現できる。</p> <p>②授業態度・授業への参加度（25%）：積極的に質問する。</p> <p>③宿題（25%）：課題に意欲的に取り組む。</p>					
フィードバックの方法	各回のレッスンの際に課題を設定して、個別に助言を行う。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	<p>予習：課題を各自練習してレッスンに備える。（各回90分程度）</p> <p>復習：レッスンで指摘された助言について練習する。（各回90分程度）</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：ハノン教則本、各作曲家の練習曲、ロマン派の作品、他</p> <p>参考書、参考資料：特になし</p>					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	クラシックやポピュラー作品など、練習方法を考え技術の向上、表現方法を高める。多くのレパートリー曲に励む。					

科目名	ピアノⅣ (1単位)	実技	芸術表現学科	2年 後期	担当者	脇淵 陽子 (単独)
ナンバリングコード	JA-S242-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	幼稚園教諭		
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	「演奏実技Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で学んだ演奏技術をさらに深めるとともに、それらを最大限に活用して、演奏力を高め、地域社会における活動につなぐ。					
授業の概要	高度な演奏法を引き続き学びながら「ポリフォニー音楽の演奏法とその基礎的な表現力」を習得する。さらに様々な時代のピアノ作品を通して音楽的感性を磨きつつ、「自己表現力」を習得する。授業形態は個人指導と全員対象を併せて進める。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 幅広い音楽分野の作品研究			◎	○	
	2. 専門的な音楽知識の修得				◎	○
	3. 練習方法の分析と演奏技術の向上				○	◎
	4. 楽曲の様式と演奏解釈				◎	○
5. 演奏実技の発表				○	◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<p>1. レパートリーの整理とロマン派以降のピアノ作品について①（目標1）</p> <p>2. ロマン派以降のピアノ作品について②（目標1）</p> <p>3. ピアノアンサンブルについて①（目標1,2）</p> <p>4. ピアノアンサンブルについて②（目標1,2）</p> <p>5. 卒業試験曲の選曲（目標2,3）</p> <p>6. 卒業試験曲について楽譜の分析と背景（目標3,4）</p> <p>7. 卒業試験曲について演奏解釈①（目標3,4）</p> <p>8. 卒業試験曲について演奏解釈②（目標3,4）</p> <p>9. 卒業試験曲を中心に学ぶ①（目標3,4）</p> <p>10. 卒業試験曲を中心に学ぶ②（目標3,4）</p> <p>11. 卒業試験曲を中心に学ぶ③（目標3,4）</p> <p>12. 卒業試験曲を中心に学ぶ④（目標3,4）</p> <p>13. 卒業試験曲の研究①（目標4,5）</p> <p>14. 演奏発表とディスカッション（目標1,2,3,4,5）</p> <p>15. 卒業試験曲の発表（目標5）</p> <p>◎定期試験</p> <p>ピアノ基礎技術や演奏法等、個人の能力に応じ最終的な仕上げを行う。ピアノ作品については、個人の能力や研究したい分野の作品を相談しながら進めていく。 個人指導と公開レッスン等、併せて行う。</p>					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション					
成績評価基準	<p>①定期試験（50％）：学んだ技術を再現できる。</p> <p>②授業態度・授業への参加度（25％）：積極的に質問する。</p> <p>③宿題（25％）：課題に意欲的に取り組む。</p>					
フィードバックの方法	各回のレッスンの際に課題を設定して、個別に助言を行う。					
時間外の学習について	<p>予習：課題を各自練習してレッスンに備える。（各回90分程度）</p> <p>復習：レッスンで指摘された助言について練習する。（各回90分程度）</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト：各自の興味にあわせて選曲する</p> <p>参考書、参考資料：特になし</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について	クラシックやポピュラー作品など、練習方法を考え技術の向上、表現方法を高める。多くのレパートリー曲に励む。					

科目名	電子オルガン I (1単位)	実技	芸術表現学科	1年前期	担当者	佐田尾 圭子 一瀬 理佳
ナンバリングコード	JA-S143-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	基本的な演奏技術と音楽表現力を身につける					
授業の概要	電子オルガンの特性を知り、演奏に欠かすことのできない基礎的なテクニックの習得からレパートリーの確立、レジストレーションの研究、電子オルガンへの編曲の基礎的な音楽力の習得を目標とする。授業形態は個人指導とし、学生一人ひとりの能力や個性にあわせて指導にあたる。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 基本的な姿勢と身体的機能の修得			○	◎	
	2. 基礎的な音楽知識の理解			○	◎	
	3. 練習計画の実践と演奏技術の向上			◎		○
	4. 楽曲理解と音楽表現法				◎	○
5. 演奏実技の発表				○	◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<p>進度によって次のことをそれぞれ段階的に指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な演奏テクニックの習得 (目標 1) 2. 電子オルガンの特徴的な奏法の理解と体得 (目標 1,2) 3. レパートリーの選曲法 (目標 3) 4. クラシック、ポピュラーなど様々なジャンルからの選曲 (目標 3) 5. レパートリー曲の奏法の研究① (目標 4) 6. レパートリー曲の奏法の研究② (目標 4) 7. レジストレーションの研究① (目標 4,5) 8. レジストレーションの研究② (目標 4,5) 9. 楽器の特徴を活かした音色 (目標 4,5) 10. 独創的な操作法 (目標 4,5) 11. エフェクト設定 (目標 4,5) 12. レパートリーの確立① (目標 4,5) 13. レパートリーの確立② (目標 4,5) 14. レパートリーの確立③ (目標 4,5) 15. レパートリーの確立④ (目標 4,5) <p>◎定期試験</p>					
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション					
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> ①定期試験 (50%)：学んだ技術を再現できる。 ②授業態度・授業への参加度 (25%)：積極的に質問する。 ③宿題 (25%)：課題に意欲的に取り組む。 					
フィードバックの方法	各回の授業の際に課題を設定して、個別に助言を行う。					
時間外の学習について	<p>予習：課題を各自練習してレッスンに備える。(各回90分程度)</p> <p>復習：レッスンで指摘された助言について練習する。(各回90分程度)</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト：適時指示する</p> <p>参考書：特になし</p> <p>参考資料：特になし</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について	幅広いジャンルの楽曲を聞き、楽譜に触れてみてください。					

科目名	電子オルガンⅡ (1単位)	実技	芸術表現学科	1年 後期	担当者	佐田尾 圭子 一瀬 理佳
ナンバリングコード	JA-S144-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	「電子オルガンⅠ」で学んだ演奏技術と表現力を高める。					
授業の概要	「電子オルガンⅠ」に引き続き、演奏に欠かすことのできない基礎的なテクニックの習得からレパートリーの確立、レジストレーションの研究、電子オルガンへの編曲、オリジナル作品創作の基礎的な音楽力の習得を目標とする。授業形態は個人指導とし、学生一人ひとりの能力や個性にあわせて指導にあたる。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 基本的な姿勢と身体的機能の修得			○	◎	
	2. 基礎的な音楽知識の理解			◎	○	
	3. 練習計画の実践と演奏技術の向上			◎		○
	4. 楽曲理解と音楽表現法				◎	○
	5. 演奏実技の発表				○	◎
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<p>進度によって次のことをそれぞれ段階的に指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な演奏テクニックの習得（目標 1） 2. 電子オルガンの特徴的な奏法の理解と体得（目標 1） 3. ピアノ譜からの編曲①（目標 2,3） 4. ピアノ譜からの編曲②（目標 2,3,4） 5. レパートリー曲の奏法の研究①（目標 2,3,4） 6. レパートリー曲の奏法の研究②（目標 2,3,4） 7. レジストレーションの研究①（目標 2,3,4） 8. レジストレーションの研究②（目標 2,3,4） 9. 楽器の特徴を活かした音色（目標 2,3,4） 10. 独創的な操作法（目標 2,3,4） 11. エフェクト設定（目標 2,3,4） 12. レパートリーの確立①（目標 3,4,5） 13. レパートリーの確立②（目標 3,4,5） 14. 演奏発表とディスカッション（目標 1,2,3,4,5） 15. レパートリーの確立④（目標 3,4,5） <p>◎定期試験</p>					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション					
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> ①定期試験（50％）：学んだ技術を再現できる。 ②授業態度・授業への参加度（25％）：積極的に質問する。 ③宿題（25％）：課題に意欲的に取り組む。 					
フィードバックの方法	各回の授業の際に課題を設定して、個別に助言を行う。					
時間外の学習について	<p>予習：課題を各自練習してレッスンに備える。（各回90分程度）</p> <p>復習：レッスンで指摘された助言について練習する。（各回90分程度）</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト：適時指示する</p> <p>参考書：特になし</p> <p>参考資料：特になし</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について	単一楽器の楽譜から、さまざまなイメージを持ち、オーケストレーションしてみてください。					

科 目 名	電子オルガンⅢ (1単位)	実技	芸術表現学科	2年 前期	担当者	佐田尾 圭子 一瀬 理佳
ナンバリングコード	JA-S243-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授 業 の テ ー マ	「電子オルガンⅠ・Ⅱ」で学んだ演奏技術をさらに深め、音楽表現力の発展を図る。					
授 業 の 概 要	「電子オルガンⅠ・Ⅱ」で習得した基礎的な段階からさらに高度なテクニックを習熟し、オーケストラスコアから電子オルガンへの編曲、オリジナル作品創作の基礎的な音楽力の習得を目標とし、幅広い音楽表現を目指す。 学生一人ひとりの能力や個性にあわせて指導にあたる。					
達 成 目 標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP：c
		1. 幅広い音楽分野の作品研究				DP記号 a b c d
		2. 専門的な音楽知識の修得				◎ ○
		3. 練習方法の分析と演奏技術の向上				◎ ○
		4. 楽曲の様式と演奏解釈				◎ ○
		5. 演奏実技の発表				○ ◎
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授 業 計 画	<p>進度によって次のことをそれぞれ段階的に指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 演奏テクニックの習得（目標 1） 2. 電子オルガンの特徴的な奏法の理解と体得（目標 1） 3. スコアや音源からの編曲①（目標 2,3） 4. スコアや音源からの編曲②（目標 2,3,4） 5. レパートリー曲の奏法の研究①（目標 2,3,4） 6. レパートリー曲の奏法の研究②（目標 2,3,4） 7. レジストレーションの研究①（目標 2,3,4） 8. レジストレーションの研究②（目標 2,3,4） 9. 楽器の特徴を活かした音色（目標 2,3,4） 10. 独創的な操作法（目標 2,3,4） 11. エフェクト設定（目標 2,3,4） 12. レパートリーの確立①（目標 3,4,5） 13. レパートリーの確立②（目標 3,4,5） 14. レパートリーの確立③（目標 3,4,5） 15. レパートリーの確立④（目標 4,5） <p>◎定期試験</p>					
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション					
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> ①定期試験（50％）：学んだ技術を再現できる。 ②授業態度・授業への参加度（25％）：積極的に質問する。 ③宿題（25％）：課題に意欲的に取り組む。 					
フィードバックの方法	各回の授業の際に課題を設定して、個別に助言を行う。					
時間外の学習について	<p>予習：課題を各自練習してレッスンに備える。（各回90分程度）</p> <p>復習：レッスンで指摘された助言について練習する。（各回90分程度）</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト：適時指示する</p> <p>参考書：特になし</p> <p>参考資料：特になし</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について	原曲を聴き、スコア譜を読みながらフレーズを追っていくトレーニングしてみてください。					

科目名	電子オルガンⅣ (1単位)	実技	芸術表現学科	2年 後期	担当者	佐田尾 圭子 一瀬 理佳
ナンバリングコード	JA-S244-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	「電子オルガンⅠ・Ⅱ・Ⅲ」で学んだ演奏技術をさらに深めるとともに、それらを最大限に活用して、地域社会における活動につなぐ。					
授業の概要	「電子オルガンⅠ～Ⅲ」で習得したテクニックを基に、さらに高度なテクニックを習熟し、自作曲の創作を含めた幅広い音楽表現を目指す。 学生一人ひとりの能力や個性にあわせて指導にあたる。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力 1. 幅広い音楽分野の作品研究 2. 専門的な音楽知識の修得 3. 練習方法の分析と演奏技術の向上 4. 楽曲の様式と演奏解釈 5. 演奏実技の発表	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
			◎	○		
				◎	○	
				○	◎	
				◎	○	
				○	◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	進度によって次のことをそれぞれ段階的に指導する。 1. 電子オルガンの特徴的な奏法の理解と体得 (目標 1) 2. スコアや音源からの編曲 (目標 2,3) 3. オリジナル作品の創作① (目標 2,3) 4. オリジナル作品の創作② (目標 2,3,4) 5. レパートリー曲の奏法の研究① (目標 3,4) 6. レパートリー曲の奏法の研究② (目標 3,4,5) 7. レジストレーションの研究① (目標 3,4,5) 8. レジストレーションの研究② (目標 3,4,5) 9. 楽器の特徴を活かした音色 (目標 3,4,5) 10. 独創的な操作法 (目標 3,4,5) 11. エフェクト設定 (目標 3,4,5) 12. レパートリーの確立① (目標 3,4,5) 13. レパートリーの確立② (目標 3,4,5) 14. 演奏発表とディスカッション (目標 1,2,3,4,5) 15. 卒業試験曲の発表 (目標 4,5) ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション					
成績評価基準	①定期試験 (50%)：学んだ技術を再現できる。 ②授業態度・授業への参加度 (25%)：積極的に質問する。 ③宿題 (25%)：課題に意欲的に取り組む。					
フィードバックの方法	各回の授業の際に課題を設定して、個別に助言を行う。					
時間外の学習について	予習：課題を各自練習してレッスンに備える。(各回90分程度) 復習：レッスンで指摘された助言について練習する。(各回90分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：適時指示する 参考書：特になし 参考資料：特になし					
担当者からのメッセージ等実務経験について	自分の一番表現したいスタイルの音楽を創作表現してみましょう。					

科目名	吹奏楽Ⅰ (1単位)	実技	芸術表現学科	1年前期	担当者	小野 隆洋 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S145-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系 列						
授業のテーマ	各楽器の基本的な奏法について知識や技能を深め、他者と協働して音の響きを合わせる。					
授業の概要	基本的な呼吸法、演奏時の姿勢などに留意し、チューニング、ロング・トーン、音階練習などを行う。曲の練習の中で各パートの部分練習などを行い、曲の構成や楽器の編成などを理解できるように進めていく。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力、協働性	科目DP：d				
		DP記号	a	b	c	d
	1.正しい楽器の持ち方を習得する				◎	○
	2.効率のよい呼吸法を習得する				◎	○
	3.無理のない音の出し方を習得する				○	◎
	4.相対的な音程感覚から他者の音に対する自身の音程の高低を認識する能力を習得する		○			◎
5.各調性の音階を習得する				○	◎	
履修条件・注意事項	中学校または高校の吹奏楽経験者 授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 各楽器のメンテナンス方法と楽器の構え方、演奏姿勢（目標1） 呼吸法、アンブッシュア、バジィング（目標2,3） 各楽器のチューニング（目標3,4） 全体のチューニング（目標3,4） 発音の練習（目標2,3） ロング・トーン（目標2,3） ユニゾンの練習（目標2,4） 変口長調の音階練習（目標5） 半音音階の練習（目標5） ユニゾンによる半音音階の練習（目標4,5） 短2度音程のフィンガリングの練習（目標3,5） 長2度音程のフィンガリングの練習。（目標3,5） 各調の音階練習①（目標3,5） ユニゾンによる各調の音階練習（目標4,5） 総合練習（目標1,2,3,4,5） 					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション					
成績評価基準	①授業態度・参加度（50%）：関心、意欲、協働で行う活動への貢献度を測定 ②演習課題（50%）：知識・技能、表現力を測定					
フィードバックの方法	各授業で学生が行う演奏に対して、その都度フィードバックと解説を行う					
時間外の学習について	予習：次回に行う全体合奏における各自のパート練習（各回45分程度） 復習：合奏の中で指摘を受けた箇所についての確認、およびパート練習（各回45分程度）					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：JBCバンドスタディ 参考資料等：各授業で適宜、演奏する楽曲の楽譜を配布する					
担当者からのメッセージ等実務経験について	国内外での演奏実務経験を活かして、音楽演奏に対するアプローチを指導します。					

科 目 名	吹奏楽Ⅱ (1単位)	実技	芸術表現学科	1年 後期	担当者	小野 隆洋 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S146-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授業のテーマ	和音についての知識や楽器の技能を深め、他者と協働して音を調整する。					
授業の概要	ピッチ、イントネーションの訓練、バランス感覚の養成など、ここでは、一般的に行なわれている総合的な体系を記しているが、各項目は、様々な組み合わせによって並行して行なわれ、また、継続的に行なわれる。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力、協働性	科目DP：d				
		DP記号	a	b	c	d
	1. ピッチによる音程の合わせ方を習得する				○	◎
	2. 和音の構成、楽器の編成について習得する				○	◎
	3. 音の調和するバランス感覚を習得する			○	◎	
	4. 和音の進行、フレーズの構成について習得する				○	◎
5. 楽曲の構成を分析する能力を習得する				○	◎	
履修条件・注意事項	中学校または高校の吹奏楽経験者 授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ピッチ、音程の訓練① (目標 1) 2. ピッチ、音程の訓練② (目標 1) 3. 和音練習 (バランスのとり方—ピラミッド・バランス) (目標 2,3) 4. 和音練習 (ダブル・ピラミッド・バランス) (目標 2,3) 5. 和音練習 (クリスマス・ツリー・ピラミッド・バランス) (目標 2,3) 6. 様々なリズムを用いての和音練習 (目標 1,2) 7. メソッドを使つてのトレーニング① (目標 1,2,3) 8. メソッドを使つてのトレーニング② (目標 1,2,3) 9. メソッドを使つてのトレーニング③ (目標 1,2,3) 10. ダイナミクスの変化① (目標 1,2) 11. ダイナミクスの変化② (目標 2,3) 12. ダイナミクスの変化③ (目標 1,3) 13. コラルの練習① (目標 4,5) 14. コラルの練習② (目標 4,5) 15. 総合練習 (目標 1,2,3,4,5) 					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション					
成績評価基準	①授業態度・参加度 (50%)：関心、意欲、協働で行う活動への貢献度を測定 ②演習課題 (50%)：知識・技能、表現力を測定					
フィードバックの方法	各授業で学生が行う演奏に対して、その都度フィードバックと解説を行う					
時間外の学習について	予習：次回に行う全体合奏における各自のパート練習 (各回45分程度) 復習：合奏の中で指摘を受けた箇所についての確認、およびパート練習 (各回45分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：JBC バンドスタディ 参考資料等：各授業で適宜、演奏する楽曲の楽譜を配布する					
担当者からのメッセージ等実務経験について	国内外での演奏実務経験を活かして、音楽演奏に対するアプローチを指導します。					

科目名	吹奏楽Ⅲ (1単位)	実技	芸術表現学科	2年前期	担当者	小野 隆洋 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S245-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系 列						
授業のテーマ	楽曲の構成について知識や、それに伴う楽器の技能を深め、他者と協働して音楽を演奏する。					
授業の概要	リズムの正確さ、ダイナミクスの変化、テンポの変化など、楽曲を演奏する上で必要な事柄への対応を体得する。ここでは、一般的に行なわれている総合的な体系を記しているが、各項目は、様々な組み合わせによって並行して行なわれ、また、継続的に行なわれる。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力、協働性	科目DP：d				
	1. 正確なリズム感覚の習得	DP記号	a	b	c	d
	2. アインザッツ（音の出だし）やダイナミクスの変化に対応できる能力の習得				○	◎
	3. 正確なテンポ感覚と変化に対応できる能力の習得				○	◎
	4. 拍子の捉え方、拍子感覚の習得				◎	○
	5. 楽譜の読解力の習得				○	◎
履修条件・注意事項	中学校または高校の吹奏楽経験者 授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> リズムの訓練（目標 1） 音符の長さ（目標 1） アインザッツの均等化（目標 2） ダイナミクスの変化（目標 2） ダイナミクスの急激な変化（目標 2） テンポの変化（目標 3） テンポの急激な変化（目標 3） 練習曲の使用（目標 1,3） 奏法の統一（目標 2,3） 変則拍子の演奏①（目標 4） 変則拍子の演奏②（目標 4） 拍子の分け方①（目標 1,4） 拍子の分け方②（目標 1,4） 総合的な練習（目標 5） 総合練習（目標 5） 					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション					
成績評価基準	①授業態度・参加度（50%）：関心、意欲、協働で行う活動への貢献度を測定 ②演習課題（50%）：知識・技能、表現力を測定					
フィードバックの方法	各授業で学生が行う演奏に対して、その都度フィードバックと解説を行う					
時間外の学習について	予習：次回に行う全体合奏における各自のパート練習（各回45分程度） 復習：合奏の中で指摘を受けた箇所についての確認、およびパート練習（各回45分程度）					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：JBC バンドスタディ 参考資料等：各授業で適宜、演奏する楽曲の楽譜を配布する					
担当者からのメッセージ等実務経験について	国内外での演奏実務経験を活かして、音楽演奏に対するアプローチを指導します。					

科目名	吹奏楽Ⅳ (1単位)	実技	芸術表現学科	2年 後期	担当者	小野 隆洋 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S246-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	幼稚園教諭		
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	音楽作りや楽器の練習についての計画性、楽曲演奏に必要な技能を高め、他者と協働して音楽を創造する。					
授業の概要	楽曲の構成の理解などのほかに、各楽器の編成・配置や、全体の練習計画などを学習する。ここでは、一般的に行なわれている総合的な体系を記しているが、各項目は、様々な組み合わせによって並行して行なわれ、また、継続的に行なわれる。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力、協働性	科目DP：d				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 各楽器の音の特徴、合奏の楽器編成を理解する			◎	○	
	2. 楽曲を分析してフレーズの作り方を習得する				○	◎
	3. リハーサルの進行のさせ方について理解する			○		◎
	4. 効率の良い練習方法について習得する				○	◎
5. 楽器の配置について理解する			○	◎		
履修条件・注意事項	中学校または高校の吹奏楽経験者 授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各パートのバランス (目標 1) 2. ハーモニーの分析 (目標 1,2) 3. フレージング (目標 2) 4. 曲の構造 (目標 2) 5. リハーサルの手順 (目標 3) 6. 年間練習計画 (目標 3,4) 7. 月間練習計画 (目標 3,4) 8. 習慣練習計画 (目標 1,4) 9. 一日の練習計画 (目標 1,4) 10. 楽器の配置 (目標 5) 11. 楽曲を用いての総合的な練習① (目標 1,5) 12. 楽曲を用いての総合的な練習② (目標 2,5) 13. 楽曲を用いての総合的な練習③ (目標 1,2,5) 14. 楽曲を用いての総合的な練習④ (目標 1,2,5) 15. 総合演習 (目標 1,2,3,4,5) 					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション					
成績評価基準	①授業態度・参加度 (50%)：関心、意欲、協働で行う活動への貢献度を測定 ②演習課題 (50%)：知識・技能、表現力を測定					
フィードバックの方法	各授業で学生が行う演奏に対して、その都度フィードバックと解説を行う					
時間外の学習について	予習：次回に行う全体合奏における各自のパート練習 (各回45分程度) 復習：合奏の中で指摘を受けた箇所についての確認、およびパート練習 (各回45分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：JBC バンドスタディ 参考資料等：各授業で適宜、演奏する楽曲の楽譜を配布する					
担当者からのメッセージ等実務経験について	国内外での演奏実務経験を活かして、音楽演奏に対するアプローチを指導します。					

科目名	合唱 I (1単位)	実技	芸術表現学科	1年前期	担当者	小野 朋子 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S147-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	基本的な声の出し方について知識や技能を深め、声を他者に美しく伝える力をつける。					
授業の概要	基本的な呼吸法、演奏時の姿勢などに留意し、リズムや音階練習などを行う。カデンツや易しい曲の練習の中で各パートの部分練習などを行い、ハーモニーを理解できるように進めていく。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力、協働性	科目DP：d				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 正しい発声の姿勢を習得する				◎	○
	2. 効率のよい呼吸法を習得する				◎	○
	3. 無理のない声の出し方を習得する				○	◎
4. 他者の声に対する自身の音程の高低を認識する能力を習得する			○		◎	
5. 曲の内容を理解し表現する				○	◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 演奏姿勢、呼吸法の習得（目標 1） 呼吸法、発声法の習得（目標 2,3） 音階による発声（目標 2,3） ユニゾンの練習（目標 3,4） パート分け、アンサンブルテクニック（目標 3,4） 和音練習（目標 3,4） カデンツによるハーモニー練習（目標 3,4） 易しい曲を使った歌詞の朗読（目標 2,5） 易しい曲を使った歌詞のイメージ表現（目標 5） パート別練習・音程、リズム（目標 4,5） パート別練習・音色（目標 3,5） 声部合同による各声部の確認（目標 4,5） 声部合同による音楽作り・音程、リズム（目標 4,5） 声部合同による音楽作り・音色（目標 4,5） 総合練習（目標 1,2,3,4,5） 					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション					
成績評価基準	①授業態度・参加度（50%）：関心、意欲、協働で行う活動への貢献度を測定 ②演習課題（50%）：知識・技能、表現力を測定					
フィードバックの方法	各授業で学生が行う演奏に対して、その都度フィードバックと解説を行う					
時間外の学習について	予習：次回に行う全体合唱における各自のパート練習（各回45分程度） 復習：合唱の中で指摘を受けた箇所についての確認、およびパート練習（各回45分程度）					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料等：各授業で適宜、演奏する楽曲の楽譜を配布する					
担当者からのメッセージ等実務経験について	演奏実務経験を活かして、音楽演奏に対するアプローチを指導します。					

科目名	合唱Ⅱ (1単位)	実技	芸術表現学科	1年後期	担当者	小野 朋子 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S148-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	合唱において、他者との声の重なりが作るハーモニーを味わい、一つの音楽を作る喜びを感じる。					
授業の概要	声のピッチ、言葉のイントネーションの訓練。ここでは、一般的に行なわれている総合的な体系を記しているが、各項目は、様々な組み合わせによって並行して行なわれ、また、継続的に行なわれる。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力、協働性	科目DP：d				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 音程の合わせ方を習得する				○	◎
	2. 和音の構成について習得する			◎	○	
	3. 音の調和するバランス感覚を習得する		○	◎		
	4. 歌詞の内容、フレーズの構成について習得する				○	◎
5. 楽曲の構成を分析する能力を習得する				◎	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ピッチ、音程の訓練① (目標 1) 2. ピッチ、音程の訓練② (目標 1) 3. 和音練習① (目標 2,3) 4. 和音練習② (目標 2,3) 5. 和音練習 (目標 2,3) 6. 様々なリズムを用いての和音練習 (目標 1,2) 7. 易しい曲を使つてのトレーニング① (目標 1,2,3) 8. 易しい曲を使つてのトレーニング② (目標 1,2,3) 9. 易しい曲を使つてのトレーニング③ (目標 1,2,3) 10. 歌詞の内容表現① (目標 3) 11. 歌詞の内容表現② (目標 3,4) 12. ダイナミクスの変化③ (目標 1,3) 13. コラルの練習① (目標 4,5) 14. コラルの練習② (目標 4,5) 15. 総合練習 (目標 1,2,3,4,5) 					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション					
成績評価基準	①授業態度・参加度 (50%)：関心、意欲、協働で行う活動への貢献度を測定 ②演習課題 (50%)：知識・技能、表現力を測定					
フィードバックの方法	各授業で学生が行う演奏に対して、その都度フィードバックと解説を行う					
時間外の学習について	予習：次回に行う全体合唱における各自のパート練習 (各回45分程度) 復習：合唱の中で指摘を受けた箇所についての確認、およびパート練習 (各回45分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料等：各授業で適宜、演奏する楽曲の楽譜を配布する					
担当者からのメッセージ等実務経験について	演奏実務経験を活かして、音楽演奏に対するアプローチを指導します。					

科 目 名	合唱Ⅲ (1単位)	実技	芸術表現学科	2年 前期	担当者	小野 朋子 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S247-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授業のテーマ	楽曲の構成について知識や、それに伴う発声の技能を深め、他者と協働して音楽を演奏し、協調生を育む。					
授業の概要	リズムの正確さ、ダイナミクスの変化、テンポの変化など、楽曲を演奏する上で必要な事柄への対応を体得する。また発声方法の再確認。ここでは、一般的に行なわれている総合的な体系を記しているが、各項目は、様々な組み合わせによって並行して行なわれ、また、継続的に行なわれる。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力、協働性	科目DP：d				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 正確な発声・リズム感覚の習得				○	◎
	2. アインザッツ（音の出だし）やダイナミクスの変化に対応できる能力の習得				◎	○
	3. 正確なテンポ感覚と変化に対応できる能力の習得				○	◎
	4. 拍子の捉え方、拍子感覚の習得				◎	○
5. 楽譜の読解力の習得				○	◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> リズムの訓練（目標1） 音符の長さ（目標1） アインザッツの均等化（目標2） ダイナミクスの変化（目標2） 発声の確認（目標1,2） レガート唱法（目標3） テンポの変化（目標3） 練習曲の使用（目標1,3） 練習曲の読解（目標4,5） 小人数練習①（目標2,3） 小人数練習②（目標4,5） 声部合同演奏①（目標1,4） 声部合同演奏②（目標4,5） 総合的な練習（目標5） 総合練習（目標1,2,3,4,5） 					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション					
成績評価基準	①授業態度・参加度（50%）：関心、意欲、協働で行う活動への貢献度を測定 ②演習課題（50%）：知識・技能、表現力を測定					
フィードバックの方法	各授業で学生が行う演奏に対して、その都度フィードバックと解説を行う					
時間外の学習について	予習：次回に行う全体合唱における各自のパート練習（各回45分程度） 復習：合唱の中で指摘を受けた箇所についての確認、およびパート練習（各回45分程度）					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：サウンドオブミュージック 参考資料等：各授業で適宜、演奏する楽曲の楽譜を配布する					
担当者からのメッセージ等実務経験について	演奏実務経験を活かして、音楽演奏に対するアプローチを指導します。					

科目名	合唱Ⅳ (1単位)	実技	芸術表現学科	2年後期	担当者	小野 朋子 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S248-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	音楽作りや合唱の練習についての計画性、楽曲演奏に必要な技能を高め、他者と協働して音楽を創造する					
授業の概要	楽曲の構成の理解などのほかに、全体の練習計画などを学習する。ここでは、一般的に行なわれている総合的な体系を記しているが、各項目は、様々な組み合わせによって並行して行なわれ、また、継続的に行なわれる。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力、協働性					科目DP：d
		DP記号	a	b	c	d
	1. 各楽器の音の特徴、合奏の楽器編成を理解する			◎	○	
	2. 楽曲を分析してフレーズの作り方を習得する				○	◎
	3. リハーサルの進行のさせ方について理解する			○		◎
	4. 効率の良い練習方法について習得する				○	◎
5. 他者と協調し、楽曲の内容、言葉を他者へ伝える力を習得する			○	◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 各パートのバランス (目標 1) ハーモニーの分析 (目標 1,2) フレージング (目標 2) 曲の構造 (目標 2) リハーサルの手順 (目標 3) 年間練習計画 (目標 3,4) 月間練習計画 (目標 3,4) 習慣練習計画 (目標 1,4) 一日の練習計画 (目標 1,4) 歌詞の朗読 (目標 5) 楽曲を用いての総合的な練習① (目標 1,5) 楽曲を用いての総合的な練習② (目標 2,5) 楽曲を用いての総合的な練習③ (目標 1,2,5) 楽曲を用いての総合的な練習④ (目標 1,2,5) 総合演習 (目標 1,2,3,4,5) 					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション					
成績評価基準	①授業態度・参加度 (50%)：関心、意欲、協働で行う活動への貢献度を測定 ②演習課題 (50%)：知識・技能、表現力を測定					
フィードバックの方法	各授業で学生が行う演奏に対して、その都度フィードバックと解説を行う					
時間外の学習について	予習：次回に行う全体合唱における各自のパート練習 (各回45分程度) 復習：合唱の中で指摘を受けた箇所についての確認、およびパート練習 (各回45分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：サウンドオブミュージック 参考資料等：各授業で適宜、演奏する楽曲の楽譜を配布する					
担当者からのメッセージ等実務経験について	演奏実務経験を活かして、音楽演奏に対するアプローチを指導します。					

科 目 名	ソルフェージュ I (1単位)	演習	芸術表現学科	1年 前期	担 当 者	佐田尾 圭子 (単独)
ナンバリングコード	JA-S149-000					
卒 業 要 件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授 業 の テ ー マ	音楽の三要素であるメロディー、リズム、ハーモニーの知識を身につけ、楽譜の読解と表現の技術を身につける。					
授 業 の 概 要	聴音、視唱、視奏などから音楽の基礎的な読譜力を養い、基本となる楽譜作成を行う。					
達 成 目 標	学修成果：専門分野の基礎的知識、専門分野の基礎的技能、社会人基礎力					科目DP：c
		DP記号	a	b	c	d
	1. 楽譜の読解・記譜の基礎を定着させる。				◎	
	2. 8小節程度のリズム視唱・視奏課題に対応可能な読譜力を身に付ける。				◎	
	3. 8小節程度のメロディー(単旋律)を聴いて記譜することができる。				◎	
	4. 8小節程度のハーモニー(三和音・三声・四声)を聴いて記譜することができる。				◎	○
5. 8小節程度の新曲視唱・視奏課題に対応可能な読譜力を身に付ける。				○	◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授 業 計 画	1. 記譜法、音部記号、調号、音符、休符、小節について (目標 1) 2. 記譜法、短い楽曲の写譜 (目標 1,2) 3. 調性の理解、和音について (目標 1,2,4) 4. 拍子の理解、単旋律聴音 (目標 1,3) 5. 単旋律聴音、リズム視唱・視奏、三和音の聴音 (目標 1,2,3,4) 6. 様々な調性による単旋律聴音、様々な拍子によるリズム視唱 (目標 1,2,3) 7. 様々な調性による単旋律聴音、様々な拍子によるリズム視唱、三和音の調音 (目標 1,2,3,4) 8. 前半のまとめと小テスト (目標 2,3,4) 9. 和声聴音、調性判断 (目標 1,4) 10. 単旋律聴音、新曲視唱・視奏 (目標 1,2,3,5) 11. リズム視唱・視奏、新曲視唱・視奏 (目標 1,2,5) 12. 新曲視唱・視奏 (目標 1,2,5) 13. 和声聴音、調性判断、新曲視唱・視奏 (目標 1,2,3,4,5) 14. 旋律聴音、新曲視唱・視奏 (目標 1,2,3,5) 15. 総合的なまとめと、確認テスト (目標 1,2,3,4,5)					
アクティブ・ラーニング						
成 績 評 価 基 準	①小テスト、確認テスト (40%)：例題レベルの問題に回答できる ②授業への取り組み (30%)：授業に意欲・関心を持って積極的に参加し、知識・理解を深めることができる。 ③演習 (30%)：思考・判断、技能・表現について、課題に対して適切に行うことができる。					
フィードバックの方法	各回の演習内容を通して、個別に助言を行う					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：視唱・視奏など、楽譜の譜読みをしておくこと。(各回30分程度) 復習：授業で提示された課題を復習しておくこと。(各回60分程度)					
教材にかかわる 情 報	テキスト：特になし 参 考 書：特になし 参考資料：各回に適宜プリントを配布する					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	身近にある楽譜や自分の好きな楽曲の楽譜を使って、積極的に譜読みのトレーニングを行い、読解力を身に付けよう。					

科目名	ソルフェージュⅡ (1単位)	演習	芸術表現学科	1年 後期	担当者	佐田尾 圭子 (単独)
ナンバリングコード	JA-S150-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	音楽の三要素であるメロディー、リズム、ハーモニーの知識を身につけ、楽譜の読解と表現の技術を身につける。					
授業の概要	聴音、視唱、視奏などから音楽の基礎的な読譜力を養い、基本となる楽譜作成を行う。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 16小節程度のリズム視唱・視奏課題に対応可能な読譜力を身に付ける。				◎	
	2. 16小節程度のメロディー(単旋律)を聴いて記譜することができる。				◎	
	3. 16小節程度のハーモニー(三和音・三声・四声)を聴いて記譜することができる。				◎	
4. 16小節程度の新曲視唱・視奏課題に対応可能な読譜力を身に付ける。				◎	○	
5. 楽曲聴音が可能な聴取力と記譜力を身に付ける。				○	◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. 単旋律聴音、リズム視唱・視奏、和声聴音 (目標 1,2,3) 2. 単旋律聴音、リズム視唱・視奏、和声聴音 (目標 1,2,3) 3. 長音階と短音階、和声聴音 (目標 3) 4. 調性判断、和声聴音 (目標 2,3) 5. リズム視唱・視奏、新曲視唱・視奏 (目標 1,4) 6. リズム視唱・視奏、新曲視唱・視奏 (目標 1,4) 7. 様々な調性による単旋律聴音、リズム視唱、和声聴音 (目標 2,3,4) 8. 前半のまとめと小テスト (目標 2,3,4) 9. 様々な調性による単旋律聴音、様々な拍子によるリズム視唱 (目標 1,2) 10. リズム視唱・視奏、新曲視唱・視奏、和声聴音 (目標 1,3,4) 11. 新曲視唱・視奏、和声聴音 (目標 1,3,4) 12. 新曲視唱・視奏、楽曲聴音、和声聴音 (目標 1,2,3,4,5) 13. 新曲視唱・視奏、楽曲聴音 (目標 1,2,4,5) 14. 楽曲聴音、和声聴音、新曲視唱・視奏 (目標 3,4,5) 15. 総合的なまとめと、確認テスト (目標 1,2,3,4,5)					
アクティブ・ラーニング						
成績評価基準	①小テスト、確認テスト (40%)：例題レベルの問題に回答できる ②授業への取り組み (30%)：授業に意欲・関心を持って積極的に参加し、知識・理解を深めることができる。 ③演習 (30%)：思考・判断、技能・表現について、課題に対して適切に行うことができる。					
フィードバックの方法	各回の演習内容を通して、個別に助言を行う					
時間外の学習について	予習：視唱・視奏など、楽譜の譜読みをしておくこと。(各回30分程度) 復習：授業で提示された課題を復習しておくこと。(各回60分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：各回に適宜プリントを配布する					
担当者からのメッセージ等実務経験について	日頃の生活の中で、商業施設やTVなどで流れている音楽の耳に残った旋律を記憶して、楽譜に記譜してみよう。					

科目名	音楽基礎 (2単位)	講義	芸術表現学科	1年前期	担当者	小野 隆洋 (単独)
ナンバリングコード	JA-S151-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	音楽の専門分野の基礎的技能や演奏技術を身につけるための、基礎的な音楽理論を修得する					
授業の概要	音楽の理解に必要な楽典について、基本となる「音程」「拍子」「音階」「調」を中心に、演習や小テストを交えながら授業を進める。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的知識、専門分野の基礎的技能、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 常に課題意識を持ち、分からないところは積極的に質問するなど、主体的に取り組む。				○	◎
	2. 理論を単に暗記するのではなく、なぜそうなるのかを理解する。			◎	○	
3. 修得した知識を読譜や作品解釈に活用し、また応用することができる。			◎	○		
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. 楽音と音律 (目標 1,2) 2. 譜表と音名 (目標 1,2) 3. 音符と休符 (目標 1,2) 4. 拍子とリズム (目標 1,2) 5. 音程① 度数、種類、派生音 (目標 1,2) 6. 音程② 複音程 (目標 1,2) 7. 音程③ 転回音程 (目標 1,2) 8. 音階と調① 長音階、短音階 (目標 1,2) 9. 音階と調② 調の判定 (目標 1,2) 10. 音階と調③ 移調と転調 (目標 1,2) 11. 移調と転調① (目標 1,2) 12. 移調と転調② (目標 1,2) 13. 和音 (目標 1,2) 14. 記号と標語 (目標 1,2,3) 15. 音楽の構成 まとめ (目標 1,2,3) ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク					
成績評価基準	①定期試験 (40%)：知識・理解を測定 ②小テスト・宿題 (30%)：知識・理解を測定 ③授業態度・参加度 (30%)：関心・意欲を測定					
フィードバックの方法	課題等の返却時に解答例とともに、コメントや助言を行う。					
時間外の学習について	予習：事前にテキストを一通り読んでおく。(各回90分程度) 復習：単元ごとの宿題に取り組む。(各回90分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：「楽典 理論と実習」 石桁真礼生 ほか著 音楽之友社 参考書：特になし 参考資料：特になし					
担当者からのメッセージ等実務経験について	理論をしっかりと理解して音楽に取り組むと、練習の効率も上がり、より音楽的な表現も可能となる。この授業において確実に自分のものとしてほしい。					

科目名	和声学 (2単位)	講義	芸術表現学科	1年 後期	担当者	小野 隆洋 (単独)
ナンバリングコード	JA-S152-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	音楽分野の知識として重要な和声の仕組みを理解し、より高い芸術表現をめざす。					
授業の概要	和音についてその基礎を学習し、基本位置3和音や属7和音の配置、連結方法を修得する。さらに実際の作品において、その楽曲構成や和声の動きなどを分析し、どのように使われているかを探る。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的知識、専門分野の基礎的技能、社会人基礎力					科目DP：c
						DP記号 a b c d
	1. 三和音の成り立ち、構成、配置等を正しく理解する。					○ ○
	2. 基本位置3和音、属7の和音の連結方法を修得する。					○ ○
3. 楽曲における和声进行分析し、より音楽的な表現に結びつけることができる。						◎ ○
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. 和声とは何か。3和音と4声体 (目標 1) 2. 基本位置3和音の配置 (目標 1) 3. 基本位置3和音の連結① (目標 1,2) 4. 基本位置3和音の連結② (目標 1,2) 5. 基本位置3和音の連結③ (目標 1,2) 6. 和音設定の原理① 和音機能 (目標 1,2) 7. 和音設定の原理② カデンツァ (目標 1,2) 8. 各種の調① (目標 1,2) 9. 各種の調② (目標 1,2) 10. 3和音転回型の連結① (目標 1,2) 11. 3和音転回型の連結② (目標 1,2) 12. 属7の和音の連結① (目標 1,2) 13. 属7の和音の連結② (目標 1,2) 14. 楽曲等の和声分析 (目標 3) 15. 和声の総括・まとめ (目標 1,2,3) ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク					
成績評価基準	①定期試験 (40%)：知識・理解を測定 ②小テスト・宿題 (30%)：知識・理解を測定 ③授業態度・参加度 (30%)：関心・意欲を測定					
フィードバックの方法	宿題・小テストの返却時には、回答例とともに助言等を加える。					
時間外の学習について	予習：事前にテキストを一通り読んでおく。(各回90分程度) 復習：単元ごとの宿題に取り組む。(各回90分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：「和声 理論と実習Ⅰ」 島岡 譲 ほか著 音楽之友社 参考書：特になし 参考資料：特になし					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	和声学は音楽理解だけでなく、音楽表現や解釈と密接に関連している。また、和声学の知識によって、作曲や編曲といった新たな領域にも取り組むことが可能となるので、しっかりと身に付けてもらいたい。					

科目名	音楽形式論 (2単位)	講義	芸術表現学科	2年前期	担当者	田中 照通 (単独)
ナンバリングコード	JA-S249-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	音楽の専門分野として、音楽の形（フォーム）と構造（ストラクチャー）から音楽の構成の基礎的な知識を身に付け、音楽を聴く能力を養う					
授業の概要	文章に文脈があり、まとまり方に法則があるように、音楽にもそれがある。それは時代や作曲家によって異なるが、ここでは古典派の音楽のそれをひな形として学んでいく。そしてそれがどのように楽曲に応用されているかを数多くの音楽を鑑賞しながら音楽を聴く力を付けていく。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的知識、専門分野の基礎的技能、社会人基礎力					科目DP：c
		DP記号	a	b	c	d
	1. 基礎楽式（例えば「ソナタ形式」）について理解することができる。			◎		
	2. 応用楽式（例えば「ピアノソナタ」）について理解することができる。			◎		
3. 形式、構造という観点からの音楽の鑑賞力が高まる。			◎			
4. 演奏で必要な音楽として作品を解釈するための思考力を身に付けることができる。			◎			
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1 音楽の聴き方、終止法とD和音（目標 1,2,3,4） 2 大楽節と楽段、リート形式（1）（楽譜集1）（目標 1,3,4） 3 リート形式（2）（楽譜集1）（目標 1,3,4） 4 歌曲の形式（楽譜集2）（目標 1,2,3,4） 5 変奏技法と変奏曲（楽譜集3）（目標 1,2,3,4） 6 複合三部形式（楽譜集4）（目標 1,3,4） 7 ロンド形式（1）（楽譜集5）ロンド、小ロンド、大ロンド（目標 1,3,4） 8 ソナタ形式（1）（楽譜集6）（目標 1,3,4） 9 ソナタ形式（2）（楽譜集7）調の拡大、協奏曲のソナタ形式、2部形式のソナタ形式（目標 1,3,4） 10 ロンド形式（2）（楽譜集8）ロンドソナタ、リトルネッロ（目標 1,3,4） 11 ソナタとその仲間（楽譜集9）、交響曲とその発展（楽譜集10）（目標 1,2,3,4） 12 対位法音楽の形式～カノンとフーガ（楽譜集11）（目標 1,2,3,4） 13 組曲（楽譜集12）（目標 1,2,3,4） 14 ポプリ形式（楽譜集13）序曲と前奏曲、キャラクターピース（目標 1,2,3,4） 15 まとめ～音楽形式のゆくえ（楽譜集14）（目標 1,2,3,4） ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク					
成績評価基準	①定期試験（80％）：定期試験 ＊知識・理解を測定 配布資料に載っている知識を扱った問題に回答できる。 ②授業態度・参加度（20％）：授業態度・参加度 ＊思考・判断、関心、態度を測定 グループ活動に積極的である。積極的に発言する。					
フィードバックの方法	後期の始めに答案と、模範解答及びその解説のプリントとともに返却する。					
時間外の学習について	予習：特になし 復習：配布する楽譜をできる限り演奏してみる。その楽譜を見ながら曲を聴くこと。 (各回180分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：島岡譲「和声と楽式のアナリーゼ」音楽之友社 参考資料：その都度プリントを配布する。					
担当者からのメッセージ等実務経験について	配布プリントが多いので、よく整理して保管し、復習に役立てること。					

科目名	音楽鑑賞論 (2単位)	講義	芸術表現学科	2年 後期	担当者	小野 隆洋 (単独)
ナンバリングコード	JA-S250-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	西洋音楽史に関する基礎的な知識を身に付けて、豊かな感性と創造的な表現力を養う。					
授業の概要	時代別に作曲家を取り上げ、時代背景と共に作曲家の人生について学び、様々な作品を鑑賞して、西洋音楽に対する解釈を深めていく					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的知識、専門分野の基礎的技能、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 西洋音楽史を学び、その変遷について理解する。			○	◎	
	2. 作曲家の人生と音楽の関わり合いを理解する。			○	◎	
	3. 西洋音楽のより高度な「聴く力」を修得する。				◎	○
	4. 総合芸術である楽劇や舞台芸術について理解する。			◎	○	
5. 現代社会におけるミュージカル等の作品について理解する。			◎	○		
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1 古代西洋音楽について (目標 1,2) 2 中世西洋音楽について (目標 1,2) 3 ルネサンス期の音楽について (目標 1,2) 4 バロック音楽について (バッハ・ヘンデル・ヴィヴァルディ) (目標 1,2,3) 5 古典派音楽について～オーケストラについて～ (目標 1,2,3) 6 オペラ『魔笛』(モーツァルト) (目標 2,3,4) 7 交響曲第5番・第9番 (ベートーヴェン) (目標 2,3) 8 総合芸術の音楽について (目標 2,3,4) 9 ロマン派音楽について (目標 1,2,3) 10 フランス音楽について (サン＝サーンス) (目標 2,3) 11 交響曲・協奏曲について (シューマン・メンデルスゾーン・ショパン) (目標 1,2,3) 12 オペラ『カルメン』(ビゼー) (目標 2,3,4) 13 国民学派 (スメタナ・ドヴォルザーク) (目標 1,2,3) 14 日本人の作曲家 (滝廉太郎・山田耕筰・中田喜直・岡野貞一) (目標 2,5) 15 近代・現代音楽、ミュージカルについて (目標 1,2,3,4,5)					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション					
成績評価基準	①レポート (70%)：知識・理解を測定 ②授業態度・参加度 (30%)：関心・意欲を測定					
フィードバックの方法	各回の受講者の発表に対して、個別の助言を行う。					
時間外の学習について	予習：授業で扱われる時代の音楽を鑑賞しておくこと。(各回90分程度) 復習：授業で行った内容について復習しておくこと。(各回90分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：各回に適宜プリントを配布する					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	出来るだけ多くの演奏会に足を運び、様々な音楽を聴いて自分なりにそれぞれの音楽についての見解を持つ。					

科 目 名	即興演奏法 I (1 単位)	演習	芸術表現学科	2 年 前期	担当者	佐田尾 圭子 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S251-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授業のテーマ	ソルフェージュや音楽理論を基礎とし、音楽分野の専門的知識や技能を習得して、即興的に演じる能力を養う。					
授業の概要	音楽の基礎となる知識や能力を復習し、理論と実習の両面から組み立てたプログラムで学習し、総合的な音楽力の向上を計る。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 即興課題への取り組み方を習得する			○		
	2. コードネームの定着			○		
	3. 8小節程度のコード進行を習得する			○		
	4. コード進行を含めた読譜を習得する			○	○	
5. 内容の理解力とプレゼンの力を習得する			○	○	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授 業 計 画	1. 即興演奏の基礎 (目標 1) 2. コードネームの実習 (目標 2) 3. スケール、カデンツの理解と実践 (目標 2,3) 4. コードネーム付き1段譜の奏法 (1) (目標 2,3) 5. コードネーム付き1段譜の奏法 (2) (目標 2,3) 6. コード進行とベース進行 (1) (目標 2,3) 7. コード進行とベース進行 (2) (目標 2,3) 8. 伴奏型について、2・3人で取り組む、小テスト (目標 2,3) 9. バリエーションの手法 (1) (目標 3,4) 10. バリエーションの手法 (2) (目標 3,4) 11. コード進行 (1) (目標 3,4) 12. コード進行 (2) (目標 3,4) 13. 課題実習 (目標 3,4) 14. 模擬試験とディスカッション (目標 3,4) 15. 課題発表とグループワーク (目標 4,5)					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション					
成績評価基準	①小テスト、課題発表 (40%)：課題を理解し、表現できる。 ②授業での取り組み (30%)：例題レベルの問題を理解し、積極的に発言できる。 ③宿題 (30%)：思考・判断、技能・表現について、課題に対して適切に行うことができる。					
フィードバックの方法	各回の授業で出だされた課題について、次回の授業で発表し、個別に助言を行う。					
時間外の学習について	予習：スケール、カデンツの練習。(各回30分程度) 復習：授業で出された課題の復習。(各回60分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料等：各回に適宜プリントを配布する。					
担当者からのメッセージ等実務経験について	音楽の基本となる内容を、理論と演奏の両面から実践的に繰り返し学習します。 実務経験の内容：ヤマハ音楽教室講師の経験をもとに、音楽課題への即興について授業を行います。					

科目名	即興演奏法Ⅱ (1単位)	演習	芸術表現学科	2年 後期	担当者	佐田尾 圭子 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S252-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	音楽分野の専門的知識や技能を習得し、自由な創作や編曲を、即興的に行う能力を養う。					
授業の概要	「即興演奏法Ⅰ」に引き続き、即興演奏の要素と手法を理論と実習の両面から組み立てたプログラムで学習し、より幅広い音楽表現の実現において、多様なコード進行の経験を行い、総合的な音楽力の向上を計る。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. #、b3つまでの長調、短調のコードネームを定着する			◎		
	2. コード進行のパターンを習得する			◎		
	3. 課題の理解と表現法を習得する			◎		
	4. 初見力を習得する			◎	○	
5. 課題のポイントに則した即興の方法を習得する			○	◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. カデンツの実践 (目標 1) 2. コードネームの実習 (目標 1) 3. コード進行とベース進行 (1) (目標2,3) スケール、カデンツの理解と実践 (目標 2,3) 4. コード進行とベース進行 (2) (目標2,3) コードネーム付き1段譜の奏法 (1) (目標 2,3) 5. コード付け (目標 2,3) 6. 2小節～4小節程度のモチーフ即興 (目標2,3) 7. 課題を少人数のグループで取り組む (目標2,3) 8. グループ発表 (目標2,3) 9. 初見と変奏 (目標 3,4) 10. 構成とコード進行 (1) (目標 3,4) 11. 構成とコード進行 (2) (目標 3,4) 12. 課題実習 (目標 3,4,5) 13. 課題実習 (目標 3,4,5) 14. 模擬試験とディスカッション (目標 3,4) 15. 課題発表とグループワーク (目標 4,5) 					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション					
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> ①グループ発表、課題発表 (40%)：課題を理解し、表現できる。 ②授業での取り組み (30%)：例題レベルの問題を理解し、積極的に発言できる。 ③宿題 (30%)：思考・判断、技能・表現について、課題に対して適切に行うことができる。 					
フィードバックの方法	各回の授業で出された課題について、次回の授業で発表し、個別に助言を行う。					
時間外の学習について	予習：スケール、カデンツの練習。(各回30分程度) 復習：授業で出された課題の復習。(各回60分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料等：各回に適宜プリントを配布する。					
担当者からのメッセージ等実務経験について	音楽の基本となる内容を、理論と演奏の両面から実践的に繰り返し学習します。 実務経験の内容：ヤマハ音楽教室講師の経験をもとに、音楽課題への即興について授業を行います。					

科 目 名	デスクトップミュージックI (1単位)	演習	芸術表現学科	1年前期	担当者	北林 崇 (実務経験) 佐田尾 圭子 (複数)
ナンバリングコード	JA-S153-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授 業 の テ ー マ	音楽スタイルに基づく音楽制作の知識、技術を習得する					
授 業 の 概 要	DAWソフトウェア「Cubase」を使い、楽器シミュレーションの打込み課題から、音楽スタイルを学ぶ					
達 成 目 標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 「Cubase」の基本的な使い方の習得				○	
	2. 楽器の構造、音域、演奏方法を理解した楽器シミュレーションの打込み技術の習得				○	
	3. 各パートの楽器の組み合わせ、表現方法を理解した「音楽スタイル」に基づく音楽制作作品を作る				○	○
	4. MIDIやオーディオを使用した音楽制作方法を習得する				○	
	5. CD制作やWebでの活用方法を理解する				○	○
履修条件・注意事項	授業の実施方法：②面接授業と遠隔授業等の併用					
授 業 計 画	<p>1. DAWソフトウェアについて1：Cubaseの基本操作の習得（目標1）（同時双方向）</p> <p>2. DAWソフトウェアについて2：音源の知識、プラグインの概要、トラックとチャンネルについて（目標1）（同時双方向）</p> <p>3. ピアノ・トレーニング課題の打ち込みの基礎（目標1,2）（同時双方向）</p> <p>4. ピアノ・トレーニング課題の打ち込み1（目標1,2）（同時双方向）</p> <p>5. ピアノ・トレーニング課題の打ち込み2（目標1,2）</p> <p>6. 8beat系トレーニング課題の打ち込みの基礎（目標1,2）（同時双方向）</p> <p>7. 8beat系トレーニング課題の打ち込み1（目標1,2）（同時双方向）</p> <p>8. 8beat系トレーニング課題の打ち込み2（目標1,2）</p> <p>9. コンピュータ・MIDIの基礎：コンピュータの基礎、単位について、機器の接続、MIDIとオーディオとの違い（目標4,5）（同時双方向）</p> <p>10. CD音源、配信音源のフォーマットと音源を用いた楽曲制作の基礎（目標4,5）（同時双方向）</p> <p>11. 小テストおよび音源を用いた楽曲制作（目標1,2,4）（同時双方向）</p> <p>12. ダンス系シミュレーション課題の打ち込み1（目標1,2）</p> <p>13. ダンス系シミュレーション課題の打ち込み2（目標1,2,3）</p> <p>14. ダンス系シミュレーション課題の打ち込み3（目標1,2,3）</p> <p>15. 制作作品発表（目標1,2,3）</p> <p>12～15は集中授業</p>					
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション					
成 績 評 価 基 準	<p>①授業内・外での制作作品（50%）：シミュレーション精度が高いか、音楽的表現ができているか</p> <p>②小テスト（20%）：DTMの知識が理解できているか</p> <p>③授業での姿勢（30%）：真面目な態度で取り組んでいるか</p>					
フィードバックの方法	制作曲について、技術的・音楽的視点からコメントをすることにより、次回以降の作品制作に活かす。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	<p>予習：課題楽譜について確認する。（各回30分）</p> <p>復習：制作課題の楽曲を次の講義までに完成させる（各回60分）</p>					
教材にかかわる情 報	<p>テキスト：ミュージッククリエイター入門 MIDI検定4対応、一般社団法人音楽電子事業協会</p> <p>参考書：特になし</p> <p>参考資料等：随時プリントを配布する。</p>					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	<p>楽曲制作を通して、音楽を創る楽しさを追求してください。</p> <p>実務経験（音楽クリエイター）の経験をもとに楽曲制作について指導します。</p>					

科目名	デスクトップミュージックII (1単位)	演習	芸術表現学科	1年 後期	担当者	北林 崇 (実務経験) 佐田尾 圭子 (複数)
ナンバリングコード	JA-S154-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	音楽スタイルに基づく音楽制作の知識、技術を習得する					
授業の概要	DAWソフトウェア「Cubase」を使い、楽器シミュレーションの打ち込み課題から、音楽スタイルを学ぶ					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 「Cubase」の基本的な使い方の習得				○	
	2. 楽器の構造、音域、演奏方法を理解した楽器シミュレーションの打ち込み技術の習得				○	
	3. 各パートの楽器の組み合わせ、表現方法を理解した「音楽スタイル」に基づく音楽制作作品を作る				○	○
	4. MIDIやオーディオを使用した音楽制作方法を習得する				○	
	5. CD制作やWebでの活用方法を理解する				○	○
履修条件・注意事項	授業の実施方法：②面接授業と遠隔授業等の併用					
授業計画	1. Guitar系シミュレーション課題の打ち込みの1 (目標 1,2,3) (同時双方向) 2. Guitar系シミュレーション課題の打ち込みの2 (目標 1,2,3) 3. Guitar系シミュレーション課題の打ち込みの3 (目標 1,2,3) (同時双方向) 4. Guitar系シミュレーション課題の打ち込みの4 (目標 1,2,3) (同時双方向) 5. Bassシミュレーション課題の打ち込み1 (目標 1,2,3) (同時双方向) 6. Bassシミュレーション課題の打ち込み2 (目標1,2,3) 7. Bassシミュレーション課題の打ち込み3 (目標 1,2,3) (同時双方向) 8. Bassシミュレーション課題の打ち込み4 (目標 1,2,3) (同時双方向) 9. クラシック系シミュレーション課題の打ち込み1 (目標 1,2,3) (同時双方向) 10. クラシック系シミュレーション課題の打ち込み2 (目標 1,2,3) 11. クラシック系シミュレーション課題の打ち込み3 (目標 1,2,3) (同時双方向) 12. クラシック系シミュレーション課題の打ち込み4 (目標 1,2,3) 13. サウンドを使ったオリジナルの制作1 (目標 3,4,5) 14. サウンドを使ったオリジナルの制作2 (目標 3,4,5) 15. 制作作品発表 (目標 1,2,3)					
	12～15は集中講義					
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション					
成績評価基準	①授業内・外での制作作品 (70%)：シミュレーション精度が高いか、音楽的表現ができているか ②授業での姿勢 (30%)：真面目な態度で取り組んでいるか					
フィードバックの方法	制作曲について、技術的・音楽的視点からコメントをすることにより、次回以降の作品制作に活かす。					
時間外の学習について	予習：課題楽譜について確認する。(各回30分) 復習：制作課題の楽曲を次の講義までに完成させる (各回60分)					
教材にかかわる情報	テキスト：ミュージッククリエイター入門 MIDI検定4対応、一般社団法人音楽電子事業協会 参考書：特になし 参考資料等：随時プリントを配布する。					
担当者からのメッセージ等実務経験について	楽曲制作を通して、音楽を創る楽しさを追求してください。 実務経験 (音楽クリエイター) の経験をもとに楽曲制作について指導します。					

科 目 名	舞台芸術 (1単位)	演習	芸術表現学科	1年 後期	担当者	矢野 節 (実務経験) 小野 隆洋 (実務経験) (複数)				
ナンバリングコード	JA-S181-000									
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	幼稚園教諭						
科 目										
各科目に含めることが必要な事項										
教 科 目										
系 列										
授 業 の テ ー マ	空間を有効活用して、舞台（ステージ）を効果的に演出する									
授 業 の 概 要	学内イベント（芸術表現学科音楽隊、吹奏楽・合唱等の演奏活動発表）のステージを演出するために、音響機材、照明、舞台設営について学び、他者と協力して実践を通して舞台を制作していく。									
達 成 目 標	学修成果：協働性、社会人基礎力、コミュニケーション能力					科目DP：d				
						DP記号	a	b	c	d
	1. 音の演出（空間にあった音響）について理解する							○	◎	
	2. 光の演出（空間にあった照明）について理解する							○	◎	
	3. 音楽と映像制作の適合について理解する							○	◎	
	4. 制作した動画をプロジェクション・マッピングにより他者と協働で舞台演出できる							○		◎
5. 空間を最大限に活用した音響・照明効果を生かして他者と協働で舞台を演出できる							○		◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ									
授 業 計 画	1. 音響機材の操作方法（目標 1） 2. 音響機材の操作方法（目標 1） 3. 照明機材の操作方法（目標 2） 4. 照明機材の操作方法（目標 2） 5. 絵コンテの制作（目標 3） 6. 動画制作（目標 1,2,3） 7. 動画制作（目標 1,2,3） 8. 動画制作（目標 1,2,3） 9. 動画制作（目標 1,2,3） 10. 動画制作（目標 1,2,3） 11. プロジェクションマッピング制作（目標 3,4） 12. プロジェクションマッピング制作（目標 3,4） 13. プロジェクションマッピング制作（目標 3,4） 14. リハーサル（目標 1～5） 15. 舞台設営とゲネプロ（目標 1～5） ◎定期試験：舞台本番の演出（目標 1～5）									
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、グループワーク									
成績評価基準	①授業態度（40%）：関心・意欲・態度を測定 ②グループ活動（40%）：グループ活動における貢献度、及び他者との協働性を測定 ③知識・技能（20%）：舞台本番の演出により専門分野における知識・技能を測定									
フィードバックの方法	各回に成果物を班ごとに評価し、口頭によるフィードバックを行う。									
時間外の学習について	予習：次回の機材準備、制作における題材準備（90分） 復習：各回で学んだことの理解を深め、応用できるように練習する（90分）									
教材にかかわる情報	テキスト： 参考書： 参考資料等：									
担当者からのメッセージ等実務経験について	舞台芸術を通して、協働性を身に付け、共に舞台をデザイン・演出し、創り上げる喜びを経験していただきたいと思ひます。									

科目名	メディアアート演習 (2単位)	演習	芸術表現学科	2年 前後期	担当者	矢野 節 (実務経験) 原田 剛 佐田尾 圭子 (複数)
ナンバリングコード	JA-S281-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	メディアを最大限に活用したクリエイティブな作品を制作する					
授業の概要	本学科での学びを活かして、アニメ制作、インタラクティブ等のメディアアート実践を行い、映像と音楽を用いて表現する。プロジェクト制作の中で、他者と協力して実践を通して協働性を養う。					
達成目標	学修成果：協働性、社会人基礎力、コミュニケーション能力	科目DP：d				
		DP記号	a	b	c	d
	1.メディアアートの各分野について理解する			○	◎	
	2.アニメ制作やインタラクティブに必要なソフトウェアの操作方法を修得する			○	◎	
	3.音楽と映像の適合について理解する			○	◎	
	4.他者と協働して作品制作を行う			○		◎
5.制作した作品を他者と協働で投影・演出できる			○		◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1・2. 題材決め、表現手法について (目標 1) 3・4. ソフトウェアの種類と活用法 (目標 2) 5・6. 音楽と映像の適合について (目標 3) 7. 音響効果 (目標 3) 8. 照明効果 (目標 3) 9～11. 絵コンテ制作 (目標 1,2,4) 12～14. 動画制作 (目標 1,2,3,4) 15. 中間発表 (目標 5) 16～26. 作品制作 (目標 2,3,4) 27. リハーサル (目標 1～5) 28. 舞台設営とゲネプロ① (目標 1～5) 29. 作品の修正、調整 (目標 1～4) 30. 舞台設営とゲネプロ② (目標 1～5) ◎定期試験：本番の演出 (目標 1～5)					
	アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、グループワーク				
成績評価基準	①授業態度 (40%)：関心・意欲・態度を測定 ②グループ活動 (40%)：グループ活動における貢献度、及び他者との協働性を測定 ③知識・技能 (20%)：舞台本番の演出により専門分野における知識・技能を測定					
フィードバックの方法	各回の成果物について、口頭によるフィードバックを行う。					
時間外の学習について	予習：次回の機材準備、制作における題材準備 (90分) 復習：各回で学んだことの理解を深め、応用できるように練習する (90分)					
教材にかかわる情報	テキスト： 参考書： 参考資料等：					
担当者からのメッセージ等実務経験について	メディアアートを通して、協働性を身に付け、共に創り上げる喜びを経験していただきたいと思っております。					

科目名	特別講義 (2単位)	演習	芸術表現学科	1・2年 前後期	担当者	学科長 他 (複数担当)
ナンバリングコード	JA-S282-000					
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系 列						
授業のテーマ	芸術やビジネスの分野で活躍されている方々の講演を聴講、または学科が指定する図書の講読を通じて教養を高め、専門分野の知識や技術について深く学ぶ。また、学内外の様々な活動やイベントに参加、学科が指定するDVDやTV番組を視聴することで、専門分野で主体的に学び続ける態度を身につける。					
授業の概要	前期・後期で4回程度、講義を聴講または指定図書の講読後、その内容についてレポートを提出する。「その他」の活動についても、参加またはDVD・TV視聴後、その内容などについてレポートを提出する。					
達成目標	学修成果：社会人基礎力、社会貢献、コミュニケーション能力					科目DP：d
		DP記号	a	b	c	d
	1. 芸術活動や情報・ビジネスの実際について理解を深める。			◎		○
	2. 様々な活動への参加を通して、主体的に行動できる。			○		◎
	3. 自己の考えをまとめ、適切に表現できる。			○		◎
履修条件・注意事項	授業の実施方法：②面接授業と遠隔授業等の併用					
授業計画	<p>1. 「必修」：聴講・講読しレポートを提出する（6ポイント以上）。（目標 1,3）</p> <p>2. 「選択」以下の活動やイベントの参加やDVD・TVを視聴し、レポートを提出する（6ポイント以上）。（目標 2,3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学祭の音楽イベント・作品展への参加・出演・出品 ・コンクール等への出場・出品 ・学外での各種オーディション等への参加 ・大学の依頼による演奏会・作品展への参加演奏・出品 ・卒業修了研究発表会、作品制作展の鑑賞 ・音楽会、各種演奏会及び美術展の鑑賞 ・研修会、講演会、講習会、ワークショップ等への参加 ・学内外の行事への参加 ・芸術分野の各種競技大会への参加 ・地域ボランティア活動への参加 ・学科の指定するDVDやTV番組の視聴 <p>*具体的なポイントは別に定める。</p>					
アクティブ・ラーニング	実習・フィールドワーク					
成績評価基準	①レポート（100%）：知識・理解、表現力、関心・意欲、態度を測定 特別講義を自分なりに理解でき、適切に表現ができている。 まじめに取り組み主体的に活動ができる。					
フィードバックの方法	レポートについては、採点后返却する。					
時間外の学習について	予習：作品や人物について事前に調べる。各回90分程度 復習：受講・講読・参加・視聴後レポートを作成すること。各回90分程度					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：必要に応じて配布する					
担当者からのメッセージ等実務経験について	専門分野の方々のお話を聞き、書物を読んでキャリア形成の参考にしてください。山口県立美術館と山口県立萩美術館には、学生証を提示すれば無料で入場できます。活用してください。					

科目名	卒業研究 (4単位)	演習	芸術表現学科	2年前後期	担当者	学科長 他 (複数担当)
ナンバリングコード	JA-S283-000					
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	学びの集大成として、卒業制作、卒業研究、卒業演奏に取り組み、効果的な展示や発表を行う。					
授業の概要	各自が研究テーマを設定し、研究テーマについての構想や計画、予備調査、資料の収集、及び、発表の表現方法等について各指導教員と密接な連携を図り、演奏や制作、論文執筆、発表を行う。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力、協働性	科目DP：d				
	1. 研究テーマの設定ができる。	DP記号	a	b	c	d
	2. 各自のテーマに関連する資料収集、調査・作業計画の立案ができる。				○	◎
	3. 各自のテーマについて論文を書くことができる。				○	◎
	4. テーマに沿った作品制作、演奏、効果的な発表、展示ができる				○	◎
5. 他者と協働して、展示会や演奏会を企画、実行できる。					◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	前期)			後期)		
	1. 卒業研究の意義 <全体会> 2. 研究テーマの検討 3. 研究テーマの決定 4. 研究テーマに関連する資料収集、作業計画1 5. 研究テーマに関連する資料収集、作業計画2 6. 研究テーマに関連する資料収集、作業計画3 7. 研究テーマの内容調査と方法1 8. 研究テーマの内容調査と方法2 9. 研究テーマの内容調査と方法3 10. 研究テーマの内容調査と方法4 11. 研究テーマの内容確認1 12. 研究テーマの内容確認2 13. 研究テーマの内容確認3 14. 中間発表の準備 <チューター別> 15. 中間発表 <全体会> 1～15の全ての回で(目標 1,2,3)			1. 卒業制作展・演奏会の目的 <全体会> 2. 研究テーマをさらに深める1 3. 研究テーマをさらに深める2 4. 研究テーマをさらに深める3 5. 研究内容、制作等中間確認1 6. 研究内容、制作中間確認2 7. 研究内容、制作中間確認3 8. 研究内容、制作発表に向けての資料、進捗状況確認1 9. 研究内容、制作発表に向けての資料、進捗状況確認2 10. 研究内容、制作発表に向けての資料、進捗状況確認3 11. 研究内容、制作発表に向けての資料、進捗状況確認4 12. 制作展・演奏会の準備<全体会> 13. 制作展・演奏会の準備<チューター別> 14. 制作展・演奏会の準備<チューター別> 15. 制作展・演奏会の準備(設営) 定期試験(卒業研究発表会) 1～15の全ての回で(目標 2,3,4)		
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション					
成績評価基準	①卒業研究論文・演奏・作品等の完成度(50%)：知識・理解、技能・表現を測定 ②授業態度(30%)：学習への関心・意欲・思考力を測定 ③展示会・演奏会準備に対する取り組み(20%)：協働性、関心・意欲を測定					
フィードバックの方法	課題等の出来具合等を随時学生に伝え、次回以降の課題に役立てる。					
時間外の学習について	予習：卒業研究に対する関心・意欲を日常に持ち続けること。各回90分程度 復習：繰り返し学ぶこと。各回90分程度					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：随時、プリント等で配布					
担当者からのメッセージ等実務経験について						

保育学科専門教育科目

保育学科専門教育科目

保育者入門セミナーⅠ	101	乳児保育Ⅰ	133
保育者入門セミナーⅡ	102	乳児保育Ⅱ	134
保育原理	103	特別支援の保育・教育概論	135
教育原理Ⅰ	104	社会的養護Ⅱ	136
教育原理Ⅱ	105	幼児理解と教育相談	137
子ども家庭福祉	106	保育内容の理解と方法・健康	138
社会福祉	107	保育内容の理解と方法・人間関係	139
子育て支援	108	保育内容の理解と方法・環境	140
社会的養護Ⅰ	109	保育内容の理解と方法・表現Ⅰ	141
保育者論	110	保育内容の理解と方法・表現Ⅱ	142
保育・教育の心理学	111	保育内容の理解と方法・音楽Ⅰ	143
子ども家庭支援の心理学	112	保育内容の理解と方法・音楽Ⅱ	144
子どもの理解と援助	113	保育内容の理解と方法・造形Ⅰ	145
子どもの保健	114	保育内容の理解と方法・造形Ⅱ	146
子どもの健康と安全	115	保育内容の理解と方法・言葉	147
子どもの食と栄養	116	音楽基礎	148
子ども家庭支援論	117	保育ピアノⅠ	149
保育内容総論	118	保育ピアノⅡ	150
教育課程論・保育の計画と評価	119	保育ピアノⅢ	151
健康の指導法	120	保育ピアノⅣ	152
人間関係の指導法	121	子ども総合研究Ⅰ	153
環境の指導法	122	子ども総合研究Ⅱ	154
言葉の指導法	123	保育実習指導Ⅰ	155
表現の指導法（音楽Ⅰ）	124	保育実習Ⅰ	156
表現の指導法（音楽Ⅱ）	125	保育実習指導Ⅱ	157
表現の指導法（造形Ⅰ）	126	保育実習Ⅱ	158
表現の指導法（造形Ⅱ）	127	保育実習指導Ⅲ	159
表現の指導法（造形Ⅲ）	128	保育実習Ⅲ	160
表現の指導法（造形Ⅳ）	129	教育実習指導	161
保育方法論	130	教育実習	162
保育リトミックⅠ	131	保育・教職実践演習（幼稚園）	163
保育リトミックⅡ	132		

学修成果（8つの力）

幼児教育コース

①主体的に学び続ける意欲	学び続ける意欲をもって主体的に考え行動し、他者と協調して生活することができる。
②協調的な生活態度	
③教養	豊かな教養と感性・表現力を身につけ、高い倫理観や広い見識をもって物事に取り組むことができる。
④豊かな感性と表現力	
⑤保育の計画力	保育現場での実践に生かすことができる専門的知識や技能を身につけている。
⑥保育の指導力	
⑦コミュニケーション能力	他者と円滑にコミュニケーションを図りながら、保育実践上の課題を創造的に解決することができる。
⑧課題解決能力	

I. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

以下に示す目標とする学修成果（学士力）を身につけ、所定の在学期間を満たし、基準となる単位を修得した者に対して、卒業を認定し、「短期大学士」の学位を授与します。

幼児教育コース

- (a) 学び続ける意欲をもって主体的に考え行動し、他者と協調して生活することができる。
- (b) 豊かな教養と感性・表現力を身につけ、高い倫理観や広い見識をもって物事に取り組むことができる。
- (c) 保育現場での実践に生かすことができる専門的知識や技能を身につけている。
- (d) 他者と円滑にコミュニケーションを図りながら、保育実践上の課題を創造的に解決することができる。

科目名	保育者入門セミナー I (1単位)	講義	保育学科 幼児教育コース	1年前期	担当者	弘中、森下、山本、 上村、山根、永田、 難波、船場、津田、富田 (オムニバス)																														
ナンバリングコード	JC-S101-010																																			
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭																															
科目																																				
各科目に含めることが必要な事項																																				
教科目	選択必修科目(保育士)																																			
系 列	保育の本質・目的に関する科目																																			
授業のテーマ	自己の成長を確認する視点の獲得(意欲・主体性)、保育現場体験や子どもあそび体験による専門職理解(専門的知識・技能)、グループワークによる協調性の育成(専門的知識・技能・協調性・コミュニケーション力)、社会人としてのマナーの確認(教養・倫理観・見識)、山口芸術短期大学保育学科幼児教育コースの理解(倫理観・見識)																																			
授業の概要	ディプロマポリシーに示す、本学の目指す人材養成の基盤となる基本的な姿勢と基礎的な知識、技能を身につけ、本学での学びにスムーズに適応することを目指す。 建学の精神「至誠」と教育の理念を軸とする本学の概要と目指すべき人物像を理解し、そこに向けての成長を確認する視点として、ポートフォリオおよび履修カルテの利用方法について理解する。 また、今後の学びをより主体的に意欲をもって取り組むために、早い段階で保育現場や子どもの遊びを体験し、専門職の魅力や実際を実感するとともに、様々なグループワークを通して人間関係を構築し、協調性とコミュニケーション能力を養う。さらに、マナー講座を受講し、社会人としての規範意識を高め、対人スキルを身につける。																																			
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育職理解のための基本的知識を習得する。 2. 自己の保育職を目指す気持ちを明確にする。 3. 他者と協調して課題に取り組むことができる。 4. 学生生活や学びへのモチベーションを高める。 					<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">科目DP: a</th> </tr> <tr> <th>DP記号</th> <th>a</th> <th>b</th> <th>c</th> <th>d</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>◎</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	科目DP: a					DP記号	a	b	c	d		○	○				◎					◎	○	○			◎			
科目DP: a																																				
DP記号	a	b	c	d																																
	○	○																																		
	◎																																			
	◎	○	○																																	
	◎																																			
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ																																			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「建学の精神」と「教育の理念」、ポリシーと「学修成果」、ポートフォリオ・履修カルテの理解(目標4)(担当:弘中、森下、山本、上村) 2. 2年間の養成課程(履修・実習・就職・学生生活について)(目標2,4)(担当:山本、上村、永田、船場) 3. 幼稚園免許、保育士資格の理解、初年次保育現場体験(1)-①(幼稚園1日見学実習の心得)(目標1,2,4)(担当:上村) 4. 初年次保育現場体験(1)-②(幼稚園1日見学実習の事前指導)(目標1,2,3,4)(担当:上村) 5. 初年次保育現場体験(1)-③(幼稚園1日見学実習の振り返り、協議)(目標1,2,3,4)(担当:上村) 6. スタディスキル(1) 受講態度・課題管理・相談マナー・批判的思考・調査について(目標4)(担当:山本、山根) 7. スタディスキル(2) ディスカッション・プレゼンテーション、レポートの書き方について(目標3,4)(担当:上村、船場) 8. マナー講座(目標1,4)(担当:永田) 9. 子どもあそび体験講座①(伝承遊び)(担当:富田) 10. 子どもあそび体験講座②(昔話)(担当:津田) 11. 子どもあそび体験講座③(童謡、わらべうた)(担当:永田) 12. 子どもあそび体験講座④(室内外の遊び)(担当:山本) 13. スチューデントスキル(1) グループワークでの企画・準備(目標1,3,4)(担当:全教員) 14. スチューデントスキル(2) グループワークでの実践(目標1,3,4)(担当:全教員) 15. スチューデントスキル(3) 生活・仕事における基本的配慮や倫理観、責任感、物事の優先順位について(目標1,3,4)(担当:永田) 																																			
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク																																			
成績評価基準	<p>評価の方法: レポート30%、授業課題への取り組み35%、保育現場体験への取り組み35%</p> <p>評価の基準:</p> <ul style="list-style-type: none"> ○レポート *知識・理解、思考・判断を測定 <ul style="list-style-type: none"> ・保育職・保育活動に関する必要な理解と知識を身につけている ・授業や現場体験を踏まえ、保育における活動の在り方を考察することができる ・自らを省察し自己評価することができる ・適切な文章表現で、レポートを書くことができる ○授業課題への取り組み *思考・判断、技能・表現、関心・意欲、態度を測定 <ul style="list-style-type: none"> ・グループでの課題に積極的である ・協力的にグループワークに取り組むことができる ・責任感を持って役割を果たすことができる ○保育現場体験への取り組み *関心・意欲、態度を測定 <ul style="list-style-type: none"> ・真摯な態度で意欲を持って現場体験に臨むことができる 																																			
フィードバックの方法	レポートについては、優れた内容のものを全体に紹介し、共有できる。																																			
時間外の学習について	<p>予習: 手引き等の資料に事前に目を通しておく。(各回30分程度)</p> <p>復習: 授業内容や各種体験を振り返ってまとめ、考察を深める。(各回30分程度)</p>																																			
教材にかかわる情報	<p>テキスト: 『実習の手引き』、『幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p> <p>参考書: 『学生ハンドブック』</p> <p>参考資料: 適宜配布</p>																																			
担当者からのメッセージ等実務経験について																																				

科目名	保育者入門セミナーⅡ (1単位)	講義	保育学科 幼児教育コース	1年 後期	担当者	弘中、森下、山本、上村、 山根、永田、難波、船場、 杉山、津田、富田 (オムニバス)																																		
ナンバリングコード	JC-S102-010																																							
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭																																			
科目																																								
各科目に含めることが必要な事項																																								
教科目	選択必修科目(保育士)																																							
系列	保育の本質・目的に関する科目																																							
授業のテーマ	自己評価による課題の明確化(意欲・主体性)、保育職の理解(専門的知識・技能)、グループワークによる協調性の育成(協調性・コミュニケーション力)																																							
授業の概要	<p>ディプロマポリシーに示す、本学の目指す人材養成の基盤となる基本的な姿勢と基礎的な知識、技能を身につけ、本学での学びにスムーズに適応することを目指す。</p> <p>ルーブリックと履修カルテを用いて前期履修状況を振り返り、現状の自己の課題を明確化する。また、子どもの遊びや植物栽培を体験することで、専門職への意欲を高めながら、遊びの知識、技能を身につけるとともに、豊かな感性を育む。研修旅行の準備を通じて、協調性を育みコミュニケーション力を高めるとともに、グループワークにおける役割に対する責任感を身につける。3日間の保育現場体験を通して、より具体的に保育現場へのイメージを獲得し、意欲を高める。</p>																																							
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育職理解のための専門的知識の基礎を習得する。 2. 保育職を目指す気持ちを明確にして自己の課題を発見する。 3. 保育という仕事に対する理解を深め、主体的な学習態度を身につける。 4. 他者と協調して課題に取り組むことができる。 5. 学生生活や学びへのモチベーションを高める。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">科目DP: a</th> </tr> <tr> <th>DP記号</th> <th>a</th> <th>b</th> <th>c</th> <th>d</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>◎</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>◎</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		科目DP: a					DP記号	a	b	c	d		○	○				◎					◎	○				◎	○	○			◎					
科目DP: a																																								
DP記号	a	b	c	d																																				
	○	○																																						
	◎																																							
	◎	○																																						
	◎	○	○																																					
	◎																																							
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ																																							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ルーブリックと履修カルテの記入(目標 2,3,5)(担当: 弘中・森下・山本・上村) 2. 子どもあそび体験①(劇的表現体験: グループ分け・ごっこ遊び・題材決定・役割分担) (目標 1,2,3,4,5)(担当: 森下・永田・杉山・難波) 3. 子どもあそび体験②(劇的表現体験: 脚本制作・道具類制作・配役検討)(目標 1,2,3,4,5) (担当: 森下・永田・杉山・難波) 4. 子どもあそび体験③(劇的表現体験: 脚本修正・道具類制作・配役決定・練習)(目標 1,2,3,4,5) (担当: 森下・永田・杉山・難波) 5. 子どもあそび体験④(劇的表現体験: 練習)(目標 1,2,3,4,5)(担当: 森下・永田・杉山・難波) 6. 子どもあそび体験⑤(劇的表現体験: 発表)(目標 1,2,3,4,5)(担当: 森下・永田・杉山・難波) 7. 子どもあそび体験⑥(室内外の遊び)(目標 1,2,3,4,5)(担当: 弘中・富田) 8. 植物栽培(チューリップの植え付け)(担当: 森下・津田) 9. 研修旅行①(研修旅行の目的理解とグループ分け、役割分担)(目標 2,3,4,5) (担当: 山本・上村・山根・永田・船場・杉山・難波) 10. 研修旅行②(各役割の内容理解、グループでの計画立案)(目標 2,3,4,5) (担当: 山本・上村・山根・永田・船場・杉山・難波) 11. 研修旅行③(グループでの準備: グループ活動、実習反省会、スピーチ)(目標 2,3,4,5) (担当: 山本・上村・山根・永田・船場・杉山・難波) 12. 研修旅行④(グループでの準備: 飯盒炊爨、交歓会)(目標 2,3,4,5) (担当: 山本・上村・山根・永田・船場・杉山・難波) 13. 初年次保育現場体験(2)-①(幼稚園3日間見学実習: 実習園の理解)(目標 1,2,3,4,5) (担当: 上村・船場) 14. 初年次保育現場体験(2)-②(幼稚園3日間見学実習: 課題理解と実習に関わる留意点) (目標 1,2,3,4,5)(担当: 上村・船場) 15. 初年次保育現場体験(2)-③(幼稚園3日間見学実習: 振り返り、協議)(目標 1,2,3,4,5) (担当: 上村・船場) 																																							
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク																																							
成績評価基準	<p>評価の方法: 提出物・レポート40%、保育現場体験への取り組み30%、授業への取り組み30%</p> <p>評価の基準:</p> <ul style="list-style-type: none"> ○提出物・レポート *知識・理解及び思考・判断を測定 <ul style="list-style-type: none"> ・保育職に関する必要な理解と知識を身につけている。 ・保育現場体験をもとに自己を省察し、自己の課題を明らかにすることができる。 ○保育現場体験への取り組み *関心・意欲・態度を測定 <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的な態度で、現場体験の準備や学習に取り組むことができる。 ・保育者を目指す学生としてふさわしい言動を身につけている。 ○授業への取り組み *関心・意欲・態度を測定 <ul style="list-style-type: none"> ・積極的にグループ活動に参加できる。 ・他者と協調しながら授業の課題に挑むことができる。 																																							
フィードバックの方法	提出物やレポートについて、優れた内容の物については他の学生に紹介し、共有する。																																							
時間外の学習について	<p>予習: グループワークにおける役割分担に関わる事前準備、現場体験に関する資料の確認 (各回30分程度)</p> <p>復習: 授業や現場体験の振り返りをまとめ、考察を深める (各回30分程度)</p>																																							
教材にかかわる情報	<p>テキスト: 『実習の手引き』、『幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p> <p>参考書:</p> <p>参考資料: 適宜配布</p>																																							
担当者からのメッセージ等実務経験について																																								

科目名	保育原理 (2単位)	講義	保育学科 幼児教育コース	1年 後期	担当者	野村 不二子 (単独)
ナンバリングコード	JC-S103-010					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目(保育士)					
系列	保育の本質・目的に関する科目					
授業のテーマ	保育に関する基本、専門知識や技術を学び、理解し保育実践に活かせるようにする					
授業の概要	保育と法令、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園の目的・目標・内容・方法、保育の計画、保育の歴史、保育者の専門性、現代の保育の課題などを学び理解し、実践と結びつくようにする					
達成目標						科目DP:c
						DP記号
	1. 保育の制度、保育の基本原則をとおして保育の本質を理解する					a b c d
	2. 乳幼児期の発達と保育、保育所保育の特性について理解する					a b c d
	3. 保育の目的・目標・内容・方法などについて理解する					a b c d
4. 保育の計画及び評価について理解する					a b c d	
5. 保育の思想・歴史の変遷から子ども観、保育の基本について理解する.					a b c d	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. 保育の基礎的概念 2. 保育の制度 3. 保育の基本理論 4. 保育の基本理論 5. 乳幼児の理解 6. 保育の基本理論 7. 保育の基本理論 8. 保育の基本理論 9. 保育の基本理論 10. 保育の実践 11. 保育の実践 12. 保育の実践 13. 保育の実践 14. 保育の歴史 15. まとめ	保育原理の概要 保育について (目標 1) 子どもと保育に関する法令と制度 (目標 1) 保育所について学ぶ (1) 保育所保育指針概要 (目標 1,2) 保育所について学ぶ (2) 保育の内容 (目標 1,2) 乳児保育、3歳未満児、3歳以上児の保育 (目標 2) 幼稚園について学ぶ (目標 1) 幼保連携型認定こども園について学ぶ (目標 1) 保育所保育の方法 (目標 1,3) 保育の計画と評価 (目標 2,3,4) 子ども理解に基づく保育 (1) (目標 2,4) 子ども理解に基づく保育 (2) (目標 2,4) 地域社会で行う子育ての支援 (目標 1,3) 障害児を受け入れる保育 (目標 2,3) 日本と西欧の歴史・思想の変遷 (目標 2,5) 日本の保育の現状 (目標 1,3,5)				
アクティブ・ラーニング	グループワーク					
成績評価基準	評価の方法：授業内小テスト5回(60%) 課題・指導案作成(25%) 授業への参加度、予習、復習の自主学習(15%) 評価の基準：○授業内小テスト：知識、理解の定着度を測定 ・各回の知識を扱った問題に回答できる ・応用レベルの問題に回答できる ○指導案作成・準備物製作：思考・判断・技能を測定 ・知識や理解したことを保育実践に応用できる ・必要な準備物を製作し、技法を身に付ける ○復習、予習の自主的学修を含む授業への参加度：関心・意欲・態度を測定 ・教科書を読む、積極的に発言、質問する					
フィードバックの方法	・小テスト返却時に開設を行い、理解につなげる ・指導案、課題はコメントを記入し、よいところは紹介し、改善点を示し、理解につなげる					
時間外の学習について	予習：教科書を読んでくる 各回5分程度 復習：授業の振り返りとノートの整理(30分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：保育原理 子どもの保育の基本理論の理解 岡田耕一編者 萌文書林 参考書：保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド社) 参考資料等：保育所保育指針解説 厚生労働省編(フレーベル館)					
担当者からのメッセージ等実務経験について						

科 目 名	教育原理 I (1 単位)	講義	保育学科 幼児教育コース	1 年 前期	担 当 者	山本 朗登 (単独)	
ナンバリングコード	JC-S104-110						
卒 業 要 件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修	
科 目	教科及び教職に関する科目 (幼稚園) 教育の基礎的理解に関する科目						
各科目に含めることが必要な事項	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想						
教 科 目	必修科目 (保育士)						
系 列	保育の本質・目的に関する科目						
授 業 の テ ー マ	教育の本質を理解し、理論や歴史を把握することにより、保育に関する専門知識を習得し、高い倫理観と広い見識を持つ。						
授 業 の 概 要	教育の基礎的概念を学び、教育とは何か、どのような目的で行われ、どのような意義を有するのか、講義を通じて考察を行う。また教育の歴史や思想を学び、その中で形成された教育理念のいくつかを学習・分析するとともに、これまで教育や学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解し、今後の教育・保育のあり方や現代社会における課題について考察する素地を作る。						
達 成 目 標						科目DP : c	
						DP記号	a b c d
	1. 教育の基礎的概念を理解し、教育成立への諸要因と相互関係を理解する。						◎
	2. 教育の歴史に関する基礎的知識を身につけ、教育の変遷について理解する。						○◎
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ						
	<p>1. 教育の基礎的概念① これまで受けてきた教育を基に、学校・家庭・地域や子ども・教員・保護者の相互関係を考える (目標 1)</p> <p>2. 教育の基礎的概念② 教育の意義・目的 (教育理論と教育の目的的理解) (目標 1)</p> <p>3. 教育の基礎的概念③ 教育の本質と目標 (教育とは何かを考える) (目標 1)</p> <p>4. 教育の思想① 児童観・家庭観と教育観の変遷 (目標 2,3)</p> <p>5. 教育の思想② 主要な教育思想家と教育論(ペスタロッチ・フレーベル・倉橋惣三等) (目標 2,3)</p> <p>6. 教育の思想③ 主要な教育思想家と教育論 (教育論を基に、学習と学校の関係および授業指導案を理解する) (目標 1,2,3)</p> <p>7. 教育の歴史① 学校を取り巻く環境・教育課題の歴史的経緯 (近代教育制度の成立と教育課程を題材に) (目標 1,2)</p> <p>8. 教育の歴史② 学校を取り巻く環境・教育課題の歴史的経緯 (虐待・学校へのクレーム等、今日的教育課題を基に、教育と家族・社会の関係を考察する) (目標 1,2)</p> <p>定期試験</p>						
アクティブ・ラーニング	グループワーク						
成 績 評 価 基 準	<p>評価の方法：定期試験70%、授業内レポート20%、授業ファイル10%</p> <p>評価の基準：○定期試験 *知識・理解の定着度および思考力・判断力を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確な知識を選択でき、説明することができる。 ・授業をもとに考察し、明確な根拠に基づいて自説を述べることができる。 <p>○授業内レポート *思考力・判断力を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明確な根拠に基づいて自説を述べることができる。 <p>○授業ファイル *知識・理解の定着度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確な知識を整理しまとめることができる。 						
フィードバックの方法	授業内レポートを回収した回目の授業で、コメント内容を紹介し、それをもとに考察を深める。						
時 間 外 の 学 習 に つ い て	<p>予習：教育・保育関連のニュース等に関心を払い、次回授業のテーマに沿って情報収集を行う。各回45分程度</p> <p>復習：授業内容を復習するとともに、関連ニュースについて考察を行う。各回45分程度。</p>						
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト：なし。代わって資料を適宜配布する。</p> <p>参 考 書：『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p> <p>参考資料：授業中に適宜配布する。</p>						
担当者からのメッセージ等 実務経験について							

科目名	教育原理Ⅱ (1単位)	講義	保育学科 幼児教育コース	1年前期	担当者	山本 朗登 (単独)	
ナンバリングコード	JC-S105-110						
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修	
科目	教科及び教職に関する科目(幼稚園)教育の基礎的理解に関する科目						
各科目に含めることが必要な事項	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)						
教科目	必修科目(保育士)						
系列	保育の本質・目的に関する科目						
授業のテーマ	教育の本質を理解し、制度や実践例を把握することにより、保育に関する専門知識を習得し、高い倫理観と広い見識を持つ。(専門的知識、高い倫理観、広い見識)						
授業の概要	現代の学校教育に関する社会的・制度的な事項について、近年の社会状況を踏まえて学校教育のあり方・教育政策を理解するとともに、公教育制度や教育行政の理解など基礎的知識を身につける。また、学校と地域の連携や学校安全などの現代社会における教育の課題についても基礎的知識を身につける。						
達成目標	1. 教育と社会の関係性と教育政策、公教育制度について理解する。 2. 学校と地域との連携や地域との協働の仕方について理解する。 3. 学校内外での事件・事故・災害について学び、危機管理・事故対応・学校安全の必要性について理解する。					科目DP:c	
						DP記号	a
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ						
授業計画	<p>1. 教育と社会① 子どもの生活の変化や学校をめぐる社会状況の変遷(目標1)</p> <p>2. 教育と社会② 社会状況の変化に対応する昨今の教育政策、生涯学習社会と教育(目標1)</p> <p>3. 教育の制度・行政① 公教育制度の基礎と教育法規(目標1)</p> <p>4. 教育の制度・行政② 教育制度とそれを支持する教育行政システム(目標1)</p> <p>5. 学校と地域の連携① 学校の閉鎖性批判と学校教育活動のあり方と意義・方法(目標1.2)</p> <p>6. 学校と地域の連携② 事例から見る地域との連携、開かれた学校とは何か①(目標1.2)</p> <p>7. 教育と学校安全① 学校内外の事件事故と危機管理、開かれた学校とは何か②(目標1.3)</p> <p>8. 教育と学校安全② 教育現場の災害対応とその課題、阪神淡路大震災・東日本大震災を事例に(目標3)</p> <p>定期試験</p>						
アクティブ・ラーニング	グループワーク						
成績評価基準	<p>評価の方法：定期試験70%、授業内レポート20%、授業ファイル10%</p> <p>評価の基準：○定期試験 *知識・理解の定着度および思考力・判断力を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確な知識を選択でき、説明することができる。 ・授業をもとに考察し、明確な根拠に基づいて自説を述べることができる。 <p>○授業内レポート *思考力・判断力を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明確な根拠に基づいて自説を述べることができる。 <p>○授業ファイル *知識・理解の定着度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確な知識を整理しまとめることができる。 						
フィードバックの方法	授業内レポートを回収した次回の授業で、コメント内容を紹介し、それをもとに考察を深める。						
時間外の学習について	<p>予習：教育・保育関連のニュース等に関心を払い、次回授業のテーマに沿って情報収集を行う。各回45分程度</p> <p>復習：授業内容を復習するとともに、関連ニュースについて考察を行う。各回45分程度。</p>						
教材にかかわる情報	<p>テキスト：なし。代わって資料を適宜配布する。</p> <p>参考書：『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</p> <p>参考資料：授業中に適宜配布する。</p>						
担当者からのメッセージ等実務経験について							

科目名	子ども家庭福祉 (2単位)	講義	保育学科 幼児教育コース	1年 後期	担当者	山根 望 (実務経験) (単独)		
ナンバリングコード	JC-S106-010							
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭			
科目								
各科目に含めることが必要な事項								
教科目	必修科目(保育士)							
系列	保育の本質・目的に関する科目							
授業のテーマ	子ども家庭福祉領域の現状と課題を理解し、高い倫理観を養う。							
授業の概要	子ども家庭福祉の理念や歴史の変遷を学び、現代社会における保育者のあり方を考える。また、子どもと家庭、地域をめぐる現状と子ども家庭福祉制度・実践体系について理解し、子どもとその家庭への社会的支援に関する知識を深める。							
達成目標							科目DP : c	
							DP記号	a b c d
	1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的編さんについて理解する。						○	
	2. 子どもの人権擁護について理解する。							◎
	3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。							○ ◎
	4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。						○	◎
5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。						○	◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ							
授業計画	1. 子ども家庭福祉の理念、概念及び現代社会の課題(目標 1,2) 2. 国内外における子ども家庭福祉の歴史の変遷(目標 1,2) 3. 子どもの人権擁護と児童の権利に関する条約の理解(目標 1,2,3) 4. 子ども家庭福祉の制度と法体系・児童福祉関連施設(目標 1,2) 5. 子ども家庭福祉の現状と課題(1) 少子化と地域子育て支援(目標 2,3,4,5) 6. 子ども家庭福祉の現状と課題(2) 母子保健・児童の健全育成(目標 2,3,4,5) 7. 子ども家庭福祉の現状と課題(3) 多様な保育ニーズ(目標 2,3,4,5) 8. 子ども家庭福祉の現状と課題(4) 児童虐待の概要(目標 2,3,4,5) 9. 子ども家庭福祉の現状と課題(5) 児童虐待の影響(目標 2,3,4,5) 10. 子ども家庭福祉の現状と課題(6) 児童虐待の防止と対応(目標 2,3,4,5) 11. 子ども家庭福祉の現状と課題(7) ドメスティック・バイオレンスの理解と防止(目標 2,3,4,5) 12. 子ども家庭福祉の現状と課題(8) 社会的養護(目標 2,3,4,5) 13. 子ども家庭福祉の現状と課題(9) 障がいのある子どもへの対応(目標 2,3,4,5) 14. 子ども家庭福祉の現状と課題(10) 情緒障がい・非行少年への対応(目標 2,3,4,5) 15. 多職種との連携(目標 2,3,4) 定期試験							
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション							
成績評価基準	評価の方法：評価の方法： 授業態度(10%)、活動への取り組み(20%)、試験(70%) 評価の基準：○授業態度 ※関心・意欲の測定 ・ワークシートへの記述内容が適切である。 ・積極的な発言がある。 ○活動への取り組み ※思考・判断及び技能・表現の測定 ・子ども家庭福祉に関する事柄について調べ、深く考察できる。 ・グループ活動に積極的に参加している。 ・他者にわかりやすい発表ができる。 ○試験 ※知識・理解の定着を測定 ・子ども家庭福祉に関する専門的知識を習得している。 ・子ども家庭福祉に関する事柄について説明できる。							
フィードバックの方法	発表後にプレゼンテーションの評価を伝える。定期試験については、実施後に解答および模範記述を希望者は閲覧できる。							
時間外の学習について	予習：ニュースや新聞に目を通し、子ども家庭福祉の現状を把握する。(各回45分程度) 復習：授業内容に該当するテキストの内容をよく読んでおく。(各回45分程度)							
教材にかかわる情報	テキスト：櫻井 奈津子(編)『保育と子ども家庭福祉 第3版』みらい社、2019。(予定) 参考書： 参考資料：							
担当者からのメッセージ等実務経験について	公認心理師、臨床心理士、小学校、中学校、高校でスクールカウンセラーとして勤務：実務経験をもとに、子どもの発達や特性の理解、子どもの精神保健および心理的支援、及び保護者に対する支援について話をします。							

科目名	社会福祉 (2単位)	講義	保育学科 幼児教育コース	1年 前期	担当者	佐藤 真澄 (単独)	
ナンバリングコード	JC-S107-010						
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭		
科目							
各科目に含めることが必要な事項							
教科目	必修科目(保育士)						
系列	保育の本質・目的に関する科目						
授業のテーマ	社会福祉に関する専門的知識、相談援助の専門的スキルとコミュニケーション力						
授業の概要	社会福祉の理念、社会福祉における子ども家庭支援の考え方や方法、そのために必要な相談援助の技術について学ぶ。授業は講義が中心となるが、相談援助を扱う回などでは、授業の一部にロールプレイやグループワークなどの演習を取り入れる。						
達成目標						科目DP : c	
						DP記号	a b c d
	1. 社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。						◎ ◎
	2. 社会福祉の理念、意義、制度や実施体系等について理解する。						○ ◎
	3. 社会福祉における相談援助について理解する。						◎ ○
	4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。						◎ ◎
5. 社会福祉の動向と課題について理解する。						◎ ◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ						
授業計画	1. 社会福祉の理念と概念、歴史の変遷(目標 1,2) 2. 子ども家庭支援と社会福祉(目標 1) 3. 社会福祉の制度と法体系(目標 2) 4. 社会福祉行政と実施機関、社会福祉施設(目標 2) 5. 社会福祉の専門職(目標 2) 6. 社会保障および関連制度の概要(目標 3) 7. 【小テスト】/相談援助の理論(目標 3) 8. 相談援助の意義と機能(目標 3) 9. 相談援助の対象と過程(目標 3) 10. 相談援助の方法と技術(目標 3) 11. 【小テスト】/社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み(目標 4) 12. 少子高齢化社会における子育て支援(目標 1,2) 13. 共生社会の実現と障害者施策(目標 2,5) 14. 在宅福祉,地域福祉の推進(目標 2,5) 15. 【小テスト】/総括(目標 1,2,4,5)						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ						
成績評価基準	評価の方法：小テスト3回(80%)、授業への参加度(20%) 評価の基準：○小テスト *知識・理解の定着度を測定 ・教科書および配布資料に載っている知識を扱った問題に解答できる。 ○授業への参加度 *思考・判断、関心・意欲を測定 ・演習課題やレスポンスシートの記述内容が適切である。						
フィードバックの方法	講義の回では、授業終了時にレスポンスシートに記入してもらい、次回の授業時にコメントする。演習の回では、演習課題を提出してもらい、次回の授業時にコメントする。						
時間外の学習について	予習：テキストの当該ページを一読しておく。(各回30分程度) 復習：ノートを作成し、授業内容を整理しておく。小テストでは、自筆のノートのみ持ち込み可。 (各回30分程度)						
教材にかかわる情報	テキスト：『新・基本保育シリーズ第4巻 社会福祉』中央法規出版 参考書： 参考資料：必要に応じて都度配布する						
担当者からのメッセージ等実務経験について	社会福祉を取り巻く情勢は日々変化しています。日頃から、関連する新聞記事やテレビ等の報道に関心を持ってください。						

科目名	子育て支援 (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	2年 前期	担当者	林 和子 (実務経験) (単独)					
ナンバリングコード	JC-S231-010										
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭						
科目											
各科目に含めることが必要な事項											
教科目	必修科目(保育士)										
系 列	保育の内容・方法に関する科目										
授業のテーマ	保育士の行う子育て支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。(専門的知識、高い倫理観、広い見識、実践力)										
授業の概要	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。また、保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。										
達成目標							科目DP: c				
							DP記号	a	b	c	d
	1. 子育て支援の必要性について理解する。								○	○	
	2. 保育士の行う子育て支援の特性について理解する。									◎	
	3. 保育士の行う子育て支援の展開について理解する。									◎	
4. 保育士の行う子育て支援の実際(内容・方法)について理解し、技術を身に付ける。									◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ										
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの保育とともに行う保護者の支援(目標 1,2) 2. 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成(目標 1,2) 3. 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解(目標 2,3) 4. 子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供(目標 2,3,4) 5. 子ども及び保護者の状況・状態の把握(目標 2,3) 6. 支援の計画と環境の構成(グループ討議による、模擬支援計画の作成)(目標 3,4) 7. 支援の実践・記録・評価・カンファレンス(目標 3,4) 8. 職員間の連携・協働(保育ドキュメントの活用方法)(目標 3,4) 9. 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働(目標 1,2,3) 10. 保育所等における支援の実際(目標 2,3,4) 11. 地域の子育て家庭に対する支援の実際(目標 2,3,4) 12. 障害のある子ども及びその家庭に対する支援の実際(目標 3,4) 13. 特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援の実際(目標 3,4) 14. 子ども虐待の予防と対応(目標 3,4) 15. 要保護児童等の家庭に対する支援、多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解(目標 1,2,3) 定期試験										
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション										
成績評価基準	評価の方法: 授業ノート(60%)、試験(40%) 評価の基準: ○授業ノート *知識・理解、関心・意欲を測定 ・教授したことや自ら学んだこと、グループワークで学んだことを、記録できている ・授業テーマに対して、関心を持って取り組むことができている ○試験 *知識・理解、思考・判断を測定 ・支援に必要な法令や情報を精査する方法を理解している ・情報を整理し、的確な判断のもと支援計画が作成できる										
フィードバックの方法	ノートに、コメントを記入し返却する。										
時間外の学習について	予習: 毎回の授業テーマに沿った子育てに関する情報(記事)を、新聞やインターネットから収集し、ノートに整理する。(30分程度) 復習: 講義を通して学んだことをノートに整理し、知識の定着を図る。(30分程度)										
教材にかかわる情報	テキスト: 特になし 参考書: 特になし 参考資料: 特になし										
担当者からのメッセージ等実務経験について	やまぐち子育て福祉総合センターに勤務: 子ども・子育て相談対応、利用者支援の実務経験をもとに、子育て支援、子ども家庭支援について話します。										

科目名	社会的養護 I (2単位)	講義	保育学科 幼児教育コース	2年 前期	担当者	安村 裕美 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JC-S208-010					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目 (保育士)					
系 列	保育の本質・目的に関する科目					
授業のテーマ	社会的養護の理念、制度、実施体系等、基本的内容を理解する。					
授業の概要	子どもを取り巻く社会的状況を理解し、子どもの育ちと家庭を支援する専門職として、子どもの権利擁護を核とした子ども観を養う。社会的養護の理念、制度、方法(実践)など基本的な内容について理解する。また、社会的養護の歴史の変換、先駆者の業績を学ぶことで、現在の社会的養護の課題と今後のあり方について考察する。					
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 児童の権利擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。 					科目DP: c DP記号 a b c d <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/>
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会と社会的養護のあり方について理解し、社会的養護の果たす約りについて理解する。(目標 1,2,3) 2. こどもの権利と社会的養護についての基本原則を学ぶ。(目標 2,3,5) 3. 施設養護・家庭養護、家庭的養護について学ぶ。(目標 2,3) 4. 社会的養護に関わる機関について学ぶ。(目標 2,3) 5. 措置制度の仕組み・対象・形態について理解する。(目標 2,3,4) 6. 保育士としての資質と倫理について学ぶ。(目標 2) 7. 被措置児童の虐待の現状と虐待防止の取組について理解し、発生要因と課題について考える。(目標 2,3,4,5) 8. 利用・契約制度の仕組み・対象・形態について理解する。(目標 3,4) 9. 日本における社会的養護の歴史の変遷と子ども観の変遷を学ぶ。(目標 1,2) 10. 欧米における社会的養護の歴史の変遷と子ども観の変遷を学ぶ。(目標 1,2) 11. 社会的養護に関わる専門職とその業務内容、求められている専門性について学ぶ。(目標 2,4) 12. 児童養護施設での実際の支援を学び、施設養護のプロセスごとに行われる支援の要点を理解する。(目標 3,4) 13. ソーシャルワークの基本を理解し、施設養護でのソーシャルワークの展開について理解する。(目標 2,4) 14. 里親の種類・制度・里親に対する支援制度について学ぶ。(目標 1,2,3,5) 15. 施設の運営管理・費用の仕組み等について学ぶ。(目標 2,3,4) 					
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ロールプレイ					
成績評価基準	評価の方法: 授業態度 (30%)、小テスト (20%)・定期試験 (40%) 評価の基準: ○授業態度 関心・意欲の測定 *態度の測定 ・積極的に発言する。 ・グループワーク、ロールプレイ等に積極的に参加している。 ○小テスト 定期試験 *知識・理解の定着度を測定 *思考・判断を測定 ・テキストに載っている知識を扱った問題に解答できる。 ・社会的養護の理念・概要・制度について理解している。 ・子どもの権利擁護の視点をもって自説を述べるができる。					
フィードバックの方法	小課題や小テストに対して、解説を行う。					
時間外の学習について	予習: 次回の授業のテーマについて予め学習しておく。各回45分程度 復習: テキスト・配布資料を見て、授業内容を確認しておく。各回45分程度					
教材にかかわる情報	テキスト: 『社会的養護 I』原田句哉・杉山宗尚編著, 萌文書林 参考書: 特になし 参考資料等: 適宜配布					
担当者からのメッセージ等実務経験について	児童養護施設実務経験: 社会的養護の理念、制度、実践内容についてお話しします。 社会的養護に関する新聞記事やテレビ等の報道に関心を持ち、子どもの権利擁護の視点で考察してください。					

科目名	保育者論 (2単位)	講義	保育学科 幼児教育コース	1年前期	担当者	津田 恵子 (実務経験) (単独)		
ナンバリングコード	JC-S109-110							
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修		
科目	教科及び教職に関する科目(幼稚園)教育の基礎的理解に関する科目							
各科目に含めることが必要な事項	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)							
教科目	必修科目(保育士)							
系列	保育の本質・目的に関する科目							
授業のテーマ	保育者としての専門知識・役割・倫理観・地域との連携(協働)を学ぶ							
授業の概要	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。 保育現場の実情、実践、事例などを踏まえ、保育者の役割、倫理、資格、専門性について理解を深める。また、保護者、地域の専門機関との連携など保育者の協働について学び、実践力や応用力を持った保育者としての専門的知識・技術を身につける。							
	達成目標						科目DP:c	
							DP記号	a b c d
		1. 幼児教育や保育の社会的意義や制度的な位置づけ、今日の幼児教育や保育に関する社会的動向を理解する。						○
		2. 幼稚園教諭・保育士・保育教諭の専門性や職務内容について理解する。					○	○
3. 保育者に求められる役割や資質能力、保育者に課せられる服務上・身分上の義務・倫理について理解する。						○		
4. 保育現場が担う役割が拡大・多様化する中で、保育者間や内外の専門家等と協働(連携・分担)の必要性について理解する。					○	○		
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ							
授業計画	1. 保育者の役割・倫理の重要性を理解する(目標2) 2. 幼稚園教諭免許・保育士資格・保育教諭資格について認識する(目標2) 3. 幼稚園教諭・保育士・保育教諭の位置づけについて学ぶ(目標1) 4. 幼稚園教諭・保育士・保育教諭の責務について、事例を通して学ぶ(目標1,2)小テスト① 5. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定子ども園教育・保育要領を踏まえ、養護と教育についての学びを深める(目標2,3) 6. 保育者の専門性・資質・能力に関わる知識・技術を高める(目標2,3) 7. 子ども理解を深める(発達・行動・遊び)(目標1) 8. 保育指導案の立案、模擬保育を通して保育の基本的な内容を理解する(目標2) 9. 保育の省察(実践・実習を通して)(目標3) 10. 子育て支援について様々な事例を通して理解を深める(目標3) 11. 幼稚園・保育所(園)及び専門機関との連携について学ぶ(目標4) 12. 保育者及び地域社会との協働について理解する(目標4) 13. 幼稚園教諭・保育士・保育教諭と家庭的保育者等との連携についての必要性を学ぶ チーム学校運営への対応(目標2,3) 14. 保育者の専門性について理解する(目標2)小テスト② 15. 保育者としての成長について考える(目標2,3)							
	アクティブ・ラーニング	グループワーク						
成績評価基準	評価の方法: 保育者についての知識・理解度・思考・判断・表現力及び授業に対しての意欲・関心・態度などを総合的(まとめレポート20%・小テスト30%・授業内レポート20%・提出課題20%・授業への取り組み10%)に評価する。							
	評価の基準: ○まとめレポート *知識・理解、思考・判断、表現力の測定 ・授業を通して学んだ事項を基に、保育者として自説を述べるができる ○小テスト *知識・理解の測定 ・授業内容にかかわる問題に回答できる ○授業内レポート *知識・理解、思考・判断、表現力の測定 ・各回の授業内容を理解し、課題や質問を見つることができる ○提出課題 *思考・判断の測定 ・課題に対して自分なりに理解し、調べてまとめることができる ・保育者としての観察力、考察力をもって取り組むことができる ○授業への取り組み *関心・意欲・態度を測定 ・真摯な態度で、保育者に関する学びを積極的に行うことができる							
フィードバックの方法	レポートにコメントを返す。レポート課題を回収し、次回の授業で説明する。授業アンケート結果やコメントを参考にして授業改善に取り組む。							
時間外の学習について	予習: 各回の授業計画を把握しておく。各回15分 復習: プリント、資料等をファイルに綴じて、授業で習ったことをまとめておく。各回30分							
教材にかかわる情報	テキスト: 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 参考書: 参考資料: 毎回資料及びレジユメを配布 情報機器教材 保育実践事例							
担当者からのメッセージ等実務経験について	テキスト・ファイルを毎回、持参すること 幼稚園教諭経験:実務経験をもとに幼児の保育、子育て支援及び実習について話をします。							

科目名	保育・教育の心理学 (2単位)	講義	保育学科 幼児教育コース	1年前期	担当者	上村 有平 (単独)	
ナンバリングコード	JC-S121-110						
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修	
科目	教科及び教職に関する科目(幼稚園)教育の基礎的理解に関する科目						
各科目に含めることが必要な事項	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程						
教科目	必修科目(保育士)						
系 列	保育の対象の理解に関する科目						
授業のテーマ	発達と学習の過程の理解(専門知識)、子ども理解に基づく援助(実践力)						
授業の概要	子どもの心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識を身につけ、養護と教育の一体性や発達に応じた援助の基礎となる考え方を理解する。また、保育・教育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。						
達成目標		科目DP : c					
		DP記号	a	b	c	d	
	1. 子どもの心身の発達の過程・特徴を理解する。(子どもの心身の発達に関連する要因、発達の代表的理論を踏まえ、発達の概念及び保育・教育における発達理解の意義を理解する/乳幼児期から青年期にかけての認知・言語・社会性・情動・パーソナリティの発達について理解する)				◎		
	2. 子どもの学習に関する基礎的な知識を身につけ、養護と教育の一体性や発達に応じた援助について基礎的な考え方を理解する。(学習に関する代表的理論の基礎を理解する/子どもの主体的な学習を支える動機づけ・集団づくり・評価の在り方について、発達と関連付けて理解する/子どもの発達を踏まえ、主体的な学習を支える保育の基礎となる考え方を理解する)			◎		○	
3. 保育・教育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。			◎				
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育・教育と心理学について(目標 1,2,3) 2. 子どもの学びの過程と特性について(目標 2) 3. 子どもの学びを支える保育・教育について(目標 2) 4. 子どもの学びに関わる理論について(目標 2,3) 5. 子どもの発達を理解することの意義について(目標 1,2,3) 6. 社会性の発達について(目標 1,3) 7. クラス集団の心理について(目標 2,3) 8. パーソナリティの発達について(目標 1) 9. 認知と言語の発達について(目標 1) 10. 評価について(目標 2) 11. 社会情動的発達について(目標 1) 12. 子どもの発達と環境について(目標 1,3) 13. 発達理論と子ども観・保育観について(目標 1,3) 14. 記憶のメカニズムについて(目標 2) 15. まとめ(目標 1,2,3) 定期試験						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション						
成績評価基準	評価の方法：定期試験50% レポート50% 評価の基準：○筆記試験 *知識・理解の定着度および、思考・判断を測定 ・子どもの心身の発達及び学習の過程、発達に応じた援助、保育・教育における人との相互的関わりや体験、環境の意義に関する基礎レベルの問題に回答できるか。 ○レポート *思考・判断、関心・意欲、態度を測定 ・子どもの心身の発達及び学習の過程、発達に応じた援助、保育・教育における人との相互的関わりや体験、環境の意義に関する基礎的事項を理解し、授業内容をふまえながら自分の考えとともに説明できるか。						
フィードバックの方法	レポート課題は、優れている事例を挙げて、その理由を説明する。						
時間外の学習について	予習：次回の授業テーマについて情報を収集する。各回30分程度。 復習：授業プリントを整理し、授業をふり返る。疑問点があれば調べる。各回60分程度。						
教材にかかわる情報	テキスト：指定しない 参考書：鎌原雅彦・竹綱誠一郎(著)「やさしい教育心理学」有斐閣(第5版) 青木紀久代(編)「保育の心理学」みらい 「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領」チャイルド本社 参考資料：						
担当者からのメッセージ等実務経験について	配付プリントをファイルにまとめ、毎回持参すること。						

科 目 名	子ども家庭支援の心理学 (2単位)	講義	保育学科 幼児教育コース	1年 前期	担 当 者	山根 望 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JC-S123-010					
卒 業 要 件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目	必修科目(保育士)					
系 列	保育の対象の理解に関する科目					
授 業 の テ ー マ	子どもの心理・発達の支援や課題解決ができるように、人間の生涯発達及び現代の親子の現状と課題を学ぶ。(専門的知識、技能、広い見識、課題解決力)					
授 業 の 概 要	人間の生涯にわたる発達を概観し、乳幼児期の心身の発達や発達を促す要因について理解する。また、現代日本社会においては様々なライフスタイルが可能となり、様々な家庭環境の中で子どもは生活している。伝統的家庭の在り様と現代的家庭の在り様を新聞などで学びながら、子どもを援助するために必要な基礎的知識を習得する。					
達 成 目 標						科目DP: c
						DP記号
						a
						b
						c
					d	
1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解する。						◎
2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の理解する。						◎
3. 子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。					○	○
4. 子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。						◎
5. 子どもの精神保健とその課題について理解する。						◎
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ					
授 業 計 画	1. 生涯発達について 2. 乳幼児期の発達① 胎児期から3歳未満までの発達 3. 乳幼児期の発達② 初期経験と愛着形成 4. 幼児期・学童前期の発達: 満3歳から9歳までの発達 5. 学童期後期から青年期までの発達 6. 成人期・老年期までの発達 7. 家族・家庭の意義と機能 8. 子ども家庭支援についての理解: アセスメントの重要性 9. 子育て家庭に関する現状と課題① 子育てを取り巻く社会的状況 10. 子育て家庭に関する現状と課題② ライフコースと仕事・子育て 11. 子育て家庭に関する現状と課題③ 多様な家庭とその理解 12. 子育て家庭に関する現状と課題④ 特別な配慮を要する家庭 13. 子育て家庭に関する現状と課題⑤ 発達支援の必要な子どものいる家庭 14. 子どもの精神保健とその課題① 子どもの心の健康に関わる問題 15. 子どもの精神保健とその課題② 災害と子どもの精神保健 定期試験					
アクティブ・ラーニング	デイスカッション、グループワーク					
成 績 評 価 基 準	評価の方法: 授業態度 (10%)、活動への取り組み (20%)、試験 (70%) 評価の基準: ○授業態度 ※関心・意欲の測定 ・ワークシートへの記述内容が適切である。 ・積極的な発言がある。 ○活動への取り組み ※思考・判断及び技能・表現の測定 ・子ども家庭支援に関する事柄について調べ、深く考察できる。 ・グループ活動に積極的に参加している。 ・他者に自分の意見をわかりやすく述べる事が出来る。 ○試験 ※知識・理解の定着を測定 ・子ども家庭支援に関する専門的知識を習得している。 ・子ども家庭支援に関する事柄について説明できる。					
フィードバックの方法	発表後にプレゼンテーションの評価を伝える。定期試験については、実施後に解答および模範記述を希望者は閲覧できる。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習: ニュースや新聞に目を通し、子どもとその家庭の現状を把握する。(各回45分程度) 復習: 授業内容に該当するテキストの内容をよく読んでおく。(各回45分程度)					
教材にかかわる 情 報	テキスト: 『子ども家庭支援の心理学』 青木紀久代 編著 みらい社 2019 参考書: 参考資料:					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	公認心理師、臨床心理士: 実務経験をもとに、子どもの発達や特性の理解、子どもの精神保健および心理的支援、及び保護者に対する支援について話します。					

科 目 名	子どもの理解と援助 (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	2年 後期	担 当 者	上村 有平 (単独)		
ナンバリングコード	JC-S222-010							
卒 業 要 件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭			
科 目								
各科目に含めることが必要な事項								
教 科 目	必修科目(保育士)							
系 列	保育の対象の理解に関する科目							
授 業 の テ ー マ	子どもの発達や学びに関する理解(専門知識)、子ども理解の方法(実践力)、子ども理解に基づく援助(実践力)							
授 業 の 概 要	子どもの実態に応じた発達や学びを把握することの意義、及び子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。また、子どもを理解するための具体的な方法、及び子どもの理解に基づく援助や態度の基本について理解する。							
達 成 目 標							科目DP: c	
							DP記号	a b c d
	1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する							◎
	2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する							◎
	3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。							◎ ○
4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。							◎ ○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ							
授 業 計 画	1. 保育における子どもの理解の意義、子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開(目標1) 2. 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり(目標1) 3. 子どもの生活や遊び(目標2) 4. 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達(目標2) 5. 子ども相互の関わりと関係づくり(目標2) 6. 集団における経験と育ち(目標2) 7. 葛藤やつまずき(目標2) 8. 保育の環境の理解と構成(目標2) 9. 環境の変化や移行(目標2) 10. 子ども理解のための観察・記録と省察・評価(目標3) 11. 職員間の対話と保護者との情報の共有(目標3) 12. 発達の課題に応じた援助と関わり(目標4) 13. 特別な配慮を要する子どもの理解と援助(目標4) 14. 発達の連続性と就学への支援(目標4) 15. まとめ(目標1,2,3,4)							
アクティブ・ラーニング	ディスカッション							
成 績 評 価 基 準	評価の方法: 小テスト40% レポート40% 授業への取り組み20% 評価の基準: ○筆記試験 *知識・理解の定着度および、思考・判断を測定 ・子どもの発達や学びに関する事項、子ども理解の方法、子ども理解に基づく援助のあり方に関する基礎レベルの問題に回答できる。 ○レポート *思考・判断、関心・意欲、態度を測定 ・子どもの発達や学びに関する事項、子ども理解の方法、子ども理解に基づく援助のあり方を理解し、授業内容をふまえながら自分の考えとともに説明できる。 ○授業への取り組み *関心・意欲、態度を測定 ・真摯な態度で学習を積極的に行うことができる。 ・グループディスカッションに積極的に参加し、自分の意見を表明することができる。							
フィードバックの方法	レポート課題は、優れている事例を挙げて、その理由を説明する。							
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習: 次回の授業テーマについて情報を収集する。各回15分程度。 復習: 授業プリントを整理し、授業をふり返る。疑問点があれば調べる。各回30分程度。							
教材にかかわる情 報	テキスト: プリントを配布 参 考 書: 高嶋景子・砂上史子(編)「子ども理解と援助」ミネルヴァ書房 「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領」チャイルド本社 参考資料:							
担当者からのメッセージ等 実務経験について	配付プリントをファイルにまとめ、毎回持参すること。							

科目名	子どもの保健 (2単位)	講義	保育学科 幼児教育コース		1年 後期	担当者	松尾 清巧 (単独)				
ナンバリングコード	JC-S124-010										
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭						
科目											
各科目に含めることが必要な事項											
教科目	必修科目(保育士)										
系列	保育の対象の理解に関する科目										
授業のテーマ	健康保健、子どもの成長発達、子どもの病気や予防についての知識を習得する(専門的知識・実践力)										
授業の概要	保育者として健康増進・疾病や事故予防・安全教育の理解を深め、保育現場で実践できるようにする。										
達成目標							科目DP:c				
							DP記号	a	b	c	d
	1. 子どもの健康増進を図る母子保健行政の現状と意義を理解できる。						◎				
	2. 生命の成り立ち、子どもの身体発育や生理運動・精神機能の発達を理解できる。							◎			
	3. 子どもを取り巻く環境を理解する、子どもの健康増進と疾病対策を理解する								◎		
	4. 保育や家庭での子どもの事故について理解し、事故防止や安全管理を理解する								◎		
	5. 子どもの病気の成り立ちを理解し、その予防対策を理解できる								◎		
6. 受動喫煙の害を学び、子どもへの防煙対策を習得する										◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ										
授業計画	1. 子どもの健康と保母子保健を考える(目標1) 2. 生物としてのヒトの成り立ちと機能(目標2) 3. 子どもの身体発育と保健(目標2) 4. 子どもの生理機能の発達と保健(目標2) 5. 子どもの運動精神機能と保健(目標2) 6. 子どもを取り巻く自然と生活環境(目標3) 7. 健康と病気、異常、子どもの特性について学ぶ(目標3) 8. 子どもの事故の特徴(目標4) 9. 事故防止と安全対策・安全教育、災害時への備え危機管理について学ぶ(目標4) 10. 子どもの病気の成り立ちとその特徴について学ぶ(目標5) 11. 学校感染症と出席(登園)停止基準について(目標5) 12. 予防接種や伝染性疾患の感染拡大防止について学ぶ(目標5) 13. アレルギー疾患とアレルギーを持つ児への対応(目標5) 14. 生活管理や発達障害児への対応を学ぶ(目標5) 15. 受動喫煙の子どもへの影響と防煙対策(目標6) 定期試験										
アクティブ・ラーニング	ディスカッション										
成績評価基準	評価の方法:試験80% 授業参加・学習態度20% 評価の基準:◎試験 *知識・理解の測定 ・授業内容を理解し、基礎的・応用的な問題に回答できる ○学習態度 *関心・意欲・態度の測定 ・真摯な態度で授業に臨む										
フィードバックの方法	小テストを授業終了後に毎回行う(解答例を示す)										
時間外の学習について	予習:各回の授業計画を把握する(各回15分程度) 復習:授業を振り返り内容理解を確実にする(各回30分程度)										
教材にかかわる情報	テキスト:「子どもの保健テキスト」、編集:小林美由紀、診断と治療社 参考書: 参考資料:										
担当者からのメッセージ等実務経験について											

科目名	子どもの健康と安全 (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	2年 前期	担当者	三浦 志津子 (単独)
ナンバリングコード	JC-S232-010					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目(保育士)					
系列	保育の内容・方法に関する科目					
授業のテーマ	保育に必要な子どもの保健についての専門知識を深め、子どもの健やかな成長に必要な保健活動の技術を実践する能力を養う。(専門的知識、技能、実践力)					
授業の概要	子どもの健康と安全を守るための保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解し、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策についてや子どもの発達や状態等に即した体調不良等に対する適切な対応・感染症対策など、保育における保健活動についての基本的な知識を学び、必要とされる技術や態度、実践力を身につける。					
達成目標		科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。		◎			○
	2. 保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。				◎	○
	3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。			○	◎	
	4. 保育における感染症対策について、具体的に理解する。			○	◎	
5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子供の発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する			◎	○		
6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。		○			◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの健康と保育の環境 (目標 1) 2. 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理 (目標 1) 3. 保育における衛生管理 (目標 2) 4. 保育における事故防止及び安全対策 (目標 2) 5. 保育における危機管理及び災害への備え (目標 2) 6. 体調不良や傷害が発生した場合の対応 (目標 3) 7. 応急処置・救急処置及び救急蘇生法 (目標 3) 8. 感染症の集団発生の予防 (目標 4) 9. 感染症発生時と罹患後の対応 (目標 4) 10. 保育における保健的対応の基本的な考え方 (目標 5) 11. 3歳未満児への対応 (目標 5) 12. 個別的な配慮を要する子どもへの対応 (慢性疾患、アレルギー性疾患等) (目標 5) 13. 障害のある子どもへの対応 (目標 5) 14. 保育における保健活動の計画及び評価と職員間の組織的取組 (目標 6) 15. 母子保健・地域保健における家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携 (目標 6) 定期試験					
アクティブ・ラーニング	ロールプレイ					
成績評価基準	評価の方法：筆記試験40%、授業内レポート15%、宿題・授業外レポート15%、授業・演習への取組・態度30% 評価の基準：○筆記試験 *知識・理解の定着度を測定 ・保育保健の基礎的な事柄について回答できる ○授業内レポート *知識・理解、思考・判断の測定 ・授業内容を踏まえて考察できる ○宿題・授業外レポート *知識・理解、思考・判断、技能・表現の測定 ・教えた技法を再現できる ・根拠を明確にして実践につなげることができる ○授業・演習への取り組み・態度 *思考・判断、関心・意欲、態度の測定 ・積極的な発言や質問ができる ・授業に対して主体的、積極的に取り組む					
フィードバックの方法	課題(レポート等)については、評価後に返却し解答解説を実施する。疑問点があれば拾い上げ解決に導く。 筆記試験については、採点后に返却し解答解説を実施する。採点に間違いや不明な点がないかを十分に確認した後回収する。					
時間外の学習について	予習：テキストの該当部分を読んで授業に臨むこと。(1回の講義につき予・復習で45分程度) 復習：小テストを行うので、授業や演習のプリントを使用して知識や技術のポイントを整理しておくこと。					
教材にかかわる情報	テキスト：大西文子編著「子どもの健康と安全」(中山書店) 参考書：なし 参考資料：佐藤益子編著「子どもの保健Ⅱ」(ななみ書房)、厚生労働統計協会「国民衛生の動向」他					
担当者からのメッセージ等実務経験について						

科目名	子どもの食と栄養 (2単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	2年 後期	担当者	白土 由利枝 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JC-S225-010					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目(保育士)					
系 列	保育の対象の理解に関する科目					
授業のテーマ	子どもの栄養に関する専門的知識を理解し、保育専門職として意欲的に保育に取り組むことができる実践力を身に付ける。(専門的知識, 技能, 広い見識, 実践力)					
授業の概要	子どもの食生活の現状と課題を理解し、子どもの栄養の重要性、成長発達過程に応じた栄養などの基本的事項を学ぶ。さらに、食物アレルギーや疾病・障害のある子どもへの対応、家庭や各職員間の連携、食育の基本について、実践的な内容を学ぶ。					
達成目標		科目DP: c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。			○	◎	
	2. 子どもの発育、発達と食生活の関連について理解する。			◎	○	
	3. 食育の基本とその内容及び食育のための環境を理解し、地域社会・文化とのかわりの中で展開できる実践力を身に付ける。	◎	○	○	◎	
	4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題を理解する。			◎	○	
5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。			◎	○		
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 子どもの心身の健康と食生活 (目標 1,2) 子どもの食生活の現状と課題。食生活の変化と子どもの食生活上の問題点。(目標1,4) 栄養の基本的概念と栄養素の種類と働き (目標 1) 食事摂取基準, 食事バランスガイド (目標 1) ＜小テスト＞ 乳幼児期の授乳・離乳の意義と食生活 (目標 2) 乳幼児期の心身の発達と食生活 (目標 2) 食育における養護と教育の一体性 (目標 3) 食育の内容と計画及び評価。食育計画指導案作成 (目標 3) 食育のための環境, 地域の関係機関や職員間の連携 (目標 3) ＜小テスト＞ 食生活指導及び食を通じた保護者への支援 (目標 4) 家庭における食事と栄養。人間形成の基盤としての食事のあり方 (目標 4) 児童福祉施設における食事と栄養 (目標 4) 疾病及び体調不良の子どもへの対応 (目標 5) 食物アレルギーの子どもへの対応 (目標 5) 障害のある子どもへの対応 (目標 5) ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング	グループワーク プレゼンテーション					
成績評価基準	<p>評価の方法: 試験40%, 小テスト20%, レポート20%, 授業への参加度20%</p> <p>評価の基準: ○筆記試験 *知識・理解の定着度及び考察力・判断力を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業で学んだ知識を扱った問題に解答できる。 授業をもとに考察し、明確な根拠を示し、自説をわかりやすく説明できる。 <p>○授業態度 *関心意欲の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> グループでの活動に積極的である。 相手にわかりやすく自説を述べ、他者の意見を聴くことができる。 <p>○レポート *技能・表現を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業で学んだことを発展させ、豊富な情報やイラストを活用してわかりやすくまとめることができる。 自主的に取り組むことができる。 					
フィードバックの方法	小テストや試験終了後、内容を再確認する。レポートなど提出物については、コメントを記入し、意欲付けを図る。					
時間外の学習について	<p>予習: 次回の授業に関連する資料や情報を集め、読んでおくこと。各回30分程度</p> <p>復習: 各章末に示されている課題について、まとめられるよう授業内容を整理しておくこと。各回30分程度</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト: 子どもの食と栄養 中央法規(新・基本保育シリーズ) 2000円+税</p> <p>参考書:</p> <p>参考資料:</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について	<p>教育実習・保育実習の際には、子どもの食事の様子や食育の取り組みをよく観察しておくこと。</p> <p>中学校・高等学校の家庭科教員: 子どもの食生活の現状と課題、食育への対応について話をします。</p>					

科目名	子ども家庭支援論 (2単位)	講義	保育学科 幼児教育コース	1年 後期	担当者	林 和子 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JC-S111-010					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目(保育士)					
系 列	保育の本質・目的に関する科目					
授業のテーマ	子育て家庭に対する支援の意義・目的、および多様な子育て家庭のニーズに応じた支援の現状と課題について、事例を基に考える。(専門的知識、技能、広い見識)					
授業の概要	子育て家庭に対する支援の意義・目的、および支援の体制について理解する。また、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 子育て家庭の多様なニーズを理解し、それぞれに応じた支援の展開について、また、子ども家庭支援の現状と課題について事例を基に考える。					
達成目標		科目DP : c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 家庭・家族の機能について理解する。			○		
	2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解する。		○	○		
	3. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。			○		
4. 子育て支援における保育者の役割について理解する。		○	○			
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども家庭支援の意義と役割 (1) 子ども家庭支援の意義と必要性 (目標 1,2) 2. 子ども家庭支援の意義と役割 (2) 子ども家庭支援の目的と機能 (目標 1,2) 3. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本 (1) 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 (目標 2,3,4) 4. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本 (2) 子どもの育ちの喜びの共有 (目標 2,3,4) 5. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本 (3) 保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援 (目標 2,3,4) 6. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本 (4) 保育士に求められる基本的態度 (受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等) (目標 2,3,4) 7. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本 (5) 家庭の状況に応じた支援 (目標 2,3,4) 8. 保育士による子ども家庭支援の意義と基本 (6) 地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 (目標 2,3,4) 9. 子育て家庭に対する支援の体制 (1) 子育て家庭の福祉を図るための社会資源 (目標 1,2) 10. 子育て家庭に対する支援の体制 (2) 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 (目標 1,2) 11. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (1) 子ども家庭支援の内容と対象 (目標 3) 12. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (2) 保育所等を利用する子どもの家庭への支援 (目標 3) 13. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (3) 地域の子育て家庭への支援 (目標 3) 14. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (4) 要保護児童等及びその家庭に対する支援 (目標 3) 15. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (5) 子ども家庭支援に関する現状と課題 (目標 3) 定期試験					
アクティブ・ラーニング	グループワーク					
成績評価基準	評価の方法：授業ノート (60%)、試験 (40%) 評価の基準：○授業ノート *知識・理解、関心・意欲を測定 ・教授したことや自ら学んだことを、正しく記録している ・与えられたテーマに沿って、情報を集め整理ができている ○試験 *知識・理解、思考・判断を測定 ・授業内容を正しく理解できている ・学んだ知識を基に思考・判断し、的確な支援ができる					
フィードバックの方法	ノートに、コメントを記入し返却する。					
時間外の学習について	予習：毎回の授業テーマに沿った子育てに関する情報(記事)を、新聞やインターネットから収集し、ノートに整理する。(30分程度) 復習：講義を通して学んだことをノートに整理し、知識の定着を図る。(30分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト： 参考書： 参考資料：					
担当者からのメッセージ等実務経験について	やまぐち子育て福祉総合センターに勤務。子ども・子育て相談対応、利用者支援の実務経験をもとに、子育て支援、子ども家庭支援について話をします。					

科目名	保育内容総論 (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	2年 後期	担当者	山下 温子 (単独)
ナンバリングコード	JC-S233-010					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目 (保育士)					
系列	保育の内容・方法に関する科目					
授業のテーマ	保育の基本と保育内容の専門知識を理解し、主体的に子ども理解・保育内容の展開について学ぶ。(専門的知識、技能、実践力)					
授業の概要	保育内容の基本的な考え方を理解し、具体的な実践事例を通して子どもの発達のとらえ方や保育内容を学ぶ。各自で課題を持ちグループ討議・まとめ・発表を通して保育内容・保育者の援助について考える。					
達成目標						科目DP: c
						DP記号
						a
						b
						c
						d
1. 「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解するとともに保育の全体的な構造を理解する。						○
2. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育内容の歴史の変遷を踏まえて、保育内容の基本的な考え方を理解する。						○
3. 保育内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画、実践、観察・記録、評価、改善)につなげて理解する。						○
4. 保育の多様な展開について具体的に学ぶ。						○
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ					
授業計画	1. 保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解 (目標 1,2) 2. 保育内容の歴史の変遷について (目標 1,2) 課題グループを決める (目標 1,2,3,4) 3. 保育所保育指針に基づく保育内容の理解-養護- (目標 1,3) 4. 保育所保育指針に基づく保育内容の理解-教育- (目標 1,3) 5. 子どもの発達と保育内容 -3歳未満児- (目標 1,3) 6. 子どもの発達と保育内容 -3歳以上児- (目標 1,3) 7. 環境を通して行う保育について -事例を通しての演習- (目標 1,3) 小テスト 8. 生活や遊びによる総合的な保育について -3歳未満児の事例を通して- (目標 1,3) 9. 生活や遊びによる総合的な保育について -3歳以上児の事例を通して- (目標 1,3) 10. 養護と教育が一体的に展開される保育について (目標 1,2,3) 11. 小学校との連携・接続を踏まえた保育について (目標 1,2,4) 12. 保育の多様な展開について (目標 1,2,4) 13. グループでの保育内課題検討・まとめ (目標 1,3,4) 14. 発表・討論 (目標 1,3,4) 15. 発表討論・まとめ (目標 1,3,4) 小テスト					
アクティブ・ラーニング	グループワーク プレゼンテーション					
成績評価基準	評価の方法: 授業内レポート・小テスト60% 授業外レポート(20%) プレゼン(20%) 評価の基準: ○レポート/課題 *知識・理解・思考の測定 ・根拠を明確にして自説を述べることができる。 ○小テスト *知識、理解の定着度を測定 ・保育の専門的知識について回答できる。 ○プレゼン *知識・理解・思考の測定、関心・意欲・態度・技能・表現の測定 ・グループでの活動に積極的である。 ・専門知識を明確にして発表できる。					
フィードバックの方法	課題を回収し、コメントを入れて返却する。 発表に対して学生と一緒に意見交換して振り返りを行う。					
時間外の学習について	予習: 授業内容の理解のために保育指針や乳幼児の発達等について把握する。 各回30分 保育内容についての課題研究 90分 復習: 授業の振り返りをし整理する 各回20分					
教材にかかわる情報	テキスト: 「保育内容総論」児童育成協会監修 中央法規 参考書: 「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 参考資料: ビデオ、保育実践事例など、その都度適宜紹介する。					
担当者からのメッセージ等実務経験について						

科目名	教育課程論・保育の計画と評価 (2単位)	講義	保育学科 幼児教育コース	1年 後期	担当者	山本 朗登 (単独)	
ナンバリングコード	JC-S134-110						
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修	
科目	教科及び教職に関する科目(幼稚園)教育の基礎的理解に関する科目						
各科目に含めることが必要な事項	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)						
教科目	必修科目(保育士)						
系列	保育の内容・方法に関する科目						
授業のテーマ	教育や保育に関する計画全般の知識を把握し、活用することにより、保育に関する専門知識・技術を習得する。(専門的知識、技能)						
授業の概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領を基準として編成される教育課程および全体的な計画において、計画(および評価)の役割やその意義、必要性、責任について議論・理解するとともに、各年齢のそれぞれの事例を分析し、課程や指導計画の編成方法についてグループワークを通じて学ぶ。あわせて評価から改善につながる一連のサイクルについて触れ、総合的にカリキュラム・マネジメントについて理解する。						
達成目標						科目DP: c	
						DP記号	a b c d
	1. 教育課程・全体的な計画と指導計画及び評価の役割・機能・意義を理解する。						○
	2. 教育課程の基本原則および幼稚園・保育所・こども園におけるカリキュラム編成の方法を理解する。						○
履修条件・注意事項	3. 園全体のカリキュラムを把握し、カリキュラム全体をマネジメントすることの意義を理解する。						○
	4. 子どもの理解に基づく教育・保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉え、理解する。					○	○
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ						
授業計画	<p>1. カリキュラムの基礎理論① カリキュラム・教育課程・全体的な計画とはなにか(目標 1.2)</p> <p>2. カリキュラムの基礎理論② 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の性格・位置づけ・社会的背景(目標 1)</p> <p>3. カリキュラムの基礎理論③ 教育課程・全体的な計画編成の目的と意義(目標 1.2)</p> <p>4. 教育課程・全体的な計画① 幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂と社会的背景(目標 1)</p> <p>5. 教育課程・全体的な計画② 教育課程・全体的な計画の作成と社会的役割・意義(目標 1)</p> <p>6. 教育課程・全体的な計画③ 課程編成の方法(実践例からみる選択・配列)と柔軟な運用(目標 2)</p> <p>7. 教育課程・全体的な計画④ 指導計画(長期・短期)の作成方法と作成上の留意事項、及び教育課程・全体的な計画との関連性(目標 2)</p> <p>8. 教育課程・全体的な計画⑤ 領域横断的な教育内容の選択・配列、小テスト(目標 2)</p> <p>9. 評価とマネジメント① カリキュラム・マネジメントの必要性と方法(目標 1.3)</p> <p>10. 評価とマネジメント② 地域・学校との連携、長期的視野に基づく課程編成、発達と生活をふまえた指導要録・保育要録(目標 2.3)</p> <p>11. 評価とマネジメント③ 幼児の実態や家庭・地域・園の状況を踏まえた課程編成(目標 2.3)</p> <p>12. 課程編成と展開① 保育の計画の編成・評価・改善の意義と取組、PDCAサイクルと保育の質の向上(記録と省察を含む)(目標 1.2,3,4)</p> <p>13. 課程編成と展開② 教育課程・全体的な計画の検討・作成(目標 1.2,3)</p> <p>14. 課程編成と展開③ 年間指導計画・月案の検討・作成(目標 1.2,3)</p> <p>15. 課程編成と展開④ 日案の検討・作成、発表(目標 1.2,3)</p>						
アクティブ・ラーニング	グループワーク						
成績評価基準	<p>評価の方法: 小テスト50%、課題提出物40%、授業ファイル10%</p> <p>評価の基準: 保育の計画全般に関する知識・理解、課程作成の課題への積極的参加とその内容、計画作成・改善に関する意義の理解を評価する。</p> <p>○筆記試験 *知識・理解の定着度および思考力・判断力を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確な知識を選択でき、説明することができる。 ・授業をもとに考察し、明確な根拠に基づいて自説を述べることができる。 <p>○課題提出物 *知識・理解の定着度と思考力を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画に関する正確な知識をもとに計画案を作成することができる。 ・様々な要因を想定し、計画に含めることができる。 <p>○授業ファイル *知識・理解の定着度を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確な知識を整理しまとめることができる。 						
フィードバックの方法	課題について、グループワークの作業内容をもとに授業者と逐次議論することで考察を深め、計画に関する様々な知識・技術の習得を目指す。						
時間外の学習について	<p>予習: 出身園や実習園などの計画を収集したり、計画を公開している園の情報を集めるなどして調査する。各回45分程度。</p> <p>復習: 収集した園の計画を参照し、授業の内容の確認を行う。各回45分程度。</p>						
教材にかかわる情報	<p>テキスト: 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社。</p> <p>参考書: 特になし。</p> <p>参考資料: 必要な資料を授業中に適宜配布する。</p>						
担当者からのメッセージ等 実務経験について							

科目名	健康の指導法 (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	2年 前期	担当者	吉野信朗、船場大資 (実務経験) (複数)		
ナンバリングコード	JC-S235-110							
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修		
科目	教科及び教職に関する科目(幼稚園)領域及び保育内容の指導法に関する科目							
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)							
教科目	必修科目(保育士)							
系 列	保育の内容・方法に関する科目							
授業のテーマ	乳幼児期の「健康」に関わる専門的な知識を身につける。とりわけ、子どもの心身の発育、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達の専門的事項に関する知識を習得し、実践で活用することができるように指導方法を身につける。 キーワード：健康 生活習慣 運動遊び 健康の指導法							
授業の概要	領域「健康」を踏まえた子どもの成長を支える環境構成や安全教育や危機管理など、園で子どもの心身の発育を目標とする指導方法について考える。また現代の子どもの生活を学び、現場でどのように改善を促すか、その指導方法を考察する。最後に、乳幼児期の生活や遊びの中から、発育実態や運動機能や生理的機能の発達、及びこころの発育など子どもの体力や健康を評価する方法を学ぶ。							
達成目標							科目DP：c	
							DP記号	a b c d
	1. 領域「健康」のねらい及び内容を理解する。							○ ○ ○
	2. 乳幼児期の心身の発育について理解するとともにそれを育む指導方法について理解をする。							○ ○ ◎
	3. 健康的な発育を促すための運動遊びの意義と指導方法・実践的なスキルを習得する。						○	○ ◎
4. 乳幼児期の生活のサイクルと現代的課題を理解してうえで、それを解決するための指導方法について理解する。							◎ ○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ							
授業計画	1. オリエンテーション—授業概要と子どもの健康課題—(目標1) 2. 子どもらしい理想の生活習慣と実際の生活習慣(目標1) 3. 領域「健康」の位置づけと意味(目標1) 4. 健康的な生活のための保育者の関り(指導方法)(目標2) 5. 睡眠のサイクルとその指導方法(目標2) 6. 生活習慣と子どもの発育の関連性と指導方法(目標2,4) 7. 健康の指導のための長期的見通し(目標2,4) 8. 子どもの運動遊びの指導方法1—外遊び—(目標3) 9. 子どもの運動遊びの指導方法2—体操や体づくり運動—(目標3) 10. 子どもの運動遊びの指導方法3—ボール遊び—(目標3) 11. 子どもの運動遊びの指導方法4—伝承遊びやいろいろな遊び—(目標3) 12. 遊戯論の基礎知識(目標4) 13. 身体の発育と動作の発達(目標4) 14. 戸外遊びの効果(目標4) 15. 子どものケガとその防止方法(目標4)							
	定期試験							
アクティブ・ラーニング	グループワーク ディスカッション ロールプレイ							
成績評価基準	評価の方法：定期試験40%・実技30%・レポート・指導案30% 評価の基準：定期試験(知識・理解の定着)・実技(運動の指導方法の理解)・レポート(思考と理解)							
フィードバックの方法	授業冒頭に前回の復習を行う。個別の質疑に対しては、常に対応する。作成した資料にコメントや助言を行う。							
時間外の学習について	予習：教科書での予習(30分) 復習：授業内容を振り返る。定期試験に向けた準備(30分)・レポート課題や指導案の作成(30分)							
教材にかかわる情報	テキスト：池田裕恵編著『子どもの元気を取り戻す保育内容「健康」』杏林書院 参考書： 参考資料等：適宜配布							
担当者からのメッセージ等実務経験について	実技があるため、体操服等の準備を忘れないようにして下さい。天候によっては順序が変わる可能性があります。その都度連絡します。							

科目名	人間関係の指導法 (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	1年 後期	担当者	富田 まり子 (実務経験) (単独)					
ナンバリングコード	JC-S136-110										
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修					
科目	教科及び教職に関する科目(幼稚園)領域及び保育内容の指導法に関する科目										
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)										
教科目	必修科目(保育士)										
系 列	保育の内容・方法に関する科目										
授業のテーマ	領域『人間関係』のねらい及び内容を理解し、乳幼児期の人間関係の発達の特性や保育者の役割についての専門知識や技術を身に付ける。(専門的知識、技能、実践力)										
授業の概要	幼稚園や保育所において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域『人間関係』のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、乳幼児の人間関係の発達に即して、他の人々と親しみ、支え合って生活するために自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な保育実践力や指導方法を習得する。										
達成目標							科目DP: c				
							DP記号	a	b	c	d
	1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された教育・保育の基本を踏まえ、領域『人間関係』のねらい及び内容等を理解する。								○	◎	
	2. 乳幼児の人間関係の発達について理解すると共に、乳幼児が経験し身に付けていくべき内容と、保育者として指導上の留意点や評価の考え方を理解する。								○	◎	
	3. 領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解する。						○			◎	
4. 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、保育実践・評価・改善する視点を身に付ける。						○				◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ										
授業計画	1. 「生きる力」の原点として人間関係(目標1) 2. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育、保育要領における領域『人間関係』の「ねらい」「内容」および「内容の取り扱い」とその構造(目標1) 3. 乳幼児期における人とのかかわりの発達と保育の実践(0歳児)(目標1,2) 4. 乳幼児期における人とのかかわりの発達と保育の実践(1~2歳児)(目標1,2) 5. 乳幼児期における人とのかかわりの発達と保育の実践(3歳児以降)(目標1,2) 6. 保育における遊びの大切さを保育事例【保育現場の実際を踏まえながら】を通して考察(目標2,3) 7. 遊びの中で育つ人とのかかわりを保育事例【保育現場の実際を踏まえながら】を通して考察(目標2,3) 8. 人とのかかわりを育てる保育を保育事例【保育現場の実際を踏まえながら】を通して考察(目標2,3) 9. 人とのかかわりを育てる保育者の役割、情報機器及び教材の活用(目標1,2,3) 10. 人とのかかわりが難しい子どもへの支援(目標2,3) 11. 人とのかかわりが育っていくプロセス(目標2,3) 12. 園、家庭、地域の生活と人とのかかわり(目標1,2,3) 13. 自立心を育て、人と関わる力を養うための保育実践【指導案の作成】(目標4) 14. 指導案に基づく模擬保育、課題の共有(目標1,2,4) 15. 指導案に基づく模擬保育、課題の共有(目標1,2,4) 定期試験										
アクティブ・ラーニング	グループワーク・模擬保育										
成績評価基準	評価の方法: 試験(小テストを含む)40% 授業内レポート40% 発表20% 評価の基準: 目標への理解、思考、関心、意欲、態度などの習得を合否判断とする。 ○試験(小テストを含む) *知識・理解の測定 ・授業で扱った内容について、基礎的・応用的問題に回答できる ○授業内レポート *知識・理解、思考・判断の測定 ・授業内容を踏まえて自説を述べるができる ○発表 *知識・理解、思考・判断、技能・表現の測定 ・主体的、協動的にグループワークに取り組むことができる										
フィードバックの方法	その都度個別に評価・アドバイスを記入し返却すると共に、授業内で課題に対する考え方や保育について具体的方法を示すことで理解を深められるようにする。										
時間外の学習について	予習: テキストを読み、次回講義内容の概要を把握しておくこと(各回30分程度) 復習: 配布資料整理・授業の振り返り 適宜レポートを課題とする(各回30分程度)										
教材にかかわる情報	テキスト: 保育内容『人間関係』森上史郎 他編 ミネルヴァ書房 事例で学ぶ保育内容 領域人間関係(萌文書林) 参考書: 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 参考資料:										
担当者からのメッセージ等実務経験について	グループでの話し合いを複数回行います。積極的に発言したり互いの意見を聞き合ったりすることで、考えを深めていきましょう。レポートを重視しますので期限を守り必ず提出しましょう。幼稚園教諭として幼稚園に勤務。実務経験をもとに、幼児の健康な心と体の育ちや、人間関係の育ち、それを支える保育者の役割について話をします。										

科目名	環境の指導法 (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	2年前期	担当者	富田 まり子 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JC-S237-110					
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修
科目	教科及び教職に関する科目(幼稚園)領域及び保育内容の指導法に関する科目					
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)					
教科目	必修科目(保育士)					
系 列	保育の内容・方法に関する科目					
授業のテーマ	領域『環境』のねらい及び内容を理解し、知識の習得、好奇心や探究心を育む指導の方法などについて理解する。また、保育者の役割についての専門知識や技術を身に付け、保育への実践力を身に付ける。(専門的知識、技能、実践力)					
授業の概要	幼稚園や保育所において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域『環境』のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持って関わり、それらを生活に取り入れて行こうとする力を養うために必要な保育実践力や指導方法を習得する。					
達成目標	科目DP：c					
		DP記号	a	b	c	d
	1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された教育・保育の基本を踏まえ、領域『環境』のねらい及び内容等を理解する			○	◎	
	2. 乳幼児の心身の発達について理解すると共に、乳幼児が経験し身に付けていくべき内容と、保育者として指導上の留意点や評価の考え方を理解する		○			◎
	3. 領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解する。			◎		○
4. 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、保育実践・評価・改善する視点を身に付ける		○		◎		
履修条件・注意事項						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児教育の基本と領域「環境」とのかかわり・子どもを取り巻く環境 (目標 1,2) 2. 幼児発達と「環境」とのかかわり、領域「環境」のねらい及び内容について (目標 1,2) 3. 園の環境と「環境構成」の実際 <小テスト> (目標 1,2) 4. 保育の実際～植物とかかわる (目標 1,2,3) 5. 保育の実際～季節とかかわる (目標 1,2,3) 6. 保育の実際～自然を生活に取り入れる (目標 1,2,3) 7. 保育の実際～小動物とかかわる① 小動物の生態と飼育 (目標 1,2,3) 8. 保育の実際～小動物とかかわる② 命の営みにふれる (目標 1,2,3) 9. 保育の実際～物とかかわる 物質の変化を楽しむ (目標 1,2,3) 10. 保育の実際～標識・文字 行事、記念日などとかかわる (目標 1,2,3) 11. 保育の実際～数量・図形とかかわる (目標 1,2,3) 12. 領域「環境」の指導計画、情報機器及び教材の活用<小テスト> (目標 2,3,4) 13. 保育の実際～光と影を使った模擬保育①計画・準備 (目標 1,2) 14. 保育の実際～光と影を使った模擬保育②発表 (目標 1,2) 15. まとめ～就学までに身に付けるべき資質・能力を踏まえた指導計画の作成、及び評価・改善について (目標 1,2,3,4) 					
アクティブ・ラーニング	模擬保育					
成績評価基準	<p>評価の方法：小テスト・レポート(配点:40%) 授業への参加度、復習・調べるなどの自主的な学習(配点:20%) 課題(配点30%) 発表・作品制作(配点10%)</p> <p>評価の基準：授業内容への理解、関心、意欲、態度などの習得を合否判断とする</p> <p>○小テスト・レポート *知識・理解、思考・判断を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育の基本と領域「環境」とのかかわりについて理解している ・領域「環境」のねらい、内容などについて回答できる ・授業を踏まえて自説を述べることができる <p>○授業への取り組み *思考・判断、関心・意欲・態度を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前調査や復習など、自主的な学習ができる ・活動に積極的ににかかわることができる <p>○課題 *知識・理解、思考・判断、技能・表現を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で取り上げた知識・技能が身につけている ・他領域と関連させ、保育に結びつけることができる ・子どもに育つ力について、理解している <p>○授業への参加度 *関心・意欲・態度を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでの活動に積極的ににかかわる ・授業を通して探究心を持ち、自発的に取り組む 					
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストや課題回収後に解説を行う。 ・課題、レポート、指導案にコメントを入れ、よい点、改善点を示す。 					
時間外の学習について	<p>予習：授業内容に合わせて、調べ、理解を深めておく。各回30分程度</p> <p>復習：授業内容をまとめ、考察を深める。事前の準備があることもあります。準備物は早めに知らせますので用意をしてください。</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト：保育内容 体験する・調べる・考える 領域「環境」 田宮 縁 (萌文書林)</p> <p>参考書：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 植物図鑑 動物図鑑</p> <p>参考資料：</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について	幼稚園教諭として幼稚園に勤務。実務経験をもとに、幼児の健康な心と体の育ちや、人間関係の育ち、環境とのかかわり、それを支える保育者の役割について話をします。					

科目名	言葉の指導法 (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	1年 後期	担当者	津田 恵子 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JC-S138-110					
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修
科目	教科及び教職に関する科目(幼稚園)領域及び保育内容の指導法に関する科目					
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)					
教科目	必修科目(保育士)					
系列	保育の内容・方法に関する科目					
授業のテーマ	領域『言葉』のねらい及び内容を理解し、乳幼児期の言葉の特性や保育者の言葉についての専門知識や技術を身に付ける。(専門的知識、技能、実践力)					
授業の概要	幼稚園や保育所において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域『言葉』のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、乳幼児の言葉の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育実践力や指導方法を習得する。					
達成目標						科目DP:c
						DP記号
	1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された教育・保育の基本を踏まえ、領域『言葉』のねらい及び内容等を理解する。					a b c d
	2. 乳幼児の言葉の発達について理解すると共に、乳幼児が経験し身に付けていくべき内容と、保育者として指導上の留意点や評価の考え方を理解している。					a b c d
	3. 領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解している。					a b c d
4. 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。					a b c d	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域『言葉』の理解及び位置づけ(目標1) 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域『言葉』のねらいと内容の理解(目標1) 乳幼児の言葉の発達についての知識・理解(目標2) 言葉の発達過程と保育者の援助方法～0・1・2歳児(目標2) 言葉の発達過程と保育者の援助方法～3・4・5歳児(目標2) 保育者の話し方・聞き方・応答的関わり～児童文化財を通して(目標3) 保育者の話し方・聞き方・応答的関わり(情報機器及び教材の活用)(目標3) 言葉指導に関する保育実践の知識・技術の習得(目標4) 言葉遊びの実践～保育指導案の作成(目標4) 言葉遊びの実践～模擬保育(グループ発表)10～12(目標4) 言葉遊びの実践～模擬保育(グループ発表)10～12(目標4) 言葉遊びの実践～模擬保育(グループ発表)10～12(目標4) 言葉遊びを考える・保育指導案を立案する・模擬保育ををする。反省及び考察をする 絵本について～分類と役割、読み聞かせ技術の向上(目標3) 表現媒体の活かし方(情報機器及び教材の活用)(目標3) 素話についての知識・技術の向上(目標3) 定期試験					
アクティブ・ラーニング	模擬保育					
成績評価基準	評価の方法：保乳幼児の言葉の理解、保育技術の習得、学びに対する関心・意欲などを総合的(定期試験50%・授業内レポート20%・実践への取組み20%・授業への参加態度10%)に評価する。 評価の基準：○定期試験 *知識・理解の定着度を測定 ・教科書に載っている知識を扱った問題に回答できる。 ・応用レベルの問題に回答できる。 ○授業内レポート *知識・理解・思考力を測定 ・根拠を明確にして自説を述べることができる。 ○実践への取り組み *関心・意欲の測定 *思考・判断の測定 ・グループでの活動に積極的である。 ・意欲的に実践に取り組み、発表することができる。 ○授業への取り組み *関心・意欲・態度を測定 ・真摯な態度で乳幼児の言葉に関する学習を積極的に行うことができる。					
フィードバックの方法	レポートにコメントを返す。レポート課題を回収し、次回の授業で説明する。授業アンケート結果やコメントを参考にして授業改善に取り組む。					
時間外の学習について	予習：シラバスを確認しておく。各回15分 復習：レジュメ及びプリントや資料をまとめておき、目を通しておく。(ファイルに綴じる) 各回30分					
教材にかかわる情報	テキスト：新保育内容シリーズ「子どもと言葉」萌文書林 参考書：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 参考資料：DVD・ビデオ等					
担当者からのメッセージ等実務経験について	『言葉』の内容(子どもの発達・保育者の関わり方など)を具体的にお話します。幼稚園教諭経験・実務経験をもとに、幼児の保育、子育て支援及び実習について話をします。					

科目名	表現の指導法(音楽Ⅰ) (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	1年 後期	担当者	永田 実穂 (単独)
ナンバリングコード	JC-S139-110					
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭	必修
科目	教科及び教職に関する科目(幼稚園)領域及び保育内容の指導法に関する科目					
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)					
教科目	選択必修科目(保育士)					
系 列	保育の内容・方法に関する科目					
授業のテーマ	音楽遊び・表現遊びの実践を通して、領域『表現』のねらい及び内容を理解し、知識の習得、好奇心や探究心を育む指導の方法などについて理解する。また、保育者の役割についての専門知識や技術を身に付け、保育への実践力を身につける。(専門的知識、技能、豊かな感性、コミュニケーション力、実践力)					
授業の概要	幼稚園や保育所において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域『表現』のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、音楽遊び・表現遊びを実践しながら、領域「表現」に関する理解を深め、保育者として必要な音楽的感性を養う。乳幼児の生活や遊びの中にある音に関する表現について学び、音楽が果たす役割を理解し、それらを基に指導案作成や、模擬保育に生かす。					
達成目標	科目DP : c					
		DP記号				
		a	b	c	d	
	1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された教育・保育の基本を踏まえ、領域『表現』のねらい及び内容等を理解する。	○	○			
	2. 乳幼児の心身の発達、および音楽的発達について学び、音楽が果たす役割を考え理解する。		◎	◎		
3. 幼児の生活や遊びの中にある音楽的表現について知る。また、他の領域や表現活動との関わりについて学び、指導案作成、模擬保育等で実践する。	○		◎	◎		
4. 保育者として必要な音楽的感性を養い、音遊びや即興アンサンブルを通して、楽器、身体活動の展開法や指導法を身につける。	○	○	◎	◎		
5. 領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解する。	○		◎			
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域『表現』のねらいと内容の理解(目標1) 2. 子どもの遊びの中に見られる表現事例を学び、子どもの表現と保育者の役割を理解する(目標2,3) 3. 幼児の生活と音楽表現 言葉と音楽表現～(目標1,2,3) 4. 音楽あそび・表現あそび(1) 身体で遊ぶ活動①リトミックの活用(目標2,3,4,5) 5. 音楽あそび・表現あそび(2) 声・歌・言葉で遊ぶ活動(目標2,3,4) 6. 音楽あそび・表現あそび(3) 楽器、身体を使った音遊び①即興あそび(目標2,3,4) 7. 音楽あそび・表現あそび(4) 楽器、身体を使った音遊び②ドラムサークル(目標2,3,4) 8. 乳児・幼児の音楽的発達についての理解と指導案のねらい～わらべうた・あそびうた(目標3,4,5) 9. 指導案作成と模擬保育の留意点(ねらい、子どもの姿、環境構成、保育者の援助など)(目標1,2,3,5) 10. グループでの模擬保育(4) 幼児の音楽活動～うたう活動(目標1,2,3,5) 11. グループでの模擬保育(5) 幼児の音楽活動～ひく活動(目標1,2,3,5) 12. グループでの模擬保育(6) 幼児の音楽活動～うごく活動(目標1,2,3,5) 13. グループでの模擬保育(7) 幼児の音楽活動～さく、つくる活動(目標1,2,3,5) 14. 模擬保育の振り返り～ねらい・題材・教材・環境構成・展開・評価(目標1,2,3,4,5) 15. 年齢別音楽表現活動解説 ～保育者としての資質・能力 まとめ(目標1,2,3,4,5) 定期試験					
	アクティブ・ラーニング 模擬保育、グループワーク、ディスカッション					
成績評価基準	評価の方法：定期試験30%、レポート20%、指導案・模擬保育30%、授業への取り組み状況20% 評価の基準：音楽活動に必要な技術や指導法の習得状況と、領域「表現」への理解、関心、意欲、態度などを総合的に評価する ○定期試験 *知識・理解、思考の定着度の測定 ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領にある、領域「表現」のねらいや内容を理解し対応した問題や、乳幼児の音楽との関わり方に関する問題に回答することができる。 ○レポート *知識・理解、思考・判断、関心の定着度の測定 ・さまざまな音遊びや身体表現を通して学んだ、音に関する表現活動をまとめ考察することができる。 ○指導案作成・模擬保育の内容 *知識・理解、関心・意欲、思考・判断、技能・表現の定着度の測定 ・子どもの遊びや姿を通して、音に関する内容の指導案の作成や模擬保育ができる ○授業への取り組み *関心・意欲、態度、技能・表現の定着度の測定 ・グループ活動をはじめ、さまざまな活動に対して、主体的、積極的に取り組むことができる。					
フィードバックの方法	レポートや振り返りシートから助言や補足を行う					
時間外の学習について	予習：音楽表現の指導法及び指導案について考え、準備しておく。(各回30分程度) 復習：その日の授業内容で大切な点と指摘されたことができるようにしておく。(各回30分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：堂本真美子編「保育内容 領域 表現 日々わくわくを生きる子どもの表現」わかば社 参考書：汐見裕幸編集大豆生田啓友監修、岡本拓子編集「保育内容『表現』」ミネルヴァ書房 細田淳子著「わくわく音遊びでかんたん発声・手拍子ゲームから器楽演奏まで」すずき出版 飯田和子、石川武、菊本り子著「はじめてのドラムサークル」音楽之友社 無藤隆監修 吉永早苗著「子どもの音感受の世界 心の耳を育む音感受教育による保育内容「表現」の探求」 参考資料：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	動きやすい服装で受講すること					

科目名	表現の指導法(音楽Ⅱ) (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	2年 前期	担当者	永田 実穂 (単独)
ナンバリングコード	JC-S141-110					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭	必修
科目	教科及び教職に関する科目(幼稚園)領域及び保育内容の指導法に関する科目					
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)					
教科目	選択必修科目(保育士)					
系 列	保育の内容・方法に関する科目					
授業のテーマ	音楽遊び・表現遊びの実践を通して、領域『表現』のねらい及び内容を理解し、知識の習得、好奇心や探究心を育む指導の方法などについて理解する。また、保育者の役割についての専門知識や技術を身に付け、保育への実践力を身につける。(専門的知識、技能、コミュニケーション力、実践力)					
授業の概要	幼稚園や保育所において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域『表現』のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、幼児の発達段階に応じた音楽表現を指導する上で必要な環境構成及び具体的に展開するための表現や指導法を学ぶ。情報機器および教材の活用法について実践を踏まえ理解し、子どもの生活や遊びを通して音楽表現活動の展開や援助ができるような指導や実践力を身につけ、改善する力を養う。					
達成目標	科目DP:					
		DP記号	a	b	c	d
	1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された教育・保育の基本を踏まえ、領域『表現』のねらい及び内容等を理解する。			◎		
	2. 子どもの生活や遊びから考える音楽表現の役割や内容についての援助方法を学び、他の領域との関連性及び小学校の教科等の繋がりを理解する。			○	◎	
	3. 即興的なアンサンブルや音活動を通してファシリテーション技術を学ぶとともに、コミュニケーション力や指導の展開力を身につける				◎	○
4. 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案の作成、保育実践・評価・改善する視点を身に付け、指導上の留意点や評価の考え方を理解する	◎		○	◎		
履修条件・注意事項	「表現の指導法(音楽Ⅰ)」の単位を取得済みの者 授業の実施方法:①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 領域「表現」における音楽の役割(目標1,2) 身体、声を使っの音楽表現活動～声を使った音遊び、わらべうた、リトミックの活用(目標1,2,4) きく、耳を澄ます音楽表現活動(目標1,2,4) モノを使った音楽表現活動・即興アンサンブルの指導法①(ドラムサークル・ファシリテーション)(目標1,2,3,4) 乳児・幼児の音楽的発達についての指導案のねらい(情報機器及び教材の活用)(目標1,2,4) 模擬保育(1)子どもの遊びから考える音楽表現活動 ひく活動(目標1,2,3,4) 模擬保育(2)子どもの遊びから考える音楽表現活動 ひく活動(目標1,2,3,4) 模擬保育(3)子どもの遊びから考える音楽表現活動 ひく活動(目標1,2,3,4) モノを使った即興アンサンブルの指導法②(ドラムサークル・ファシリテーション)(目標1,2,3,4) 実習の振り返り ファシリテーションを用いた歌唱、合奏の指導法(目標1,2,3,4) 模擬保育(4)子どもの遊びから考える音楽表現活動～きく活動(目標1,2,3,4) 模擬保育(5)子どもの遊びから考える音楽表現活動～つくる活動①(目標1,2,3,4) 模擬保育(6)子どもの遊びから考える音楽表現活動～つくる活動②(目標1,2,3,4) 模擬保育の振り返り、まとめ(目標1,2,3,4) 年齢別音楽表現活動解説～就学までに身に付けるべき資質・能力と保育者の役割について(目標1,2,3,4) 					
アクティブ・ラーニング	模擬授業、グループワーク、ディスカッション					
成績評価基準	<p>評価の方法:レポート30%、保育指導案と模擬保育の内容30%、実技20%、授業への取り組み状況20%</p> <p>評価の基準:幼児の音楽活動の知識、指導案作成の基礎知識の理解、保育の展開技術の基礎的な力、ファシリテーション及びグループ活動状況を評価する。</p> <p>○レポート *知識・理解、思考、関心・意欲の定着度の測定 ・幼児の音楽活動に関する知識、また保育指導案を書く上で重要な知識や理解、及び自分の考えを文章で述べることができる。</p> <p>○保育指導案と模擬保育の内容 *知識・理解、思考・判断、関心・意欲、技能・表現 ・幼児の音楽活動の指導案を、子どもの姿やねらいに沿って書くことができ、ねらいに沿った模擬保育や展開をすることができる。</p> <p>○実技 *知識・理解、関心・意欲、思考・判断、技能・表現の定着度の測定 ・ドラムサークル・ファシリテーションを用いたアイコンタクト、表情、言葉かけ、合図出しなどを音楽活動の中で表現豊かに行うことができる。</p> <p>○授業への取り組み *関心・意欲、態度、技能・表現の定着度の測定 ・グループ活動の取り組みや、模擬保育後の振り返りで積極的に発言を行うことができる。</p>					
フィードバックの方法	振り返りノートや、指導案の添削後、返却を行う					
時間外の学習について	予習:音楽表現の指導方法・指導案について考えておく。(各回30分程度) 復習:授業中に大切だと指摘されたことができるようにしておく。(各回30分程度)					
教材にかかわる情報	<p>テキスト:堂本真美子編「保育内容 領域 表現 日々わくわくを生きる子どもの表現」わかば社</p> <p>参考書:汐見稔幸編集大豆生田啓友監修、岡本拓子編集「保育内容『表現』」ミネルヴァ書房 細田淳子著「わくわく音遊びでかんたん発表ー手拍子ゲームから器楽合奏まで」すずき出版 飯田和子、石川武、菊本るり子著「はじめてのドラムサークル」音楽之友社 無藤隆監修 吉永早苗著「子どもの音感受の世界 心の耳を育む音感受教育による保育内容『表現』の探求</p> <p>参考資料:幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について	動きやすい服装で受講すること。					

科目名	表現の指導法(造形Ⅰ) (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	1年前期	担当者	森下 嘉昭 (単独)																																			
ナンバリングコード	JC-S142-110																																								
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修																																			
科目	教科及び教職に関する科目(幼稚園)領域及び保育内容の指導法に関する科目																																								
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)																																								
教科目	必修科目(保育士)																																								
系 列	保育の内容・方法に関する科目																																								
授業のテーマ	造形的な遊びの内容・方法に関する知識(専門知識・実践力)、乳幼児の造形表現活動の必要性の理解(広い見識)、材料・用具の知識の習得(専門知識)、指導の留意点の理解(実践力)																																								
授業の概要	この授業では、幼稚園や保育所、認定こども園において育みたい資質・能力を理解し、造形表現活動がどのように関係しているか、幼児の造形的な表現にかかわる様々な素材や用具、遊びの体験を通して学ぶ。 遊びの場面において幼児は主体的に素材や用具とかかわりながらどのように表現するか、体験を通して素材・用具の特性を理解するとともに、発達を踏まえた表現の事例をもとに理解を深めていく。また、具体的な準備物や対話の在り方など、保育の初歩的な留意点を学ぶ。																																								
達成目標	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">科目DP:c</th> <th colspan="4">科目DP:c</th> </tr> <tr> <th>DP記号</th> <th>a</th> <th>b</th> <th>c</th> <th>d</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領での領域『表現』の位置づけを踏まえた造形表現のねらい及び内容を理解している。</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>◎</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2. 表現を通して幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や、幼児の造形的な表現をどのように捉えるか、指導上の留意点や評価の考え方を、体験を通して理解している。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 幼児の視点から造形的な表現を捉え保育を構想する重要性を理解する。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. 幼児の体験をもとに、情報機器や教材(造形素材や題材)を保育に活用できる。</td> <td></td> <td>○</td> <td>◎</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							科目DP:c	科目DP:c				DP記号	a	b	c	d	1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領での領域『表現』の位置づけを踏まえた造形表現のねらい及び内容を理解している。			○	◎		2. 表現を通して幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や、幼児の造形的な表現をどのように捉えるか、指導上の留意点や評価の考え方を、体験を通して理解している。	○			◎		3. 幼児の視点から造形的な表現を捉え保育を構想する重要性を理解する。				◎		4. 幼児の体験をもとに、情報機器や教材(造形素材や題材)を保育に活用できる。		○	◎		
科目DP:c	科目DP:c																																								
	DP記号	a	b	c	d																																				
1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領での領域『表現』の位置づけを踏まえた造形表現のねらい及び内容を理解している。			○	◎																																					
2. 表現を通して幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や、幼児の造形的な表現をどのように捉えるか、指導上の留意点や評価の考え方を、体験を通して理解している。	○			◎																																					
3. 幼児の視点から造形的な表現を捉え保育を構想する重要性を理解する。				◎																																					
4. 幼児の体験をもとに、情報機器や教材(造形素材や題材)を保育に活用できる。		○	◎																																						
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ																																								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育要領、保育指針、教育・保育要領を踏まえた保育における造形表現のねらい及び内容(目標1) 2. パスを用いた遊びの指導上の留意点や言葉かけ及び評価について(目標2,3) 3. パスの特性を踏まえた題材の活用と保育の構想について(目標3,4) 4. クレヨンを用いた遊びの指導上の留意点や言葉かけ及び評価について(目標2,3) 5. クレヨンの特性を踏まえた題材の活用と保育の構想について(目標3,4) 6. 水彩絵の具を用いた遊びの指導上の留意点や言葉かけ及び評価について(目標2,3) 7. 水彩絵の具の特性を踏まえた題材の活用と保育の構想について(目標3,4) 8. 技法遊び(1) -マーブリング・スパッターリング・マスクングの活用と評価について(目標2,3,4) 9. 紙の種類と活用方法について(目標2,3,4) 10. コンテパステルの特性を生かした遊びの留意点と評価について(目標2,3,4) 11. マーカー(水性・油性)の特性を生かした遊びの留意点と評価について(目標2,3,4) 12. 版遊び(1) -ステンシル・紙を活用した版作りと指導の留意点について(目標2,4) 13. 版遊び(2) -写して遊ぶ際の留意点について(目標2,3,4) 14. 造形遊びにおける情報機器及び教材の活用(目標2,3,4) 15. 技法遊び(2) -ステンシルの活用について(目標2,3,4) 																																								
アクティブ・ラーニング	グループワーク																																								
成績評価基準	<p>評価の方法：授業内容の記録物(50%)、作品(30%)、授業への取り組み(20%)</p> <p>評価の基準：○授業内容の記録物 *知識・理解の定着度の測定 *思考・判断、関心・意欲の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えられた内容を正確に記録している。 ・活動内容を、領域『表現』の位置づけを踏まえた視点から理解している。 ・活動内容を実習や保育現場で生かす視点で、主体的に考えたり調査したりできる。 <p>○作品 *思考・判断、技能・表現、関心・意欲の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で取り上げた技能を適切に扱って制作できる。 ・学んだ技能をもとに、自分なりの工夫ができる。 <p>○授業への取り組み *関心・意欲・態度、思考・判断、表現の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的かつ丁寧な態度で取り組むことができる ・自分なりの疑問を持ち、積極的に質問や意見を表現できる。 																																								
フィードバックの方法	授業内容や課題(作品含む)の記録物を回収し、コメントを入れて返却する。																																								
時間外の学習について	<p>予習：参考書の関係箇所を目を通す。各回10分程度</p> <p>復習：授業内容や課題(作品含む)をスケッチブックにまとめる。各回30分程度</p>																																								
教材にかかわる情報	<p>テキスト：花篤實・岡田愨吾「新造形表現(理論・実践編)」三見書房</p> <p>参考書：「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」チャイルド社</p> <p>参考資料：</p>																																								
担当者からのメッセージ等実務経験について																																									

科目名	表現の指導法(造形Ⅱ) (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	1年 後期	担当者	森下 嘉昭 (単独)		
ナンバリングコード	JC-S143-110							
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭	必修		
科目	教科及び教職に関する科目(幼稚園)領域及び保育内容の指導法に関する科目							
各科目に含めることが必要な事項	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)							
教科目	選択必修科目(保育士)							
系 列	保育の内容・方法に関する科目							
授業のテーマ	乳幼児の造形表現活動の発達段階の理解(専門知識)、発達段階を踏まえた指導の留意点の理解(専門知識・実践力)、造形表現の保育指導案の作成方法の理解(専門知識・高度な技術・実践力)							
授業の概要	この授業では、実際の乳幼児の造形表現の事例や成果物(作品)をもとに、造形表現活動に見られる特徴から乳幼児の発達段階をより詳しく理解し、表現に表れる幼児の気持ちを想定した指導の在り方を考察する。また教育要領、保育指針、教育・保育要領におけるねらい・内容を、具体的な活動と照らし合わせながらより深く理解し、乳幼児が主体的に造形表現活動に取り組めるように、具体的な留意点を踏まえて保育指導案を作成する力を身に付ける。							
達成目標							科目DP: c	
							DP記号	a b c d
	1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領での領域『表現』の位置づけを踏まえた造形表現のねらい及び内容を理解し、乳幼児が造形表現を通して身に付けていく内容と指導の留意点を理解するとともに、評価の考え方を理解している。							
	2. 表現を通して乳幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。							
	3. 乳幼児の視点から乳幼児の造形的な表現を捉え保育を構想する重要性を理解している。							
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ							
	1. 乳幼児の遊びの実際と幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の領域『表現』のねらい及び内容について(目標 1,2,3) 2. 実践事例から捉える幼児の造形表現の特質について(実践動画や画像をもとに)(目標 1,2,3) 3. 3歳未満児の描画発達と指導・評価の留意事項について(実践動画・画像や実物をもとに)(目標 1,2) 4. 3歳以上児の描画発達と指導・評価の留意事項について(実践動画・画像や実物をもとに)(目標 1,2) 5. 幼児画の特徴から幼児の発達と思い及び小学校教科とのつながりを探る(目標 2,3,5) 6. 立体的な活動に見られる発達と保育構想(目標 1,2,3,5) 7. 造形遊びと各種素材の活用について(目標 1,2,3,5) 8. 共同的な造形表現活動について(目標 1,2,3,5) 9. 造形表現の環境と準備物、保育における情報機器及び教材の活用(目標 1,2,3,5) 10. 模擬保育と保育の留意点について(目標 1,3,4,5) 11. 保育指導案作成の留意点について(目標 1,3,4,5) 12. 保育指導案の作成について(作成)(目標 3,4,5) 13. 模擬保育(絵遊びの指導案実践及び振り返り協議)(目標 3,4,5) 14. 模擬保育(造形遊びの指導案実践及び振り返り協議)(目標 3,4,5) 15. 保育指導案の作成について(手直し)(目標 3,4,5)							
アクティブ・ラーニング	ディスカッション							
成績評価基準	評価の方法:小テスト(40%)、毎回の振り返りシート(20%)、指導案(20%)、授業への取り組み(20%) 評価の基準:○小テスト *知識・理解の定着度を測定 ・テキストの内容や授業内に解説した内容を扱った問題に回答できる。 ○毎回の振り返りシート *知識・理解/関心・意欲を測定 ・授業の内容を踏まえ、自分の理解したことや疑問点などを整理し、解決することができる。 ○指導案 *知識・理解の定着度 *思考・判断の測定 ・教わったルールを踏まえた上で、指導案を作成できる。 ・子どもの発達段階を想定した指導案を作成できる。 ○授業への取り組み *関心・意欲・態度、表現の測定 ・真剣な態度で集中して取り組むことができる。 ・自分なりの疑問を持ち、積極的に質問や意見を表現できる。							
フィードバックの方法	小テストを回収・採点后に返却し、答え合わせ後に再テストを行う。感想・質問用紙を回収し、次回授業時に解説を加える。							
時間外の学習について	予習:各回の授業計画を把握し、テキストを読んでおく。各回20分程度 復習:授業内容の記録をまとめる。各回20分程度							
教材にかかわる情報	テキスト:花篤實・岡田愨吾「新造形表現(理論・実践編)」三見書房 参考書:「幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」チャイルド社 参考資料:							
担当者からのメッセージ等 実務経験について								

科目名	表現の指導法(造形Ⅲ) (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	2年 前期	担当者	弘中 順一 (単独)
ナンバリングコード	JC-S242-010					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	選択必修科目(保育士)					
系 列	保育の内容・方法に関する科目					
授業のテーマ	模擬保育を通して、環境構成や乳幼児の援助の専門的知識・技術について理解を深める。造形表現活動の実践力を高める。(専門的知識、技能、実践力)					
授業の概要	保育現場で実際に行われる造形表現活動について幅広く取り上げ、模擬保育指導案を作成、実施する。実施した模擬保育について検討会を通してふり返り、造形表現の保育のあり方について再構築する。					
達成目標						科目DP: c
						DP記号
						a
						b
						c
					d	
<p>1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領での領域「表現」の位置づけを踏まえた造形表現のねらいや内容を理解し、乳幼児が造形表現活動を通して身につけていく内容と指導の留意点を理解するとともに、評価の考え方を理解している。</p> <p>2. 表現を通して乳幼児が経験し身につけていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>3. 乳幼児の視点から乳幼児の造形的な表現を捉え、保育を構想する重要性を理解している。</p> <p>4. 具体的な造形表現の指導案を作成し、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善・向上する視点を身につけている。</p> <p>5. 乳幼児の体験に適した造形素材を加工し、保育に活用できる。</p>						
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ					
授業計画	<p>1. 造形表現設定保育の指導のあり方と指導案の書き方。模擬保育の計画。(目標 1.3)</p> <p>2. 造形表現活動の内容と実際。模擬保育題材の決定と保育指導案作成。(目標 1.3,4)</p> <p>3. 保育指導案の作成と模擬保育の準備。(目標 1.3,4)</p> <p>4. 模擬保育①「造形あそび」(空間あそび)(目標 1,2,3,4,5)</p> <p>5. 模擬保育②「造形あそび」(材料・構成あそび)(目標 1,2,3,4,5)</p> <p>6. 模擬保育③「造形あそび」(操作・模倣あそび)(目標 1,2,3,4,5)</p> <p>7. 模擬保育④「描く活動」(絵あそび)(目標 1,2,3,4,5)</p> <p>8. 模擬保育⑤「描く活動」(想像、お話し絵)(目標 1,2,3,4,5)</p> <p>9. 模擬保育⑥「描く活動」(表現技法からの絵あそび)(目標 1,2,3,4,5)</p> <p>10. 模擬保育⑦「描く活動」(絵本からの絵あそび)(目標 1,2,3,4,5)</p> <p>11. 模擬保育⑧「製作あそび」(動く仕組みを生かして)(目標 1,2,3,4,5)</p> <p>12. 模擬保育⑨「製作あそび」(輪ゴムを使って)(目標 1,2,3,4,5)</p> <p>13. 模擬保育⑩「製作あそび」(飾るものをつくる)(目標 1,2,3,4,5)</p> <p>14. 模擬保育の反省①(保育者の関わり方と子どもの見とり方、保育指導案の修正)(目標 1,3,4)</p> <p>15. 模擬保育の反省②(環境構成のあり方をもとに)(目標 1,2,3,4)</p>					
アクティブ・ラーニング	模擬保育					
成績評価基準	<p>評価の方法: 模擬保育指導案(35%)、模擬保育環境構成の実践(35%)、模擬保育検討会への参加と取り組み(30%)</p> <p>評価の基準: ○模擬保育指導案 *知識・理解の定着度、思考・判断の測定 ・子どもの発達を理解し、関心意欲を促すために導入の組み立てや関わり方を配慮して立案できる</p> <p>○模擬保育の環境構成と実践 *知識・理解の定着度、思考・判断の測定 ・導入において子どもの関心意欲を起こさせる見せ方、関わり方を工夫できる。</p> <p>・子どもの良さを認めるまとめができる</p> <p>○模擬保育検討会への参加と取り組み *関心・意欲・態度、表現力の測定 ・真剣な態度で臨み、自分なりの意見や疑問を持って質問や意見を表現できる。</p>					
フィードバックの方法	各回の模擬保育をふり返り、指導案を修正する(教材、環境構成、保育者の関わり方について)検討会で協議したことについて、自分のコメントを入れる。自分で指導案を作成することで設定保育の再構築を図る					
時間外の学習について	<p>予習: 模擬保育のための教材研究、模擬保育指導案の作成、模擬保育の実施のための準備(各回20分程度)</p> <p>復習: 模擬保育実施後の反省、修正案の作成、他学生の模擬保育について、あり方をまとめる。(各回20分程度)</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト: 特になし</p> <p>参考書: 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p> <p>参考資料: 「明日をひらく子」34集: 山口県子どもの造形を考える会(弘中順一編)</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について						

科目名	表現の指導法(造形Ⅳ) (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	2年 後期	担当者	弘中 順一 (単独)
ナンバリングコード	JC-S243-010					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	選択必修科目(保育士)					
系 列	保育の内容・方法に関する科目					
授業のテーマ	模擬保育を通して、環境構成や乳幼児の援助の専門的知識・技術について理解を深める。造形表現活動の実践力を高める。(専門的知識、技能、実践力)					
授業の概要	造形遊び、描く活動、製作あそびなど保育における造形表現活動を幅広く取り上げ、保育指導案を作成する。模擬保育とその振り返りをもとに造形表現の保育のあり方について検討する。					
達成目標		科目DP: c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定子ども園教育・保育要領での領域「表現」の位置づけを踏まえた造形表現のねらいや内容を理解し、乳幼児が造形表現活動を通して身につけていく内容と指導の留意点を理解するとともに、評価の考え方を理解している。		○		◎	○
	2. 表現を通して乳幼児が経験し身につけていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。				○	
	3. 乳幼児の視点から乳幼児の造形的な表現を捉え、保育を構想する重要性を理解している。			○	◎	
	4. 具体的な造形表現の指導案を作成し、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善・向上する視点を身につけている。				◎	
5. 乳幼児の体験に適した造形素材を加工し、保育に活用できる。		○		○	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ					
授業計画	1. 絵あそびの保育のポイント、表現技法を基にした絵あそびの模擬保育の計画、指導案作成(目標 1.2) 2. 絵本から発展した絵あそび、模擬保育・検討会①、模擬保育・検討会②(目標 1.2,3,4,5) 3. 造形あそびの保育のポイント、模擬保育・検討会③、模擬保育・検討会④(目標 1.2,3,4,5) 4. 描く活動の保育のポイント、模擬保育・検討会⑤、模擬保育・検討会⑥(目標 1.2,3,4,5) 5. 製作あそびの保育のポイント、模擬保育・検討会⑦、模擬保育・検討会⑧(目標 1.2,3,4,5) 6. 子どもの思いと表現、模擬保育・検討会⑨、模擬保育・検討会⑩(目標 1.2,3,4,5) 7. 作品の見方・とらえ方、模擬保育・検討会⑪、模擬保育・検討会⑫(目標 1.2,3,4,5) 8. 保育の中の造形表現、模擬保育・検討会⑬、模擬保育・検討会⑭(目標 1.2,3,4,5) 9. 子どもの思いと援助のあり方、模擬保育・検討会⑬、模擬保育・検討会⑭(目標 1.2,3,4,5) 10. 環境を通した保育・壁面構成のあり方、模擬保育・検討会⑬、模擬保育・検討会⑭(目標 1.2,3,4,5) 11. 壁面構成(計画・準備(目標 1,2)) 12. 壁面構成の模擬保育①(物語をテーマにした壁面構成)(目標 1,4,5) 13. 壁面構成の模擬保育②(季節をテーマにした壁面構成)(目標 1,4,5) 14. 壁面構成の模擬保育③(行事をテーマにした壁面構成)(目標 1,4,5) 15. 壁面構成(完成)(目標 1,4,5)、表現の指導法のまとめ(目標 1,2,5)					
アクティブ・ラーニング	模擬保育					
成績評価基準	評価の方法: 模擬保育指導案(40%)、模擬保育の環境構成と実践(40%)、授業への取り組み(20%) 評価の基準: ○模擬保育指導案 *知識理解の定着度 *思考判断の測定 ・子どもの発達を理解し、意欲関心を促すために導入の組み立てや関わり方を配慮して立案できる。 ○模擬保育の環境構成と実践 *知識理解の定着度 *思考判断の測定 ・導入において子どもの関心意欲を起ささせる見せ方、関わり方を工夫できる。 ・子どもの良さを認めるまとめができる。 ○授業への取り組み *関心・意欲・態度、表現の測定 ・真剣な態度で臨み、自分なりの意見や疑問を持って質問や意見を表現できる。					
フィードバックの方法	毎回の模擬保育を振り返り、指導案を修正する。協議したことをもとに、ポイントにコメントを入れながら自分の意見をまとめる。同じ内容で、新たな題材を考え、保育指導案として立案するようにする。					
時間外の学習について	予習: 造形表現活動の題材の選択、模擬保育案の作成(各回20分程度) 復習: 模擬保育の指導案の再構成と検討会での反省をまとめる(各回20分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト: 特になし 参考書: 特になし 参考資料: 「明日をひらく子」34集 山口県子どもの造形を考える会 弘中順一編					
担当者からのメッセージ等実務経験について						

科目名	保育方法論 (2単位)	講義	保育学科 幼児教育コース	2年 前期	担当者	中原 久子 (実務経験) (単独)				
ナンバリングコード	JC-S244-110									
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭	必修				
科目	教科及び教職に関する科目(幼稚園) 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目									
各科目に含めることが必要な事項	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)									
教科目	選択必修科目(保育士)									
系列	保育の内容・方法に関する科目									
授業のテーマ	乳幼児期に経験させたい保育内容や保育実施のための保育形態・保育方法について理解する。(専門的知識、技能、実践力)									
授業の概要	この講義で幼稚園教諭としての基本的な資質を養うとともに、幼児の幼稚園教育において育みたい資質能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる5つの領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定しながら保育を構想する方法を学ぶ。									
達成目標	1. 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、幼稚園教育の全体構造を理解する。 2. 幼稚園教育に示された5領域のねらい・内容及び指導上の留意点を学び、小学校の教科等とのつながりを理解する。 3. 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定した指導案の作成や、保育を構想する方法を学ぶ。 4. 各領域の特性及び幼児の体験との関連を考慮した、情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想の向上に取り組むことの重要性を学ぶ。					科目DP：c				
						DP記号	a	b	c	d
							○		○	
								○	○	
									○	○
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ									
授業計画	1. 幼稚園教育の目的と目標及び今日の幼児教育の在り方について(目標1) 2. 幼稚園教育要領に示された「生きる力」の基礎となる資質・能力の“3つの柱”について(目標1,2) 3. 幼稚園教育の各領域のねらい・内容・内容の取り扱いについて(目標1,2) 4. 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について(目標1,2,3) 5. 幼稚園教育要領で示された「主体的・対話的で深い学び」について(目標1,2,3,4) 6. 幼稚園教育におけるカリキュラム・マネジメントとPDCAサイクルについて(目標1,2,3,4) 7. 幼稚園教育における評価のとらえ方について(目標1,2,3) 8. 保育の計画と実践(1) - 日案作成と保育実践の評価・反省：3歳児について(目標1,2,3,4) 9. 保育の計画と実践(2) - 日案作成と保育実践の計画・反省：4歳児について(目標1,2,3,4) 10. 保育の計画と実践(3) - 日案作成と保育実践の計画・反省：5歳児について(目標1,2,3,4) 11. こどもの「なぜ」「どうやって」が入ってくるような深い学びの活動や遊びの展開についての指導案の立案・模擬保育について(目標1,2,3,4) 12. 模擬保育とその振り返り・保育の改善について(目標1,2,3) 13. 幼稚園教育における教材の捉え方・情報機器活用について(目標1,2,3,4) 14. 幼児が5領域で経験し身につけていく内容の関連性及び小学校教育との接続について(目標1,2,3,4) 15. 教師の役割とその専門性について(目標1,2) 定期試験									
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、模擬保育									
成績評価基準	評価の方法：毎回授業終了時の小レポート・指導案の作成(30%)、試験(70%) 評価の基準：○毎回授業終了時の小レポート・指導案の作成 *思考・判断、関心・意欲の測定・教職に対する受講生の適性や意欲を表明できる ○試験 *知識・理解、技能・表現の測定 ・幼稚園教育に関する基礎的・基本的事項を理解している ・保育を構想する方法を修得している									
フィードバックの方法	コメントをつけて返却する。									
時間外の学習について	予習：次の授業で扱う内容を事前に読んでおくこと。製作課題がある場合は事前に下準備をすること。各回30分程度。 復習：授業で扱った内容をもう一度見返しておくこと。各回30分程度。									
教材にかかわる情報	テキスト：森上史郎・渡辺英則・大豆田啓友(編)『保育方法・指導法の研究』ミネルヴァ書房 神長美津子・津金美智子・五十嵐市郎(編著)『保育方法論』株式会社光生館 参考書：文部科学省『幼稚園教育要領』/厚生労働省『保育所保育指針』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』 その他、授業中に適宜資料を配布する。 参考資料：									
担当者からのメッセージ等実務経験について	幼稚園教諭として幼稚園に勤務。実務経験をもとにこれからの保育を創造するための保育の方法について話をします。									

科目名	保育リトミック I (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	2年 前期	担当者	植山 典子 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JC-S245-011					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	選択必修科目(保育士)					
系列	保育の内容・方法に関する科目					
授業のテーマ	3歳児対象のリトミックの指導法を学ぶ。(専門知識、創造性、コミュニケーション能力、協調性、実践力)					
授業の概要	様々な角度からリズムという素材にアプローチする。保育現場での実践に役立つリトミック指導法を学ぶ。					
達成目標						科目DP: c
						DP記号
	1. リトミックの理論を理解する。					a b c d
	2. 3歳児対象のリトミックの指導ができる。					○ ○ ○ ○
3. リズムを表現する基礎的な動きができる。					○ ○ ○ ○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. リトミックについて・楽しいリトミックの経験①(導入) (目標 1,3) 2. 楽しいリトミックの経験②(即時反応)、強弱・テンポ・空間・アクセント、基礎的な動き①(クラップの仕方)、基礎リズム①(2拍子の基礎リズムの作り方) (目標 3) 3. 3歳児指導法・リズムの演奏法(1学期-前半) (目標 2) 4. 3歳児指導法・リズムの演奏法(1学期-後半) (目標 2) 5. 楽しいリトミックの経験③(数の把握)、基礎的な動き②(ステップの仕方)、基礎リズム②(リズム唱)、拍子①(導入) (目標 3) 6. 3歳児指導法・リズムの演奏法(2学期-前半) (目標 2) 7. 3歳児指導法・リズムの演奏法(2学期-後半) (目標 2) 8. 楽しいリトミックの経験④(拍の把握)、基礎リズム③(2拍子のリズムステップ)、拍子②(2・3・4拍子) (目標 3) 9. 3歳児指導法・リズムの演奏法(3学期-前半) (目標 2) 10. 3歳児指導法・リズムの演奏法(3学期-後半) (目標 2) 11. 楽しいリトミックの経験⑤(拍子の把握)、基礎リズム④(3・4拍子)、拍子③(総合) (目標 3) 12. 楽しいリトミックの経験⑥(教具を使って)、リズムカノン①(導入)、リズムフレーズ①(導入) (目標 3) 13. リズムの演奏法(3歳児指導法-1~3学期) (目標 2) 14. 試験課題練習 15. リトミックの理論とダルクローズについて①(基礎知識)、まとめ (目標 1,2,3) 「資格認定試験」(14回と15回の間に行う) 					
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ロールプレイ					
成績評価基準	<p>評価の方法: 試験60%、課題に対する取組み20%、授業態度・授業への参加度20%</p> <p>評価の基準: ○試験 *知識・理解、思考・判断、技能・表現を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格2級」の認定条件(70点以上)をクリアしている ○課題に対する取組み *思考・判断、関心・意欲・態度を測定 ・授業内容を踏まえて、実践できる ○授業態度、授業への参加度 ・活動に意欲的である 					
フィードバックの方法	課題の返却の際に、コメント・アドバイスを記入する。					
時間外の学習について	<p>予習: 毎回の授業計画を確認し、「3歳児指導法、リズムの演奏法」の回はテキストを読み、ピアノの練習をしておくこと。各回20分程度</p> <p>復習: 実技小テストを行うので練習しておくこと。各回20分程度</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト: 「幼稚園・保育園のためのリトミック～年間カリキュラムとその実践～(3歳児)」(リトミック研究センター)</p> <p>参考書:</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について	<p>実習先でも積極的にリトミックをしてください。</p> <p>短時間でも毎日必ずピアノに向かいましょう。</p> <p>「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格2級」取得のための授業である。</p> <p>動きやすい服装(スカートのみは不可)と、素足、又はバレエシューズで受講すること。</p> <p>リトミック研究センター山口第一支局チーフ指導者及びローランド・ミュージック・スクール幼児科指導スタッフ。それぞれの研修会・講習会での講師を担当。県内外での研修、県内での保育士研修、幼稚園・保育園での課内授業、又、自身の運営する教室での実務経験をもとに、リトミック指導について話し、実践をします。</p>					

科目名	保育リトミックⅡ (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	2年 後期	担当者	植山 典子 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JC-S246-011					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	選択必修科目(保育士)					
系 列	保育の内容・方法に関する科目					
授業のテーマ	4歳児・5歳児対象のリトミックの指導法を学ぶ。(専門知識、創造性、コミュニケーション能力、協働性、実践力)					
授業の概要	様々な角度からリズムという素材により深くアプローチする。保育現場での実践に更に役立つリトミック指導法を学ぶ。					
達成目標						科目DP: c
						DP記号
	1. 4歳児対象のリトミックの指導ができる。					a b c d
	2. 5歳児対象のリトミックの指導ができる。					○ ○ ○ ○
	3. リズムを表現する実践的な動きができる。					○ ○ ○ ○
4. リトミックの理論を理解する。					○ ○ ○ ○	
履修条件・注意事項	「保育リトミックⅠ」の単位を取得済みの者 授業の実施方法: ①面接授業のみ					
授業計画	1. 4歳児指導法・リズムの演奏法(1学期)(目標1) 2. 4歳児指導法・リズムの演奏法(2学期)(目標1) 3. 楽しいリトミックの経験⑦(ソルフェージュ)、リズムカノン②(3拍子)、リズムフレーズ②(2拍子)(目標3) 4. 4歳児指導法・リズムの演奏法(3学期)(目標1) 5. リズムの演奏法(4歳児指導法1~3学期)(目標1) 6. 5歳児指導法・リズムの演奏法(1学期)(目標2) 7. 楽しいリトミックの経験⑧(歌あそび)、リズムカノン③(4拍子)、複リズムOstinato(♪)①(導入)(目標3) 8. 5歳児指導法・リズムの演奏法(2学期)(目標2) 9. 5歳児指導法・リズムの演奏法(3学期)(目標2) 10. リズムの演奏法(5歳児指導法1~3学期)(目標2) 11. 楽しいリトミックの経験⑨(身体表現)、リズムカノン④(3、4拍子)、複リズムOstinato(♪)②(基礎リズムで)(目標3) 12. リズムの演奏法(4歳児・5歳児総合)(目標1,2) 13. 楽しいリトミックの経験⑩(総合)、リズムカノン⑤(2、3、4拍子)、複リズムOstinato(♪)③(よく知っている曲を使って)(目標3) 14. 試験課題練習 15. リトミックの理論とダルクローズについて②(復習)、まとめ(目標1,2,3,4) 「資格認定試験」(14回と15回の間に行う)					
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ロールプレイ					
成績評価基準	評価の方法: 試験60%、課題に対する取組み20%、授業態度・授業への参加度20% 評価の基準: ○試験 *知識・理解、思考・判断、技能・表現を測定 ・「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格1級」の認定条件(70点以上)をクリアしている ○課題に対する取組み *思考・判断、関心・意欲・態度を測定 ・授業内容を踏まえて、実践できる ○授業態度、授業への参加度 ・活動に意欲的である					
フィードバックの方法	課題の返却の際に、コメント・アドバイスを記入する。					
時間外の学習について	予習: 毎回の授業計画を確認し、「4歳児・5歳児指導法、リズムの演奏法」の回はテキストを読み、ピアノの練習をしておくこと。各回20分程度 復習: 実技小テストを行うので練習しておくこと。各回20分程度					
教材にかかわる情報	テキスト: 「幼稚園・保育園のためのリトミック~年間カリキュラムとその実践~(4歳児)(5歳児)」(リトミック研究センター) 参考書:					
担当者からのメッセージ等実務経験について	実習先でリトミックをしたら、その報告をしてください。 毎日ピアノに向かう習慣をつけましょう。 「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格1級」取得のための授業である。 動きやすい服装(スカートのみは不可)と、素足、又はバレエシューズで受講すること。 リトミック研究センター山口第一支局チーフ指導者及びローランド・ミュージック・スクール幼児科指導スタッフ。それぞれの研修会・講習会での講師を担当。県内外での研修、県内での保育士研修、幼稚園・保育園での課内授業、又、自身の運営する教室での実務経験をもとに、リトミック指導について話し、実践をします。					

科目名	乳児保育 I (2単位)	講義	保育学科 幼児教育コース	1年 前期	担当者	磯部 恵子 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JC-S147-010					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目 (保育士)					
系列	保育の内容・方法に関する科目					
授業のテーマ	乳児保育の意義と基本、乳児の発達と保育内容、保育者の援助の専門知識について学び、保育現場での実践に活かす。(専門的知識、技能、高い倫理観、広い見識、実践力)					
授業の概要	乳児保育の意義と基本について学ぶ。また、3歳未満児の発達と保育内容、保育者の援助や関わりについて理解を深める。*本科目における乳児保育は3歳未満児の保育を指す。					
達成目標						科目DP : c
						DP記号
	1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。					○ ○ ○
	2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。					○ ○ ○
3. 3歳未満児の発育、発達について学び、健やかな成長を支える3歳未満児の保育の内容について理解する。					○ ○ ○	
4. 職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。					○ ○ ○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. 乳児保育の理念－(目標1)乳児の手遊び実践発表について(2～15回グループでの発表)(目標3) 2. 乳児保育の制度と課題－子ども・子育てをめぐる社会的状況と課題 (目標2) 3. 3歳未満児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 (目標2) 4. 乳児保育の基本(目標1,2) 5. 乳児保育における養護及び教育 (目標1,2) 6. 保育の計画と乳児保育 (目標1,2) 7. 3歳未満児の心身の発達－身体及び運動の発達 (目標3) 8. 3歳未満児の心身の発達－言葉とコミュニケーションの発達 (目標3) 9. 3歳未満児の心身の発達－認知の発達 (目標3) 10. 3歳未満児の心身の発達－人間関係の発達 (目標3) 11. 0歳児～満3歳児の生活と環境 (目標3) 12. 0歳児～満3歳児の遊びと環境 (目標3) 13. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり (目標3) 14. 乳児保育における連携－職員間の連携・協働・地域の関係機関との連携－(目標4) 15. 乳児保育における連携－保護者との連携－(目標4) ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング	模擬保育					
成績評価基準	評価の方法：定期試験50%、授業態度20%、授業内レポート・課題30% 評価の基準：○定期試験 *知識・理解の定着度を測定 ・教科書や講義で学んだ問題に回答できる。 ○授業態度 *関心・意欲の測定 思考・判断の測定 ・記述内容が適切である。 ・積極的に発言する。 ・グループでの活動に積極的である。 ○レポート/課題 *知識・思考・判断/意欲・表現の測定 ・学んだことに対して自説を述べるができる。 ・学んだことを根拠に発達の表の作成ができる。					
フィードバックの方法	課題を回収しコメントを入れて返却する。					
時間外の学習について	予習：乳児の手遊びについて調べる。自分の生育暦や学んだことから発達の表をつくる。(各回30分) 復習：発達段階についてまとめる(60分) テストを行うので資料、テキストを読み復習しておくこと(各回20分)					
教材にかかわる情報	テキスト：「乳児保育 一人一人を大切に」加藤敏子編著、富永由佳著、萌文書林、2019.4 ¥1,760 978-4-89347-342-4 参考書：幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針 幼稚園教育要領「チャイルド社」 参考資料：都度適宜紹介する。(ビデオ、資料など)					
担当者からのメッセージ等実務経験について	レポート、課題の提出は期限を守るようにする。 保育士・園長として保育園に勤務。実務経験を基にして、乳幼児の発達、保育の内容、援助について話をします。					

科 目 名	乳児保育Ⅱ (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	1年 後期	担 当 者	磯部 恵子 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JC-S148-010					
卒 業 要 件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目	必修科目(保育士)					
系 列	保育の内容・方法に関する科目					
授 業 の テ ー マ	乳児一人一人の発達を促す環境、生活と遊び、保育の計画、記録、評価、乳児の指導案の立案について学ぶ。また、地域過程との連携、保健衛生及び安全についての専門知識を身につける。(専門的知識、技能、実戦力)					
授 業 の 概 要	乳児保育Ⅰで学んだことを基に実践事例を通して個々の発達を促す生活と遊びについて理解を深める。また、保育の計画、記録、評価について学び、乳児の保育指導案作成に取り組む。また、乳児の健康・安全、家庭や地域との連携について理解を深める。*本科目における乳児保育は3歳未満児の保育を指す					
達 成 目 標						科目DP: c
						DP記号
	1. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助や関わりの基本的考え方について理解する。					a b c d
	2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に学ぶ					a b c d
	3. 乳児保育における配慮の実践について具体的に学ぶ。					a b c d
4. 乳児保育における計画の作成について具体的に学ぶ					a b c d	
5. 保育者の資質と専門性について理解する。					a b c d	
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ					
授 業 計 画	<p>1. 3歳未満児の生活の流れ(目標 1.2) 歌遊びの実践(2~15回)グループでの模擬保育(目標 2.4)</p> <p>2. 3歳未満児の保育環境-0歳児クラス- (目標 1.2)</p> <p>3. 3歳未満児の保育環境-1歳児・2歳児クラス- (目標 1.2)</p> <p>4. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助の実践 -食事- (目標 1.2,3)</p> <p>5. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助の実践 -排泄- (目標 1.2,3)</p> <p>6. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助の実践 -睡眠- (目標 1.2,3)</p> <p>7. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助の実践 -着脱・清潔- (目標 1.2,3)</p> <p>8. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実践 -新聞紙で遊ぶ- (目標 2.3,4)</p> <p>9. 3歳未満児の発育発達を踏まえた遊びと援助の実践 -小麦粉粘土で遊ぶ- (目標 2.3,4)</p> <p>10. 長期的な指導計画と短期的指導計画 (目標 4)</p> <p>11. 個別的な指導計画と集団の指導計画 (目標 4)</p> <p>12. 実践事例を通して指導案の作成、記録、評価について考える (目標 2.3,4)</p> <p>13. 子どもの心身の健康・安全・情緒の安定を図るための配慮-集団での生活における配慮- (目標 1.3)</p> <p>14. 子どもの心身の健康・安全・情緒の安定を図るための配慮-子どもの病気と対応- (目標 1.3)</p> <p>15. 乳児保育の基本-保育者の資質と専門性について- (目標 1.2)</p> <p>◎ 定期試験</p>					
アクティブ・ラーニング	模擬保育 グループワーク					
成 績 評 価 基 準	<p>評価の方法: 定期試験50%、授業態度(模擬保育を含む)20%、授業内レポート・課題30%</p> <p>評価の基準: ○定期試験 *知識・理解の定着度を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書や講義で学んだ問題に回答できる。 ・応用レベルの問題に解答できる。 <p>○授業態度 *関心・意欲の測定 技能・表現の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動が積極的に行うことができる。 ・保育に活かせる活動に対して意欲的に取り組むことができる。 <p>○レポート/課題 *知識・思考・判断の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠を明確にして自説を述べている。 ・ねらいや発達の姿に沿って指導案の立案ができる。 					
フィードバックの方法	課題を回収しコメントを入れて返却する。					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	<p>予習: 乳児の絵本や歌遊びについて調べ、模擬保育について準備する。(各回60分)</p> <p>復習: テストを行うので資料、教科書を読み復習しておくこと(各回20分)</p>					
教材にかかわる 情 報	<p>テキスト: 「乳児保育 一人一人を大切に」 加藤敏子編著、富永由佳著、萌文書林、2019.4 ¥1,760 978-4-89347-342-4</p> <p>参 考 書: 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領「チャイルド社」</p> <p>参考資料: その都度適宜紹介する(ビデオ、資料など)</p>					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	事例を通して3歳未満児の保育の計画や方法を学んでいきます。積極的な態度で臨んで下さい。保育士・園長として保育園に勤務。実務経験を基にして、乳幼児の発達、保育の内容、援助について話をします。					

科目名	特別支援の 保育・教育概論 (2単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	2年 後期	担当者	岡本 実 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JC-S226-110					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修
科目	教科及び教職に関する科目(幼稚園)教育の基礎的理解に関する科目					
各科目に含めることが必要な事項	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解					
教科目	必修科目(保育士)					
系 列	保育の内容・方法に関する科目					
授業のテーマ	保育・教育現場に在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童が達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童の学習上又は生活上の困難を理解し、個別のニーズに対して他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。					
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や保育所等における障害児保育の意義を知り、現状を把握する。 ・特別な支援を必要とする幼児、児童の援助法について、具体的かつ実践的に学習する。 					
達成目標						科目DP: c
						DP記号 a b c d
	1. 特別な支援を必要とする幼児・児童の障害特性や発達、発達支援について理解する					○
	2. 特別な支援を必要とする幼児・児童の保護者との連携や両者にかかわる保健・医療・福祉・教育等の関係機関との連携や協働について理解する					○
3. 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとの関わりの中で育ち合う保育実践について理解を深める					○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(授業の概要、発達障害とは、障害の社会モデル)(目標 1,2) 2. 特別な支援を必要とする児童の概要(子育て環境の変容、発達障害、児童虐待、貧困)(目標 1,2) 3. 障害児教育・保育の歴史と現状、課題(障害児教育・保育を支える理念、現状と課題)(目標 1,2) 4. 関係機関との連携と保護者支援(目標 1,2) 5. 特別支援教育の実際(特別な支援を必要とする児童の教育の制度、教育課程)(目標 1,2) 6. 障害児保育の実際(保育所等における障害児保育)(目標 1,2) 7. 知的障害のある児童の理解と援助(目標 1,3) 8. 自閉症スペクトラム障害のある児童の理解(目標 1,3) 9. 自閉症スペクトラム障害のある児童の援助(目標 1,3) 10. 運動障害のある児童の理解と援助(目標 1,3) 11. コミュニケーション障害のある児童の理解と援助 12. てんかんや病弱児の理解と援助(目標 1,3) 13. 障害のある児童を理解するためのアセスメント(目標 1,3) 14. 個別支援計画作成演習(目標 1,3) 15. まとめ(目標 1,2,3) <p>定期試験</p>					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク					
成績評価基準	<p>評価の方法: 定期試験50%、小テスト・授業内レポート・授業への参加度50%</p> <p>評価の基準: 定期試験(授業で扱った内容を理解している)、小テスト・授業内レポート・授業への参加度(授業に積極的に参加している)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小テスト・授業内レポート・授業への参加度 *関心・意欲、思考・判断の測定 <ul style="list-style-type: none"> ・授業に積極的に参加している ・授業で扱った内容を理解し、記述できる ○定期試験 *知識・理解の定着度の測定 <ul style="list-style-type: none"> ・障害児保育に関する応用的な課題に回答できる 					
フィードバックの方法	ワークシートやレポートについてコメントや助言を行う。					
時間外の学習について	<p>予習: 次回の学習内容について、テキストの関連箇所を目を通し、ポイントを整理する。各回45分程度</p> <p>復習: 授業内容の整理、復習を行う。毎回45分程度</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト: 新障害のある子どもの保育実践(水田和江・増田貴人編著、学文社出版)</p> <p>参考書: <平成29年告示>幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、特別支援学校幼稚園部教育要領</p> <p>参考資料等:</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について	近年、障害児支援の分野では、障害者権利条約の批准、特別支援教育や障害児通所支援の創設など、大きな変化の中にあります。障害児支援に長年携わってきた経験をもとに、障害児支援の醍醐味について伝えていきたいと考えています。					

科目名	社会的養護Ⅱ (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	2年 後期	担当者	安村 裕美 (実務経験)
ナンバリングコード	JC-S249-010					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目(保育士)					
系 列	保育の内容・方法に関する科目					
授業のテーマ	社会的養護の方向性と、家族・子どもへの支援のあり方を「子どもの最善の利益」という視点で探求し、考察する。(広い見識、専門知識、技能、実践力)					
授業の概要	児童の権利擁護や保育士等の倫理や責務について理解を深め、施設養護と家庭養護の実際を学ぶ。事例を通して個別支援計画を作成し、日常生活・治療・自立の視点から支援内容を具体的に検討し考察を行う。相談援助の知識・技術・方法を理解する。家庭支援・児童家庭福祉・地域福祉について理解や認識を深め、社会的養護の課題と展望について検証、考察を行う。					
達成目標		科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 社会的養護における児童の権利擁護と保育士等の倫理について具体的に学ぶ。	○	◎		○	
	2. 施設養護及び家庭養護の実際について学ぶ。	○		◎		
	3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について学ぶ。		○	◎		
4. 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法・技術について理解する。		○	◎	◎		
5. 社会的養護の課題とこれからの展望について、児童家庭福祉、地域福祉について理解する。	○	◎			○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの権利擁護について理解し、その取り組みや支援の質の向上を図るための方法について学ぶ。(目標 1.5) 2. 社会的養護における子どもの理解について学ぶ。(目標 1) 3. 日常生活支援に関する事例分析を通して、グループ討議等を通して理解を深める。(目標 1.2,4) 4. 治療的支援に関する事例分析を通して、グループ討議等を通して理解を深める。(目標 1.2,4) 5. 自立支援に関する事例分析を通して、グループ討議等を通して理解を深める。(目標 1.2,4) 6. 施設養護の生活特性及び実際(乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設)について理解する。(目標 2) 7. 施設養護の生活特性及び実際(児童心理治療施設・児童自立支援施設・障害児施設)について理解する。(目標 2) 8. 家庭養護の生活特性及び実際(里親・ファミリーホーム事業・養子縁組制度)について理解する。(目標 2) 9. 自立支援計画策定について理解し、アセスメントを行う上での視点を学ぶ。(目標 3) 10. 事例をもとに、自立支援計画の策定を通して、子どもの自立への理解を深める。(目標 3) 11. 記録の意義と役割・自己評価について学び、理解を深める。(目標 3) 12. 児童福祉施設における保育士の位置づけを理解し、社会的養護における保育士の専門性について学ぶ。(目標 4) 13. ソーシャルワークの意味、必要性、知識を理解し、実践におけるソーシャルワークについて考察する。(目標 4) 14. 社会的養護における家庭支援について理解を深める。(目標 5) 15. 社会的養護の課題と展望について理解を深め、考察する。(目標 5) 定期試験					
アクティブ・ラーニング	グループワーク・ロールプレイ					
成績評価基準	評価の方法：授業態度(30%)、小テスト・レポート(30%)・定期試験(40%) 評価の基準：○授業態度 *関心・意欲の測定 *態度の測定 ・積極的に発言する。 ・グループワーク、ロールプレイ等に積極的に参加している。 ・レスポンスカードの記述内容が適切である。 ○小テスト・レポート 定期試験 *知識・理解の定着度を測定 *思考・判断を測定 ・テキストに載っている知識を扱った問題に解答できる。 ・子どもの権利擁護の視点をもって自説を述べるができる。					
フィードバックの方法	小テストやレポートに対して、解説を行う。					
時間外の学習について	予習：次回の授業のキーワードを提示し、それについて調べておく。各回30分程度。 復習：テキスト・配布資料を見て、授業内容を確認しておく。各回45分程度。					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし。 参考書：特になし。 参考資料等：適宜配布。					
担当者からのメッセージ等実務経験について	児童養護施設実務経験 社会的養護に関する新聞記事やテレビ等の報道に関心を持ち、子どもの権利擁護の視点で考察してください。					

科目名	幼児理解と教育相談 (2単位)	講義	保育学科 幼児教育コース	2年 前期	担当者	山根 望 (単独)	
ナンバリングコード	JC-S227-100						
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭	必修
科目	教科及び教職に関する科目(幼稚園) 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						
各科目に含めることが必要な事項	・幼児理解の理論及び方法 ・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法						
教科目							
系 列							
授業のテーマ	幼児及び児童の様々な特性や課題を理解し、個別の支援が円滑にできるようにコミュニケーション能力を高める。(専門的知識、技能、コミュニケーション力、実践力)						
授業の概要	現在の教育現場が抱える問題や課題について考察しながら、子どもや保護者と信頼関係を結び、よりよい教育相談を実施できるように専門的知識と態度、及びカウンセリング理論について講義やロールプレイを通して学ぶ。						
達成目標						科目DP : c	
						DP記号	a b c d
1. 幼児の心身の発達を理解し、幼児についての理解を深める。							○
2. 教育相談の意義と理論を理解する。							○
3. 教育相談における実際(計画と実施)について理解し、現代的課題に対応できる知識と技術を習得する。							○
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ						
授業計画	1. 教育相談の意義と役割(目標2) 2. 教育相談の歴史と教育現場における現代的課題(目標2) 3. 子どもの発達理解と相談支援(乳幼児期から思春期まで)(目標1) 4. 教育相談のための子ども理解(個と集団の観察及び記録・発達検査)(目標1,3) 5. 教育相談の計画と活動の実際(幼児教育現場を中心に)(目標3) 6. カウンセリング理論や技法の理解(目標2,3) 7. 子どものつまずき①：不登校(園)に対する理解と対応(目標1,3) 8. 子どものつまずき②：いじめの理解と対応(目標1,3) 9. 子どものつまずき③：発達障害及び学習障害の理解と対応(目標1,3) 10. 子どものつまずき④：反社会的行動や情緒障害の理解と対応(目標1,3) 11. 性的マイノリティ(LGBT)の理解と対応(目標1,3) 12. 児童虐待の理解と対応(目標1,3) 13. 事件、事故、災害時の組織的危機対応と子どもへの心のケア(目標1,3) 14. 保護者心理の理解と保護者対応(目標3) 15. 幼保小の連携、他職種との連携、及び社会資源の活用(目標2,3) 定期試験						
アクティブ・ラーニング	ロールプレイ、ディスカッション、グループワーク						
成績評価基準	評価の方法：レポート(30%)、定期試験(70%) 評価の基準：教育相談の意義について理解し、基本的知識と基本的技法を習得している。 ○レポート *知識・理解、思考・判断を測定 ・授業内容を踏まえ、自説を述べるができる ○定期試験 *知識・理解の定着を測定 ・幼児理解及び教育相談に関する専門的知識を習得している ・幼児理解及び教育相談に関する事柄について説明できる						
フィードバックの方法	ワークシート及び定期試験については、実施後に解答及び模範記述を希望者は閲覧できる。						
時間外の学習について	予習：ニュースや新聞に目を通し、子どもとその家庭の教育的課題を把握する。(各回45分程度) 復習：授業内容に該当するテキストの内容をよく読んでおく。(各回45分程度)						
教材にかかわる情報	テキスト：授業内容に関する資料を毎回配布する。 参考書：小田豊・秋田喜代美著『子どもの理解と保育・教育相談』みらい社、2008。 有村久春著『新訂版 学級教育相談入門』金子書房、2014。 参考資料：						
担当者からのメッセージ等実務経験について							

科目名	保育内容の理解と方法・健康 (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	1年前期	担当者	吉野信朗、船場大資 (複数)
ナンバリングコード	JC-S151-110					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭	選択必修
科目	教科及び教職に関する科目(幼稚園)領域及び保育内容の指導法に関する科目					
各科目に含めること必要な事項	領域に関する専門的事項					
教科目	選択必修科目(保育士)					
系 列	保育の内容・方法に関する科目					
授業のテーマ	乳幼児期の「健康」に関わる専門的な知識を身につける。とりわけ、子どもの心身の発育、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達の専門的事項に関する知識を習得する。また、子どもの健康管理の基礎理解や、地域での取り組みについての理解を深める。 キーワード 健康 生活習慣 運動発達					
授業の概要	乳幼児期の生活や遊びの中から、子どもの身体の発育や運動機能や生理的機能の発達、及び、情緒の安定など、子どもの心身の発育発達を学ぶとともに、子どもの体力や健康を評価する方法を学ぶ。また、領域「健康」を踏まえた子どもの成長を支える環境構成や安全教育や危機管理など、保育に必要な専門的知識などについて考えていく。また、現場や自治体で行われている取り組みについても学び、子どもの健康的な生活習慣を考察する。					
達成目標						科目DP:c
						DP記号
						a
						b
						c
						d
	1. 保育の基本を踏まえた領域「健康」のねらい及び内容を理解する					○
	2. 乳幼児期の身体の発育の機序と保育者としての関わり方を理解する					○
	3. 子どもの安全を確保するための指導上の留意点を理解する					○
	4. 乳幼児期の生活習慣とその援助と改善する視点を身につける					◎
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション・子どもの心身の発達の特徴(目標1) 現代における乳幼児の健康課題—体力調査・生活調査から—(目標1,2) 子どもの生活習慣の形成について(目標1,2) 子どもの健康的な生活習慣の改善事例—教育機関や各地域の取り組みから—(目標1,2) 現代社会における子どもの体力課題—課題克服のための運動遊び考察—(目標2) 子どもの健康管理や病気に関する基本的な理解—リスク・ハザードの理解—(目標3) 子どものケガの特徴や熱中症の理解と対策—避難訓練や園庭環境を含む—(目標3) 月齢毎における子どもの多様な所作の習得について(目標2) 子どもの生活にみられる動作と発育理解—粗大運動と微細運動を通じて—(目標2) 神経系に関わる運動と巧緻性の獲得の重要性について(目標2) MKS幼児運動能力調査の理解(目標4) 子どもの外遊びと運動発達の特徴の考察(目標4) 子どもの室内遊びと運動発達の特徴の考察(目標4) 伝承遊びの特徴と教育的価値(目標4) 乳幼児期における健康的な生活について—まとめ—(目標4) <p>定期試験</p>					
アクティブ・ラーニング	グループワーク ロールプレイ ディスカッション					
成績評価基準	評価の方法：定期試験60% レポート40% 評価の基準：定期試験(知識・理解の定着)・レポート(思考と理解)					
フィードバックの方法	授業冒頭に前回の復習を行う。個別の質疑に対しては、常に対応する。作成した資料にコメントや助言を行う。					
時間外の学習について	予習：教科書での予習(30分) 復習：授業内容を振り返る。定期試験に向けた準備(30分)・レポート課題の作成(30分)					
教材にかかわる情報	テキスト：『コンパス 保育内容健康』前橋明編著 建帛社出版 参考書：『幼児のからだを測る・知る—測定留意点と正しい評価法』出村慎一監修 杏林書院出版 『幼児のからだところを育てる運動遊び—元気に育てちびっ子たち!』出村慎一監修 杏林書院出版 『幼稚園教育要領』・『保育所保育指針』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 参考資料等：					
担当者からのメッセージ等実務経験について	見本が示せる指導者になってほしい。					

科目名	保育内容の理解と方法・人間関係(1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	1年前期	担当者	富田 まり子 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JC-S152-110					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修
科目	教科及び教職に関する科目(幼稚園)領域及び保育内容の指導法に関する科目					
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項					
教科目	必修科目(保育士)					
系列	保育の内容・方法に関する科目					
授業のテーマ	領域『人間関係』のねらい及び内容を理解し、乳幼児期の人間関係の発達の特性や保育者の役割についての専門知識や技術を身に付ける。(専門的知識、技能、実践力)					
授業の概要	学生が、自分の乳幼児期の家族や地域の人との関係や関わりについて振り返り、領域「人間関係」への関心や学習意欲が持てるようにする。そして、家庭・地域・生活環境がどのように変わっていったか事例と合わせながら説明し、子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代の特徴や課題について理解できるようにする。子どもの人と関わる力の育ちに関する専門的事項については、子どもの発達の諸側面が人との関わりの中で育つことについて、園生活のエピソードを通して、発達の時期と関連づけて学べるようにする。併せて、具体的な場面を通して保育者の関わり方や役割・資質についての理解を深め、専門的知識を身に付ける。また、学生自身が自分の人間関係や関わりを意識しながら、学生生活の中で人とかかわる力を磨いていけるようにする。					
達成目標						科目DP:c
						DP記号
						a
						b
						c
						d
	1. 子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代の特徴と課題を理解する。(子どもを取り巻く人間関係の特徴・現代的課題・社会的背景を理解する/人とかかわる力の育ちが生きる力の原点となることを理解する)					
	2. 乳幼児期の人と関わる力の発達が、園生活における保育者・友達等、人のかかわりによって育つことを理解する。(乳児期の人とかわる力の育ちと身近な大人との関係について理解する/幼児期の園生活の中で育つ人とかかわる力の発達と、保育者・友達・集団との関係について理解する/自立心・協同性の育ちについて発達の姿と合わせて理解する/道徳性・規範意識の芽生えについて発達の姿と合わせて理解する/家族や地域との関わりと育ちについて発達の姿と合わせて理解する)					
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<p>1. 子どもを取り巻く人間関係をめぐる現代の特徴と課題について(目標1) (園、家庭、地域の生活と人とかかわりについて～今むかし)</p> <p>2. 領域「人間関係」のねらい及び内容と、大学生活で求められる人と関わる力の関連について(目標1,2)</p> <p>3. 乳幼児期における人とかかわりの発達について(0～2歳児の人とかかわり)(目標2)</p> <p>4. 集団保育の中で人とかかわりの発達①他の子どもとの出会いについて(目標2)</p> <p>5. 集団保育の中で人とかかわりの発達②仲間意識の強まりについて(目標2)</p> <p>6. 集団保育の中で人とかかわりの発達③いざごごの経験について(目標2)</p> <p>7. 集団保育の中で人とかかわりの発達④共通の目的に向かって共同する姿について(目標2)</p> <p>8. 遊びのなかで育つ人とかかわり①触れ合うことの喜びと楽しさ・つながりを求める姿について(目標2)</p> <p>9. 遊びのなかで育つ人とかかわり②イメージを共有して遊ぼうとする姿について(目標2)</p> <p>10. 遊びのなかで育つ人とかかわり③いざごご・葛藤・仲直りを通してかわりが深まる姿について(目標2)</p> <p>11. 遊びのなかで育つ人とかかわり④育ち合う姿・相手の気持ちを考える姿について(目標2)</p> <p>12. 園生活のきまりとその意味について(目標2)</p> <p>13. 人とかかわりが難しい子どもへの支援について(目標2)</p> <p>14. 人とかかわりを育てる保育の実践・保育者の役割について(目標1,2)</p> <p>15. 人とかかわりを育てる保育者としての資質・学生生活で身に付けたい力について(目標1,2)</p> <p>定期試験</p>					
アクティブ・ラーニング	グループワーク・模擬保育					
成績評価基準	<p>評価の方法：試験(小テストを含む)40% 授業内レポート40% 課題20%</p> <p>評価の基準：目標への理解、思考、関心、意欲、態度などの習得を合否判断とする。</p> <p>○試験(小テストを含む) *知識・理解の測定</p> <p>・授業で扱った内容について、基礎的・応用的問題に回答できる</p> <p>○授業内レポート *知識・理解、思考・判断の測定</p> <p>・授業内容を踏まえて自説を述べるができる</p> <p>○発表 *知識・理解、思考・判断、技能・表現の測定</p> <p>・主体的、協動的にグループワークに取り組むことができる</p>					
フィードバックの方法	その都度個別に評価・アドバイスを記入し返却すると共に、授業内で課題に対する考え方や保育について具体的方法を示すことで理解を深められるようにする。					
時間外の学習について	予習：テキストを読み、次回講義内容の概要を把握しておくこと(各回30分程度) 復習：配布資料整理・授業の振り返り 適宜レポートを課題とする(各回30分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：体験する・調べる・考える 領域「人間関係」(田宮縁著、萌文書林出版) 参考書、参考資料等：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領					
担当者からのメッセージ等実務経験について						

科目名	保育内容の理解と方法・環境 (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	1年後期	担当者	富田 まり子 (実務経験) (単独)																							
ナンバリングコード	JC-S153-110																												
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修																							
科目	教科及び教職に関する科目(幼稚園)領域及び保育内容の指導法に関する科目																												
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項																												
教科目	必修科目(保育士)																												
系 列	保育の内容・方法に関する科目																												
授業のテーマ	領域「環境」のねらい及び内容を理解し、知識の習得、好奇心や探究心を育む指導の方法などについて理解する。また、保育者の役割についての専門知識や技術を身に付け、保育への実践力を身に付ける。(専門的知識、技能、実践力)																												
授業の概要	領域「環境」の指導において、ねらい及び内容については、背景となる専門領域と関連させながら、具体的な事例などを用いて分かりやすく説明し、理解を深める。乳幼児と環境との関わりや発達における重要性については、実際に学生が身近な自然や生物に触れたり、調べたり、観察したりする中で、学生自身の気付きや感動を伝え合いながら学ぶ。また、数量・図形・標識・文字等を遊びに取り入れたり、身近な施設や情報について調べたりする等、体験を通して理解を深めることを重視する。その中で保育者としての感性を養い、領域「環境」における主体的・対話的な学びについて理解し、保育者のかかわり方や役割について専門的知識が身に付くようにする。																												
達成目標	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">1. 乳幼児の身近な環境と、乳幼児の発達における意義を理解する。(身近な環境の諸側面・現代的課題について知り、乳幼児の発達における重要性や関わり方について理解する)</th> <th colspan="4">科目DP: c</th> </tr> <tr> <th>DP記号</th> <th>a</th> <th>b</th> <th>c</th> <th>d</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2. 身近な環境との関わりにおける乳幼児期の思考・科学的概念の発達について理解する。(乳幼児の認知的発達の特徴や筋道を理解する/乳幼児の物理的、数量・図形との関わりや、興味・関心、理解の発達について理解する/乳幼児の生物・自然との関わりや、興味・関心、理解の発達について理解する)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 身近な標識・文字等、情報・施設との関わりと乳幼児の発達について理解する。(身近な標識・文字等への興味・関心、関わり方について理解する/乳幼児の生活に関係の深い情報・施設への興味・関心、関わり方について理解する)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>◎</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							1. 乳幼児の身近な環境と、乳幼児の発達における意義を理解する。(身近な環境の諸側面・現代的課題について知り、乳幼児の発達における重要性や関わり方について理解する)	科目DP: c				DP記号	a	b	c	d	2. 身近な環境との関わりにおける乳幼児期の思考・科学的概念の発達について理解する。(乳幼児の認知的発達の特徴や筋道を理解する/乳幼児の物理的、数量・図形との関わりや、興味・関心、理解の発達について理解する/乳幼児の生物・自然との関わりや、興味・関心、理解の発達について理解する)				◎		3. 身近な標識・文字等、情報・施設との関わりと乳幼児の発達について理解する。(身近な標識・文字等への興味・関心、関わり方について理解する/乳幼児の生活に関係の深い情報・施設への興味・関心、関わり方について理解する)				◎	
1. 乳幼児の身近な環境と、乳幼児の発達における意義を理解する。(身近な環境の諸側面・現代的課題について知り、乳幼児の発達における重要性や関わり方について理解する)	科目DP: c																												
	DP記号	a	b	c	d																								
2. 身近な環境との関わりにおける乳幼児期の思考・科学的概念の発達について理解する。(乳幼児の認知的発達の特徴や筋道を理解する/乳幼児の物理的、数量・図形との関わりや、興味・関心、理解の発達について理解する/乳幼児の生物・自然との関わりや、興味・関心、理解の発達について理解する)				◎																									
3. 身近な標識・文字等、情報・施設との関わりと乳幼児の発達について理解する。(身近な標識・文字等への興味・関心、関わり方について理解する/乳幼児の生活に関係の深い情報・施設への興味・関心、関わり方について理解する)				◎																									
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ																												
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の基本と保育内容のとらえ方・領域「環境」に示されている保育内容(目標1) 2. 幼児の主体的な生活と領域「環境」～幼児を取り巻く環境の現代的課題(目標1) 3. 乳幼児の発達について～生活の中でとらえる(目標1) 4. 乳幼児の発達と物へのかかわりについて(目標2,3) 5. 乳幼児の発達と自然、生物へのかかわりについて(目標2) 6. 乳幼児の発達と人、社会へのかかわりについて(目標2,3) 7. 乳幼児の発達と1日の生活へのかかわりについて(目標2,3) 8. 乳幼児の発達と時間、季節の理解について(目標2,3) 9. 乳幼児の発達と文字、数への親しみについて(目標2) 10. 領域「環境」と幼児理解について①好奇心を育てる(目標2,3) 11. 領域「環境」と幼児理解について②探求心を育てる(目標2,3) 12. 領域「環境」と幼児理解について③数量や図形を遊びに取り入れる(目標2) 13. 領域「環境」と幼児理解について④文字や標識を遊びに取り入れる(目標3) 14. 保育の実践～主体的・対話的な学びについて～(目標2,3) 15. 指導上の配慮事項・保育者の役割について(目標2,3) 																												
アクティブ・ラーニング	模擬保育																												
成績評価基準	<p>評価の方法：小テスト・レポート(40%)復習・調べるなどの自主的な学習(20%)課題(40%)</p> <p>評価の基準：授業内容への理解、関心、意欲、態度などの習得を合否判断とする</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小テスト・レポート *知識・理解、思考・判断を測定 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育の基本と領域「環境」とのかかわりについて理解している ・領域「環境」のねらい、内容などについて回答できる ・授業を踏まえて自説を述べるができる ○授業への取り組み *思考・判断、関心・意欲・態度を測定 <ul style="list-style-type: none"> ・事前調査や復習など、自主的な学習ができる ・活動に積極的にかかわることができる ○課題 *知識・理解、思考・判断、技能・表現を測定 <ul style="list-style-type: none"> ・授業で取り上げた知識・技能が身につけている ・他領域と関連させ、保育に結びつけることができる ・子どもに育つ力について、理解している ○授業への参加度 *関心・意欲・態度を測定 <ul style="list-style-type: none"> ・グループでの活動に積極的にかかわる ・授業を通して探究心を持ち、自発的に取り組む 																												
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストや課題回収後に解説を行う。 ・課題、レポート、指導案にコメントを入れ、よい点、改善点を示す。 																												
時間外の学習について	<p>予習：授業内容に合わせ、調べ、理解を深めておく。各回30分程度</p> <p>復習：授業内容をまとめ、考察を深める。事前の準備があることもあります。準備物は早めに知らせますので用意をしてください。</p>																												
教材にかかわる情報	<p>テキスト：体験する・調べる・考える 領域「環境」<第2版>(田宮緑著、萌文書林出版)</p> <p>参考書・参考資料等：幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 植物図鑑 動物図鑑</p>																												
担当者からのメッセージ等実務経験について																													

科目名	保育内容の理解と方法・表現Ⅰ (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	1年前期	担当者	永田 実穂 森下 嘉昭 (複数)
ナンバリングコード	JC-S155-110					
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修
科目	教科及び教職に関する科目(幼稚園)領域及び保育内容の指導法に関する科目					
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項					
教科目	必修科目(保育士)					
系 列	保育の内容・方法に関する科目					
授業のテーマ	3法令における領域「表現」の理解(専門知識・倫理観)、乳幼児の遊びや生活の中の素朴な表現を捉える視点の獲得(専門知識・実践力・豊かな感性・広い見識)、乳幼児の発達に応じた表現(専門知識・実践力)、乳幼児の表現を支える基礎知識・技能・環境構成の方法の理解(専門知識・技能・実践力)、表現することの楽しさを体感(豊かな感性・技能・表現力・協調性)					
授業の概要	3法令での領域「表現」の位置づけやねらい及び内容を知り、画像等で乳幼児の具体的な姿も参考にしながら、生活や遊びの中での、発達に応じた素朴な表現を受け止める視点の獲得を目指す。また、五感を通じて周囲の環境とかかわる中で表現が生まれ、遊びにつながっていく面白さを学生自身が感じながら、表現を促す環境構成などの専門的な知識・技能、表現力の基礎を身につける。さらに、様々な感覚を働かせ感じたことと思考したことを協働して表現する中で、他者の視点や表現に触れながら、より豊かな表現に展開させ創作活動を行うことで、感性や創造性に対する理解を深める。					
達成目標	1. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の位置づけを理解する。				科目DP: c	
	2. 乳幼児の遊びや生活の中から生まれる素朴な表現を捉える視点を獲得し、発達や経験に応じた表現を共感的に受け止めることができる。				DP記号	a b c d
	3. 体験を通して、表現することの楽しさを知り、乳幼児の様々な表現を支える基礎的知識・技能や環境構成の方法を身につける。					
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 3法令を踏まえた保育における領域「表現」の位置づけ(目標1) 領域「表現」に関わるねらい及び内容① 乳児～3歳未満児(目標1.2) 領域「表現」に関わるねらい及び内容② 3歳以上児(目標1.2) 表現における発達段階 表現と表出について(目標1.2) 素材とのかかわりによる表現遊び(目標1.2,3) 他者とのかかわりによる表現遊び①(身体の表現)(目標1.2,3) 他者とのかかわりによる表現遊び②(声・音の表現)(目標1.2,3) 他者とのかかわりによる表現遊び③(光と影の表現)(目標1.2,3) 色と形からの表現遊び(目標1.2,3) 総合的な表現活動の探求①(テーマ設定)(目標1.3) 総合的な表現活動の探求②(ディスカッション)(目標1.3) 総合的な表現活動の探求③(準備)(目標1.3) 総合的な表現活動の探求④(練習)(目標1.3) 総合的な表現発表(目標1.3) まとめ 子どもの表現とかかわる保育者の視点(目標1.2,3) 					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク					
成績評価基準	<p>評価の方法: レポート(30%)、毎回の振り返りシート(30%)、総合的な表現発表(20%)、授業への積極的な取り組み(20%)</p> <p>評価の基準:</p> <ul style="list-style-type: none"> ○レポート *知識・理解/思考・判断を測定 <ul style="list-style-type: none"> ・3法令の領域「表現」の位置づけを理解している。 ・授業内容を踏まえて、保育現場での自分の考えをまとめることができる。 ・子どもの素朴な表現を捉える視点を身につけている。 ○毎回の振り返りシート *知識・理解/関心・意欲を測定 <ul style="list-style-type: none"> ・3法令の領域「表現」の内容を理解し、自分の理解したこと、疑問点などを整理し、解決することができる。 ○総合的な表現発表 *思考・判断/関心・意欲/態度/技能・表現を測定 <ul style="list-style-type: none"> ・学んだ知識や技能をもとに、様々な感覚を働かせて表現を模索できる。 ・子どもの表現を支える視点を身につけている。 ○授業への積極的な取り組み *関心・意欲・態度を測定 <ul style="list-style-type: none"> ・主体的かつ協調的な態度で、意欲的に取り組むことができる。 ・自分なりの意見を持ち、積極的に質問や意見を表現できる。 					
フィードバックの方法	毎回の振り返りシートの内容を次回授業時に採り上げ、解説を加えたりディスカッションの題材とする。					
時間外の学習について	<p>予習: テキストや参考書の関係箇所を目を通す。(各回20分程度)</p> <p>復習: 授業内容の疑問点について整理する。(各回20分)</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト: 『保育内容 領域表現 日々わくわくを生きる子どもの表現』(堂本真実子編 わかば社出版)</p> <p>参考書: 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>(チャイルド本社)</p> <p>参考資料等:</p>					
担当者からのメッセージ等 実務経験について						

科目名	保育内容の理解と方法・表現Ⅱ (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	2年 後期	担当者	永田 実穂 森下 喜昭 (複数)																									
ナンバリングコード	JC-S255-110																														
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭	選択必修																									
科目	教科及び教職に関する科目(幼稚園)領域及び保育内容の指導法に関する科目																														
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項																														
教科目	必修科目(保育士)																														
系 列	保育の内容・方法に関する科目																														
授業のテーマ	3法令における領域「表現」の理解(専門知識・倫理観)、乳幼児の生活や遊びの中から子どもの表現を捉える視点を持ち、保育者の援助として展開したり環境構成を工夫したりする(専門知識・実践力・技能・豊かな感性・広い見識)子どもの表現を支える保育者の役割を理解し、自分の考えやお互いのアイディア等を、発表を通して共有する(専門知識・豊かな感性・技能・表現力・協調性)																														
授業の概要	乳幼児の生活や遊びの姿から、感性や創造性の働きの着目し、子どもの発達に応じた表現を支える環境構成等の保育者の役割について様々な角度から理解し、領域「表現」の指導に関する知識・技能、表現力を身につける。また、季節や行事などの日常生活や伝統文化と表現のかかわりを体験的に学ぶことで感性を豊かにし、表現力を身につけつつ、子どもの表現遊びへの展開を具体的実践的に学び、成果を他者と共有することで表現にかかわる専門的知識・技能を深める。																														
達成目標	1. 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の理解を深め、「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連を見出すことができる。 2. 発達や経験に応じた乳幼児の表現を共感的に受け止め、発展させることができる。 3. 乳幼児が身の回りの生活環境と関わりながら、様々な表現を生み出すことを支える基礎的知識・技能を身につけ、感性を豊かにする。					<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">科目DP: c</th> </tr> <tr> <th>DP記号</th> <th>a</th> <th>b</th> <th>c</th> <th>d</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>◎</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>◎</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	科目DP: c					DP記号	a	b	c	d			○	◎				○	◎	○		○	○	◎	○
科目DP: c																															
DP記号	a	b	c	d																											
		○	◎																												
		○	◎	○																											
	○	○	◎	○																											
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ																														
授業計画	1. 3法令における領域「表現」と「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(目標1) 2. 表現の発生と展開①(身体表現)(目標1,2,3) 3. 表現の発生と展開②(音楽表現)(目標1,2,3) 4. 表現の発生と展開③(造形表現)(目標1,2,3) 5. 季節と表現①(春・夏)(目標1,3) 6. 季節と表現②(秋・冬)(目標1,3) 7. 伝統文化に親しむ(生け花等)(目標3) 8. 児童文化と表現(目標1,2,3) 9. 行事と表現(目標1,2,3) 10. 表現を誘う遊びの環境構成①(物的環境の工夫)(目標1,2,3) 11. 表現を誘う遊びの環境構成②(環境構成の実践及び人的環境としての保育者)(目標1,2,3) 12. 子どもの表現を支える保育者の役割(目標1,2,3) 13. 保育における表現①(生活や遊びから考える)(目標1,2,3) 14. 保育における表現②(アイディアの発表・共有)(目標1,2,3) 15. 保育における表現③(アイディアの発表・共有及びフィードバック)(目標1,2,3)																														
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク																														
成績評価基準	評価の方法: レポート(30%)、毎回の振り返りシート(30%)授業内課題(20%)授業への取り組み(20%) 評価の基準: ○レポート *知識・理解/思考・判断、関心・意欲を測定 ・3法令の領域「表現」の位置づけを理解している。 ・授業内容を踏まえて、保育現場での子どもの発達に応じた表現を支える保育者の役割や展開方法を理解している。 ○毎回の振り返りシート *知識・理解/関心・意欲を測定 ・3法令の内容を理解し、自分の理解したこと、疑問点などを整理し、解決することができる ○授業内課題 *思考・判断/関心・意欲/態度/技能・表現を測定 ・子どもの表現を支える保育者の役割を理解し、生活や遊びの中から環境構成を工夫することができる ・季節や行事などの日常生活や伝統文化と表現のかかわりを体験的に学ぶことで表現力を身につけ、子どもの表現遊びを具体的に展開することができる。 ○授業への取り組み *関心・意欲/態度 ・主体的かつ協調的な態度で、意欲的に取り組むことができる ・自分なりの意見を持ち、アイディアを共有したり意見交換したりすることができる																														
フィードバックの方法	振り返りシートの内容を次回授業時に採り上げ、ディスカッションの題材とし、補足や解説を行う																														
時間外の学習について	予習: 予習: テキストや参考書の関係箇所を目を通す。(各回20分程度) 復習: 授業内容の疑問点について整理する。(各回20分)																														
教材にかかわる情報	テキスト: 『保育内容 領域表現 日々わくわくを生きる子どもの表現』(堂本真実子編 わかば社出版) 参考書: 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>(チャイルド本社) 参考資料等:																														
担当者からのメッセージ等 実務経験について																															

科目名	保育内容の理解と方法・音楽Ⅰ (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	1年前期	担当者	杉山 綾子、大筋 公子 (実務経験) (クラス分け)	
ナンバリングコード	JC-S156-010						
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭		
科目							
各科目に含めることが必要な事項							
教科目	選択必修科目(保育士)						
系列	保育の内容・方法に関する科目						
授業のテーマ	保育者として様々な幼児歌曲や遊び歌を学び、豊かな音楽表現力と基礎技能の修得を目指す。(専門的知識、技能、表現力、実践力)						
授業の概要	子どもの歌唱教材に数多く接しながら、教材の特徴や遊びの応用について研究し実践する。また歌唱の中に打楽器を取り入れることによる効果について理解を深め表現法を研究する。						
達成目標		科目DP : c					
		DP記号	a	b	c	d	
	1. 発声のしくみを知り、無理のない明るく響きのある声が出せるようになる。				◎		
	2. 正確に楽譜を読み取り、子ども達と歌う喜びを共有する感性を高める。				◎	○	
	3. 子どもの発達に応じた歌唱教材やその遊び方を知り、身につける。				◎	○	
4. 簡易打楽器を拍子、リズムに合わせて鳴らしながら豊かに歌うことができる。				◎	○		
5. 手づくり楽器や簡易打楽器を歌や合奏への表現方法や取り入れ方を工夫し身につける。				◎	○		
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの発達と音楽表現 (目標 1,3) 2. 幼児歌曲・あそびうた・ダルクローズ・コダーイ・オルフの音楽教育 (目標 1,3) 3. 幼児歌曲・(3拍子のリズム)・あそびうた (目標 1,2,3) 4. 幼児歌曲・あそびうた・ボディパーカッション (目標 2,3,4) 5. 幼児歌曲・手あそびうた (目標 2,3) 6. 幼児歌曲・あそばせうた(見せる) (目標 2,3) 7. 幼児歌曲・あそびうた・オノマトペ (目標 2,3) 8. 幼児歌曲・あそばせうた(くすぐる) (目標 2,3) 9. 幼児歌曲・あそばせうた(隠れる)・音あそび(カスタネット・鈴) (目標 3,4) 10. 幼児歌曲・あそばせうた(揺れる)・音あそび(タンブリン・トライアングル) (目標 3,4) 11. あそばせうた(揺れる)・音あそび(小太鼓・大太鼓) (目標 2,5) 12. あそばせうた(手をとる)・楽器作り (目標 2,5) 13. あそばせうた(身体を動かす)・グループアンサンブルの中での手づくり楽器 (目標 2,4,5) 14. あそばせうた(真似る) (目標 2,3) 15. 簡易打楽器と歌による発表 (目標 4,5) ◎定期試験						
アクティブ・ラーニング	模擬保育 ロールプレイ						
成績評価基準	評価の方法：歌唱試験(40%) 提出物(40%) 授業への取り組み(20%) 評価の基準：○歌唱試験 *知識・理解・技能・表現の測定 ・正しく読譜し、表情豊かに歌える ・遊び歌、わらべうたを覚えて、表現豊かに行うことができる ○提出物 *知識・理解・判断、関心・意欲の測定 ・手作り楽器の活用方法を考えて制作する ・学習曲のポイント等がノートに整理できる ○授業への取り組み *関心・意欲・態度・技能・表現の測定 ・しっかり予習・練習・復習をして授業に参加することができる						
フィードバックの方法	ノートに助言を記して返却する。表現活動を豊かにするためのポイントをアドバイスする。						
時間外の学習について	予習：次の授業で学習する曲の調性、拍子、詩をノートに書き出し、歌い方等の気付きや疑問点を考える。(各回30分程度) 復習：概習曲のポイント等をノートに整理して、いつでも歌えるように練習する。(各回30分程度)						
教材にかかわる情報	テキスト：「幼稚園・保育所・家庭で楽しくうたあそび123」河北邦子・坂本久美子編著 ミネルヴァ書房 参考書：「幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集」本廣明美・加藤照恵共編 ドレミ楽譜出版社、「保育者のためのリズム遊び」木許隆 高倉秋子 高橋一行 三縄公一編著 音楽之友社 参考資料：						
担当者からのメッセージ等実務経験について	子どもたちと共感できるよう、遊びを通して歌や音、リズムを楽しみましょう。 杉山…短期大学児童教育学科や専門学校でのピアノと声楽の指導経験：実務経験をもとに、音楽の基礎、楽典、声楽や器楽の理解と方法について授業をします。 大筋…養護学校、高等学校等(音楽)教師の経験：実務経験をもとにピアノや歌唱の指導を行います。						

科目名	保育内容の理解と方法・音楽Ⅱ (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	1年後期	担当者	杉山 綾子、大筋 公子 (実務経験) (クラス分け)
ナンバリングコード	JC-S157-010					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	選択必修科目(保育士)					
系列	保育の内容・方法に関する科目					
授業のテーマ	保育者として、必要な音楽表現力を身につけ、保育の場と念頭に置きながらさまざまな音楽表現活動の過程で、豊かな感性や創造性を培う。(専門的知識、技能、豊かな感性、表現力、実践力)					
授業の概要	幼児歌曲や合奏、ドラムジカを通して音楽表現活動の楽しさや奥深さを知り、指導法を研究する。					
達成目標	1. さまざまな幼児歌曲を歌ったり、合奏することで子ども達と共有する喜びを培い、レパートリーを増やす。					科目DP: c DP記号 a b c d ◎ ○
	2. 楽器の正しい使い方を知り、活用法を身につける。					◎ ○
	3. 合奏の中で個々の楽器の響きや音色に、深く耳を傾け調和の美しさや音楽表現を追求する力を身につける。					○ ◎ ○
	4. さまざまな音楽表現活動に必要な歌唱法、演奏法、編曲法、指導法を理解し、グループでドラムジカを体験する。					◎ ○
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ					
授業計画	1. 幼児歌曲 (目標 1) 2. 幼児歌曲と合奏 (打楽器) (目標 1,2,3) 3. 幼児歌曲、「吹く」ということの考察 (鍵盤ハーモニカ) (目標 1,2) 4. 鍵盤ハーモニカによる合奏 (目標 2,3) 5. 幼児歌曲、音あそび (木琴・鉄琴) (目標 1,2) 6. 幼児歌曲と合奏 (鍵盤ハーモニカ・木琴・鉄琴・打楽器) (目標 1,2,3) 7. 合奏「細田式合奏編曲法」・指揮法 (目標 4) 8. 合奏編曲法の基本 (目標 4) 9. ドラムジカ (表現あそび) の作り方 (目標 4) 10. グループ作り、選曲と台本制作 (目標 1,4) 11. 楽器と配役の確認と練習 (目標 1,3,4) 12. 小道具等の制作と練習 (目標 1,2,3,4) 13. 編曲と練習 (目標 1,2,3,4) 14. グループ別リハーサルと改善点の練習 (目標 1,2,3,4) 15. グループ発表会と振り返り (目標 3,4) ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング	グループワーク ロールプレイ					
成績評価基準	評価の方法: グループによる発表 (40%) 台本楽譜 (20%) 提出物 (20%) 授業への取り組み (20%) 評価の基準: ○グループによる発表 *知識・理解、思考・判断、技能・表現の測定 ・音楽的な知識やアイデアを用いて、共同的にグループ活動を行うことができる ○台本楽譜 *知識・理解、関心、思考・判断の測定 ・保育現場 (実習) にふさわしい音楽表現活動として、ドラムジカ台本や楽譜を作ることができる ○提出物 *知識・理解、判断、関心・意欲の測定 ・学習曲のポイント等がノートに整理できる。 ○授業への取り組み *知識・理解、関心・意欲・態度、表現の測定 ・グループ活動において、主体的・積極的に取り組むことができる					
フィードバックの方法	より豊かな表現をするためのポイントや活用法等をアドバイスする。					
時間外の学習について	予習: 次の授業で学習する幼児歌曲にどう器楽を活用できるか案をノートに書き出す。 (各回30分程度) 復習: 実践した概習曲の活用法やポイントをノートに整理し、いつでも歌えたり取り出せるように練習する。(各回30分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト: 授業中に配布する。 参考書: 古江綾子「がっきとあそぼう」チャイルド本社 高橋正夫「幼児のうたとアンサンブル」チャイルド本社 伊藤嘉子監修「こどもの歌から広がる音楽表現」共同音楽出版社 細田淳子「わくわく音遊びでかんたん発表会」すずき出版 参考資料:					
担当者からのメッセージ等実務経験について	保育の現場では歌唱と器楽演奏は一体です。表現活動を豊かにするため、実践的な技術を磨いていきましょう。 杉山…短期大学児童教育学科や専門学校でのピアノと声楽の指導経験:実務経験をもとに、音楽の基礎、楽典、声楽や器楽の理解と方法について授業をします。 大筋…養護学校、高等学校等(音楽)教師の経験:実務経験をもとにピアノや歌唱の指導を行います。					

科目名	保育内容の理解と方法・造形Ⅰ (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	1年後期	担当者	難波 章人 (単独)
ナンバリングコード	JC-S158-010					
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	選択必修科目 (保育士)					
系 列	保育の内容・方法に関する科目					
授業のテーマ	造形表現活動に必要な知識や技術を実践的に習得する (専門的知識、技能、実践力)					
授業の概要	<p>○子どもの発達、特に手の発達について、可塑性の高い紙を使った造形表現活動を通して考える。また、同時に基本的な材料・用具の特性や正しい使い方について実践的に習得する。</p> <p>○ものの色や形、重さや感触等に関心を持つ。</p> <p>○子どもを対象とした表現媒体の制作を行い、保育現場での実習 (保育所2日間見学・課題実習) で使用して、活用方法や具体的展開のための技術を習得する。なお、演じ方、活かし方については保育内容の理解と方法・言葉で学ぶ。</p>					
達成目標	1. 子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な造形表現の知識や技術を習得する。				科目DP : c	
	2. 造形素材としての紙の特性や扱い方 (関連する材料・用具を含む) を習得する。				DP記号	a b c d
	3. 色や形を活かした表現媒体の制作を通して、特徴や制作方法を理解し、実践を通して表現力や活用技術を習得する。					
	4. 学んだことを記録し、知識や技術の定着を図ると共に、振り返る意味を理解し、分かり易くまとめる技術を習得する					
履修条件・注意事項	5/4以上の出席を単位認定の条件とします。また、道具類は各自で用意していただきます。授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<p>1. 紙を使った造形表現活動①【折り紙の基本】、スケッチブックの表紙の制作①【紙芝居画面の選択】 (目標 1,2)</p> <p>2. 紙を使った造形表現活動②【切り紙の技法・はさみの使い方】、スケッチブックの表紙の制作②【模写】 (目標 1,2)</p> <p>3. 紙を使った造形表現活動③【折り切り紙】、スケッチブックの表紙の制作③【着色】 (目標 1,2)</p> <p>4. 紙を使った造形表現活動④【画用紙:お話ちぎり絵、パンフレット:紙帯を使った制作】 (目標 1,2)</p> <p>5. 新聞紙を使った造形活動①【新聞紙の特性】 (目標 2)</p> <p>6. 新聞紙を使った造形活動②【可塑性を活かした制作・帽子を作る】 (目標 1,2)</p> <p>7. ペーパーサートの制作①【基本的な作り方・自己紹介】、張り子人形の制作①【張り子の技法】 (目標 2,3)</p> <p>8. ペーパーサートの制作②【色】、張り子人形の制作②【耳・鼻を作る】 (目標 2,3)</p> <p>9. ペーパーサートの制作③【形】、張り子人形の制作③【着色】 (目標 2,3)</p> <p>10. ペーパーサートの制作④【食材・料理】、ミニ舞台の制作 (目標 2,3)</p> <p>11. 張り子人形の制作④【化粧・ニス】 (目標 1,2)</p> <p>12. 張り子人形の制作⑤【組み立て】 (目標 1,2)</p> <p>13. 紙を使った造形活動⑥【牛乳パックの加工方法】 (目標 2)</p> <p>14. 紙を使った造形活動⑦【牛乳パック・段ボールを使った玩具の制作】 (目標 2,3)</p> <p>15. 造形活動 (手指を使う意味を含む) の意義、お店屋さんごっこ大会の開催目的 (目標 1,4)</p>					
アクティブ・ラーニング	フィールドワーク					
成績評価基準	<p>評価の方法：授業内での制作作品 (50%)、授業記録 (50%)</p> <p>評価の基準：○授業作品 *技能・表現、関心・意欲の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用具の正しい使い方ができる ・対象である子どもをイメージした表現ができる ・材料の特性を生かし、向上心を持って取り組むことができる <p>○授業記録 *知識・理解、関心・意欲の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形表現活動に必要な知識や技術が理解できている ・授業中の学びだけでなく、自ら調べたり取り組んだ事項を記録している 					
フィードバックの方法	作品や活動の様子を撮影し、その都度プリントにして返却する。期末に提出するスケッチブック (授業のまとめや制作や体験の振り返り) については、チェック表 (授業開始時に配布) に基づき評価し、コメントを記入して返却する。					
時間外の学習について	予習：授業予定表を事前に読み、授業内容を理解した上で授業に臨む。(15分) 復習：授業内容の記録を通して、振り返りを行い、知識や技術の定着を図る。(45分)					
教材にかかわる情報	テキスト・参考書：使用しない 参考資料：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領					
担当者からのメッセージ等実務経験について	指定した材料や用具は、各自が必ず準備して授業に臨んでください					

科目名	保育内容の理解と方法・造形Ⅱ (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	2年前期	担当者	難波 章人 (単独)
ナンバリングコード	JC-S259-010					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	選択必修科目(保育士)					
系 列	保育の内容・方法に関する科目					
授業のテーマ	様々な造形素材・表現媒体についての知識と技術を習得すると共に、コミュニケーション能力を養う。 (専門的知識、技能、表現力、創造性、コミュニケーション力)					
授業の概要	子どもの経験や様々な表現活動と造形表現とを結びつける遊び(ごっこ遊び)を題材として取り上げる。『お店屋さんごっこ大会』を通して、様々な造形素材の特徴や活用方法、そして子どもの発達(興味や関心)について学ぶと共に、コミュニケーション能力を養う。実習で使用することを目的とした表現媒体の制作を通して、子どもの表現活動を引き出す教材の活用方法について学ぶ。なお、制作した表現媒体の演じ方、活かし方については言葉の指導法で学ぶ。					
達成目標						科目DP: c
						DP記号
						a b c d
	1. 子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な造形表現の知識や技術を習得する。					<input type="checkbox"/>
	2. 様々な造形素材の特性や扱い方(関連する材料・用具を含む)を習得する。					<input type="checkbox"/>
3. 協働意識やお買い物ごっこ遊びを展開する力(対象の子どもの理解する力やコミュニケーション力を含む)を習得する。					<input type="checkbox"/>	
4. 表現媒体の制作を通して、特徴や制作方法を理解し、実践を通して表現力や活用技術を習得する。					<input type="checkbox"/>	
5. 学んだことを記録し、知識や技術の定着を図ると共に、振り返る意味を理解し、分かり易くまとめる技術を習得する					<input type="checkbox"/>	
履修条件・注意事項	保育表現技術・造形Ⅰの単位を修得していること。4/5以上の授業に出席していることを単位認定の要件とします。 授業の実施方法:①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. お店屋さんごっこ大会①【商品の試作・廃材の特性理解】(目標 1,2) 2. お店屋さんごっこ大会②【商品の制作】(目標 1,2,4) 3. お店屋さんごっこ大会③【チラシ・商品説明の制作】(目標 2) 4. お店屋さんごっこ大会④【看板や店舗の制作】(目標 1,2) 5. お店屋さんごっこ大会⑤【店舗の制作・商品の飾り付け】(目標 1,2,3) 6. お店屋さんごっこ大会⑥【販売】(目標 1,2,3) 7. お店屋さんごっこ大会⑦【振り返り】、パネルシアター①【絵人形の作り方】(発泡スチロールを使った棒人形(鬼)の制作①【アイディアスケッチ・発泡スチロールの特性】(目標 2,4,5) 8. 発泡スチロールを使った棒人形の制作②【カービングの技法】(目標 2,4) 9. 発泡スチロールを使った棒人形の制作③【奉書紙貼り】パネルシアター②【絵人形の縁取り・切断、ハンドパネルの制作】(目標 2,4) 10. 発泡スチロールを使った棒人形の制作④【着色・化粧】、パネルシアター③【絵人形の着色】(目標 2,4) 11. 発泡スチロールを使った棒人形の制作⑤【ニス塗・髪の毛】、パネルシアター④【絵人形の縁取り・切断・仕掛け】(目標 2,4) 12. 発泡スチロールを使った棒人形の制作⑥【組み立て】、パネルシアター⑤【仕掛け】(目標 2,4) 13. パネルシアター⑥【応用舞台制作・舞台の使い方】(目標 2,4) 14. 木片を使った造形活動【基本的な活動】(目標 1,2) 15. 木の実・木の葉を使った自画像・ネームプレートの制作、まとめ【手を使う意味・造形素材や用具の特性・実践をとおして学ぶ意味】(目標 1,2,5) 					
アクティブ・ラーニング	グループワーク、フィールドワーク					
成績評価基準	<p>評価の方法: 授業内での制作作品(50%)、授業記録(50%)</p> <p>評価の基準:</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業作品 *技能・表現、関心・意欲の測定 <ul style="list-style-type: none"> ・材料や用具の特性を生かし、対象である子どもをイメージした表現や制作ができる ・子どもの笑顔をイメージして、向上心や協調性を持って取り組むことができる ○授業記録 *知識・理解、関心・意欲の測定 <ul style="list-style-type: none"> ・材料や用具の特性や活用方法を記録に留めておくことができる ・自ら学んだことや他の学生やグループなどから学んだことを記録に留めておくことができる 					
フィードバックの方法	作品や活動の様子を撮影し、その都度プリントにして返却する。期末に提出するスケッチブック(授業のまとめや制作や体験の振り返り)については、チェック表(授業開始時の配布)に基づき評価し、コメントを記入して返却する。					
時間外の学習について	予習: テキストを事前に読み、授業内容を理解した上で授業に臨む。(15分) 復習: 授業内容の記録を通して、振り返りを行い、知識や技術の定着を図る。(45分)					
教材にかかわる情報	テキスト・参考書: 使用しない 参考資料: 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領					
担当者からのメッセージ等実務経験について	指定した材料や用具は、各自が必ず準備して授業に臨んでください					

科目名	保育内容の理解と方法・言葉 (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	1年前期	担当者	津田 恵子 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JC-S154-110					
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修
科目	教科及び教職に関する科目(幼稚園)領域及び保育内容の指導法に関する科目					
各科目に含めることが必要な事項	領域に関する専門的事項					
教科目	必修科目(保育士)					
系列	保育の内容・方法に関する科目					
授業のテーマ	幼児の言語について専門的知識の理解及び言語指導の技術を修得する。(専門的知識、技能、広い見識)					
授業の概要	乳幼児の言葉の表現を豊かに広げるための専門知識を理解し、保育者としての言語表現技術の基礎的知識、及び必要な技術を、演習を通して身に付ける。 また、言語表現活動に係る児童文化財等の指導理論や技術を習得する。					
達成目標						科目DP:c
						DP記号
						a b c d
	1. 乳幼児の言葉の発達過程を理解し、言葉の意義や機能等の専門的知識を習得する。					◎ ○
	2. 乳幼児の言葉の表現能力の実態に基づき、言葉に対する感覚をより豊かにする遊び等の適切な指導について、実践的に身に付ける。					◎ ○
3. 乳幼児にとっての児童文化財(絵本、お話、紙芝居等)について、基礎的な知識を身に付け、意義を理解する。					○ ◎ ○	
4. 保育者としての言語表現技術、実践的に習得する。					◎ ○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法:①面接授業のみ					
授業計画	1. 乳幼児期の言語の発達過程や特性について①【音声からコミュニケーションへ】(目標1,2)					
	2. 乳幼児期の言語の発達過程や特性について②【一語文、二語文から多語文へ】(目標1,2)					
	3. 発達に応じた言葉による伝え合い①【発声と発音、挨拶や返事等の基本的事項について】(目標1,2)					
	4. 発達に応じた言葉による伝え合い②【聞き方・尋ね方・聞き返し方の基本的事項について】(目標1,2)					
	5. 言葉への興味を豊かにする遊び【しりとり、なぞなぞなど】(目標2,3)					
	6. 文字への興味を豊かにする遊び【読み聞かせ、かるたなど】(目標2,3)					
	7. 3法令における領域「言葉」のねらい及び内容について(目標4)					
	8. 言葉の楽しさの体験的理解①【乳児～2・3歳児の実態を踏まえた紙芝居の意義と演じ方】(目標3,4)					
	9. 言葉の楽しさの体験的理解②【4・5歳児の実態を踏まえた紙芝居の意義と演じ方】(目標3,4)					
	10. 言葉の感覚を豊かにする児童文化財①【人形劇(張り子人形)の特性と演じ方】(目標3,4)					
	11. 言葉の感覚を豊かにする児童文化財②【人形劇(ペープサート)の特性と演じ方】(目標3,4)					
	12. 読み聞かせの基礎理論【幼児に対する読み聞かせ】(目標4)					
	13. 言葉から想像する楽しさについて①【素話の基礎的知識・お話作り】(目標4)					
	14. 言葉から想像する楽しさについて②【素話の話し方、演じ方。ストーリーテリング】(目標4)					
	15. 幼児の演劇指導の基本的知識【事例を通して言葉の表現の意義や機能について学ぶ】(目標2,4)					
アクティブ・ラーニング	グループワーク					
成績評価基準	評価の方法:まとめレポート50% 授業内レポート20% 指定教材の実演評価20% 授業への取り組み10%					
	評価の基準:○まとめレポート及び授業内レポート *知識・理解・思考・表現力の測定 ・授業を通して学んだことを基に、保育内容(言葉)の知識・理解・思考・表現力が身につけている。					
	○指定教材の実演評価 *関心・意欲・思考・表現力の測定 ・意欲的に実演に取り組み、表現技術を習得し、発表することができる。 ○授業への取り組み *関心・意欲・態度を測定 ・真摯な態度で、保育内容(言葉)に関する学びに積極的に取り組むことができる。					
フィードバックの方法	課題回収後、返却時に解説を行う。また、レポートにコメントを返し、良かったところや今後の課題等を示す。 個別の質問に対して、オフィスアワー等で対応する。					
時間外の学習について	予習:各回の授業内容を把握しておく。絵本や表現媒体の研究をする。(30分) 復習:配布された資料をまとめて復習をする。(ファイルに綴じる)、授業の振り返りをしておく。(30分)					
教材にかかわる情報	テキスト:特に使用しませんが、毎回、レジюмеを配布します。 参考書:『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 参考資料:絵本・紙芝居・DVD等。『保育者のための言語表現の技術』(古橋)和夫編著、萌文書林出版(2019)					
担当者からのメッセージ等実務経験について	紙芝居等の実演について、積極的に取り組み、保育技術を習得しましょう。 幼稚園教諭経験:実務経験をもとに、保育者としての言語表現技術について話をします。					

科目名	音楽基礎 (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	1年前期	担当者	永田 実穂 他 (クラス分け)
ナンバリングコード	JC-S161-000					
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	音楽に関する専門的知識の基礎と鍵盤楽器による伴奏づけの基礎技術を習得する。(専門的知識、技能、実践力)					
授業の概要	読譜に必要な楽典の基礎知識、およびハ長調、ト長調、ヘ長調のメロディの初見演奏とコードネーム等による簡単な伴奏づけを学ぶ。鍵盤経験により1クラスを2グループに分けて授業を行う。					
達成目標		科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 音符や、記号、コードネーム、音楽用語など基礎的な楽典の知識を習得する。				◎	
	2. リズム感や読譜力を身につける。		○		◎	
	3. 鍵盤楽器による簡易伴奏の方法を理解する。				◎	
4. 鍵盤楽器の保育現場での活用法を知り実践力をつける。			○	◎	○	
5. 初見演奏に慣れ実践力をつける。				◎	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<p>1. 音楽の基礎知識 (1) 1.音部記号 2.階名 3.五線譜と鍵盤の関係 4.臨時記号 5.音名 ハ長調の音階と和音 (I・IV・V・V7) (目標1~4)</p> <p>2. 音楽の基礎知識 (2) 6.小節 7.音符 8.休符 ハ長調の伴奏づけ演習 (1) (I・V・V7) (目標1~4)</p> <p>3. 音楽の基礎知識 (3) 9.拍子 ハ長調の伴奏づけ演習 (2) (I・IV・V・V7, いろいろな伴奏形) (目標1~4)</p> <p>4. 音楽の基礎知識 (4) 10.演奏の順序 ハ長調の伴奏づけ演習 (3) (いろいろなリズム) (目標1~4)</p> <p>5. 音楽の基礎知識 (5) 11.いろいろな記号 ハ長調の伴奏づけ演習 (4) (移旋) (目標1~4)</p> <p>6. 音楽の基礎知識 (6) 12. 長調と短調 小テスト1 (ハ長調の伴奏づけ) 和音記号とコードの関係 ト長調の音階と和音 (目標1~4)</p> <p>7. 音楽の基礎知識 (7) 確認問題 ト長調の伴奏づけ演習 (1) (目標1~4)</p> <p>8. 小テスト2 (音楽の基礎知識) ト長調の伴奏づけ演習 (2) (目標1~4)</p> <p>9. 小テスト3 (ト長調の伴奏づけ) ヘ長調の音階と和音 (目標1~4)</p> <p>10. ヘ長調の伴奏づけ演習 (1) (目標1~4)</p> <p>11. ヘ長調の伴奏づけ演習 (2) (目標1~4)</p> <p>12. 小テスト4 (ヘ長調の伴奏づけ) コードネーム (英米音名と根音) (目標2~5)</p> <p>13. コードネーム (2) コードの仕組み (目標2~5)</p> <p>14. コードネーム (3) 伴奏づけ (目標2~5)</p> <p>15. 小テスト5 (コード筆記) コードネームによる伴奏づけ (目標2~5)</p> <p>定期試験</p>					
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション					
成績評価基準	<p>評価の方法：小テスト60%、定期試験30%、授業への取り組み10%</p> <p>評価の基準：○小テスト *知識・理解の定着度を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必修課題を正しく演奏することができる。 ・初見メロディに合う伴奏和音を記入することができる。また、演奏することができる。 ・基礎的な楽典を理解し解答できる。 <p>○定期試験 *知識・理解/技能表現の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コードネーム付き初見メロディを演奏し、伴奏をつけることができる。 <p>○授業への取り組み *関心・意欲の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲を持って積極的に参加する。 					
フィードバックの方法	小テストごとに解答を示し、理解不足については個人指導を行う。					
時間外の学習について	<p>予習：学習計画表を参考に、伴奏づけを練習する。</p> <p>復習：音楽の基礎知識の学習と、授業で行った伴奏づけを反復練習する。 (毎日20分程度、予習・復習をすること)</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト：本廣明美・加藤照恵編「幼稚園・保育園のうた ピアノ伴奏曲集」(ドレミ楽譜出版社)、加藤照恵・本廣明美編「ぴあのちゃんのピアノ即興入門」(ドレミ楽譜出版社)、副教材(音楽の基礎知識)</p> <p>参考書： 参考資料：</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について	音楽の基礎を楽しく学び応用できるように頑張りましょう。					

科目名	保育ピアノⅠ (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	1年前期	担当者	杉山 綾子 他 (クラス分け)
ナンバリングコード	JC-S191-001					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	ピアノの基礎的な知識・技術を学び、ピアノ曲や弾き歌い曲を表現力豊かに演奏する。(専門的知識、技能、表現力)					
授業の概要	各自の音楽経験や技術レベルに合わせたグレード別カリキュラムにより学習を進める、個人レッスン授業である。ピアノ曲と季節の弾き歌い曲を学習しながら、音楽の基礎的知識(音符、拍子、調、奏法など)や技術を習得する。また、保育への活用法について考える。					
達成目標						科目DP: c
						DP記号
	1. グレード別カリキュラムのピアノ曲が表現力豊かに演奏できる。					a b c d
	2. 課題となっている子どもの歌が弾き歌いできる技術を身につける。					○ ○ ◎ ○
	3. 音楽の基礎的な知識を習得する。					○ ○ ◎ ○
4. 曲へのイメージを持ち、豊かな演奏表現をすることができる。					○ ○ ◎ ○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ					
授業計画	1. オリエンテーション・弾き歌い曲確認	(目標2)				
	2. ピアノ曲: 基礎的な動き(歩く奏法)	弾き歌い1(春の歌)	(目標 1,2,3,4)			
	3. ピアノ曲: 基礎的な動き(歩く表現)	弾き歌い1(春の歌)	(目標 1,2,3,4)			
	4. ピアノ曲: 基礎的な動き(走る奏法)	弾き歌い2(春の歌)	(目標 1,2,3,4)			
	5. ピアノ曲: 基礎的な動き(走る表現)	弾き歌い2(春の歌)	(目標 1,2,3,4)			
	6. ピアノ曲: 基礎的な動き(とぶ奏法)	弾き歌い3(春の歌)	(目標 1,2,3,4)			
	7. ピアノ曲: 基礎的な動き(とぶ表現)	弾き歌い3(春の歌)	(目標 1,2,3,4)			
	8. ピアノ曲: 基礎的な動き(ゆれる奏法)	弾き歌い試験1(弾き歌い1~3より2曲を選択)	(目標 1,2,3,4)			
	9. ピアノ曲: 基礎的な動き(ゆれる表現)	弾き歌い4(夏の歌)	(目標 1,2,3,4)			
	10. ピアノ曲: 定期試験曲決め	弾き歌い4(夏の歌)	(目標 1,2,3,4)			
	11. ピアノ曲: 試験曲 読譜	弾き歌い5(夏の歌)	(目標 1,2,3,4)			
	12. ピアノ曲: 試験曲 奏法(右手・左手)	弾き歌い5(夏の歌)	(目標 1,2,3,4)			
	13. ピアノ曲: 試験曲 奏法(両手)	弾き歌い6(夏の歌)	(目標 1,2,3,4)			
	14. ピアノ曲: 試験曲 表現(拍子・フレーズ・テンポ)	弾き歌い6(夏の歌)	(目標 1,2,3,4)			
	15. ピアノ曲: 試験曲 仕上げ	弾き歌い試験曲(弾き歌い4~6より2曲を選択)	(目標 1,2,3,4)			
定期試験						
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション					
成績評価基準	評価の方法: ピアノ曲演奏(60%) 弾き歌い演奏(20%) イメージペイント発表(10%) 授業への取り組み(10%)					
	評価の基準: ○ピアノ曲演奏 *知識・理解/技能表現の測定 ・正しく読譜し演奏できる。 ・曲の特徴や雰囲気をつかみ表情豊かに表現できる。 ○弾き歌い演奏 *技能表現の測定 ・大きい声を出して歌える。 ・ピアノ伴奏しながら歌うことができる。 ○イメージペイント *関心・意欲/知識・理解の測定 ・曲に対するイメージを持ちストーリーを作る。 ○授業への取り組み *関心・意欲の測定 ・時間をかけて十分な練習をしている。					
フィードバックの方法	より豊かな表現をするためのポイントや練習方法についてアドバイスする。					
時間外の学習について	予習: レッスンが受けられるように十分な練習をする。 復習: 既習曲(ピアノ曲・弾き歌い曲)は、保育現場で実践できるよう弾いておく。 (予習・復習に毎日40~60分)					
教材にかかわる情報	テキスト: 「ピアノ名曲でこどもとあそぼう」「基礎から学べるピアノ1, 2, 3」「幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集」(ドレミ楽譜出版社) 参考書: 「ぴあのちゃんのピアノ即興入門」(ドレミ楽譜出版社) 参考資料: 「楽しくうたあそび123」(ミネルヴァ書房)					
担当者からのメッセージ等実務経験について	ピアノの上達に近道はありません。毎日の練習を欠かさない地道な努力が必要です。					

科目名	保育ピアノⅡ (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	1年 後期	担当者	杉山 綾子 他 (クラス分け)
ナンバリングコード	JC-S192-001					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系 列						
授業のテーマ	ピアノの基礎知識・技術 弾き歌い 豊かな表現力					
授業の概要	各自の音楽経験や技術レベルに合わせたグレード別カリキュラムにより学習を進める個人レッスン授業である。ピアノ曲と季節の弾き歌い曲(主に秋冬の歌)を学習しながら、音楽の基礎的知識や演奏技術を習得し表現力豊かに演奏する。また、実習において活用できるように準備する。					
達成目標						科目DP:c
						DP記号
						a b c d
達成目標	1. グレード別カリキュラムによるピアノ曲・弾き歌い曲を表現力豊かに演奏できる。 2. 音楽の基礎的な知識を習得する。 3. 学んだピアノ曲や弾き歌いを、実習で実践できる力を身につける。					<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/>
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. オリエンテーション・夏休み弾き歌い課題曲の確認(生活の歌)(目標1,3) 2. ピアノ曲：自由表現(動物)奏法 弾き歌い：試験1(夏休み課題曲)(目標1,2,3) 3. ピアノ曲：自由表現(動物)表現 弾き歌い1：秋の歌(メロディ奏、歌唱)(目標1,2,3) 4. ピアノ曲：自由表現(乗り物)奏法 弾き歌い1：秋の歌(伴奏表現)(目標1,2,3) 5. ピアノ曲：自由表現(乗り物)表現 弾き歌い2：秋の歌(メロディ奏、歌唱)(目標1,2,3) 6. ピアノ曲：自由表現(感情)奏法 弾き歌い2：秋の歌(伴奏表現)(目標1,2,3) 7. ピアノ曲：自由表現(物語)表現 弾き歌い3：秋の歌(メロディ奏、歌唱)(目標1,2,3) 8. ピアノ曲：自由表現(物語)奏法 弾き歌い3：秋の歌(伴奏表現)(目標1,2,3) 9. ピアノ曲：自由表現(物語)表現 弾き歌い試験2(弾き歌い1～3より2曲を選択) (目標1,2,3) 10. ピアノ曲：定期試験曲決め 弾き歌い4：冬・行事の歌(メロディ奏、歌唱)(目標1,2,3) 11. ピアノ曲：試験曲 読譜 弾き歌い4：冬・行事の歌(伴奏表現)(目標1,2,3) 12. ピアノ曲：試験曲 奏法(右手・左手) 弾き歌い5：冬・行事の歌(メロディ奏、歌唱)(目標1,2,3) 13. ピアノ曲：試験曲 奏法(両手) 弾き歌い5：冬・行事の歌(伴奏表現)(目標1,2,3) 14. ピアノ曲：試験曲 表現(拍子・フレーズ、テンポ) 弾き歌い6：冬・行事の歌(メロディ奏、歌唱)(目標1,2,3) 15. ピアノ曲：試験曲 仕上げ 弾き歌い6：冬・行事の歌(伴奏表現)(目標1,2,3) 定期試験					
アクティブ・ラーニング	ロールプレイ					
成績評価基準	評価の方法：ピアノ曲演奏(60%) 弾き歌い演奏(30%) 授業への取り組み(10%) 評価の基準：○ピアノ曲演奏 *知識・理解/技能表現の測定 ・正しく読譜し演奏できる。 ・曲の特徴や雰囲気をつかみ表情豊かに表現できる。 ○弾き歌い演奏 *技能表現の測定 ・大きい声を出して歌える。 ・ピアノ伴奏しながら歌うことができる。 ・歌詞の理解をして表情豊かに演奏できる。 ○授業への取り組み *関心・意欲の測定 ・時間をかけて十分な練習をしている。					
フィードバックの方法	より豊かな表現をするためのポイントや練習方法についてアドバイスする。					
時間外の学習について	予習：レッスンが受けられるように十分な練習をする。 復習：既習曲(ピアノ曲・弾き歌い曲)は、保育現場で実践できるよう弾いておく。 (予習・復習に毎日40～60分)					
教材にかかわる情報	テキスト：「ピアノ名曲でこどもとあそぼう」「基礎から学べるピアノ1, 2, 3」「幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集」(ドレミ楽譜出版社) 参考書：「びあのちゃんのピアノ即興入門」(ドレミ楽譜出版社) 参考資料：「楽しくうたあそび123」(ミネルヴァ書房)					
担当者からのメッセージ等実務経験について	ピアノの上達に近道はありません。毎日の練習を欠かさない地道な努力が必要です。					

科目名	保育ピアノⅢ (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	2年 前期	担当者	杉山 綾子 他 (クラス分け)
ナンバリングコード	JC-S291-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	保育現場で使える弾き歌い曲のレパートリーを持つ。ピアノ演奏技術を高める。表現力豊かに演奏する。(専門的知識、技能、表現力、実践力)					
授業の概要	各自の音楽経験や技術レベルに合わせたグレード別カリキュラムにより学習を進め、ピアノ演奏力を身につける。弾き歌いの力を高めレパートリーを増やししながら、保育現場で必要な実践力を養う。					
達成目標		科目DP : c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 保育現場で必要なピアノ演奏と弾き歌いの技術を習得する。		○		◎	
	2. 課題となっている子どもの歌の歌詞・メロディ・リズムなどの特徴やおもしろさなどを理解する。			○	◎	
	3. 子どもに指導することを念頭において、表情豊かに演奏できる。				◎	○
4. 学んだピアノ曲や弾き歌いを実習で実践できる力を身につける。		○		◎	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<p>1. オリエンテーション・春休み弾き歌い課題曲の確認 (目標 1,2,3)</p> <p>2. 弾き歌い試験1 (春休み課題曲) 弾き歌い1 (春の歌・いろいろな歌) (目標 1,2,3)</p> <p>3. 弾き歌い1 (春の歌・いろいろな歌) メロディ奏、メロディ唱 ピアノ曲 選曲 (目標 1,2,3)</p> <p>4. 弾き歌い2 (春の歌・いろいろな歌) 伴奏 ピアノ曲 読譜 (目標 1,2,3)</p> <p>5. 弾き歌い3 (春の歌・いろいろな歌) 伴奏唱 ピアノ曲 奏法 (右手) (目標 1,2,3)</p> <p>6. 弾き歌い4 (春・夏・いろいろな歌) 表現法 ピアノ曲 奏法 (左手) (目標 1,2,3)</p> <p>7. 弾き歌い5 (春・夏・いろいろな歌) 活用法 ピアノ曲 奏法 (両手) (目標 1,2,3)</p> <p>8. 弾き歌い5 (春・夏・いろいろな歌) 5曲の仕上げ ピアノ曲 表現 (拍子) (目標 1,2,3)</p> <p>9. 弾き歌い試験2 (弾き歌い1～5より2曲を選択) (目標 1,2,3,4)</p> <p>10. 弾き歌い6 (夏の歌・いろいろな歌) ♫ ピアノ曲 表現 (フレーズ) (目標 1,2,3)</p> <p>11. 弾き歌い7 (夏の歌・いろいろな歌) ♫ ピアノ曲 表現 (全体) (目標 1,2,3)</p> <p>12. 弾き歌い8 (夏の歌・いろいろな歌) ♫ ピアノ曲 仕上げ (テンポ) (目標 1,2,3)</p> <p>13. 弾き歌い9 (夏の歌・いろいろな歌) ♫ ピアノ曲 仕上げ (弾き込み) (目標 1,2,3)</p> <p>14. 弾き歌い10 (夏の歌・いろいろな歌) ♫ ピアノ曲 仕上げ (グループで弾き合い) (目標 1,2,3)</p> <p>15. 弾き歌い試験3 (弾き歌い6～10より2曲を選択) ピアノ曲試験 前期のまとめ (目標 1,2,3,4)</p>					
アクティブ・ラーニング	ロールプレイ					
成績評価基準	<p>評価の方法：弾き歌い演奏 (60%) ピアノ曲演奏 (30%) 授業への取り組み (10%)</p> <p>評価の基準：○ピアノ曲演奏 *知識・理解/技能表現の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しく読譜し演奏できる。 ・曲の特徴や雰囲気をつかみ表情豊かに表現できる。 <p>○弾き歌い演奏 *知識・理解/技能表現の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題曲を全て学習する。 ・曲の面白さを理解し弾き歌いできる。 <p>○授業への取り組み *関心・意欲の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を受けるまでに十分な練習をしている。 					
フィードバックの方法	より豊かな表現をするためのポイントや練習方法についてアドバイスする。					
時間外の学習について	<p>予習：レッスンが受けられるように練習をする。</p> <p>復習：すでに学習した曲 (ピアノ曲・弾き歌い曲) は、保育現場で実践できるよう弾いておく。 (予習・復習に毎日40～60分)</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト：「ピアノ名曲でこどもとあそぼう」「幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集」(ドレミ楽譜出版社)</p> <p>参考書：「びあのちゃんのピアノ即興入門」(ドレミ楽譜出版社)</p> <p>参考資料：「楽しくうたあそび123」(ミネルヴァ書房)</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について	ピアノの上達に近道はありません。毎日の練習を欠かさない地道な努力が必要です。					

科目名	保育ピアノⅣ (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	2年 後期	担当者	杉山 綾子 他 (クラス分け)
ナンバリングコード	JC-S292-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	保育現場で使える弾き歌い曲のレパートリーを持つ。ピアノ演奏技術を高める。表現力豊かに演奏する。(専門的知識、技能、表現力、実践力)					
授業の概要	保育現場で歌われる歌のレパートリーを増やしながら弾き歌い演奏力を高め、実習で実践して子どもに歌の楽しさや面白さを伝える力を身につける。					
達成目標						科目DP : c
						DP記号
	1. 保育現場で必要な弾き歌いの力を身につける。					○ ○ ○ ○
	2. 弾き歌いできる子どもの歌のレパートリーを持ち、指導できる力を身につける。					○ ○ ○ ○
3. 学んだ弾き歌いを、保育現場で実践できる。					○ ○ ○ ○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<p>1. オリエンテーション・夏休み弾き歌い課題曲の確認 (目標 1,2,3)</p> <p>2. 弾き歌い試験1 (夏休み課題曲) 弾き歌い1 : 秋の歌・いろいろな歌メロディ奏 メロディ唱 (目標 1,2,3)</p> <p>3. 弾き歌い2 : 秋の歌・いろいろな歌 伴奏法 (目標 1,2,3)</p> <p>4. 弾き歌い3 : 秋の歌・いろいろな歌 伴奏唱 (目標 1,2,3)</p> <p>5. 弾き歌い4 : 秋の歌・いろいろな歌 表現法 (目標 1,2,3)</p> <p>6. 弾き歌い5 : 秋の歌・いろいろな歌 活用法 (目標 1,2,3)</p> <p>7. 弾き歌い5 : 秋の歌・いろいろな歌 5曲の仕上げ (目標 1,2,3)</p> <p>8. 弾き歌い試験2 (弾き歌い1～5より2曲を選択) (目標 1,2,3)</p> <p>9. 弾き歌い6 : 冬の歌・いろいろな歌 メロディ奏・メロディ唱 (目標 1,2,3)</p> <p>10. 弾き歌い7 : 冬の歌・いろいろな歌 伴奏法 (目標 1,2,3)</p> <p>11. 弾き歌い8 : 冬の歌・いろいろな歌 伴奏唱 (目標 1,2,3)</p> <p>12. 弾き歌い9 : 冬の歌・いろいろな歌 表現 (目標 1,2,3)</p> <p>13. 弾き歌い10 : 冬の歌・行事の歌 活用法 (目標 1,2,3)</p> <p>14. 弾き歌い10 : 冬の歌・行事の歌 5曲の仕上げ (目標 1,2,3)</p> <p>15. 弾き歌い試験3 (弾き歌い6～10より2曲を選択) ・後期授業のまとめ (目標 1,2,3)</p>					
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション					
成績評価基準	<p>評価の方法：弾き歌い演奏 (90%) 授業への取り組み (10%)</p> <p>評価の基準：○弾き歌い演奏 *知識・理解/技能・表現の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題曲を全て学習する。 ・曲の楽しさや面白さを理解している。 ・曲のイメージを正しく捉えた豊かな演奏表現ができる。 <p>○授業への取り組み *関心・意欲の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を受けるための十分な準備ができています。 ・実習での実践に意欲的に取り組んだ。 					
フィードバックの方法	より豊かな表現をするためのポイントや練習方法についてアドバイスする。					
時間外の学習について	<p>予習：レッスンが受けられるように練習をする。</p> <p>復習：既習曲(ピアノ曲・弾き歌い曲)は、保育現場で活用できるよう弾いておく。 (予習・復習に毎日40～60分)</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト：「ピアノ名曲でこどもとあそぼう」「幼稚園・保育園のうたピアノ伴奏曲集」(ドレミ楽譜出版社)</p> <p>参考書：「びあのちゃんのピアノ即興入門」(ドレミ楽譜出版社)</p> <p>参考資料：「楽しくうたあそび123」(ミネルヴァ書房)</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について	ピアノの上達に近道はありません。毎日の練習を欠かさない地道な努力が必要です。					

科目名	子ども総合研究 I (2単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	2年 前期	担当者	弘中・森下・上村 山本・山根・永田 難波・船場・杉山																														
ナンバリングコード	JC-S281-000																																			
卒業要件	必修	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭																														
科目																																				
各科目に含めることが必要な事項																																				
教科目																																				
系 列																																				
授業のテーマ	グループでの研究活動（協調性・コミュニケーション能力）、主体的に学び続ける力（意欲・主体性）、これまでの学びの集大成（豊かな感性・教養・専門知識・技能・高い倫理観、広い見識）、子どもの視点に立って考え、研究・実践する力（表現力・実践力・創造性・問題解決力）、子どもや保育に関わる社会的な問題を捉え、考察する力（専門知識・技能・問題解決力）																																			
授業の概要	<p>○さまざまな研究分野の中から1つを選び、10人～20人程度のグループを作る。</p> <p>○1年次の授業で学んだ知識や技能、実習体験をふまえ、より深く研究したいテーマを選択しグループで研究活動を行う。</p> <p>○児童文化財としての舞台表現や絵本、あるいは保育現場での実践・調査研究を通して、子どもや保育における諸問題の理解を深めるとともに、保育者としての力量を向上させる。</p> <p>○研究をまとめ、中間報告会として発表する。</p>																																			
達成目標						<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">科目DP：d</th> </tr> <tr> <th>DP記号</th> <th>a</th> <th>b</th> <th>c</th> <th>d</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 主体的に研究に取り組む姿勢を養い、学び続ける姿勢を身につける。</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>2. 1年次の学びを生かし、子どもの視点に立って考え研究を進めることができる。</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td>3. グループワークを通して、協調性や協働意識を身につける。</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>4. 学びをまとめ、他人に分かりやすくプレゼンする能力を身につける。</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>	科目DP：d					DP記号	a	b	c	d	1. 主体的に研究に取り組む姿勢を養い、学び続ける姿勢を身につける。	○		○	○	2. 1年次の学びを生かし、子どもの視点に立って考え研究を進めることができる。		○	○	◎	3. グループワークを通して、協調性や協働意識を身につける。	○			○	4. 学びをまとめ、他人に分かりやすくプレゼンする能力を身につける。	○		○	○
科目DP：d																																				
DP記号	a	b	c	d																																
1. 主体的に研究に取り組む姿勢を養い、学び続ける姿勢を身につける。	○		○	○																																
2. 1年次の学びを生かし、子どもの視点に立って考え研究を進めることができる。		○	○	◎																																
3. グループワークを通して、協調性や協働意識を身につける。	○			○																																
4. 学びをまとめ、他人に分かりやすくプレゼンする能力を身につける。	○		○	○																																
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ																																			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業目標・授業の流れの説明、グループ分け・自己紹介（目標 1.3） 2. 研究テーマの決定（目標 1.2,3） 3. 研究計画の検討・立案（目標 1.2,3） 4. テーマに沿った研究①（先行研究・資料の収集）（目標 1.2,3） 5. テーマに沿った研究②（先行研究・資料の分析）（目標 1.2,3） 6. テーマに沿った研究③（協力園等候補の決定）（目標 1.2,3） 7. テーマに沿った研究④（題材決定・調査・実践準備等）（目標 1.2,3） 8. テーマに沿った研究⑤（脚本たたき台作成・データ集計等）（目標 1.2,3） 9. テーマに沿った研究⑥（脚本たたき台について協議・データ分析等）（目標 1.2,3） 10. テーマに沿った研究⑦（脚本修正・問題点の確認等）（目標 1.2,3） 11. テーマに沿った研究⑧（読み合わせ・再調査・実践等）（目標 1.2,3） 12. テーマに沿った研究⑨（脚本完成・効果音等・データ整理、問題点の確認）（目標 1.2,3） 13. 中間報告会準備（進捗状況をプレゼンテーションソフトなどを使ってまとめる）（目標 1.3,4） 14. 中間報告会（発表）（目標 1.3,4） 15. 夏季休業中（実習を含む）の研究活動・後期の活動計画確認、レポート課題（目標 1.3） 																																			
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク																																			
成績評価基準	<p>評価の方法：活動内容（30%）、記録・レポート（30%）、報告会（20%）、態度（20%）</p> <p>評価の基準：○活動内容 ＊知識・理解の定着度、思考・判断、技能・表現の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次から現在までの学びを生かして研究を推進できる。 ・子どもの視点を想定して研究・協議ができる。 <p>○記録・レポート ＊思考力・判断力の測定、知識・理解の定着度の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の経緯や成果を正確に記録できる。 ・研究内容をもとに、自己の考えをまとめることができる。 ・自己の研究イメージをより具体化することができる。 <p>○報告会 ＊思考・判断、表現の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の経緯や成果を、他者に分かりやすくまとめプレゼンできる。 <p>○態度 ＊関心・意欲・態度の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的態で主体的に研究に取り組むことができる。 ・協調的にグループワークに取り組むことができる。 																																			
フィードバックの方法	記録ファイル・レポートを回収し、チェックを入れる、コメントをつけるなどして返却する。グループでの研究活動に生かすため、場合によっては学生間で内容を共有できるようにする。																																			
時間外の学習について	予習：各グループ、研究活動に必要な準備（資料準備や制作物など）をして臨む。各回20分程度 復習：記録ファイルへの記録（振り返り）。各回20分程度																																			
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参考書：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 参考資料：各グループで収集																																			
担当者からのメッセージ等実務経験について																																				

科目名	子ども総合研究Ⅱ (2単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	2年 後期	担当者	弘中・森下・上村 山本・山根・永田 難波・船場・杉山
ナンバリングコード	JC-S282-000					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	研究発表に向けたグループでの研究活動（協調性・主体性・コミュニケーション力）、自ら学び続ける保育者としての力（意欲・主体性）、学びの集大成（豊かな感性・教養・専門知識・技能・高い倫理観・広い見識）、子どもの視点に立って考え、研究・実践する力（表現力・実践力・創造性・問題解決力）、子どもや保育に関わる社会的な問題を捉え、考察する力（専門知識・技能・問題解決力）、研究をまとめ、発表及び報告会においてプレゼンする。（表現力・創造性）					
授業の概要	2年前期の子ども総合研究Ⅰの成果や、授業で学んだ知識・技能、教育実習や保育実習体験を踏まえ、グループ内で進捗状況や課題を共有しながら、研究を推進し、成果を具体化していく。舞台表現系のグループは、年末の「子ども総合研究発表会」において、舞台発表の形式で研究成果を一般に向け公開発表する。最終的には、発表会の成果も含め、調査・実践を含むすべてのグループにおいて研究成果をまとめ、学内で研究成果報告会を行う。					
達成目標						科目DP：d
						DP記号
						a
						b
						c
						d
1. 主体的に研究に取り組む姿勢を養い、学び続ける姿勢を身につける。						○
2. 子どもや保育を取り巻く諸問題を捉え、解決しようとする姿勢を身につける。						○
3. 子どもの視点に立って考え、研究する力を高める。						○
4. グループワークを通して、協調性や協働意識を身につける。						○
5. 学びを整理してまとめ、他人に分かりやすくプレゼンする能力を身につける。						○
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 後期の授業目標・授業の流れの確認（目標 1,4） 後期のグループ研究計画の確認（目標 1,2,4） テーマに沿った研究①（舞台装置・道具類制作計画等立案、調査・実践準備等）（目標 1,2,3,4） テーマに沿った研究②（背景画制作、フィールドワーク等）（目標 1,2,3,4） テーマに沿った研究③（大道具制作、データ集計等）（目標 1,2,3,4） テーマに沿った研究④（小道具制作、データ分析等）（目標 1,2,3,4） テーマに沿った研究⑤（各教室で動きの段取り確認、問題点の確認等）（目標 1,2,3,4） テーマに沿った研究⑥（通し練習、フィールドワーク等）（目標 1,2,3,4） テーマに沿った研究⑦（フィールドワーク、データ集計等）（目標 1,2,3,4） テーマに沿った研究⑧（現場実践をもとに修正・練習、データ分析等）（目標 1,2,3,4） テーマに沿った研究⑨（学内発表会）（目標 1,2,3,4,5） テーマに沿った研究⑩（発表会：あつまれ！チビッコ！他）（目標 1,2,3,4,5） 研究成果のまとめ（発表会や実践・調査データをもとに原稿まとめ）（目標 1,2,3,4,5） 研究成果のまとめ（プレゼンテーションソフトなどを使い、報告会準備・練習）（目標 1,4,5） 研究成果報告会、総括（目標 1,4,5） 					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク					
成績評価基準	<p>評価の方法：活動内容（30%）、記録・レポート（20%）、発表会（20%）、報告会（20%）、態度（10%）</p> <p>評価の基準：○活動内容 *知識・理解の定着度、思考・判断、技能・表現の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習や授業での学びや、前期の研究内容を生かして研究を推進できる。 ・子どもの視点を前提として子どもや保育を取り巻く諸問題を捉え、研究・協議ができる <p>○記録・レポート *思考力・判断力の測定、知識・理解の定着度の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の経緯や成果を正確に記録できる。 ・研究内容をもとに、自己の考えをまとめることができる。 ・自己の研究イメージをより具体化することができる。 <p>○発表会 *思考・判断、技能・表現、関心・意欲・態度の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舞台上での発表や発表会の運営に対して、保育者としてふさわしい立ち振る舞いができる。 ・研究内容を生かして発表することができる。 <p>○報告会 *思考・判断、表現の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の経緯や成果を、他者に分かりやすくまとめプレゼンできる。 <p>○態度 *関心・意欲・態度の測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な態度で主体的に研究に取り組むことができる。 ・協動的にグループワークに取り組むことができる。 					
フィードバックの方法	記録ファイル・レポートを回収し、チェックを入れる、コメントをつけるなどして返却する。グループでの研究活動に生かすため、場合によっては学生間で内容を共有できるようにする。					
時間外の学習について	予習：各グループ、研究活動に必要な準備（資料準備や制作物など）をして臨む。各回20分程度 復習：記録ファイルへの記録（振り返り）。各回20分程度					
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参考書：幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 参考資料：各グループで収集					
担当者からのメッセージ等 実務経験について						

科目名	保育実習指導 I (2単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	1年前後期 2年前後期	担当者	山本朗・船場 (複数)
ナンバリングコード	JC-S171-010					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目 (保育士)					
系 列	保育実習					
授業のテーマ	保育実習 (保育所・施設) を通して、保育者としての高度な技術と実践力を身に付ける。					
授業の概要	保育実習Iは保育所での10日間実習と、保育所以外の児童福祉施設 (知的障害児 (者) 施設、児童養護施設など) での10日間実習の両方からなる。この実習は見学・観察・参加実習を中心に行い、対象児及び保育者の仕事内容、また施設の役割を体験的かつ具体的に学ぶ。					
達成目標		科目DP : d				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 保育実習の目的・意義を理解する。		○		○	
	2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。				○	◎
	3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、守秘義務等について理解する。				○	◎
4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。				○	◎	
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。				○	◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. 保育実習の意義・目的 (目標 1) 2. 保育所見学実習準備① (実習の説明) (目標 1,2) 3. 保育所見学実習準備② (保育内容の理解) (目標 1,2,3) 4. 保育所見学実習準備③ (保育所での実習) (目標 1,3,4) 5. 保育所見学実習準備事後指導 (実習反省) (目標 1,4,5) 6. 保育所実習準備① (紹介票・誓約書) (目標 1,3) 7. 保育所実習準備② (テーマ設定) (目標 1,2,4) 8. 保育所実習準備③ (日誌、検便指導) (目標 2,4) 9. 保育所実習準備④ (指導案) (目標 2,4) 10. 保育所実習準備⑤ (実習の流れ) (目標 1,4) 11. 保育所実習準備⑥ (実習訪問) (目標 1) 12. 保育所実習準備⑦ (エピソード) (目標 2) 13. 保育所実習準備⑧ (実習留意点) (目標 2,3) 14. 保育所実習事後指導① (自己評価) (目標 5) 15. 保育所実習事後指導② (個別指導) (目標 5)			16. 施設見学実習準備① (施設概説) (目標 1,2,3) 17. 施設見学実習準備② (障害の理解) (目標 1,2,3) 18. 施設見学実習事後指導① (反省と考察) (目標 5) 19. 施設実習準備① (実習目的・紹介票作成) (目標 1) 20. 施設実習準備② (ボランティア) (目標 2,3) 21. 施設実習準備③ (ボランティアまとめ) (目標 2,3) 22. 施設実習準備④ (テーマ・留意点) (目標 2) 23. 外部講師① (障害者施設について) (目標 3) 24. 外部講師② (児童養護施設について) (目標 3) 25. 施設実習準備⑧ (実習の心得) (目標 1,2,3,4) 26. 施設実習準備⑨ (書類配布) (目標 1) 27. 施設実習事後指導① (自己評価) (目標 5) 28. 施設実習事後指導② (個別指導) (目標 5) 29. 外部講師③ (子育て支援について) (目標 3) 30. 実習のまとめ・小テスト		
	アクティブ・ラーニング	ディスカッション				
成績評価基準	評価の方法：小テスト40%、レポート・自己評価票・実習関連書類の提出・内容40%、授業への取り組み20%					
	評価の基準： ○小テスト *知識・理解および技能の定着度を測定 ・保育所保育指針に基づき、保育所や保育活動に関する正確な理解と知識を身に付けている。 ・施設に関する正確な理解と知識を身に付けている。 ・保育者として必要なコミュニケーション能力を身に付けている。 ○レポート・自己評価票・実習関連書類の提出・内容 *知識・理解の定着度および思考力を測定 ・保育所や施設に関する正確な理解と知識を身に付けている。 ・授業で得た知識をもとに、実習における活動のあり方を考察することができる。 ・実習に関わる書類を正確に提出し、その書類を作成する意義を理解している。 ・自らの実習における活動を省察し、適切に自己評価できる。 ○授業態度 *関心・意欲、態度を測定 ・真摯な態度で保育所・施設に関する学習を積極的に行うことができる。					
フィードバックの方法	テストについては模範解答を示す。提出物については優れた内容のものについて他の学生に紹介する。					
時間外の学習について	予習：授業計画を把握し、事前準備に真摯に取り組む。(各回30分程度) 復習：反省や考察、記録など事後学習をする。(各回30分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参考書：『実習の手引き』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』 参考資料：適宜配布する。					
担当者からのメッセージ等実務経験について	『実習の手引き』をよく読み、実習に必要な準備や心構えを万全にして実習に臨みましょう。特に、守秘義務の遵守には入念に気を配る。					

科目名	保育実習 I (4単位)	実習	保育学科 幼児教育コース	2年 後期	担当者	船場 大資
ナンバリングコード	JC-S172-010					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	必修科目 (保育士)					
系 列	保育実習					
授業のテーマ	保育実習 (保育所・施設) を通して、保育者としての高度な技術と実践力を身に付ける。					
授業の概要	保育実習Iは保育所での10日間実習と、保育所以外の児童福祉施設 (知的障害児 (者) 施設、児童養護施設など) での10日間実習の両方からなる。この実習は見学・観察・参加実習を中心に行い、対象児及び保育者の仕事内容、また施設の役割を体験的かつ具体的に学ぶ。					
達成目標		科目DP : d				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。				○	
	2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深め、保育実践力を身につける。				○	◎
	3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学び、理解する。				○	◎
	4. 保育の計画、観察、記録、記録及び自己評価等について具体的に理解する。				○	◎
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学び、理解する。			○	○	◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	実習内容 ＜保育所＞					
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の1日の流れを把握し、その方法や手順、保育者の役割や働きがい等について具体的に観察する。(目標 1,2) 2. 乳幼児の表現、あるいは乳幼児同士や乳幼児と保育者の関わりを観察する。(目標 2) 3. 保育士の指導の下、補助的に乳幼児を援助する。(目標 3,4,5) 4. 保育の環境構成を学び、環境構成に参加する。(目標 3,4,5) 5. 手遊びや絵本の読み聞かせなどを実践する。(目標 3,5) 					
授業計画	＜施設＞					
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設の設立理念と養護の目標を理解する。(目標 1) 2. 施設の1日の流れや生活状況を把握する。(目標 1,2) 3. 子ども (利用者) と生活を共にし、積極的に関わることによって子ども (利用者) の理解に努める。(目標 2) 4. 保育士や指導員の指導の下、保育士の仕事に補助的立場で参加する。(目標 3,4,5) 5. レクリエーションや生活のなかで既習の教科で学んだことを実践する。(目標 3,5) 					
アクティブ・ラーニング	実習					
成績評価基準	評価の方法：実習先の評価60%、実習手帳の内容40%					
	評価の基準： ○実習先の評価 * 知識・理解の定着度および思考力・判断力、関心・意欲、態度、技能を測定 ・ 正確な知識を持ち、実践に活用することができる。 ・ 乳幼児に対して適切な行動、判断ができ、自己の実践を省察することができる。 ・ 適切な保育に関心を持ち、積極的に活動することができる。 ・ 適切な保育活動の計画を立て、実践に移すことができる。 ・ 守秘義務などの職業倫理を理解し、遵守している。 ○実習手帳の内容 * 思考力、態度を測定 ・ 自己の実践について省察を行って改善に繋げることができる。 ・ 乳幼児の思いの理解に努め、考察することができる。					
フィードバックの方法	実習園及び実習施設からの評価票を個別にて指導する。また、手帳について各担当者が評価し、評価についての指導を行う。					
時間外の学習について	予習：事前準備に真摯に取り組む。実習指導を真摯に受け、配布資料等を理解する。(毎回30分程度) 復習：反省や考察、記録など事後学習をする。(毎回60分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：なし 参考書：『実習の手引き』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』 参考資料：なし					
担当者からのメッセージ等実務経験について	『実習の手引き』をよく読み、実習に必要な準備や心構えを万全にして実習に臨みましょう。特に、守秘義務の遵守には入念に気を配ること。					

科 目 名	保育実習指導Ⅱ (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース		2年前期 2年後期	担 当 者	船場(富田)				
ナンバリングコード	JC-S273-010										
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭						
科 目											
各科目に含めることが必要な事項											
教 科 目	選択必修科目(保育士)										
系 列	保育実習										
授 業 の テ ー マ	主体的に実習準備(保育指導案など)を行い、自己反省・自己改善のできる実習を行う。(専門的知識、技能、主体性、実践力)										
授 業 の 概 要	保育所における保育実習Ⅱ(指導実習中心)を円滑で実り多いものにするための事前事後の指導を行う。指導実習のための指導案作成や実践後の反省や事例研究を通して、子ども理解や保育士の役割についての理解を深める。また、保育に対する課題を明確にする。										
達 成 目 標							科目DP:d				
							DP記号	a	b	c	d
	1. 保育実習の目的と意義を理解し、保育について総合的に学び理解する。							◎			
	2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を身につける。									◎	
	3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえて自己の保育を改善できる。										◎
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。							◎				
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。										◎	
履修条件・注意事項	実習参加要件と単位認定規定をよく理解する。実習参加要件および実習の単位認定規定を満たすことが前提である。 授業の実施方法：①面接授業のみ										
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習Ⅱの目的・意義(目標1) 2. 保育指導案①(作成)(目標2) 3. 保育指導案②(個別指導)(目標2) 4. 保育指導案③(代表者による模擬保育)(目標2) 5. 実習の準備①(実習生紹介票作成・検便)(目標1) 6. 実習の準備②(実習の留意点)(目標1) 7. 実習事後指導①(自己評価と実習川柳の作成・共有)(目標5) 8. 実習事後指導②(評価票による個別指導)(目標5) 9. 実習エピソード①(エピソードの記述)(目標3) 10. 特別講義①(児童福祉施設の保育士の役割について)(目標4) 11. 子どもを取り巻く問題に関する理解(目標4) 12. 実習エピソード②(個別指導)(目標3) 13. 実習エピソード③(グループ発表)(目標3) 14. 特別講義②(児童福祉施設における保護者支援について)(目標4) 15. 実習の総括と今後の課題の設定(目標5) 										
アクティブ・ラーニング	グループワーク、ディスカッション										
成 績 評 価 基 準	評価の方法：レポート(50%) 授業内提出物(30%) 授業への取り組み(20%) 評価の基準：○レポート ※知識・理解の定着度及び思考力を測定 ・保育に関する正確な理解と知識を身に付けている。 ・授業で得た知識をもとに実習における活動のあり方や保育士の専門性をより深く理解している。 ○授業内提出物 ※知識、思考力を測定 ・保育に関する正確な知識に基づき、適切な保育指導案を作成することができる。 ・実践を省察し、問題点を把握し、改善することができる。 ○授業への取り組み ※関心・意欲、態度を測定 ・保育および保育士に関する学習を積極的に行うことが出来る。										
フィードバックの方法	テストについては模範解答を示す。指導案・エピソードについては優れた内容のものについて他の学生に紹介する。										
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：授業計画を把握し、実習の準備に真摯に取り組む。(各回30分程度) 復習：反省や考察、記録など事後学習をする。(各回30分程度)										
教材にかかわる 情 報	テキスト：『実習の手引き』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』 参考書：なし 参考資料：適宜資料を配布する。										
担当者からのメッセージ等 実務経験について											

科目名	保育実習Ⅱ (2単位)	実習	保育学科 幼児教育コース	2年 後期	担当者	船場 大資
ナンバリングコード	JC-S274-010					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	選択必修科目 (保育士)					
系列	保育実習					
授業のテーマ	保育所での主体的な実習を通して、保育者としてのより高度な技術と実践力を身に付ける。(専門的知識、技能、主体性、実践力)					
授業の概要	保育実習Iで学んだことを基礎として保育に参加し、子どもの個性や発達段階についてのより深い理解に努め、適切な援助とは何かを考え実践する。教材研究を十分に行ったうえで保育指導案を立案し、部分及び全日の保育を実践し、反省と考察を行う。					
達成目標						科目DP: d
						DP記号
						a
						b
						c
						d
	1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通してより深く理解する。					◎◎
	2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもについてより深く理解する。	◎	○	◎		
	3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学び、理解する。		◎			◎
	4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。			◎		◎
	5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学び、理解する。		○			◎
履修条件・注意事項	実習参加要件と単位認定規定をよく理解する。実習参加要件および実習の単位認定規定を満たすことが前提である。 授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習園についての概要を把握し、理解する。(目標 1) 2. 保育の流れを理解し、適切な援助・指導を行う。(目標 2) 3. 保育環境に関心を持ち、その意図を理解し環境整備に心がける。(目標 3) 4. 既習の教科で習得した知識・技術を実践し、子どもの状況に応じて援助を発展させる。(目標 3) 5. 十分な教材研究を行い、保育指導案を立案し、保育者の指導の下保育を行う。(目標 2,4) 6. 保育内容や実習内容を整理・記録し、自己の課題を明確にする。(目標 3,4,5) 					
アクティブ・ラーニング	実習					
成績評価基準	<p>評価の方法：実習先の評価 (60%) 実習手帳の提出と内容 (40%)</p> <p>評価の基準：○実習先の評価 ※知識・理解の定着度及び思考力・判断力、関心・意欲、態度、技能を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育に関する知識を持ち、実践に活用できる。 ・子どもや保護者に対して適切な援助ができる。 ・自己の実践を省察することができる。 <p>○実習手帳の内容 ※思考力、態度を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の1日の流れや活動のねらいを記録し、深く考察できる。 ・自己の実践について十分な省察を行い、改善できる。 					
フィードバックの方法	実習園及び実習施設からの評価票を個別にて指導する。また、手帳について各担当者が評価し、評価についての指導を行う。					
時間外の学習について	<p>予習：保育指導案の作成や教材研究等、事前準備に真摯に取り組む。(毎回30分程度)</p> <p>復習：反省や考察、記録など事後学習をする。(毎回60分程度)</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト：なし</p> <p>参考書：『実習の手引き』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』</p> <p>参考資料：なし</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について	『実習の手引き』をよく読み、実習に必要な準備や心構えを万全にして実習に臨みましょう。特に、保育指導案の作成に早めに取り組むことと、守秘義務を遵守することが求められる。					

科目名	保育実習指導Ⅲ (1単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	2年前期 2年後期	担当者	山本 朗登
ナンバリングコード	JC-S275-010					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭	
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目	選択必修科目(保育士)					
系 列	保育実習					
授業のテーマ	施設での実習に備え、必要となる専門的知識と技術、倫理観を学び、現場での実践に活かす準備を行う。また、指導(レクリエーション)案を作成し、自己評価を行う。(専門的知識、技能、高い倫理観、協調性)					
授業の概要	保育実習Ⅲを、円滑で実り多いものにするための事前事後の指導を行う。実習施設や利用者理解のための事前学習、実習後の反省や事例を通して学ぶことで施設および施設保育士の役割についての理解を深める。					
達成目標						科目DP: d
						DP記号
	1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学び、理解する。					◎
	2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を身につける。					◎
	3. 保育の観察、記録および自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学び、理解する。					◎
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。					◎	
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					◎	
履修条件・注意事項	実習参加要件と単位認定規定をよく理解する。実習参加要件および実習の単位認定規定を満たすことが前提である。 授業の実施方法: ①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習Ⅲの目的・意義(目標1) 2. レクリエーション案①(作成)(目標2) 3. レクリエーション案②(個別指導)(目標2) 4. レクリエーション案③(代表者による模擬保育)(目標2) 5. 実習の準備①(実習生紹介票作成・検便)(目標1) 6. 実習の準備②(実習の留意点)(目標1) 7. 実習事後指導①(自己評価と実習川柳の作成・共有)(目標5) 8. 実習事後指導②(評価票による個別指導)(目標5) 9. 実習エピソード①(エピソードの記述)(目標3) 10. 特別講義①(児童福祉施設の保育士の役割について)(目標4) 11. 子どもを取り巻く問題に関する理解(目標4) 12. 実習エピソード②(個別指導)(目標3) 13. 実習エピソード③(グループ発表)(目標3) 14. 特別講義②(児童福祉施設における保護者支援について)(目標4) 15. 実習の総括と今後の課題の設定(目標5) 					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション					
成績評価基準	<p>評価の方法: レポート(50%) 授業内提出物(30%) 授業への取り組み(20%)</p> <p>評価の基準: ○レポート ※知識・理解の定着度及び思考力を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育に関する正確な理解と知識を身に付けている。 ・授業で得た知識をもとに実習における活動のあり方や保育士の専門性をより深く理解している。 <p>○授業内提出物 ※知識、思考力を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育に関する正確な知識に基づき、適切なレクリエーション案を作成することができる。 ・実践を省察し、問題点を把握し、改善することができる。 <p>○授業への取り組み ※関心・意欲、態度を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育および保育士に関する学習を積極的に行うことが出来る。 					
フィードバックの方法	テストについては模範解答を示す。レクリエーション案・エピソードについては優れた内容のものについて他の学生に紹介する。					
時間外の学習について	予習: 授業計画を把握し、実習の準備に真摯に取り組む。(各回30分程度) 復習: 反省や考察、記録など事後学習をする。(各回30分程度)					
教材にかかわる情報	<p>テキスト: 『実習の手引き』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』</p> <p>参考書: なし</p> <p>参考資料: 適宜資料を配布する。</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について						

科目名	保育実習Ⅲ (2単位)	実習	保育学科 幼児教育コース	2年 後期	担当者	山本 朗登	
ナンバリングコード	JC-S276-010						
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	選択必修	幼稚園教諭		
科目							
各科目に含めることが必要な事項							
教科目	選択必修科目(保育士)						
系 列	保育実習						
授業のテーマ	施設での実習を通して、保育に関する専門的知識、高度な技術を、現場で実践に活かすことができる力を身に付ける。また同時に、職員として必要となる倫理観とコミュニケーション能力を身に付ける。						
授業の概要	保育実習Ⅰ(保育所以外の児童福祉施設)で学んだことを基礎として、さらに学びを深める。保育士や指導員の指導の下、生活を中心とした活動に参加し実践する中で、保育士の職務内容を理解し必要な力量を高める。						
達成目標		科目DP：d					
		DP記号	a	b	c	d	
	1. 児童福祉施設の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深め、必要な技術を習得する。				○	◎	
	2. 利用児・者の観察やかかわりの視点を明確にすることを通して保育についてより深く理解する。				○	◎	
	3. 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、利用児・者支援について総合的に学び、理解する				○	◎	
	4. 保育の計画、実践、観察、記録および自己評価等について実際に取り組み、より深く理解する。				○	◎	
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。			○	○	◎		
6. 保育士としての自己の課題を明確化する。	○			○	◎		
履修条件・注意事項	実習参加要件と単位認定規定をよく理解する。実習参加要件および実習の単位認定規定を満たすことが前提である。 授業の実施方法：①面接授業のみ						
授業計画	実習内容 1. 施設保育士や指導員の指導に従い、養護・療育全般に参加し技術を習得する。(目標 1.5) 2. 対象児・者の個性や発達段階、障がいについて理解し、適切な援助について学ぶ。(目標 1.2) 3. 環境構成に関心を持ち、その意図を理解し対象児・者に合わせた環境整備を心掛ける。(目標 1.2,3) 4. 行った養護・療育の反省をし、学習課題を見出す。(目標 4.6) 5. 学内で学習したものをレクリエーションなどで実践する。(目標 1.3,5)						
アクティブ・ラーニング	実習						
成績評価基準	評価の方法：実習先の評価60%、実習手帳の内容40% 評価の基準： ○実習先の評価 *知識・理解の定着度および思考力・判断力、関心・意欲、態度、技能を測定 ・正確な知識を持ち、実践に活用することができる。 ・児童や利用者に対して適切な行動、判断ができ、自己の実践を省察することができる。 ・適切な保育・養護に関心を持ち、積極的に活動することができる。 ・真摯な態度で、児童や利用者とその思いに向き合うことができる。 ○実習手帳の内容 *思考力、態度を測定 ・自己の実践について十分な省察を行って改善に繋げることができ、真摯な態度で記録に残すことができる。 ・児童や利用者の思いを理解して深く考察することができる。						
フィードバックの方法	実習先での反省会および学内での反省会を通して、実践内容について振り返りを行う。実習手帳については、提出後記述内容をもとに教員が個別に面談を行う。						
時間外の学習について	予習：実習指導で受けた内容と、事前オリエンテーションで教示された内容の理解を深める。各回30分程度。 復習：自己の実践と指導者の指導を振り返り、日誌にて考察を深める。日誌以外にも実習で得た経験を余すことなく記録にとることが望ましい。各回60分程度。						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし。 参考書：特になし。 参考資料：特になし。						
担当者からのメッセージ等実務経験について	保育実習Ⅲは、保育実習Ⅰ(施設)よりも高い専門性と理解、覚悟が求められる。十分に準備を行って取り組むこと。						

科目名	教育実習指導 (1単位)	講義	保育学科 幼児教育コース	2年 前後期	担当者	上村 有平 他 (複数)																				
ナンバリングコード	JC-S277-100																									
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士		幼稚園教諭	必修																				
科目	教科及び教職に関する科目(幼稚園) 教育実践に関する科目																									
各科目に含めることが必要な事項	教育実習																									
教科目																										
系 列																										
授業のテーマ	教育実習の目的・意義・内容を学習意欲をもって主体的に理解する(意欲・主体性、倫理観、専門知識や技能、表現力・創造性)。																									
授業の概要	幼稚園実習を円滑に実り多いものにするための事前・事後指導を行い、教育実習の意義を理解する。事前指導では、幼稚園実習の意義・目的・内容、幼稚園の果たす役割、実習の心構え、実習日誌の書き方、実習テーマの設定、指導案の立て方・書き方を学ぶことを通して、実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高める。事後指導では、実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等の今後の課題について理解する。																									
達成目標	1. 事前指導においては、実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 2. 事後指導においては、教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、子ども、幼稚園の役割、教諭の仕事などの理解を深め、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。				<table border="1"> <tr> <td colspan="5">科目DP: d</td> </tr> <tr> <td>DP記号</td> <td>a</td> <td>b</td> <td>c</td> <td>d</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>◎</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>◎</td> </tr> </table>		科目DP: d					DP記号	a	b	c	d				○	◎				○	◎
科目DP: d																										
DP記号	a	b	c	d																						
			○	◎																						
			○	◎																						
履修条件・注意事項	授業の実施方法: ①面接授業のみ																									
授業計画	<p>教育実習・前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習の意義及び目的(目標1) 2. 実習テーマの設定、必要書類の準備(実習生紹介票)(目標1) 3. 実習園オリエンテーションにおける留意事項、教育実習園の概要(教育目標・地域の特色・幼児の実態等)把握(目標1) 4. 実習手帳の書き方、保育指導案の立て方(目標1) 5. 保育者としてのマナー、保育参観の視点と方法(目標1) 6. 教育実習のための直前指導説明(留意事項と心構え)、教材研究の基本(目標1) 7. 実習体験の振り返りと今後の課題(1):自己評価(目標2) 8. 実習体験の振り返りと今後の課題(2):評価票を用いた個別指導(目標2) <p>教育実習・後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 教育実習のための直前指導説明(留意事項と心構え)(目標1) 10. 実習体験の振り返りと今後の課題(1):自己評価(目標2) 11. 学外講師特別講義:これからの保育者に望むこと(目標2) 12. 実習のまとめ、実習体験の振り返りと今後の課題(2):評価票を用いた個別指導(目標2) 																									
アクティブ・ラーニング	ディスカッション																									
成績評価基準	<p>評価の方法: レポートなど課題提出60% 授業への取り組み 40%</p> <p>評価の基準: ○レポートなど課題提出 *知識・理解の定着度および思考力・判断力、関心・意欲、態度を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育に関する正確な知識に基づき、適切な日誌・保育指導案を作成することができる。 ・授業で得た知識をもとに、実習における活動のあり方を考察することができる。 ・実践を省察し、問題点を把握し、改善することができる。 <p>○授業への取り組み *関心・意欲、態度を測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真摯な態度で幼児教育に関する学習を積極的に行うことができる。 ・グループディスカッションに積極的に参加し、自分の意見を表明することができる。 																									
フィードバックの方法	提出物は優れたものを紹介する。																									
時間外の学習について	<p>予習: 授業計画を把握し、事前準備に真摯に取り組む。各回40分程度。</p> <p>復習: 反省や考察、記録など事後学習をする。各回50分程度。</p>																									
教材にかかわる情報	<p>テキスト: なし</p> <p>参考書: 『実習の手引き』: 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社</p> <p>参考資料: なし</p>																									
担当者からのメッセージ等実務経験について																										

科目名	教育実習 (4単位)	実習	保育学科 幼児教育コース	2年 前後期	担当者	上村 有平 他 (複数)
ナンバリングコード	JC-S278-100					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭 必修
科目	教科及び教職に関する科目(幼稚園) 教育実践に関する科目					
各科目に含めることが必要な事項	教育実習					
教科目						
系 列						
授業のテーマ	幼稚園での教育実習を通して、幼稚園教諭としての高度な技術と実践力を身に付ける(主体性・協調性、倫理観、専門知識や技能、表現力・創造性)。					
授業の概要	教育実習は、観察、参加、実習という方法で保育実践に関わることを通じて、保育者としての愛情と使命感を深め、将来保育者になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、幼稚園教育の実践を体験的、総合的に理解し、保育実践ならびに保育実践研究の基礎的な能力と態度を身につける。幼稚園教諭免許を取得するための必修科目である。事前指導を受けた後、幼稚園で20日間の現場実習を行う。20日間は、2年前期に10日間、2年後期に10日間の2段階に分けて実施する。					
達成目標					科目DP: d	
					DP記号	a b c d
	1. 幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的役割を担うことを通じて、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。 1) 幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 2) 指導教員等の実施する保育を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。 3) 教育実習園の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 4) 学級担任等の補助的な役割を担うことができる。					○ ◎
	2. 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付ける。 1) 幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 2) 保育に必要な基礎的技術(話法・保育形態・保育展開・環境構成など)を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。 3) 学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。 4) 様々な活動の場面で適切に幼児と関わるすることができる。					○ ◎
履修条件・注意事項						
授業計画	2年前期: 観察・参加・部分実習中心 (目標 1.2) 1. 実習園の保育方針を理解し、教諭の計画・指示に従って保育等に参加する。 2. 子どもの安全や衛生面に配慮した環境構成を学ぶ。 3. 子どもの活動、保育者の援助について観察し、記録をとる。 4. 絵本・紙芝居やペープサート、手遊び、弾き歌い等を実践する。 5. 教諭の指導のもと、保育指導案を立案し、実践する。 2年後期: 参加・部分・全日実習中心 (目標 1.2) 1. 実習園の保育方針を理解したうえで、実習園の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について把握し、それに従って保育等に参加する。 2. 幼児の安全や衛生面に配慮した環境構成を学ぶ。 3. 教諭の指導のもと、保育指導案を立案し、実践・省察する。 4. 学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解する。					
アクティブ・ラーニング	実習					
成績評価基準	評価の方法: 実習先の評価60% 実習手帳の提出と内容40% 評価の基準: ○実習先の評価 *知識・理解の定着度および思考力・判断力、関心・意欲、態度、技能を測定 ・幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的役割を担うことを通じて、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解している。 ・大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付けている。 ○実習手帳の提出と内容 *知識・理解の定着度および思考力、態度を測定 ・自己の実践について十分な省察を行って改善に繋げることができ、真摯な態度で記録に残すことができる。 ・子どもの思いを理解して深く考察することができる。					
フィードバックの方法	・実習園の評価票にもとづいて指導する。 ・実習日誌は教員が評価し指導する。					
時間外の学習について	予習: 事前準備に真摯に取り組む。各回30分程度 復習: 反省や考察、記録など事後学習をする。各回60分程度					
教材にかかわる情報	テキスト: なし 参考書: 『実習の手引き』『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 参考資料: なし					
担当者からのメッセージ等実務経験について	『実習の手引き』をよく読み、実習に必要な準備や心構えを万全にして実習に臨みましょう。特に、守秘義務の遵守には入念に気を配りましょう。実習参加要件と単位認定規定をよく理解する。実習参加要件および実習の単位認定規定を満たすことが前提である。					

科目名	保育・教職実践演習 (幼稚園) (2単位)	演習	保育学科 幼児教育コース	2年 後期	担当者	弘中 順一 上村 有平
ナンバリングコード	JC-S283-110					
卒業要件	選択	免許・資格との関係	保育士	必修	幼稚園教諭	必修
科目	教科及び教職に関する科目(幼稚園) 教育実践に関する科目					
各科目に含めることが必要な事項	教職実践演習					
教科目	必修科目(保育士)					
系 列	総合演習					
授業のテーマ	保育者として必要な使命感・責任感、教育的愛情(高い倫理観)、社会性や対人関係能力(コミュニケーション、協調)、子ども理解・クラス経営等、保育内容等の指導力、子育て家庭に対する支援を展開する力(専門的知識や技能)について身につけているかどうかを確認し、改善する(学び続ける意欲)。					
授業の概要	保育者として必要な資質や能力が身につけているかどうかを確認するとともに、不足している知識・技能等の課題発見とその解決への取り組みの成果を確認する。これにより、実践に裏付けられた確かな理論や技能等を身につけ、保育者としての生活を円滑にスタートできるようにする。					
達成目標	1. 使命感や責任感、教育的愛情を身につけている。 2. 社会性や対人関係能力を身につけている。 3. 子ども理解やクラス経営を行う力を身につけている。 4. 保育内容等の指導力や、子育て家庭に対する支援を展開する力を身につけている。	科目DP: d				
		DP記号	a	b	c	d
履修条件・注意事項	1. 履修にあたっては、履修カルテの必要事項を全て記入した上で提出すること。 2. 実践発表は15~20名程度のグループに分割する。 3. 履修する年度末に、幼稚園教諭免許または保育士資格の取得に必要な単位の全てを修得できない場合は、単位を認定しない。 授業の実施方法: ①面接授業のみ					
授業計画	1. 履修履歴の把握と学習の振り返り、後期に実践する各自の課題を設定(目標 1,2,3,4,5) 2. 指導案の立案(目標 2,3,4) 3. 小学校教育との連携(目標 2,3,4,5) 4. 実践発表のためのオリエンテーション(目標 2,3,4) 5. 実践発表に向けた原稿作成: 保育の省察(目標 2,3,4) 6. 実践発表に向けた原稿作成: プレゼン準備(目標 2,3,4) 7. 実践発表1: 教材・活動の選定の仕方、ねらいの立て方(目標 2,3,4) 8. 実践発表2: 導入・まとめの工夫(目標 2,3,4) 9. 実践発表3: 環境構成、言葉かけの工夫(目標 2,3,4) 10. 実践発表4: 子どもの反応とねらいの達成の確認(目標 2,3,4) 11. 実践発表5: 保育におけるPDCA(目標 2,3,4) 12. 実践発表6: 子育て家庭に対する支援(目標 2,3,4,5) 13. 実践発表の振り返り(目標 1,2,3,4,5) 14. 実践発表の総括(グループ討議)(目標 1,2,3,4,5) 15. 全体の総括と保育に携わる者としての資質・能力の確認(目標 1,2,3,4,5)					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション					
成績評価基準	評価の方法: 指導案・レポート40%、実践発表40%、授業への取り組み20% 評価の基準: ○指導案・レポート *知識・理解の定着度および思考力を測定 ・正確な知識を持ち、適切な指導案を作成することができる。 ・実践の省察に基づき、各自の課題を考察することができる。 ○実践発表 *思考力・意欲を測定 ・各自の実践を省察し、問題点を把握することができる。 ・各自の実践に対する指摘を受けとめ、改善に繋げることができる。 ○授業への取り組み *関心・意欲を測定 ・真摯な態度で保育に関する学習を積極的に行うことができる。 ・グループワークに積極的に参加し、自分の意見を表明することができる。					
フィードバックの方法	履修カルテを活用し、各自の課題について、教員より確認と個別指導を行う。実践発表については、一人ひとりの発表に対し、教員よりコメントし、改善に役立てる。					
時間外の学習について	予習: 履修履歴・学習の振り返りをもとに、2年次後期の学習課題を各自で定め、授業時間外において学習に努める。実践発表・実習エピソード発表の際には、事前に配布された資料を熟読する。各回30分程度。 復習: 授業内の学習とともに、授業時間外の学習について整理し、各自の課題の学習状況を確認する。各回15分程度。					
教材にかかわる情報	テキスト: 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 『幼児理解に基づいた評価』文部科学省 チャイルド本社 参考書: 特になし 参考資料: 適宜配布					
担当者からのメッセージ等実務経験について	履修する年度末に、幼稚園教諭免許または保育士資格の取得に必要な単位の全てを修得できない場合は、単位を認定しない。					

專攻科芸術表現専攻授業科目

専攻科芸術表現専攻授業科目

グローバル特論	165
英語コミュニケーション特論	166
地域課題解決研究Ⅰ（PBL）	167
地域課題解決研究Ⅱ（PBL）	168
リーダーシップ論	169
デザイン心理学特論	170
デザイン表現Ⅰ	171
デザイン表現Ⅱ	172
デザイン研究Ⅰ	173
デザイン研究Ⅱ	174
Webデザイン特論	175
演奏実技研究Ⅰ	176
演奏実技研究Ⅱ	177
楽 曲 分 析	178
演 奏 特 論	179
即興演奏研究	180
メディアアート研究	181
修 了 研 究	182

学修成果（8つの力）

①勤労観	働く意義を理解し、社会に貢献する姿勢をもち、主体的に行動できる。
②社会貢献	
③教養	社会人としてふさわしい教養やコミュニケーション能力を身につけている。
④コミュニケーション能力	
⑤専門分野の基礎的知識	デザイン・ビジネス・音楽フィールドにおける基礎的知識と技能を身につけている。
⑥専門分野の基礎的技能	
⑦社会人基礎力	創造力、実行力、発信力などの社会人基礎力や協働性を身につけ、リーダーシップを発揮して課題解決ができる。
⑧協働性	

I. 修了認定・修了証書授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

以下に示す目標とする学修成果を身につけ、所定の在学期間を満たし、基準となる単位を修得した者に対して、修了を認定し、修了証書を授与します。

- (a) 働く意義を理解し、社会に貢献する姿勢をもち、主体的に行動できる。
- (b) 社会人としてふさわしい教養やコミュニケーション能力を身につけている。
- (c) デザイン・ビジネス・音楽フィールドにおける基礎的知識と技能を身につけている。
- (d) 創造力、実行力、発信力などの社会人基礎力や協働性を身につけ、リーダーシップを発揮して課題解決ができる。

科目名	グローバル特論 (10単位)	講義	専攻科 芸術表現専攻		前期	担当者	福屋 利信	
ナンバリングコード	JA-L301-000							
修了要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭		
科目								
各科目に含めることが必要な事項								
教科目								
系列								
授業のテーマ	この授業では海外で実施される研修を通して、グローバル社会で求められるコミュニケーション能力を育成します。							
授業の概要	この授業は事前研修、海外研修、事後指導で構成されています。英語運用能力と同時に発信力、傾聴力、柔軟性、規律性、そしてストレスコントロール力を養います。							
達成目標	学修成果：教養、社会人基礎力 以下の4点がこの授業の達成目標です。授業終了時に達成できていることを確認してください。						科目DP：b	
		DP記号	a	b	c	d		
	1. 海外研修の目的と意義を説明することができる。			○		◎		
	2. 英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとすることができる。				◎		○	
	3. 他の人と協力して課題に取り組むことができる。				○		◎	
4. 研修で学んだ内容を英語でプレゼンテーションすることができる。				◎	○			
履修条件・注意事項	海外研修を成功させるためには事前の準備が大切です。事前指導での準備状況が不十分な場合は単位が認定されないことがあります。 授業の実施方法：①面接授業のみ							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業についての説明 (目標 1,2,3) 2-5. 事前指導の特徴・英文法演習 (目標 1,2,3) 6-12. 海外研修 (研修先は各学生が決定する) (目標 1,2,3) 13. 研修内容報告 (プレゼンテーション)・質疑応答 (目標 1,2,3,4) 14. 研修内容報告 (プレゼンテーション)・振り返り (目標 1,2,3,4) 15. まとめ・到達目標の確認 (目標 1,2,3,4) 							
アクティブ・ラーニング	グループワークと発表を中心とした授業を行う。							
成績評価基準	態度と意欲を重視した評価を行う。 ①事前・事後指導への取組：(30%) ②レポート：(40%) ③プレゼンテーション：(30%)							
フィードバックの方法	事前・事後指導は受講生の発表等が中心となります。授業担当者は受講生のパフォーマンスの向上を促すためのフィードバックを文字モードまたは音声モードで提供します。							
時間外の学習について	予習：事前研修内の指示に従って予習に取り組んでください。(各回90分程度) 復習：授業内で授業後の課題が出されます。次の授業までに準備しておいてください。 (各回90分程度)							
教材にかかわる情報	授業内で必要な資料を配布する。							
担当者からのメッセージ等 実務経験について	単位認定の対象となる海外研修プログラムについては、授業担当者に確認してください。また渡航前の手続きが必要です。事前指導を受けずに海外で研修を受けても単位認定は行われませんので注意してください。							

科目名	英語コミュニケーション特論 (2単位)	講義	専攻科 芸術表現専攻	後期	担当者	小野 隆洋 長田 和美 (複数)	
ナンバリングコード	JA-L311-000						
修了要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭	
科目							
各科目に含めることが必要な事項							
教科目							
系 列							
授業のテーマ	芸術に関する英語表現を学ぶ						
授業の概要	デザインや音楽に関する題材を通して、英語の語彙、スピーキング、ライティングについて学び、英語によるコミュニケーション力を育成する。						
達成目標	学修成果：教養、社会人基礎力					科目DP：b	
		DP記号	a	b	c	d	
	1. 芸術に関する英語表現を学ぶ意義を理解する			◎			
	2. 歌を通して英語表現を学ぶ			◎			
	3. ミュージカルを通して英語表現を学ぶ			◎			
4. 映画を通して英語表現を学ぶ			◎				
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ						
授業計画	1. 芸術に関する英語表現を学ぶ意義	(目標1)					
	2. 歌の英語表現 (1)	(目標2)					
	3. 歌の英語表現 (2)	(目標2)					
	4. 歌の英語表現 (3)	(目標2)					
	5. 歌の英語表現 (4)	(目標2)					
	6. ミュージカルの英語表現 (1)	(目標3)					
	7. ミュージカルの英語表現 (2)	(目標3)					
	8. ミュージカルの英語表現 (3)	(目標3)					
	9. ミュージカルの英語表現 (4)	(目標3)					
	10. ミュージカルの英語表現 (5)	(目標3)					
	11. 映画の英語表現 (1)	(目標4)					
	12. 映画の英語表現 (2)	(目標4)					
	13. 映画の英語表現 (3)	(目標4)					
	14. 映画の英語表現 (4)	(目標4)					
	15. 映画の英語表現 (5)	(目標4)					
アクティブ・ラーニング							
成績評価基準	①授業内レポート (50%)：技能・表現を測定 ②授業へのコミットメント (50%)：関心・意欲・態度を測定						
フィードバックの方法	授業内レポート等の返却により実施する						
時間外の学習について	予習：配布した資料を読んでおくこと (各回90分程度) 復習：授業で学んだ英語表現について復習しておくこと (各回90分程度)						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：適宜配布						
担当者からのメッセージ等実務経験について							

科目名	地域課題解決研究 I (PBL) (2単位)	演習	専攻科 芸術表現専攻	前期	担当者	長田 和美 (実務経験) 澄重 成記 (実務経験) (複数)
ナンバリングコード	JA-S361-000					
修了要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	地域企業が抱える課題に対してグループで解決策を提案し、解決に向けて実践する。					
授業の概要	課題の本質を捉え、課題に対する解決策をグループで発案し、トライアルを行う。 課題発見力、課題解決力、合意形成力、リーダーシップを養う。					
達成目標	学修成果：協働性、社会人基礎力、社会貢献、専門分野の基礎的知識	科目DP：d				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 企業が抱える課題を正しく把握することができる					◎
	2. 課題解決に向けたアイデアを発案できる					◎
	3. アイディアを具体化し、行動計画を立案できる					◎
	4. 予備実験・調査によりアイデアの妥当性を確認できる					◎
5. リーダーとして他者への動機づけを行い、多様性を理解して合意形成ができる			○		◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> PBLの意義 課題理解①現状理解 課題理解②課題理解 課題理解③情報分析 目的・目標の定義 解決策の検討①アイデア発案（発散） 解決策の検討②アイデア整理（収束） アイデアの具体化 計画立案 実施準備 予備実験・調査 予備実験・調査のデータ分析 予備実験・調査のまとめ プレゼンテーション準備 プレゼンテーション 					
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション					
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> ①授業内レポート（40%）：意欲・関心を測定 ②レポート課題（30%）：知識・理解、思考・判断を測定 ③プレゼンテーション（30%）：知識・理解、思考・判断、技能・表現を測定 					
フィードバックの方法	課題を返却					
時間外の学習について	予習：課題に関連する文献、時事ニュースを調査（各回90分） 復習：授業後に各自の活動を振り返り、次回のアクションプランを策定する（各回90分）					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：特になし					
担当者からのメッセージ等実務経験について	企業経験を活かして、社会人感覚と実践力を育成する授業を行います。					

科目名	地域課題解決研究Ⅱ (PBL) (2単位)	演習	専攻科 芸術表現専攻	後期	担当者	長田 和美 (実務経験) 澄重 成記 (実務経験) (複数)		
ナンバリングコード	JA-S362-000							
修了要件	選択	免許・資格との関係	保育士	幼稚園教諭				
科目								
各科目に含めることが必要な事項								
教科目								
系列								
授業のテーマ	地域企業が抱える課題に対してグループで解決策を提案し、解決に向けて実践する。							
授業の概要	前期に実施した予備実験・調査の結果に基づき、課題と目標を再定義し、解決に向けて実践する。 課題発見力、課題解決力、合意形成力、リーダーシップを養う。							
達成目標	学修成果：協働性、社会人基礎力、社会貢献、専門分野の基礎的知識				科目DP：d			
					DP記号	a b c d		
	1. 予備実験・調査に基づいて、課題と目標を再定義できる							◎
	2. アイディアを具体化し、行動計画を立案できる							◎
	3. 解決策を実行できる							◎
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ							
	1. 課題と目標の再定義 2. 解決策の検討①アイディア発案 (発散) 3. 解決策の検討②アイディア整理 (収束) 4. アイディアの具体化 5. 計画立案 6. 実施準備 7. 実施準備 8. 実施準備 9. 実施準備 10. 実験・調査等の実施 11. 実験・調査等のデータ分析 12. 実験・調査等のまとめ 13. 課題解決プロセスの整理 14. 最終プレゼンテーション準備 15. 最終プレゼンテーション							
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション							
成績評価基準	①授業内レポート (40%)：意欲・関心を測定 ②レポート課題 (30%)：知識・理解、思考・判断を測定 ③プレゼンテーション (30%)：知識・理解、思考・判断、技能・表現を測定							
フィードバックの方法	課題を返却							
時間外の学習について	予習：課題に関連する文献、時事ニュースを調査 (各回90分) 復習：授業後に各自の活動を振り返り、次回のアクションプランを策定する (各回90分)							
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：特になし							
担当者からのメッセージ等実務経験について	企業経験を活かして、社会人感覚と実践力を育成する授業を行います。							

科目名	リーダーシップ論 (2単位)	講義	専攻科 芸術表現専攻	後期	担当者	原田 剛 長田 和美 (複数)
ナンバリングコード	JA-S363-000					
修了要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	グローバル化・ICT・AIなど急激に社会が変化する中、組織のトップに求められる知識や技術、資質について考察し、リーダーシップをとれる力を身につける。					
授業の概要	具体的な人物を取り上げ、彼らがどのようにリーダーシップを発揮し困難を克服したかを検証することで、リーダーシップの本質について考える。					
達成目標	学修成果：コミュニケーション能力、社会人基礎力、協働性	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. リーダーの役割を理解する。			◎		
	2. 歴史上の人物が、どのようにして課題を克服したかについて理解する。			◎		
	3. 企業経営者が、どのような理念を持ち課題に取り組んできたかを理解する。			○	◎	
	4. グローバルな社会で求められるリーダーの資質について理解する。			◎	○	
5. 自己の確立を図り、意欲的に社会の課題に取り組む態度を身につける。		◎	○		○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. リーダーシップ論を学ぶ意義 (担当：長田、原田) (目標 1) 2. リーダーの役割 (担当：長田) (目標 1) 3. リーダーシップとフォロワーシップ (担当：長田) (目標 1) 4. ファシリテーション (担当：長田) (目標 1) 5. コーチング (担当：長田) (目標 1) 6. アサーション (担当：長田) (目標 1) 7. 段取り力 (担当：長田) (目標 1) 8. プレゼンテーション：リーダーとは？ (担当：長田) (目標 1.5) 9. 歴史に学ぶ①日本のリーダー (担当：原田) (目標 2) 10. 歴史に学ぶ②世界のリーダー (担当：原田) (目標 2) 11. 歴史に学ぶ③企業の経営理念 (担当：原田) (目標 3) 12. リーダーシップの本質 (担当：原田) (目標 3) 13. 組織とリーダーシップ (担当：原田) (目標 3) 14. グローバルマインドとリーダーシップ (担当：原田) (目標 4) 15. アントレプレナーシップ (担当：原田) (目標 4)					
アクティブ・ラーニング	グループワーク、プレゼンテーション					
成績評価基準	①各回のレポート (20%)：関心・意欲を測定 ②プレゼンテーション (40%)：関心・意欲、知識の理解度、思考力・表現力を測定 ③調査レポート (40%)：知識の理解、思考力・表現力・判断力を測定					
フィードバックの方法	授業の教材として各自のレポートを使い討議します。					
時間外の学習について	予習：授業のテーマについて予習 (各回90分程度) 復習：レポート作成 (各回90分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：『代表的日本人』内村鑑三 (岩波文庫) 『日本を作った12人』堺屋太一 (PHP新書) 『リーダーシップの本質』堀紘一 (ダイヤモンド社)					
担当者からのメッセージ等実務経験について	リーダーシップの第一歩は、何事にも率先して取り組むことです。若い時の苦勞は買ってでもしなさいとよく言われてきました。					

科目名	デザイン心理学特論 (2単位)	講義	専攻科 芸術表現専攻	前期	担当者	長田 和美 (単独)
ナンバリングコード	JA-L302-000					
修了要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系 列						
授業のテーマ	視覚心理学の基礎を学び、デザインに活かす					
授業の概要	錯覚や色の心理効果、心理実験手法について調査・発表し、視覚心理学の基礎を理解する。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的知識、専門分野の基礎的技能、社会人基礎力					科目DP：c
						DP記号 a b c d
	1. 錯覚について理解する				◎	
	2. 色の心理効果を理解する				◎	
	3. デザインに関する心理学的評価手法を理解する				◎	
	4. 先行研究を調査し、要点を把握する					◎
5. 要点をわかりやすく他者に伝えることができる					◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：②面接授業と遠隔授業等の併用					
授業計画	1. 錯覚と錯視 (目標1) 2. 感覚量と物理量 (目標1) 3. 色とイメージ (目標2) 4. 色の心理効果 (目標2) 5. 統計的分析手法 (目標3) 6. 一対比較法 (目標3) 7. SD法 (目標3) 8. 先行研究の調査方法 (目標4) 9. 先行研究の概要作成 (目標4) 10. 先行研究の調査報告 (目標5) 課題研究 11. 実験計画 (目標3) 12. 実験環境の構築 (目標3) 13. 実験実施 (目標3) 14. 実験結果の分析 (目標3) 課題研究 15. 実験結果の報告 (目標5)					
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション					
成績評価基準	①レポート (50%)：関心・意欲、知識・理解を測定 ②発表 (50%)：思考・判断、技能・表現を測定					
フィードバックの方法	レポートや発表について評価をフィードバック					
時間外の学習について	予習：関連する文献を熟読 (各回90分) 復習：振り返り (不明点を明らかにして調査) (各回90分)					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：適宜配布					
担当者からのメッセージ等実務経験について						

科 目 名	デザイン表現Ⅰ (2単位)	実技	専攻科 芸術表現専攻	前期	担当者	渡山 賢二 (単独)				
ナンバリングコード	JA-S321-000									
修 了 要 件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭				
科 目										
各科目に含めることが必要な事項										
教 科 目										
系 列										
授 業 の テ ー マ	イラストデザインや多様な表現方法を実技(画材は要相談)を通して習得する。									
授 業 の 概 要	基礎デッサン力(観察力・描写力)をベースに、多様な表現方法を実践を通して体験し、自己表現の探求方法を 実践・習得する。(表現は基本平面(アナログ)※デジタル表現は要相談)									
達 成 目 標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP：c				
						DP記号	a	b	c	d
	1. デザインとアートの理解							◎		
	2. 自己表現の探求方法の習得								◎	○
	3. 様々な表現方法の実践とその習得								◎	○
	4. 自分の制作物の客観的な意見を説明できる。					◎	○			
履修条件・注意事項	5. 期限内での課題制作の提出					○	◎		○	
	使用画材は各自持参(着彩・鉛筆デッサン・木炭デッサン等)。デジタルツールの場合は要相談(紙など各自購入)									
	授 業 計 画	1. デザインとアートについて(目標1,2)								
		2. 課題制作① 課題理解・エスキース・下書き(目標3,4,5)								
		3. 課題制作① 制作・課題提出(目標3,4,5)								
		4. 様々な表現方法について(目標1,2)								
5. 課題制作② 課題理解・エスキース・下書き(目標3,4,5)										
6. 課題制作② 制作・課題提出(目標3,4,5)										
7. 課題制作③ 課題理解・エスキース・下書き(目標3,4,5)										
8. 課題制作③ 制作・課題提出(目標3,4,5)										
9. 課題制作④ ②と③の講評、制作④の課題理解・エスキース・下書き(目標3,4,5)										
10. 課題制作④ 制作・課題提出(目標3,4,5)										
11. 課題制作⑤ 課題理解・エスキース・下書き(目標3,4,5)										
12. 課題制作⑤ 制作・課題提出(目標3,4,5)										
13. 課題制作⑥ ④と⑤の講評、制作⑥の課題理解・エスキース・下書き(目標3,4,5)										
14. 課題制作⑥ 制作・課題提出(目標3,4,5)										
15. 総合講評会										
アクティブ・ラーニング										
成績評価基準	①制作課題の評価(70%)：期限内提出厳守、制作課題の完成度 ②授業への取り組み(30%)：授業内レポート提出・その内容や制作への取組									
フィードバックの方法	講評・総合講評会での口頭でのフィードバック、資料配布									
時間外の学習について	予習：自分の好きな作品(ジャンル問わず)、制作したいものを答えられるようにする。 (各回90分程度) 復習：課題での講評から次回制作での対策方法、紹介された作品やアーティストの調査webや図書館・美術館(各回90分程度)									
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：適宜資料配布									
担当者からのメッセージ等実務経験について	デザインとアートの違いを考えながら、様々な表現方法を実践し理解を深めてください。									

科目名	デザイン表現Ⅱ (2単位)	実技	専攻科 芸術表現専攻	後期	担当者	渡山 賢二 (単独)
ナンバリングコード	JA-S322-000					
修了要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系 列						
授業のテーマ	イラストデザインや多様な表現方法を実技(画材は要相談)を通して習得する。					
授業の概要	基礎デッサン力(観察力・描写力)をベースに、多様な表現方法を実践を通して体験し、自己表現の探求方法を 実践・習得する。(表現は基本平面(アナログ)※デジタル表現は要相談)					
達成目標	学修成果: 専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP: c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. デザインとアートの理解			◎		
	2. 自己表現の探求方法の習得				◎	○
	3. 様々な表現方法の実践とその習得				◎	○
4. 自分の制作物の客観的な意見を説明できる。		◎	○			
5. 期限内での課題制作の提出		○	◎		○	
履修条件・注意事項	使用画材は各自持参(着彩・鉛筆デッサン・木炭デッサン等)。デジタルツールの場合は要相談(紙など各自購入)					
授業計画	1. デザインとイラストについて(目標 1,2) 2. 課題制作① 課題理解・エスキース・下書き(目標 3,4,5) 3. 課題制作① 制作・課題提出(目標 3,4,5) 4. 様々な表現方法について(目標 1,2) 5. 課題制作② 課題理解・エスキース・下書き(目標 3,4,5) 6. 課題制作② 制作・課題提出(目標 3,4,5) 7. 課題制作③ 課題理解・エスキース・下書き(目標 3,4,5) 8. 課題制作③ 制作・課題提出(目標 3,4,5) 9. 課題制作④ ②と③の講評、制作④の課題理解・エスキース・下書き(目標 3,4,5) 10. 課題制作④ 制作・課題提出(目標 3,4,5) 11. 課題制作⑤ 課題理解・エスキース・下書き(目標 3,4,5) 12. 課題制作⑤ 制作・課題提出(目標 3,4,5) 13. 課題制作⑥ ④と⑤の講評、制作⑥の課題理解・エスキース・下書き(目標 3,4,5) 14. 課題制作⑥ 制作・課題提出(目標 3,4,5) 15. 総合講評会					
アクティブ・ラーニング						
成績評価基準	①制作課題の評価(70%):期限内提出厳守、制作課題の完成度 ②授業への取り組み(30%):授業内レポート提出・その内容や制作への取組					
フィードバックの方法	講評・総合講評会での口頭でのフィードバック、資料配布					
時間外の学習について	予習:自分の好きな作品(ジャンル問わず)、制作したいものを答えられるようにする。 (各回30分程度) 復習:課題での講評から次回制作での対策方法、紹介された作品やアーティストの調査webや図書館・美術館(各回30分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト:特になし 参考書:特になし 参考資料:適宜資料配布					
担当者からのメッセージ等実務経験について	デザインとアート、イラストの違いを考えながら、様々な表現方法を実践し理解を深めてください。					

科目名	デザイン研究 I (2単位)	講義	専攻科 芸術表現専攻		前期	担当者	長田 和美 (単独)				
ナンバリングコード	JA-S323-000										
修了要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭					
科目											
各科目に含めることが必要な事項											
教科目											
系列											
授業のテーマ	課題を自ら設定し、デザインで課題解決を図る。										
授業の概要	調査に基づきテーマを設定し、テーマに沿った作品制作と、作品に関するプレゼンテーションを行う。										
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力						科目DP：c				
							DP記号	a	b	c	d
	1. 地域や社会の課題を調査し、デザインで解決する課題を設定できる									◎	
	2. デザインコンセプトを策定し、他者に伝えることができる									◎	
	3. コンセプトに基づき、作品制作ができる									◎	
4. 作品に関するプレゼンテーションができる										◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ										
授業計画	1. デザイン研究の意義						(目標 1)				
	2. 課題調査①						(目標 1)				
	3. 課題調査②						(目標 1)				
	4. 課題設定						(目標 1)				
	5. コンセプト検討						(目標 2)				
	6. コンセプトに関するプレゼンテーション						(目標 2,4)				
	7. 作業計画の立案						(目標 3)				
	8. アイディアスケッチ						(目標 3)				
	9. 作品制作①						(目標 3)				
	10. 作品制作②						(目標 3)				
	11. 作品制作③						(目標 3)				
	12. 作品制作④						(目標 3)				
	13. 作品制作⑤						(目標 3)				
	14. 作品のプレゼンテーション						(目標 4)				
	15. 振り返り						(目標 4)				
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション										
成績評価基準	①授業内レポート (50%)：意欲・関心を測定 ②課題 (25%)：表現・技能を測定 ③プレゼンテーション (25%)：思考・判断を測定										
フィードバックの方法	授業内レポートを返却										
時間外の学習について	予習：地域や社会の課題に目を向けて、解決方法を検討する (各回90分程度) 復習：授業を振り返り、対策と計画を立てる (各回90分程度)										
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：特になし										
担当者からのメッセージ等実務経験について											

科目名	デザイン研究Ⅱ (2単位)	講義	専攻科 芸術表現専攻	後期	担当者	長田 和美 (単独)	
ナンバリングコード	JA-S324-000						
修了要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭	
科目							
各科目に含めることが必要な事項							
教科目							
系列							
授業のテーマ	課題を自ら設定し、デザインで課題解決を図る。						
授業の概要	調査に基づきテーマを設定し、テーマに沿った作品制作と、作品に関するプレゼンテーションを行う。						
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP：c	
		DP記号	a	b	c	d	
	1. 制作物に対する客観的評価について計画ができる				◎		
	2. 評価結果を分析し、改善策を提案する				◎		
	3. 改善策に基づき、制作物の修正を行う。				◎		
4. 評価・分析結果に基づき、作品に関するプレゼンテーションができる					◎		
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ						
授業計画	1. デザイン評価の目的						(目標 1)
	2. 評価方法の検討①						(目標 1)
	3. 評価方法の検討②						(目標 1)
	4. 評価環境の構築						(目標 1)
	5. 評価計画						(目標 1)
	6. 評価実施						(目標 2)
	7. 評価結果の分析						(目標 2)
	8. 改善策の提案						(目標 2)
	9. 制作①						(目標 3)
	10. 制作②						(目標 3)
	11. 制作③						(目標 3)
	12. 制作④						(目標 3)
	13. 制作⑤						(目標 3)
	14. 作品のプレゼンテーション						(目標 4)
	15. 振り返り						(目標 4)
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション						
成績評価基準	①授業内レポート (50%)：意欲・関心を測定 ②課題 (25%)：表現・技能を測定 ③プレゼンテーション (25%)：思考・判断を測定						
フィードバックの方法	授業内レポートを返却						
時間外の学習について	予習：地域や社会の課題に目を向けて、解決方法を検討する (各回90分程度) 復習：授業を振り返り、対策と計画を立てる (各回90程度)						
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：特になし						
担当者からのメッセージ等実務経験について							

科目名	Webデザイン特論 (2単位)	演習	専攻科 芸術表現専攻	前期	担当者	前田 和也 (単独)
ナンバリングコード	JA-S325-000					
修了要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	Webで使うプログラムの理解と活用					
授業の概要	Webでよく使われているPHPとMySQLを使い、サーバーサイドで動作するプログラムを組み立て、ウェブアプリケーションを作成してみる					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP：c
		DP記号	a	b	c	d
	1. Webサーバー、データベースサーバーなどの仕組みの理解			○	◎	
	2. Web上で動作するプログラムの種類や特性を理解			○	◎	
	3. JavaScriptによるプログラミングを習得				◎	○
	4. PHPプログラミングを習得				◎	○
5. SQLを使ったデータベース操作を習得				◎	○	
履修条件・注意事項	HTMLやCSSなどウェブページを表現するスキルがある程度理解できていることが必要です。 授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. Webプログラミングとは（ガイダンス）（目標 1,2） 2. Webサーバーからコンテンツが届く仕組み（目標 1,2） 3. プログラム開発環境を整える1（目標 1,2） 4. プログラム開発環境を整える2（目標 2,3） 5. JavaScriptとAjax（目標 2,3） 6. PHPプログラムの基本（目標 2,4） 7. PHPプログラムを作成1（目標 4） 8. PHPプログラムを作成2（目標 4） 9. PHPプログラムを作成3（目標 4） 10. データベースとは（目標 5） 11. MySQLの操作（目標 5） 12. SQLでデータ操作（目標 5） 13. プログラムでDBを操作する（目標 4,5） 14. フォームからDBに登録するプログラムを制作1（目標 4,5） 15. フォームからDBに登録するプログラムを制作2（目標 4,5）					
アクティブ・ラーニング						
成績評価基準	①制作課題（75%）：思考・判断・表現技術を測定 ②授業中の取組姿勢（25%）：関心・意欲の測定					
フィードバックの方法	進行の段階ごとに、授業にて受講者と作品を共有しながらフィードバックする					
時間外の学習について	予習：次回講義内容について調べる。各回45分程度 復習：授業で出した課題について進めておく。各回45分程度					
教材にかかわる情報	テキスト：ちゃんと使える力を身につける Webとプログラミングのきほんのきほん（マイナビ出版） 参考書：特になし 参考資料：特になし					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	課題についての質問や報告はメールにて。 E-Mail：maek4s@gmail.com ウェブサイト：http://ycawd.vsw.jp/ にて補足説明など掲載します。 デザイナー経験：実務で使えると言えるようになることを前提で話すため難しいと思います。					

科 目 名	演奏実技研究 I (2単位)	実技	専攻科 芸術表現専攻	前期	担当者	佐田尾 圭子 小野 隆洋 (複数)
ナンバリングコード	JA-S341-000					
修 了 要 件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授 業 の テ ー マ	各楽器、各声種のレパートリーより楽曲を選択し、2年間で学んだ事柄をさらに深め、より高度な演奏技術、表現力を高め作品の背景や楽曲分析の研究を行う。					
授 業 の 概 要	より多くの楽曲に触れて、作品を通して音楽的感性を磨き、演奏能力の向上に努める。					
達 成 目 標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 楽曲分析とそれぞれの楽曲に対する練習方法の確立				◎	○
	2. 作品の解釈にあたり、作曲された時代背景についても理解を深める			◎	○	
	3. 作品ごとに時代別による演奏スタイルの違いを修得する				◎	○
4. 楽曲の全体的な構成の把握と音楽の作り方について修得する				◎	○	
5. 演奏技術の向上、あらゆる表現法を修得する				◎	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授 業 計 画	1. 各楽器、各声種の授業内容、目標への理解 (目標 1) 2. 演奏楽曲の選曲 (目標 2,3) 3. 作品の背景、作曲家についての研究 (目標 2,3) 4. 楽曲分析 (目標 1) 5. 作品の練習方法 (目標 1) 6. 演奏法と解釈 (目標 2,3) 7. 高度な演奏技術についての研究 (目標 5) 8. 楽曲の実技実践 (目標 1,3,5) 9. 楽曲の実技実践 (伴奏も含む) (目標 1,3,5) 10. 合わせにおけるアンサンブルについて (目標 1,4,5) 11. 試験曲の選定 (目標 1,3,4,5) 12. 試験曲の実技練習 (目標 1,3,4,5) 13. 試験曲の実技練習 (伴奏合わせも含む) (目標 1,3,4,5) 14. 試験曲の公开发表、分析、ディスカッション (目標 1,3,4,5) 15. 試験曲の実技練習 (伴奏合わせも含む) (目標 1,3,4,5) ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、ディスカッション					
成 績 評 価 基 準	①定期試験 (50%)：学んだ技術を再現できる ②授業態度・授業への参加度 (25%)：積極的に参加、質問する ③課題 (25%)：課題に意欲的に取り組む					
フィードバックの方法	各回のレッスンの際に課題を設定して、個別に助言を行う					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：課題を各自練習してレッスンに備える。(各回90分程度) 復習：レッスンで指摘された助言について練習する。(各回90分程度)					
教材にかかわる 情 報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：各楽器、各声種の練習曲、楽曲					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	進度は異なりますが、専攻科では、多様な演奏技術を学び、多くのレパートリー曲に励みます。練習方法を考えて集中力を高め、作品と真摯に向き合ってください。					

科目名	演奏実技研究Ⅱ (2単位)	実技	専攻科 芸術表現専攻	後期	担当者	佐田尾 圭子 小野 隆洋 (複数)
ナンバリングコード	JA-S342-000					
修了要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	各楽器、各声種のレパートリーより楽曲を選択し、前期で学修した内容を踏まえ、より高度な演奏技術、表現力を高め作品の背景や楽曲分析の研究を行う。					
授業の概要	より多くの楽曲に触れて、作品を通して音楽的感性を磨き、演奏能力の向上に努める。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 楽曲分析とそれぞれの楽曲に対する練習方法の確立			◎	○	
	2. 作品の解釈にあたり、作曲された時代背景についても理解を深める			◎	○	
	3. 作品ごとに時代別による演奏スタイルの違いを修得する			◎	○	
	4. 楽曲の全体的な構成の把握と音楽の作り方について修得する			◎	○	
5. 演奏技術の向上、あらゆる表現法を修得する			◎	○		
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	1. 各楽器、各声種のレッスンの内容、目標への理解 (目標 1) 2. 演奏楽曲の選曲 (目標 2,3) 3. 作品の背景、作曲家についての研究 (目標 2,3) 4. 楽曲分析 (目標 1) 5. 作品の練習方法 (目標 1) 6. 演奏法と解釈 (目標 2,3) 7. 高度な演奏技術についての研究 (目標 5) 8. 楽曲の実技実践 (目標 1,3,5) 9. 楽曲の実技実践 (伴奏も含む) (目標 1,3,5) 10. 合わせにおけるアンサンブルについて (目標 1,4,5) 11. 修了演奏曲の選定 (目標 1,3,4,5) 12. 修了演奏曲の実技練習 (目標 1,3,4,5) 13. 修了演奏曲の実技練習 (伴奏合わせも含む) (目標 1,3,4,5) 14. 修了演奏曲の公开发表、分析、ディスカッション (目標 1,3,4,5) 15. 修了演奏曲の実技練習 (伴奏合わせも含む) (目標 1,3,4,5) ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション、ディスカッション					
成績評価基準	①定期試験 (50%)：学んだ技術を再現できる ②授業態度・授業への参加度 (25%)：積極的に参加、質問する ③課題 (25%)：課題に意欲的に取り組む					
フィードバックの方法	各回のレッスンの際に課題を設定して、個別に助言を行う					
時間外の学習について	予習：課題を各自練習してレッスンに備える。(各回90分程度) 復習：レッスンで指摘された助言について練習する。(各回90分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：各楽器、各声種の練習曲、楽曲					
担当者からのメッセージ等実務経験について	進度は異なりますが、専攻科では、多様な演奏技術を学び、多くのレパートリー曲に励みます。練習方法を考えて集中力を高め、作品と真摯に向き合ってください。					

科目名	楽曲分析 (2単位)	演習	専攻科 芸術表現専攻	後期	担当者	田中 照通 (単独)			
ナンバリングコード	JA-S343-000								
修了要件	選択	免許・資格との関係	保育士	幼稚園教諭					
科目									
各科目に含めることが必要な事項									
教科目									
系列									
授業のテーマ	音楽作品を理解、解釈するために行う分析の方法								
授業の概要	音楽作品は各様式(民族、時代、個人様式)が反映されるのだが、ここでは作曲家がどのように音楽を作品として構成しているかを、音楽の構造を分析することで、その音楽の魅力をさぐり、自らの音楽解釈ができるようにする。これは修了研究に有役なものとなる。								
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP：c			
						DP記号			
						a	b	c	d
	1. 分析について色々な視点と観点を持つ。							○	
2. 分析に必要な知識と技術を身につける。							○		
3. 作品理解(解釈)のためにそれらが統合でき、音楽表現について考察できる。							○		
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ								
授業計画	1 音楽を分析するということとは？卒業研究演奏作品について(1)(目標1) 2 音楽を分析するということとは？卒業研究演奏作品について(2)(目標1) 3 音素材の分析(目標1,2) 4 主題とモチーフの分析～主題の展開(目標1,2) 5 旋律と和声(目標1,2) 6 和声のみの音楽分析(目標1,2) 7 調の持つ意味～転調(目標1,2) 8 長調短調以外の音楽(1)(目標1,2) 9 長調短調以外の音楽(2)(目標1,2) 10 言葉と音楽(目標1,2,3) 11 形式の分析(目標1,2,3) 12 音楽の緊張と弛緩(エネルギーの推移)、アーティキュレーション(目標1,2,3) 13 音楽の内容、描写、象徴(目標1,2,3) 14 修了研究に向けて(1)(目標1,2,3) 15 修了研究に向けて(2)(目標1,2,3)								
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク								
成績評価基準	①レポート(60%)：知識・理解を測定・学んだ技法を使って分析できる。根拠を明確にして自説が述べられている。 ②宿題(20%)：思考・判断、関心・意欲を測定・学んだ技法を使って分析できる。根拠を明確にして自説が述べられている。 ③授業態度・参加度(20%)：思考・判断、関心・意欲、態度を測定・授業中に積極的に発言する。								
フィードバックの方法	レポート提出時に評価会を行う。								
時間外の学習について	予習：分析課題を実施してくること。 復習：同上 (予復習を合わせて各回90分程度)								
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：その都度プリントを配布								
担当者からのメッセージ等 実務経験について									

科 目 名	演奏特論 (2単位)	演習	専攻科 芸術表現専攻	後期	担当者	小野 隆洋 佐田尾 圭子 (複数)
ナンバリングコード	JA-S344-000					
修 了 要 件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授 業 の テ ー マ	各時代における音楽作品について解釈を深める 各楽器における演奏法、及び表現技法について理解を深める					
授 業 の 概 要	音楽作品を取り上げ、作曲家の作品解釈、楽器理解に基づく演奏法、及び表現技法について考察する 具体的に作品を弾いたり、CDやDVDで演奏を視聴したりして、楽曲の解釈、表現方法を考察する。					
達 成 目 標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力					科目DP：c
						DP記号
	1. 作曲者の生い立ち、時代背景について理解する					a b c d
	2. 各時代の演奏様式について理解する					○ ◎ ○ ○
	3. 各楽器の演奏法について修得する					◎ ○ ○ ○
4. 作品の表現技法を修得する					◎ ○ ○ ○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. バロック時代の作品（目標 1） 2. バロック時代の楽器と演奏法（目標 2,3） 3. バロック時代における装飾音（目標 3,4） 4. 古典派の作品と演奏解釈（目標 1,2） 5. 音色と強弱の解釈（目標 2,3） 6. 鍵盤楽器の特徴と演奏法（目標 2,3） 7. 管弦楽の特徴と演奏法（目標 3,4） 8. ロマン派の作品（目標 1,2,3） 9. 近代,現代の作品（目標 1,2,4） 10. ペアワーク、プレゼンテーション（目標 1,2,4） 11. 初見奏法と暗譜奏法（目標 3,4） 12. 楽器の発達と作品の関係性（目標 3,4） 13. 作品の編曲（目標 1,2） 14. 各時代の演奏様式（目標 2,4） 15. 演奏による表現技法、演奏指導（目標 2,3,4） 					
アクティブ・ラーニング	ペアワーク、プレゼンテーション					
成 績 評 価 基 準	①授業への関心・意欲（50%）：授業内レポートによって授業への関心・意欲を測定 ②技能・表現（50%）：演奏によって技能・表現を測定					
フィードバックの方法	授業内レポート等の返却により実施する					
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：配布した資料を読んでおくこと（各回45分程度） 復習：授業で学んだ作品の解釈について復習しておくこと（各回45分程度）					
教材にかかわる 情 報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：適宜配布					
担当者からのメッセージ等 実務経験について	演奏家経験：国内外の音楽事情、実践的な演奏法について講義します。					

科目名	即興演奏研究 (2単位)	演習	専攻科 芸術表現専攻	前期	担当者	佐田尾 圭子 (実務経験) (単独)
ナンバリングコード	JA-S345-000					
修了要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	音楽分野の専門的知識や技能を習得し、指導者認定グレード4級以上の取得を目指し、多様なコード進行や様式などを身につけ、よりレベルの高度な地域指導者としての能力を養う。					
授業の概要	本演習では、「即興グレードⅠ、Ⅱ」を基礎とする即興演奏における変奏、モチーフからの楽曲創作を短時間で表現できる技法をつける。					
達成目標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力	科目DP：c				
		DP記号	a	b	c	d
	1. #、b3つまでの長調、短調のコードネームを定着する			○		
	2. コード進行のパターンを習得する			○		
	3. 課題の理解と表現法を習得する			○		
	4. 課題のポイントに則したアレンジの方法を習得する			○	○	
	5. 即座に表現できる演奏技術を習得する			○	○	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. カデンツの実践 (目標 1) 2. コード進行とベース進行 (目標 1,2) 3. コード付けの方法 (目標 1,2) 4. 代理コード・テンションコードの習得 (目標 1,2) 5. 初見演奏 (目標 3,4) 6. 変奏課題の実習 (2) (目標 3,4) 7. 課題発表とディスカッション (目標 3,4) 8. モチーフ課題の構成 (目標 2) 9. モチーフ課題のコード進行 (目標 2,3) 10. 効果的な伴奏と音域 (目標 3) 11. グレード試験対策 (1) (目標 3,4,5) 12. グレード試験対策 (2) (目標 3,4,5) 13. グレード試験対策 (3) (目標 3,4,5) 14. 模擬試験とディスカッション (目標 3,4,5) 15. まとめと、確認テスト (目標 3,4,5) ◎定期試験					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション					
成績評価基準	<ol style="list-style-type: none"> ①課題発表、確認テスト (40%)：グレード4級レベルの問題に回答できる ②授業での取り組み (30%)：積極的な考察力・発見力で課題に取り組む ③課題 (30%)：教えた技法を再現できる 					
フィードバックの方法	毎回の授業で出された課題について、次回の授業で発表し、個別に助言を行う。					
時間外の学習について	予習：コード進行と初見演奏 (毎回30分以上) 復習：授業で出された課題のふり返り (各回60分以上)					
教材にかかわる情報	テキスト：各回に適宜プリントを配布する。 参考書：特になし 参考資料等：特になし					
担当者からのメッセージ等実務経験について	ヤマハシステム講師として上級科講座を担当した。					

科目名	メディアアート研究 (2単位)	演習	専攻科 芸術表現専攻	前後期	担当者	矢野 節 (実務経験) 原田 剛 佐田尾 圭子 (複数)
ナンバリングコード	JA-S381-000					
修了要件	選択	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科目						
各科目に含めることが必要な事項						
教科目						
系列						
授業のテーマ	メディアを最大限に活用したクリエイティブな作品を他者と共同制作する					
授業の概要	本学科での学びを活かして、アニメ制作、インタラクティブ等のメディアアート実践を行い、映像と音楽を用いて高度な表現をする。プロジェクト制作の中で、他者と協力して実践を通して高い協働性を養う。					
達成目標	学修成果：協働性、社会人基礎力、コミュニケーション能力	科目DP：d				
		DP記号	a	b	c	d
	1. メディアアートの各分野について深く理解する			○	◎	
	2. アニメ制作やインタラクティブに必要なソフトウェアについて、高度な操作方法を修得する。			○	◎	
	3. 音楽と映像の効果的な適合について理解する			○	◎	
	4. 他者と協働して作品制作ができる			○		◎
	5. 制作した作品を他者と協働で投影・演出できる			○		◎
履修条件・注意事項	授業の実施方法：②面接授業と遠隔授業等の併用（感染状況を鑑みて）					
授業計画	<p>1・2. グループディスカッションによる題材決め、表現手法について（目標 1）</p> <p>3・4. ソフトウェアの種類と高度な活用法（目標 2）</p> <p>5・6. 音楽と映像の効果的な適合について（目標 3）</p> <p>7. 音響効果（目標 3）</p> <p>8. 照明効果（目標 3）</p> <p>9～11. 絵コンテ制作（目標 1,2,4）</p> <p>12～14. 動画制作（目標 1,2,3,4）</p> <p>15. 中間発表（目標 5）</p> <p>16～26. 作品制作（目標 2,3,4）</p> <p>27. リハーサル（目標 1～5）</p> <p>28. 発表会場設営とゲネプロ①（目標 1～5）</p> <p>29. 作品の修正、調整（目標 1～4）</p> <p>30. 発表会場設営とゲネプロ②（目標 1～5）</p> <p>◎定期試験：本番の演出（目標 1～5）</p>					
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、グループワーク					
成績評価基準	<p>①授業態度（40%）：関心・意欲・態度を測定</p> <p>②グループ活動（40%）：グループ活動における貢献度、及び他者との協働性を測定</p> <p>③知識・技能（20%）：舞台本番の演出により専門分野における知識・技能を測定</p>					
フィードバックの方法	各回の成果物について、口頭によるフィードバックを行う。					
時間外の学習について	<p>予習：次回の機材準備、制作における題材準備（90分）</p> <p>復習：各回で学んだことの理解を深め、応用できるように練習する（90分）</p>					
教材にかかわる情報	<p>テキスト：特になし</p> <p>参考書：特になし</p> <p>参考資料等：特になし</p>					
担当者からのメッセージ等実務経験について	メディアアートを通して、協働性を身に付け、共に創り上げる喜びを経験していただきたいと思っております。					

科 目 名	修了研究 (4単位)	演習	専攻科 芸術表現専攻	前後期	担当者	学科長 他 (複数担当)
ナンバリングコード	JA-S382-000					
修了要件	必修	免許・資格との関係	保育士			幼稚園教諭
科 目						
各科目に含めることが必要な事項						
教 科 目						
系 列						
授 業 の テ ー マ	学びの集大成として、修了制作、修了研究、修了演奏に取り組み、効果的な展示や発表を行う。					
授 業 の 概 要	各自が研究テーマを設定し、研究テーマについての構想や計画、予備調査、資料の収集、及び、発表の表現方法等について各指導教員と密接な連携を図り、演奏や制作、論文執筆、発表を行う。					
達 成 目 標	学修成果：専門分野の基礎的技能、専門分野の基礎的知識、社会人基礎力、協働性	科目DP：d				
		DP記号	a	b	c	d
	1. 研究テーマの設定ができる。				○	◎
	2. 各自のテーマに関連する資料収集、調査・作業計画の立案ができる。				○	◎
	3. 各自のテーマについて論文を書くことができる。				○	◎
4. テーマに沿った作品制作、演奏、効果的な発表、展示ができる				○	◎	
5. 他者と協働して、展示会や演奏会を企画、実行できる。		○			◎	
履修条件・注意事項	授業の実施方法：①面接授業のみ					
授 業 計 画	前期)			後期)		
	1. 修了研究の意義 <全体会> 2. 研究テーマの検討 3. 研究テーマの決定 4. 研究テーマに関連する資料収集、作業計画1 5. 研究テーマに関連する資料収集、作業計画2 6. 研究テーマに関連する資料収集、作業計画3 7. 研究テーマの内容調査と方法1 8. 研究テーマの内容調査と方法2 9. 研究テーマの内容調査と方法3 10. 研究テーマの内容調査と方法4 11. 研究テーマの内容確認1 12. 研究テーマの内容確認2 13. 研究テーマの内容確認3 14. 中間発表の準備 <チューター別> 15. 中間発表 <全体会> 1～15の全ての回で(目標1,2,3)			1. 修了制作展・演奏会の目的 <全体会> 2. 研究テーマをさらに深める1 3. 研究テーマをさらに深める2 4. 研究テーマをさらに深める3 5. 研究内容、制作等中間確認1 6. 研究内容、制作中間確認2 7. 研究内容、制作中間確認3 8. 研究内容、制作発表に向けての資料、進捗状況確認1 9. 研究内容、制作発表に向けての資料、進捗状況確認2 10. 研究内容、制作発表に向けての資料、進捗状況確認3 11. 研究内容、制作発表に向けての資料、進捗状況確認4 12. 制作展・演奏会の準備<全体会> 13. 制作展・演奏会の準備<チューター別> 14. 制作展・演奏会の準備<チューター別> 15. 制作展・演奏会の準備(設営) 定期試験(修了研究発表会) 1～15の全ての回で(目標2,3,4)		
アクティブ・ラーニング	プレゼンテーション					
成績評価基準	①修了研究論文・演奏・作品等の完成度(50%)：知識・理解、技能・表現を測定 ②授業内レポート課題・プレゼンテーション(30%)：学習への関心・意欲・思考力を測定 ③展示会・演奏会準備に対する取り組み(20%)：協働性、関心・意欲を測定					
フィードバックの方法	課題等の出来具合等を随時学生に伝え、次回以降の課題に役立てる。					
時間外の学習について	予習：修了研究に対する関心・意欲を日常に持ち続けること。(各回90分程度) 復習：繰り返し学ぶこと。(各回90分程度)					
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料：随時、プリント等で配布					
担当者からのメッセージ等実務経験について						



〒754-0032 山口県山口市小郡みらい町一丁目7番1号
電話 (083) 972-2880
FAX (083) 972-4145
<http://www.yamaguchi-jca.ac.jp>